

平成24年度文化庁委託事業

諸外国のアーティスト・イン・レジデンスについての調査研究事業  
報告書 資料編

平成25年3月  
株式会社ニッセイ基礎研究所



第1部 日本のアーティスト・イン・レジデンスデータ集	1
第2部 国内 AIR 団体アンケート調査・意見交換会の意見集	105
第3部 海外の主要なアーティスト・イン・レジデンスデータ集	145
英国	151
ドイツ	159
フランス	170
オランダ	180
ベルギー	188
上記以外の欧州諸国	191
米国	199
カナダ	218
中国	228
韓国	236
シンガポール	242
オーストラリア	247
第4部 海外のアーティスト・イン・レジデンス一覧	253

※本冊子は「諸外国のアーティスト・イン・レジデンスについての調査研究事業」の報告書[資料編]として作成したものである。  
分析結果については報告書本編を参照されたい。



資料編

# 第1部

日本のアーティスト・イン・レジデンスデータ集

資料編第2部で紹介する日本のアーティスト・イン・レジデンスデータ集については、独立行政法人国際交流基金の運営するウェブサイト AIR-J (<http://air-j.info/>) からデータを収集した。

報告書「第5部」に記述したように、本調査研究では国内のアーティスト・イン・レジデンスに対するアンケート調査を行った。その際、それぞれのアーティスト・イン・レジデンスの概要を整理し、比較できるように、データ集を作成することとした。データ集の作成要領は、以下のとおり。

調査対象	<ul style="list-style-type: none"><li>● 平成24年度文化芸術の海外発信拠点形成事業の採択団体(新規採択・継続採択の24団体、うち AIR-J 未掲載団体は8団体)</li><li>● 独立行政法人国際交流基金「AIR-J」掲載団体(平成25年2月1日現在、57団体)</li><li>● 計65団体</li></ul>
配布、回収方法	<ul style="list-style-type: none"><li>● 郵送発送とメール送信</li><li>● メール、FAX での回収</li></ul>
実施期間	平成25年2月15日－3月22日
有効回答数	49件(回収率75.4%)

アーティスト・イン・レジデンスの概要については、独立行政法人国際交流基金が運営するウェブサイト AIR-J から次の項目のデータを収集し、各団体の掲載確認を行った。また、AIR-J に未掲載で、文化庁による平成24年度「文化芸術の海外発信拠点形成事業」の採択団体の事業に関しては、同様の項目について各団体のウェブ掲載情報などから抽出、整理して、掲載確認を行ったうえでデータ集にまとめた。

#### ◎ レジデンス事業の概要

- 対象分野
- 招へい人数
- 招へい期間
- 募集期間
- 受入条件

#### ◎ 選考・支援

- 応募方法、選考方法
- 支援内容(渡航費助成、滞在費助成、成果発表・オープンスタジオ、制作費助成、人的サポート、記録集、その他の支援)

#### ◎ 運営機関概要

- 団体名
- URL
- 事業開始年
- 事業目的
- 事業内容
- 事業実績／成果
- 招へいアーティスト
- 所在地、電話、FAX、Email

#### ◎ 施設構成・内容

- 制作スタジオ
- 展示スペース
- 宿泊施設
- その他の施設
- 交通アクセス
- 周辺環境

日本のアーティスト・イン・レジデンスデータ集掲載リスト

北海道	ICC+S-AIR 創造拠点交流事業	6
青森県	青森公立大学国際芸術センター青森	8
	八戸ポータルミュージアム	10
茨城県	アーカスプロジェクト2012いばらき	12
	石彫千年の交感 アーティスト・イン・レジデンス 桜川	14
群馬県	中之条ビエンナーレ	16
東京都	3331 Open Residence	18
	レジデンス・イン・森下スタジオ ヴィジティング・フェロー	20
	大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ「オーストラリア・ハウス」(開催地:新潟県)	22
	オーストラリア・カウンスル VACB 東京スタジオ	24
	AAS Grow up!! Artist Project	26
	AIT レジデンスプログラム	28
	トーキョーワンダーサイト青山:クリエイター・イン・レジデンス	30
	遊工房アートスペース	32
	r:read (東アジア・ダイアログ・レジデンス)	34
	アートスタジオ五日市レジデンス事業	36
神奈川県	横浜市・成都市 アーティスト・イン・レジデンス交流事業	38
	BankART Studio NYK アーティスト・イン・スタジオ	40
	「黄金バザール」国際アーティスト・イン・レジデンス	42
	2013(平成25)年度川崎市市民ミュージアム・スタジオプログラムによる滞在制作	44
石川県	CAAK & Kapo Creator in Residence	46
	トヨタ コレオグラフィアワード・受賞者のための金沢21世紀美術館レジデンシープログラム	48
	公演のためのレジデンシープログラム	50
山梨県	ARTIST IN RESIDENCE YAMANASHI [AIRY]	52
	CfSHE/木版画ラボ アーティスト・イン・レジデンス事業 水性木版画制作プログラム	54
岐阜県	美濃・紙の芸術村	56
静岡県	静岡市クリエイターズビレッジモデル事業「体験移住」	58
	クロード・レジ『室内』クリエーション	60
愛知県	瀬戸国際セラミック&ガラスアート交流プログラム(アーティスト・イン・レジデンス in 瀬戸)	62
三重県	生活体験レジデンス ゆうがく邸	64
滋賀県	滋賀県立陶芸の森 アーティスト・イン・レジデンス事業	66
京都府	京都芸術センター アーティスト・イン・レジデンス プログラム	68
	JCDN 国際ダンス・イン・レジデンス・エクスチェンジ・プロジェクト	70
	AIR 南山城村	72
大阪府	近代化産業遺産を活用したアートスペースによる国際連携プログラム	74
	Artist In Residence OSAKA (アーティストインレジデンス大阪/AIR 大阪)	76
兵庫県	DANCE BOX	78
奈良県	飛鳥 Art Village	80
岡山県	ARKO (Artist in Residence Kurashiki, Ohara)	82
山口県	秋吉台国際芸術村	84
徳島県	神山アーティスト・イン・レジデンス (KAIR)	86
香川県	アート・ビオトープ小豆島公募プログラム	88
高知県	舞台芸術レジデンス・プログラム from 高知 and 横浜2012	90
福岡県	現代美術センターCCA北九州(リサーチ・プログラム事業)	92
	福岡アジア美術館 美術作家・研究者・学芸員等招聘事業	94

	紺屋2023 .....	96
	Artist in Residence Studio Kura .....	98
大分県	KASHIMA 2013 vol.1/2 BEPPU ARTIST IN RESIDENCE .....	100
その他	ART11号 .....	102

1 ICC+S-AIR 創造拠点交流事業						
レジデンス事業の概要	対象分野	音楽、美術、写真/映像、彫刻、デザイン、パフォーマンス、版画				
	招へい人数	8人 欧米・アジア・オセア ニア人(日本人含)	招へい期間	7月-9月(2ヶ月と10日間、2人)、9月-10月(2週間、2人) 10月-12月(2ヶ月、2人)、1月-3月(2ヶ月、2人)		
			募集期間	9月中旬(予定)		
受入条件	年齢制限:なし 受入対象国指定:なし その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 日常会話レベルの英語を話すこと</li> <li>● 市民または子ども向けのワークショップ、レクチャーなど交流事業に参加できること</li> </ul>					
選考・支援	応募方法	S-AIR のウェブサイト上の公募要項を参照 冬プログラムの公募は9月中旬募集開始(予定)		選考方法	選考委員会により決定	
	支援内容	渡航費助成	<input type="radio"/>	金額は AIR の種類による		
		滞在費助成	<input type="radio"/>	金額は AIR の種類による		
		制作費助成	<input type="radio"/>			
		成果発表・ オープスタジオ	<input type="radio"/>	センター内スタジオ及び市内ギャラリーにて展覧会開催		
		人的サポート	<input type="radio"/>			
		記録集	<input type="radio"/>			
		その他		奨学金あり		
運営組織概要	団体名	NPO 法人 S-AIR				
	URL	<a href="http://www.s-air.org/">http://www.s-air.org/</a>	事業開始年	1999 年		
	所在地	〒062-0901 北海道札幌市豊平区豊平1条 12-1-12 札幌市デジタル創造プラザ インタークロス・クリエイティブ・センター401				
	電話	011-820-6056	FAX	011-820-6057	Email <a href="mailto:info@s-air.org">info@s-air.org</a>	
	事業目的	現代美術の分野で国内外から優れたアーティスト/クリエイターを招へいし、地域在住の芸術家や市民との交流を通じて、独創的で国際色豊かな芸術文化を醸成する。				
	事業内容	創作活動とワークショップなどを行い、滞在期間中の成果を展覧会にて発表する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 創作活動とオープスタジオ: インタークロス・クリエイティブ・センター内アトリエでの創作活動と公開、作品についてのレクチャー</li> <li>● シンポジウムなどの開催: 招へい作家を中心にシンポジウムなどを開催し、市民との交流をはかる</li> <li>● 市内の学校や地域住民を対象としたワークショップ</li> <li>● 滞在成果の展覧会を開催</li> </ul>				
	事業実績/成果	<b>【事業実績】</b> 2010 年度終了までに 12 年間で 29 ヶ国・65 名のアーティストを招へい。 1999 年度: 6月-12月(3ヶ月、2名ずつ) 2000-2001 年度: 2000 年6月-2001 年12月(3ヶ月-6ヶ月) 2001 年度: 3ヶ月単位・2交代で招へい 2004 年度: 10月-11月、1月-2月(2ヶ月、2名ずつ) 2005 年度: 5月-7月、10月-12月(3ヶ月、2名ずつ) 2006 年度: 8月-10月、1月-3月(3ヶ月、2名ずつ) 2007 年度: 7月-8月(2ヶ月、2名)、10月-12月(3ヶ月、2名) 2008 年度: 6月-7月(2ヶ月、2名)、8月-10月(3ヶ月、2名)、11月-12月(2ヶ月、2名) 2009 年度: 6月-7月(2ヶ月、2名)、1月-2月(2ヶ月、2名) 2010 年度: 7月-9月(2ヶ月、2名)、9月-10月(2週間、2名)、10月-12月(2ヶ月、2名)、1月-3月(2ヶ月、2名)				

		<p><b>【成果】</b>  海外のアートセンターやアーティストとのネットワークが形成されつつある。  NPO 法人 S-AIR は、ICC とのパートナーシップとプログラムがメイン事業ではあるが、そのほかにも「アートあけぼの 04-05」「アーティスト・イン・スクール 03-06」「SNOWSCAPE MOERE」などの別施設を使用する AIR 関連事業運営を行う。</p>
	招へいアーティスト	アピチャポン・ウェラセタクル、チウ・ジージェ、モニカ・ソスノウスカ、ユリア・ローマン、ロイストン・タン
施設構成・内容	制作スタジオ	○ 創作活動とオープンスタジオ、会議・商談室、カフェテリア、共用機材(コピー、プリンターなど)、インターネット専用回線
	展示スペース	プログラムによる
	宿泊施設	○ 20 部屋(12.6-143 m <sup>2</sup> ):市内の賃貸マンションを2部屋借り上げて貸与。小学校、老人ホームが隣接する文教地区にある。
	その他	<p>インタークロス・クリエイティブ・センター  敷地面積:3,379 m<sup>2</sup> 延床面積:5,622 m<sup>2</sup> 階数:地下1階、地上4階  構造:鉄筋コンクリート造(1983 年築、1990 年一部増築)  土地・建物所有者:札幌市経済局  管理・運営者:財団法人札幌エレクトロニクスセンター  入居ユニット貸主:財団法人札幌エレクトロニクスセンター  かつての教育研修所を札幌市がインキュベーション・センターとして改修、IT やデザイン、映画制作など、クリエイティブな若手起業家らに廉価で貸し出している。そこに 2001 年4月より札幌アーティスト・イン・レジデンスのオフィスが入り、アトリエを設けている。</p>
	交通アクセス	<p>札幌駅より車で 15 分  市営地下鉄東西線「東札幌駅」より徒歩 10 分  中央バス「豊平3条 12 丁目」より徒歩5分</p>
周辺環境	札幌市は、人口 190 万人(2010 年度現在)、政令指定都市のなかで4番目の人口を有する。スタジオのある東札幌地区は、大型のコンベンションセンターやショッピングセンターを構えるほか、古くからの問屋の多い中規模の商業地域でもある。	

画像



## 2 青森公立大学国際芸術センター青森

レジデンス事業の概要	対象分野	指定なし			
	招へい人数	[個展]1人 [夏 AIR]4人 [秋 AIR]4人	招へい期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>指名 [個展]4月上旬－6月下旬 [夏 AIR]6月上旬－9月上旬</li> <li>公募 [秋 AIR]9月上旬－12月下旬</li> </ul>	
			募集期間	4月上旬－5月下旬	
受入条件	年齢制限:なし 受入対象国指定:なし その他:展覧会、交流プログラムへの参加				
選考・支援	応募方法	個展、夏 AIR は指名のみ、秋 AIR は公募	選考方法	青森公立大学国際芸術センター青森専門スタッフにより選考、学内の審査会で決定	
	支援内容	渡航費助成	○	実費(上限あり)	
		滞在費助成	○		
		制作費助成	○		
		成果発表・オープスタジオ	○		
		人的サポート	○		
		記録集	○		
その他	詳細は国際芸術センター青森のウェブサイトを参照				
運営組織概要	団体名	公立大学法人青森公立大学			
	URL	<a href="http://www.acac-aomori.jp">http://www.acac-aomori.jp</a>	事業開始年	2001年	
	所在地	〒030-0134 青森県青森市合子沢字山崎 152-6			
	電話	017-764-5200	FAX	017-764-5201	Email <a href="mailto:acac-air@acac-aomori.jp">acac-air@acac-aomori.jp</a>
	事業目的	芸術の鑑賞機会や活動機会の充実をはかるとともに、国際水準の芸術文化の創造と発信を推進し、また新しい芸術文化の創造に資する施策を展開しながら、青森市の特性を生かした個性豊かな地域づくりを推進。アーティスト・イン・レジデンス事業においては、様々な芸術の分野で活躍するアーティストを招へいし、期間中の滞在創作によってアーティストへの制作支援を行うだけでなく、展覧会、ワークショップ、レクチャーなどの交流プログラムを開催することにより鑑賞者に様々な芸術体験の場を提供すると同時に、芸術を通じた教育活動を行う。			
	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>アーティスト・イン・レジデンス</li> <li>展覧会、シンポジウム、セミナー、ワークショップ、イベントなどの自主企画</li> <li>定期刊行物・ホームページなどを活用した情報提供</li> <li>貸館事業</li> </ul>			
事業実績／成果	<b>【事業実績】</b> 2002年度より、春 AIR(推薦型)と秋 AIR(公募型)の年2回の定期招へい並びに個展型、ワークショップ型 AIR を毎年度実施。 <b>【成果】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>青森の地域性、自然環境、文化を資源とした様々な創造的活動の拠点として定着。そのなかで、アーティストの作品制作のみならず「地域交流」「教育普及」「ボランティア活動」などが有機的に発生し、つながりを見せている</li> <li>ACACのレジデンス・アーティスト、各種企画展などへの参加アーティストは、2010年現在で合わせて100名以上にも及び、現在内外の展覧会、アートプロジェクト、フェローなどで幅広く活躍していることから、キャリアパスの場としての機能も果たし始めている</li> </ul>				

	招へいアーティスト	assistant、mamoru、アイガルス・ビクシェ、アンジー・アトマジヤヤ、アンニ・レップアラ、カミーユ・グージョーン、カン・イング、キム・チャンギョム、コーネリア・コンラッズ、サラ・チラチ、サンドラ・カンタネン、シャーロット・マクガワン＝グリフィン、ソン・サンヒ、ダリボール・ニコリッチ、ナデガタ・インスタント・パーティー、ハム・ジン、ハン・スーチェン、パク・ヘス、パラモデル、パル・ペーター、ユ・チェンタ、ヨク・クンピョン、ラム・カツィール、ロッテ・ライオン、中西信洋、丹羽良徳、北川貴好、吉本直子、吉賀あさみ、呉夏枝、大西康明、富井大裕、小山田徹、山下香里、山口啓介、山本聖子、手塚愛子、朝海陽子、本田健、東島毅、法貴信也、津田道子、浅井裕介、狩野哲郎、船井美佐、藤浩志、西尾美也、遠藤利克、野村誠、金氏徹平、青山悟、飯田竜太、高嶺格
施設構成・内容	制作スタジオ	○ 鉄筋コンクリート造＋一部鉄骨鉄筋コンクリート造、平家建(1,004.40 m <sup>2</sup> ) ワークショップスタジオ、木工室、AV スタジオなど
	展示スペース	○ 鉄筋コンクリート造、一部2階建(1,624.60 m <sup>2</sup> ) エキジビションギャラリー(A、B)、AV ルームなど
	宿泊施設	○ 鉄筋コンクリート造＋一部鉄骨鉄筋コンクリート造、平家建(583.20 m <sup>2</sup> ) シングルルーム 8 部屋、ツインルーム2部屋、ダイニング・ミーティングルーム
	その他	設計＝安藤忠雄
	交通アクセス	青森公立大学線(市営バス、JR バス)「青森公立大学」より徒歩3分 JR「青森駅」より約 50 分
周辺環境	青森市郊外にある青森公立大学内の森の中に建設。敷地 33.5ha。	

画像



左上: オープンスタジオ(2012 ジュー・チュンリン／シンガポール)  
 右上: ボランティアとともに作品制作(2012 ユ・チェンタ／台湾)  
 左下: 市民との協働制作(2012 浅井裕介／日本)  
 写真提供: 青森公立大学国際芸術センター青森

3 八戸ポータルミュージアム						
レジデンス事業の概要	対象分野	指定なし				
	招へい人数	1-3名程度を予定	招へい期間	4月-3月 年間を通じて随時(ただし、主となるプログラムの場合、滞在期間は2-3ヶ月を想定)		
			募集期間	未定 (2014年度分の募集は2013年夏頃から開始予定)		
受入条件	年齢制限:なし 受入対象国指定:なし その他:地域活性化に結びつくアートプロジェクトと判断できるもの					
選考・支援	応募方法	公募	選考方法	八戸ポータルミュージアムスタッフにより選出		
	支援内容	渡航費助成	○	当館からの委託事業として正式に採択されたプログラムに限る		
		滞在費助成	○	当館からの委託事業として正式に採択されたプログラムに限る		
		制作費助成	○	当館からの委託事業として正式に採択されたプログラムに限る		
		成果発表・オープスタジオ	○			
		人的サポート	○	人的ネットワークづくりのためのサポートとコーディネート(地域の人材紹介)		
		記録集		今後はプログラムによっては制作を検討する		
		その他	外国人アーティストの受入経験あり			
運営組織概要	団体名	八戸ポータルミュージアム				
	URL	<a href="http://hacchi.jp">http://hacchi.jp</a>	事業開始年	2011年		
	所在地	〒031-0032 青森県八戸市三日町 11-1				
	電話	0178-22-8200	FAX	0178-22-8808	Email	<a href="mailto:hacchi@city.hachinohe.aomori.jp">hacchi@city.hachinohe.aomori.jp</a>
	事業目的	地域資源に焦点をあて、まちの新しい魅力を創り出すことを目的としている。アートやコミュニケーションの力により、従来のジャンルを横断した新しい価値を創造する場として、レジデンス、シアター、ギャラリー、ものづくりスタジオ、観光展示など多彩な機能を有している。				
	事業内容	アーティスト・イン・レジデンスを含む文化芸術事業のほか、中心街賑わい創出ものづくり、観光振興事業を実施し、展覧会やワークショップ、イベントなどを行っている。また、定期行物やウェブサイトによる情報提供のほか、施設を広く一般にも開放する貸館事業も行っている。				
	事業実績／成果	<b>【事業実績】</b> 2011年度:5名招へい <b>【成果】</b> 八戸レビュー:八戸市民と写真家のコラボレーションで、88人の市民を市民ライターが取材し、写真家3人が撮影するプロジェクト 八戸のうわさ:商店街の人々の自慢話やうわさをフキダシにして、約200店舗のウインドウに貼り出すプロジェクト 八戸横町酔っ払いに愛を——横丁オンリーユーシアター:八戸の横丁のお店を劇場に見立て、パフォーマンスアーツの公演を行うプロジェクト 以上、アーティスト・イン・レジデンス事業のみの実績と成果				
	招へいアーティスト	スー・ハイドウ、山本耕一郎、斉藤栄治、梅佳代、津藤秀雄、浅田政志、磯島未来				

施設構成・内容	制作スタジオ	○ 共同スタジオ(166 m <sup>2</sup> ) 工作スタジオ(工具一式備え付) 共同スタジオは一般利用者にも開放しているため共用となることも多い(ただし、双方に配慮し適宜調整する)。
	展示スペース	○ ギャラリー1-3(37-53 m <sup>2</sup> 、天井高 3.3m) シアター1(126 m <sup>2</sup> 、天井高 3.5m) シアター2(141 m <sup>2</sup> 、天井高 6.5m) シアター1、2は音響設備あり
	宿泊施設	○ レジデンス A-E(42-46 m <sup>2</sup> /各) 各部屋バス・トイレ付、共用のキッチン・洗濯室あり、テレビなし、ネット環境あり
	その他	八戸ポータルミュージアム 敷地面積:3,387 m <sup>2</sup> 建築面積:1,664 m <sup>2</sup> 延床面積:6,463 m <sup>2</sup> 主体構造:鉄筋コンクリート造(免震構造) 規模:地上5階建(最高高さ:24m) 八戸市の中心市街地に立地する。施設の向かいに、八戸名物の「横丁」があり、飲食するだけでなく、アーティストと街の人々が交流できる場となっている。
	交通アクセス	「八戸中心街ターミナル(八日町)」より徒歩0分 JR「八戸駅」東口から「八戸市中心街方面」行きで約 25 分 JR 八戸線「本八戸駅」より徒歩 11 分 JR「八戸駅」は、東京駅より東北新幹線で約3時間
	周辺環境	八戸市は人口約 24 万人、漁業・工業などの産業が盛んな一方で、海と山に恵まれた自然豊かな街である。2002 年の東北新幹線延線により、東京などからのアクセスも容易となった。近隣の文化施設として、十和田市現代美術館や寺山修司記念館があり、市内には 2011 年に是川縄文館がオープンした。また、はっちの周辺には、八戸市美術館がある。

画像



左上:山本耕一郎「八戸のうわさ2」(2011)  
 右上:スー・ハイドゥ「デコトラヨイサー！」(2011)  
 左下:KOSUGE1-16「はっち流騎馬打毬」(2012)

## アーカスプロジェクト 2012 いばらき

レジデンス事業の概要	対象分野	現代美術			
	招へい人数	毎年3人(組)程度	招へい期間	8月下旬～11月下旬 期間は最長90日間で、実行委員会が決定する。 ただし、滞在期間は年度及びプログラム毎に変更する場合がある。	
			募集期間	3月～4月	
	受入条件	<p>年齢制限:20代後半～30代:応募時及びレジデンス時に、高校・大学・大学院・専門学校などの教育機関に在籍していないこと 受入対象国指定:なし その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現代美術に携わるアーティストであること</li> <li>健康状態が良好で、他人の手助けなしに日常生活ができること</li> <li>日常生活及び創作活動に必要な最低限度の英語力を有していること</li> <li>アーカスプロジェクトが提供する環境のなかで、創造的な作品制作、または、プロジェクトを計画し、自立的に実行できる者</li> <li>アーカスでの体験を将来の活動に活かすことができること</li> <li>滞在期間中の活動プロセスと成果については、オープンスタジオ(滞在中複数回)で発表できること</li> <li>滞在中は、スタジオスタッフ、他の滞在アーティストとの調和を図り、相互理解や交流を深めることに貢献できること</li> <li>スタジオ施設利用にあたって、守谷市の生涯学習施設「もりや学びの里」の規則(建物内喫煙、利用規定、ゴミ処理等)に準じること</li> <li>招へい期間中はアーカスプロジェクトへの参加を原則として最優先すること。アーカス以外の芸術活動、展覧会参加等については、事前に実行委員会にはかり、承諾を得ること</li> <li>原則として滞在期間は守谷市内のスタジオを拠点として利用すること。なお、創作活動にともなう調査、研究などのため、スタジオを一定期間離れるときには事前にアーカススタジオに申請すること(日数制限あり)</li> <li>招へい期間中は、原則として営利活動を行わないこと</li> <li>アーカスプロジェクト推進のための広報活動等に協力できる者</li> <li>地元紙のほか、茨城県、守谷市広報誌などの各種メディアによる取材に対応できること</li> <li>活動記録の写真・映像の著作権がアーカスプロジェクト実行委員会に帰属することに合意できること</li> <li>同写真・映像をプロジェクトの推進、広報活動の一環として活用することに協力できること</li> </ul> <p>これ以外に年度、プログラムにより条件が追加される。 以上の基本的な条件並びに招へいに際して取り交わす合意書・留意事項を著しく逸脱する者に対しては、招へい(助成)取消、または一部助成内容の取消を行うとともに、支払い済み助成金の返還を求めるものとする。</p>			
	応募方法	公募(プログラムの種類による)	選考方法	予備審査と本審査の2段階を経て決定。本審査は、海外の現代芸術分野の専門家等により審査を行う。 キュレーター審査員は応募結果発表後に公表される。	
	支援内容	渡航費助成	○	海外:最寄りの空港から成田空港までの往復航空運賃 国内:居住地の最寄りの空港・駅からアーカススタジオまでの公共交通機関による交通費	
		滞在費助成	○	日当制で20万円/月(滞在費+制作費)	
		制作費助成	○		
		成果発表・オープンスタジオ	○	オープンスタジオの機会が複数回あり。スタジオから意図を説明し、内容は滞在アーティストの意思に任せて実施。	
		人的サポート	○	コーディネーターの配置。生活及び創作活動に関する情報提供、調整、必要最低限のサポートなどを行う。	
		記録集	○	招へい期間終了後に編集、ホームページ上で公開。	
		その他		支援内容は年度ごとに大きく変更されることがある(要確認)	
運営組織概要	団体名	アーカスプロジェクト実行委員会			
	URL	<a href="http://www.arcus-project.com">http://www.arcus-project.com</a>		事業開始年	1994年
	所在地	〒302-0101 茨城県守谷市板戸井 2418			
	電話	0297-46-2600	FAX	Email	<a href="mailto:arcus@arcus-project.com">arcus@arcus-project.com</a>
	事業目的	<p>AIRプログラムの第一目的は、アーティストの活動を支援することである。そのAIRプログラムを核として、地域に一時的に滞在しながら創作活動を行うアーティストの存在と受入地域に与える影響を最大限に活かし、AIRプログラムの構造と要素を取り入れた関連プログラムを企画し、運営する。また、特に地域へ向けて、アーティストと交流し楽しみながら芸術創造活動を体験できる機会を提供することで、個人的で創造性豊かな魅力ある地域づくりを進めることも、目的のひとつである。そうした交流は、AIRプログラムの存在基盤をより強化し、不可欠である。 *アーカス(ARCUS)とは、ラテン語で「門」を意味することから、若い芸術家の才能を発掘・支援し、国際的舞台上に送り出す登竜門となること、また、日本の芸術活動の中心地「ART×FORCUS」となることを目指し命名された。</p>			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>アーティスト・イン・レジデンス・プログラム:国内外から若手アーティストを招へいし、滞在制作を支援するプログラム。滞在中、自由な創作活動を行うための環境とサポートを提供する。アーティストの創作過程を一般に公開するオープンスタジオと関連イベントを実施する。また、2011年度よりキュレーターやレジデンスプログラムのディレクターを海外から招へいするプログラムを実施している。2012年度には、過去にアーカスプロジェクトに滞在した日本人アーティストによる現在の活動を報告、発表する展覧会「Re: AIR」を実施。</li> </ul>				

	<ul style="list-style-type: none"> <li>アートと地域を繋ぐ交流プログラム:アーカススタジオのある茨城県守谷市で開催される市民イベントにアートのプログラムコンテンツを提供する。また、1999年より継続している日比野克彦氏によるワークショップシリーズ「ヒビノホスピタル」や2012年より開始している「アーティスト・イン・スクール」など、アーティストが先導して実施するワークショップを公共施設や小学校、児童館などで開催。加えて、「ロッカールーム」「オープンラジオ」「モリヤイーストキャスト」を活用し、サポーターによるプログラム運営を支援している。 *上記の内容は年度ごとに変わる。</li> </ul>	
事業実績／成果	<p><b>【事業実績】</b>  プレ事業開始年(1994年)から2012年度までに27ヶ国・地域から85名のアーティストを招へい。滞在期間中のリサーチや創作活動、ワークショップなどを通して地元住民との交流が図られるとともに、地域文化を反映した作品が制作されるなど、事業目的に沿った芸術活動が展開されている。</p> <p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過去の招へいアーティストは、アーカスプロジェクトを経て国際的にめざましく活躍しており、若手芸術家の世界への登竜門となっている</li> <li>「日本におけるレジデンスの先駆者」「自治体が行う国際的メセナ事業」として国内外から評価を獲得し、国際交流の推進に貢献している。特に海外のアーティストにはアーカスプロジェクトの存在は広く普及している</li> <li>2012年度には応募者総数300人を超え、アーカスに対する海外アーティストの関心と期待の高さを示している</li> <li>コーディネーターがアーティストの日常生活や制作をサポートしながらレジデンスプログラムを運営すると同時に、地域住民が主体となり自主的に企画する展覧会やトーク、ワークショップ等を実施している。結果、多くの地域住民が様々な方法でアーカスプロジェクトの事業にサポーターとして参画し、招へいアーティストと双方向の交流を行っている。また、2012年度よりレジデンスプログラムにゲストキュレーターを採用し、招へいアーティストのサポートに厚みを与えている。2012年までの19年間に、過去の滞在アーティストの半数以上が、日本国内で開催されるアートフェスティバル、プロジェクト、展覧会で再来日をはたしている</li> <li>アンケートや調査を定期的に行い、過去に招へいしたアーティストの現在の活動を追跡し、インターネット等で紹介している</li> </ul>	
招へいアーティスト	さとらさ、アリシア・フラミス、アンジェラ・ブロック、ウー・シャンリン、シャロン・ロックハート、ジェイソン・コフキ、ソニン・アン、ダニエル・サイプル、ティファニー・チュン、テレジータ・フェルナンデス、デビー・ハン、デヴィッド・ブレイザー(with ケルダ・フリー)、ドミニク・ゴンザレス・フォルステル、ドレーン・ウーリッヒ、ファザル・リズヴィ、ワイ・クエン・フイ、ヴォイチェフ・ギレヴィチュ、出田郷、北山美那子、小泉明郎、山出淳也、岩井成昭、島袋道浩、椎名勇仁、澤登恭子、眞島竜男、稲垣智子、藤井光	
施設構成・内容	制作スタジオ	○ 旧小学校の教室を改修してスタジオとして利用、最大4部屋(1部屋:67.5㎡) インターネット回線、エアコン、給排水設備あり
	展示スペース	
	宿泊施設	○ 宿泊場所は無料で提供する。スタジオ近隣に、最低限の家具、電化製品を備えたワンルームマンションを提供。
	その他	事務所兼会議室及びビレクチャー/市民交流スペース「ロッカールーム」:1部屋(67.5㎡)
	交通アクセス	守谷駅西口から関鉄バス(「新守谷駅」行き)「守谷高校入口」または、守谷市コミュニティバス(モコバス・Aルート「白寿荘・板戸井方面」)「守谷高校前」より徒歩で約5分(つくばエクスプレス「守谷駅」は、同「秋葉原駅」より快速で32分)/関東鉄道常総線「新守谷駅」より車で5分(「新守谷駅」は、JR上野駅から常磐線「取手」駅経由で約60分)関東鉄道バスまたはJRバス関東(水海道・岩井/猿島行き)「松前台」より徒歩で約15分/東京駅八重洲南口・高速バス3番乗り場より約1時間/常磐自動車道「谷和原I.C.」より車で約5分
	周辺環境	スタジオのある守谷市(2002年2月2日市制施行)は、都心から約40kmの距離に位置する、三方向を河川に囲まれた水と緑の自然豊かなまちである。2005年の「つくばエクスプレス」(秋葉原-つくば)の開業により、都心との時間、距離が飛躍的に短縮されるとともに、人口の増加が進み、今後一層の都市化が見込まれる。
画像		
		
		<p>左上:招へいアーティストとスタッフのミーティングの様子</p> <p>右上:オープスタジオ時の、ゲストキュレーターによる解説付きツアーを実施した際の様子</p> <p>左下:作品制作のためのアーティストと地域住民(映像作品への出演者)とのワークショップの様子</p>

5 石彫千年の交感 アーティスト・イン・レジデンス 桜川					
レジデンス事業の概要	対象分野	彫刻 ＊石彫刻を主に発表している人。石彫刻に深い見識のある人			
	招へい人数	2人(作家の家族同伴可・応相談) ＊2011 年度は資金の支援なしのプログラム	招へい期間	2-3週間(応相談)	
			募集期間	随時	
	受入条件	年齢制限:なし 受入対象国指定:なし その他 ・健康で石彫刻ができる人。人柄が良ければなおよい ・作家負担金:30万円(原石代+制作代+滞在費/2週間の場合) ・推薦状:駐日本大使館による推薦状			
選考・支援	応募方法	作家の自主プログラムに応じて要相談 アーティストの直接応募	選考方法	美術専門家のアドバイスを受けて館長と浅賀正治が選考。	
	支援内容	渡航費助成			
		滞在費助成			
		制作費助成			
		成果発表・オープスタジオ	○	オープスタジオの機会が複数回あり。スタジオから意図を説明し、内容は滞在アーティストの意思に任せて実施	
		人的サポート	○	彫刻家からのアドバイス、館長による生活サポートなど	
		記録集	○		
その他	岩瀬石彫展覧館の企画展に参加する場合の渡航費などの援助があるレジデンスと、希望者が自由に計画し施設を利用するレジデンスの二つのプログラムがある。2011年度は後者の場合、人的サポートのみ(資金的支援なし)。当館併設の総合美術工房での制作は作家の注文制作も可能。作品の販売も行える(当館は行政の支援ではなく個人で行っている為に可)。				
運営組織概要	団体名	岩瀬石彫展覧館 石の文化クラブ(岩瀬石彫展覧館の友の会)			
	URL	<a href="http://www.asahi-net.or.jp/~tq3m-asg/">http://www.asahi-net.or.jp/~tq3m-asg/</a>	事業開始年	1994年	
	所在地	〒309-1314 茨城県桜川市亀岡 741			
	電話	0296-75-1550	FAX	0296-75-1550	Email <a href="mailto:tq3m-asg@asahi-net.or.jp">tq3m-asg@asahi-net.or.jp</a>
	事業目的	石材産地から世界へ向けて〈石文化〉を発信する。 石文化を通して…… (1)世界平和に貢献する、(2)地域の友好を拡大する、(3)国際交流をすすめる、(4)人間性豊かな子どもの教育に貢献する、(5)石彫刻の完成度を追求する(研鑽と競技としての AIR)、(6)石材に携わる人々の誇りと技を顕彰する、(7)恩は石に刻む、報恩と感謝の絆を平和の種として石に刻むレジデンス、(8)作家のオリジナルオーダーを当工房で制作し日本での石作品の発表補助とPR			
	事業内容	2011年度は希望作家のレジデンスのため、相談の上以下の数点を実施 ・茨城県の石(御影石)を用いて記念碑(モニュメント)を制作する ・地元の幼稚園を訪問し園児との交流をはかる ・地元二校の中学生と一緒に石彫刻の共同制作をする ・地元の有志の方々との歓迎セレモニーに出席する ・市民石彫講座に講師として参加する ・石の文化クラブ、石材関係者との交流会に参加する ・完成した作品の発表と講演を行う ・日本文化の研修として日光など訪問する。美術館・博物館・水族館などを見学する ・滞在中屋内展示場においてデッサン、クロッキー、水彩画などの個展を開催する ・同様にいままで母国内外で発表した作品の写真展示をする ・ビデオ上映をする(母国における環境・生活状況など)			
事業実績/成果	【事業実績】 1994年度-2008年度の間に、8名を招へい。				

		<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 当プログラムは、他にない特徴があるために茨城県、日本国内、ブルガリア共和国より高い評価を得ている</li> <li>● 完成度の高い作品を制作している。ミラン・アンドレーフ氏の制作した作品は愛知万博に出展され、多くの市民と活躍中の美術評論家からも絶賛されている</li> <li>● 国際交流として心と心の通う、市民が楽しむ活動になっている</li> <li>● 子どもとの交流も行っており、子どもにとっては人間性を伸ばす素晴らしい経験になっている。自分に自信のついた子どもたちも多くなる</li> <li>● まとめた記録集の送付により新たな感動をよんでいる</li> <li>● 2004年にブルガリア共和国の文化大臣より“名誉証”を授与されている</li> <li>● 日本ではじめての石彫AIRとして多くの方々より支援、希望されている</li> <li>● 石文化をとおして交流派遣団を外国へ送り出している</li> <li>● 国際交流基金より、2005年地球市民賞受賞</li> <li>● 1997年、茨城県国際交流賞受賞</li> <li>● 2011年、ブルガリアよりゴールデン・センチュリー賞受賞</li> </ul>
施設構成・内容	招へいアーティスト	イワン・ルセフ、キリル・メスキ、ジャティン・ヌリエフ、ジョラム・マリガ、ステファン・ルタコフ、スネジャナ・シメオノヴァ、ツバトコ・シロマシキ、ミラン・アンドレフ
	制作スタジオ	○ 1,650 m <sup>2</sup> (500 坪)
	展示スペース	○ 1,650 m <sup>2</sup> (500 坪)
	宿泊施設	○ 地上 3 階 (3LDK、工房併設住居)
	その他	石彫刻の制作に必要な家屋、機材一式、大型重機、最新型工具一式がすべてそろっている。花崗岩(御影石)が豊富にあるので、様々な発想に適している。施設の周辺には加工技術者がたくさんおり、制作のサポートが可能。トラックあり(10t、6t、3t、フォークリフト)。屋内制作展示と屋外制作展示ができる。
	交通アクセス	JR 水戸線「羽黒駅」より徒歩 25 分/北関東自動車道「笠間西 IC」より北西へ車で 7 分
	周辺環境	日本三大石産地のひとつ稲田石・岩瀬石・真壁石の中にあり、また陶芸の町として名高い益子町・笠間市の隣に位置している。旧岩瀬町は 2005 年に合併して桜川市となった。つくば市の隣に位置し、自然に恵まれた美しい環境のなかで、隣接する学園都市つくば市と共に発展している。首都東京より 110km(電車で 時間)、成田空港より車で2時間 30 分。
画像		

## 6

## 中之条ビエンナーレ

レジデンス事業の概要	対象分野	絵画、写真／映像、彫刻、デザイン、パフォーマンス				
	招へい人数	128人	招へい期間	2011年4月－11月		
			募集期間	2011年6月－7月		
受入条件	年齢制限:なし 受入対象国指定:なし					
選考・支援	応募方法	公募		選考方法	中之条ビエンナーレ実行委員会による審査	
	支援内容	渡航費助成	○	7万円		
		滞在費助成				
		制作費助成	○	3万円		
		成果発表・オープスタジオ	○	中之条ビエンナーレでの作品展示		
		人的サポート	○	実行委員及びボランティアによる送迎		
		記録集	○	中之条ビエンナーレ参加作家には無料配布		
		その他				
運営組織概要	団体名	中之条ビエンナーレ実行委員会				
	URL	<a href="http://nakanojo-biennale.com/">http://nakanojo-biennale.com/</a>		事業開始年	2007年 *隔年開催	
	所在地	〒377-0494 群馬県吾妻郡中之条町大字中之条町 1091 番地				
	電話	0279-75-8802	FAX	0279-75-6562	Email <a href="mailto:biennale@town.nakanojo.gunma.jp">biennale@town.nakanojo.gunma.jp</a>	
	事業目的	中之条町という地域に文化を根付かせ、普及、発展させるとともに、ビエンナーレを通じて地域資源に目を向けることで、ふるさとの良さを再認識してもらう。				
	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代アート作品(絵画、彫刻、インスタレーション、映像、写真、身体パフォーマンスなど)の展示</li> <li>ワークショップの開催</li> <li>アートイベントの開催</li> <li>シンポジウムの開催</li> <li>アーティストグッズの製作・販売</li> </ul>				
	事業実績／成果	<b>【事業実績】</b> 2007年度:58名招へい 2009年度:112名招へい 2010年度:27名招へい 2011年度:128名招へい				
	招へいアーティスト	サクサベウシオ、スタン・アンダソン、三宅光春、北野アカネ、小林陽介、山本あまよかしむ、岡本純一、平野薫、李準美、村元崇洋、梅澤千絵子、水野暁、江上弘、清岡正彦、藤井達矢、藤井龍徳、西嶋雄志、鈴木孝幸、飯沢康輔				

施設構成・内容	制作スタジオ	○	屋内1部屋、屋外2ヶ所(計 89 m <sup>2</sup> ) 屋内施設は管理棟内のホール。屋外施設は元バーベキュー棟で、屋根あり。全施設とも高圧電気器具は使用不可。中之条ビエンナーレの準備期間、開催期間中は、使用制限あり。
	展示スペース	○	3ヶ所(計 550 m <sup>2</sup> ) 3ヶ所とも展示用につくられたスペースではなく、自然の地形を活かした空間。
	宿泊施設	○	14 部屋(計 180 m <sup>2</sup> ) 大型バンガロー4部屋と小型バンガロー10 棟。大型バンガローには、炊事場、シャワールーム(湯船なし)、水洗トイレが併設。小型バンガローはこれらの設備がすべて屋外に設置。全施設とも中之条ビエンナーレの準備期間、開催期間中は、使用制限あり。
	その他		このレジデンスは、以前キャンプ場だった施設を再利用している。
	交通アクセス		JR 吾妻線「中之条駅」より車で 25 分 関越自動車道渋川伊香保 I.C.より車で 65 分
	周辺環境		中之条町は、中之条ビエンナーレや伊参スタジオ映画祭などを開催し、文化芸術と地域をつないだまちづくりを行っており、その活動が評価され、平成 21 年度文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)を受賞した。レジデンスのほかにも、アーティストの作品展示、販売が恒常的に行われる場として、平成 21 年度はあらたに「ふるさと交流センターつむじ」を町の中心部に開設して、より一層地域と文化芸術が触れ合えるようになった。

画像



7 3331 Open Residence						
レジデンス事業の概要	対象分野	演劇、音楽、美術、建築、工芸、写真／映像、彫刻、デザイン、パフォーマンス、版画、ファッション				
	招へい人数	9人	招へい期間	随時(年2回) A:7月-12月 B:1月-6月		
			募集期間	随時(年2回締切) A:12月30日締切 B:6月30日締切		
受入条件	<p>年齢制限:なし 受入対象国指定:なし その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• クリエイティブ活動に積極的に従事していること</li> <li>• 地域に関与できること</li> <li>• メンバー同士の会合に出席し、3331内外の活動と運営を共同で行えること</li> <li>• 滞在期間中、新しい作品をつくれること、新しい研究を追求できること</li> <li>• レジデンス料金を納められること(滞在+制作+発表+サポート=23万円/1ヶ月1人あたり)</li> <li>• 3331のレジデンスプログラムは特にギャラリー、美術大学、アートファウンデーションからの応募を受け付けている</li> <li>• このプログラムは東京での滞在制作を計画しているアーティストを対象としたプログラムで、対象となる表現活動はビジュアルアート、デザイン、建築、ダンス、音楽など、分野を問わないが、滞在費・制作費を含むすべての費用はアーティスト自身の負担となる</li> <li>• 3331 Arts Chiyodaでは滞在するアーティストに対して財的な支援を行うことはできない</li> </ul>					
選考・支援	応募方法	応募用紙を3331のウェブサイト( <a href="http://residence.3331.jp/apply/">http://residence.3331.jp/apply/</a> )からダウンロードし、必要書類を添付のうえ「 <a href="mailto:residence@3331.jp">residence@3331.jp</a> 」へ送付。応募の際に滞在費用の証明必須。		選考方法	選考委員会により決定	
	支援内容	渡航費助成				
		滞在費助成				
		制作費助成				
		成果発表・オープスタジオ	○			
		人的サポート	○	英語・日本語の対応可		
		記録集				
その他						
運営組織概要	団体名	コマンド N				
	URL	<a href="http://residence.3331.jp/">http://residence.3331.jp/</a>		事業開始年	2010年	
	所在地	〒101-0021 東京都千代田区外神田6丁目11-14				
	電話	03-6803-2441	FAX	03-6803-2442	Email	<a href="mailto:residence@3331.jp">residence@3331.jp</a>
	事業目的	レジデンスに加えスタジオ、ギャラリーなどのスペースを「3331 Arts Chiyoda」内で提供し、東京の地域性豊かな千代田区秋葉原エリアにある3331からの、新しい表現と文化の研究と発表を志すクリエイターやアーティストの活動をサポートをする。ビジュアルアート系だけではなく、デザイン、建築、ダンス、音楽、様々な分野のクリエイターが対象。3331というハブを通して東京のアートシーンにおける幅広いネットワークと繋がることできる。				
	事業内容	宿泊設備、スタジオ、ギャラリーなどの施設を提供。また、それらの企画、広報、運営。				
	事業実績／成果	【事業実績】 2010年度:9名招へい 2011年度:15名招へい				
招へいアーティスト	アッシュ・キーティング、ウィジョーガ・ムハーダント、エリザベス・スモラーズ、サラ・ウォン&ピーター・ウィリアムズ、ジェレミー・ヒャー、ジェン・メイヤー、ジェームズ・ドイチャー、ジャズミン・パテージャ、スリージャタ・ロイ、ピラ・ターニャ、マーク・ダンカン、モ・ザット、リ・チュンフン、ルーシー・キム、久野志乃、吉濱翔、宮田君平、山岡佐紀子、東野哲史、王俊傑、開発好明、開発良明					

施設構成・内容	制作スタジオ	○	
	展示スペース	○	
	宿泊施設	○	50 m <sup>2</sup> 3331 から徒歩2分にある2LDK のマンション。台所、リビングと2つのベッドルームの施設で、3名での使用に適している(5名まで使用可能)。キッチン・バスは共用。
	その他		<p>【スタジオギャラリー(33 m<sup>2</sup>)】 様々なギャラリーやクリエイティブな活動に従事する団体が入居する 3331 施設地下1階のスタジオ・ギャラリースペース。スポットライトとインターネットが使用可。制作と発表のスペースが設けられている。</p> <p>【イベントスペース(100 m<sup>2</sup>)】 トークショーやワークショップの開催を希望する場合は、特別料金でコミュニティスペースカラウンジを提供することができる。使用日時は応相談。</p>
	交通アクセス		<p>東京メトロ銀座線「末広町駅」4番出口より徒歩1分 東京メトロ千代田線「湯島駅」6番出口より徒歩3分 JR「御徒町駅」南口より徒歩7分 JR「秋葉原駅」電気街口より徒歩8分</p>
周辺環境		<p>秋葉原の一角は独特でありながら万華鏡のような華やかさを持つ特徴的なエリア。南のエリアでは、珍しい電気機器装置やパーツを扱う店舗が軒を連ね、アニメ、漫画の情報発信地として世界中で知られている。3331 は、こうした秋葉原文化と東京の下町文化が残る2つのエリアの境界線上、また伝統文化と現代文化の二面性が共存する地域に位置している。</p>	

画像



## レジデンス・イン・森下スタジオ ヴィジティング・フェロー

レジデンス事業の概要	対象分野	演劇、舞踊、パフォーマンス			
	招へい人数	3-4人程度	招へい期間	2014年4月1日-2015年3月31日	
			募集期間	2013年8月-10月(予定)	
受け入れ条件	<p>年齢制限:なし 受入対象国指定:なし その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現代演劇・舞踊の海外ネットワークの拡大と相互理解の促進のため重要な役割を担うことが期待される、海外を拠点に活動するアーティスト、アーツ・アドミニストレーター(プロデューサー、プログラム・ディレクター、キュレーターなど)で、森下スタジオを滞在拠点に、当該分野を対象に研究を行うこと</li> <li>日本語または英語で意思疎通がとれること</li> <li>自薦のほか、国内の団体/個人による招へいが決まっている場合は、他薦による申請も可。ただし、その場合は、来日者の意思確認が取れていること</li> <li>フェローは、来日期間中に、一般を対象とした自国のアート状況及び自身の仕事に関するパブリック・トークを実施すること</li> <li>離日後、1年以内に、なんらかの方法で日本滞在の成果を発表すること</li> </ul>				
選考・支援	応募方法	公募	選考方法	事務局からの提案を経て、理事会で決定	
	支援内容	渡航費助成	○	当財団の規定に基づく算出による渡航費を助成	
		滞在費助成	○	日当を支給	
		制作費助成	○	研究活動費を支給	
		成果発表・オープンスタジオ	○	離日後、1年以内に、何らかの方法で日本滞在の成果を発表すること 成果発表のみ、オープンスタジオはなし	
		人的サポート	○		
		記録集	○	当財団のウェブサイト、ニュースレター「viewpoint」、アニュアル・レポート等に記載	
その他					
運営組織概要	団体名	公益財団法人セゾン文化財団			
	URL	<a href="http://www.saison.or.jp">http://www.saison.or.jp</a>	事業開始年	1994年	
	所在地	〒104-0061 東京都中央区銀座1-16-1 東貨ビル8階			
	電話	03-3535-5566	FAX	03-3535-5565	
			Email	<a href="mailto:foundation@saison.co.jp">foundation@saison.co.jp</a>	
	事業目的	日本の現代演劇・舞踊の振興や国際交流の促進に寄与すること			
事業内容	<p>レジデンス・イン・森下スタジオ ヴィジティング・フェロー:現代演劇・舞踊の海外ネットワークの拡大、相互理解の促進を目的に、重要な役割を担うことが期待される海外のアーティスト、アーツ・アドミニストレーター(プロデューサー、プログラム・ディレクター、プレゼンター、キュレーターなど)を招へいし、日本の現代演劇・舞踊の状況や背景、魅力等の研究を支援するプログラム。</p> <p>上記のプログラムのほか、2010年度及び2011年度は、独立行政法人国際交流基金との共催により、「JENESYS Programme(東アジアクリエイター招へいプログラム)」を共催事業として実施。</p>				
	<p><b>【事業実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1994年:米国、インドネシア、日本間のダンサー、制作者の滞在型交流事業「トライアングル・アーツ・プログラム」で4名が来日。2週間のレジデンス(会議、ワークショップ、小作品発表、ディスカッションなど)を実施</li> <li>1997年:「トライアングル・アーツ・プログラム」の第2回目を実施、会議、ワークショップ、小作品発表、ディスカッションなどを実施(4名来日)</li> <li>2001年:シンガポールから5名のアーティストが1ヶ月滞在し日本人アーティストと作品創作、演劇作品「ドリームタイム イン 森下スタジオ」を発表</li> <li>2005年:オン・ケンセン(シンガポール)が滞在アーティスト・アーティストとして1ヶ月滞在し新作のリリース、稽古、日本のアーティストとの交流イベント「アーティスト・サロン」などを実施</li> <li>2006年:シンガポール、タイ、フィリピンのアーティスト5名が来日。2週間滞在し、森下スタジオで日本人アーティストを交えた移住労働者をテーマにした新作のためのリリース、ワークショップ、試演会を実施(2007年3月、シアターラムで公演)</li> <li>2010年:「JENESYS Programme(東アジアクリエイター招へいプログラム)」で、マレーシアから1名のアーティストが来日。約6週間滞在し、振付家・演出家の山下残との共同制作及び日本の現代芸術のリリースを実施</li> <li>2011年:「JENESYS Programme(東アジアクリエイター招へいプログラム)」で、インドから1名のアーティストが来日。約2ヶ月滞在し、演出家の岡田圓(花傳[KADEN]代表)との共同制作及び日本の現代芸術のリリースを実施。「ヴィジティング・フェロー」では、ドイツから1名のアーツ・アドミニストレーターが来日。約2週間滞在し、日本の文化状況を視察し、今後の日本とのネットワーク構築のリリースを実施。また、韓国から1名のアーツ・アドミニストレーターが来日し、日本の舞台芸術界で活躍する新しい世代の舞台芸術家を対象にリリースを実施</li> </ul>				

事業実績 ／成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>2012年:「ヴィジティング・フェロー」で、ルーマニアから1名のアーツ・アドミニストレーターが来日し、日本とルーマニアのダンスの交流プロジェクトのための調査を実施。また、米国から1名のアーティストが来日し、日本のアーティストとの共同リサーチや舞踏の研究を実施。モロッコ／ベルギーから1名のアーツ・アドミニストレーターが来日し、日本とアラブのパフォーミングアーツの国際交流のプラットフォームのための調査を実施。シンガポールから1名のアーツ・アドミニストレーターが来日し、新しい世代の日本とシンガポールの交流のための調査を実施。リヒテンシュタイン／スイスから1名のアーツ・アドミニストレーターが来日し、東日本大震災以降の日本のパフォーミング・アーツの状況の調査を実施。さらに、イタリア／アイルランドから1名のアーツ・アドミニストレーターが来日し、日本のダンスシーンの調査、日本とアイルランドとの国際交流の可能性のための調査を実施。</li> </ul> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加したアーティストたちが、滞在をきっかけにさらに交流を深め、自発的に協働事業を立ち上げ、ネットワークが拡大している</li> <li>日本の演劇・舞踊コミュニティに、滞在アーティストの創作方法や活動内容、考え方を紹介することで新しい知見を獲得する場を提供している</li> <li>演劇・舞踊を通して、日本と海外との関係・問題を問い直すきっかけになっている</li> <li>滞在中に創作された作品は、国際的なフェスティバルで上演の機会を得ている</li> </ul>
招へいアーティスト	エリザベッタ・ビザーロ、カディジャ・エル・ベナウイ、コスミン・マルレスク、サヴィータ・ラニ、ジュヨン・コ、ダグマー・ヴァルザー、トラジャル・ハレル、ファーム・ファジール、ホー・クアンチェン、マックス＝フィリップ・アッシュブレunner
施設構成・内容	<p>制作スタジオ ○ 本館…Aスタジオ:109.35㎡/Bスタジオ:109.35㎡/Cスタジオ:238.56㎡ 新館…Sスタジオ:77.97㎡</p> <p>森下スタジオは、1994年に東京・江東区にオープンしたセゾン文化財団が運営する演劇・舞踊の稽古専用施設。本館には、スタッフルーム、ロッカールームを付帯した三つのスタジオがあり、また、新館には、スタジオのほか、国内外のアーティストやアーツ・アドミニストレーターが滞在可能なゲストルームや演劇・舞台関係者が集えるラウンジ、会議室、オフィススペースなどがある。当財団の助成活動の一環として、助成対象者の必要に応じてワークショップ、会議、シンポジウム、公演稽古、ショーイングの会場として提供されている。</p> <p>展示スペース ○ 森下スタジオ新館「ラウンジ」</p> <p>宿泊施設 ○ 森下スタジオ新館「ゲストルーム」</p> <p>その他</p> <p>交通アクセス 地下鉄都営新宿線、都営大江戸線「森下駅」A6出口より徒歩5分</p> <p>周辺環境 森下は、東京の下町にある閑静な住宅地。周辺には商店街、アパートメント形式のホテル、ビジネスホテルなどがある。また、徒歩圏内に江東区森下文化センター、SNAC(現代美術やパフォーマンスを対象としたプロダクションやイベントのためのスペース)、東京都現代美術館、画廊、深川江戸資料館などの文化施設が多数ある。</p>
画像	

9 大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ「オーストラリア・ハウス」							
レジデンス事業の概要	対象分野	美術、工芸、写真／映像					
	招へい人数	1組	招へい期間	2012年6月－9月(予定)			
			募集期間	2012年2月(予定)			
受入条件	年齢制限:なし 受入対象国指定:あり(オーストラリア)						
選考・支援	応募方法	公募		選考方法	大地の芸術祭実行委員会、オーストラリア大使館による選考		
	支援内容	渡航費助成	○				
		滞在費助成	○				
		制作費助成	○				
		成果発表・オープンスタジオ	○				
		人的サポート	○				
		記録集					
その他							
運営組織概要	団体名	大地の芸術祭 実行委員会					
	URL	<a href="http://echigo-tsumari.jp/">http://echigo-tsumari.jp/</a>		事業開始年	2009年		
	所在地	〒942-1526 新潟県十日町市松代 3743-1					
	電話	025-597-3770	FAX	025-595-6311	Email	<a href="mailto:info@tsumari-artfield.com">info@tsumari-artfield.com</a>	
	事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>オーストラリア文化の発信</li> <li>日豪交流</li> </ul>					
	事業内容	2010年度 <ul style="list-style-type: none"> <li>オーストラリア人アーティストのレジデンス(6－7月)</li> <li>年に1度、公募を行い、オーストラリア人アーティスト1組を選び約1ヶ月半の滞在制作を行う</li> <li>学生交流事業(8月):オーストラリア(ニューカッスル大学)の学生と日本(多摩美術大学)の学生による滞在制作、作品公開</li> </ul> 2011年度 <ul style="list-style-type: none"> <li>オーストラリア人アーティストのレジデンス(7－8月)</li> <li>制作物の展示発表(8月)</li> </ul>					
	事業実績／成果	<b>【事業実績】</b> 2009年度:3組招へい(大地の芸術祭 2009 で作品公開) 2010年度:1組招へい、学生交流事業 2011年度:1名招へい					
	招へいアーティスト	アレックス・リツカーラ、キム・アンダーソン、ジョン・グラウンズ、ジョン・ヤング、モード・バース、リチャード・トーマス、ルーシー・ブリーチ					

施設構成・内容	制作スタジオ	○	
	展示スペース	○	約 130 m <sup>2</sup> (展示・創作・宿泊スペースとあわせて) そのほかの周辺屋外スペースなども相談によって展示に利用可能
	宿泊施設	○	宿泊条件などは要問合わせ
	その他		
	交通アクセス		関越自動車道六日町 IC より、国道 253 号線で十日町を經由し、さらに上越方面へ向かって、松代エリアに入る。ほくほく線まつだい駅前を通過し、引き続き国道 253 号線を上越方面へ。まつだい駅から約 2.7km の「池尻」交差点から国道 403 号へ左折。約 2.5km 進み、奴奈川小学校の二差路を左折し浦田方面へ向かう。
周辺環境		大地の芸術祭の開催地である越後妻有地域(十日町市・津南町)に位置する。世界でも有数の豪雪地である越後妻有では、世界のアーティスト、文化人、研究者、都市のサポーターと住民が協働し、3年大祭「大地の芸術祭」を 2000 年より開催してきた。760km <sup>2</sup> の広大な大地に約 160 の現代アートが点在する、この「大地の芸術祭の里」では、晴耕雨読、夏耕冬読の文化交流が、四季を通して行われている。	

画像



左上、右上、左下:

Andrew Rewald "The Feeling of Homeland (working title)",  
Australia House, Urada Niigata, Japan 2012

10 オーストラリア・カウンシル VACB 東京スタジオ				
レジデンス事業の概要	対象分野	美術、工芸、映像、彫刻、デザイン *その他、ビジュアルアート、メディアアートにあたるもの		
	招へい人数	4人(各回1人)	招へい期間	2012年8月-11月 2012年11月-2013年2月 2013年2月-2013年5月 2013年5月-2013年8月 1回につき3ヶ月間 滞在日程は応募の順で割当て (作家の希望に添えない場合もある)
			募集期間	2012年8月中旬締切り
受入条件	年齢制限:なし 受入対象国指定:あり(オーストラリア) その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>当該アーティストの作品が高い評価を受けていること</li> <li>当該アーティストが今後のキャリアにおいて、本レジデンスが有効であると考えられること</li> </ul>			
選考・支援	応募方法	公募 *ヴィジュアル・アーツ委員会が運営するオーストラリア国外のレジデンス・プログラム同様、東京のスタジオはたいへん人気があり、競争率が高い。	選考方法	ヴィジュアル・アーツ委員会の委員により選考
	支援内容	渡航費助成	<input type="radio"/>	渡航費、生活費、海外旅行保険を含め、10,000豪ドルの助成
		滞在費助成	<input type="radio"/>	
		制作費助成		
		成果発表・オープンスタジオ		
		人的サポート	<input type="radio"/>	2人のマネージャーがスタジオと滞在者をサポート
		記録集		
		その他	ガイドブックや地図、ギャラリーの情報、買い物や交通機関、見どころなどの案内書が、スタジオ内に備えられている	
運営組織概要	団体名	オーストラリア・カウンシル(在シドニー)		
	URL	<a href="http://www.australiacouncil.gov.au/grants/grants/skills_and_arts_development_residencies_-_visual_arts">http://www.australiacouncil.gov.au/grants/grants/skills_and_arts_development_residencies_-_visual_arts</a>	事業開始年	1987年
	所在地	372 Elizabeth St, Surry Hills, NSW 2010, Australia		
	電話	+61-2-9215-9336	FAX	+61-2-9215-9197
			Email	<a href="mailto:J.Spatt@australiacouncil.gov.au">J.Spatt@australiacouncil.gov.au</a>
	事業目的	オーストラリアのヴィジュアル・アーティストのスキルの向上と芸術の振興 本レジデンス・プログラムは、オーストラリア・カウンシルのヴィジュアル・アーツ委員会を対象とする工芸、デザイン、メディア・アート、ヴィジュアル・アートの作家に、プロとして成長する経験の機会を与え、質の高い芸術の振興を目指すプログラムである。		
	事業内容	オーストラリアのヴィジュアル・アーティストのための3ヶ月のレジデンス・プログラム。		
事業実績／成果	事業開始以来、80名以上のオーストラリアのアーティストが、本スタジオでレジデンスを行い、どの参加者からもプログラムが有効である旨の報告を受けている。本プログラムは成果発表の機会を提供するものではないが、アーティスト達は、将来のプロジェクトに繋がる貴重なネットワークを、レジデンス中に構築している。			

	招へいアーティスト	クレイグ・ウオルシュ、グウィン・ハンセン・ピゴット、ショーン・コーデイロ、ジェニー・ワトソン、ジャネット・ローレンス、ジョン・グラウンズ、ジョン・ヤング、セリーヌ・オウ、デービッド・ヘインズ、パトリシア・ピッチニーニ、フィリップ・ブロフィー、レオン・ミエレウスキー	
施設構成・内容	制作スタジオ		
	展示スペース		
	宿泊施設	○	36 m <sup>2</sup> (2LDK) 早稲田大学に近い 12 階建のマンションの6階
	その他		
	交通アクセス	JR 山手線、営団地下鉄東西線、西武新宿線「高田馬場駅」より徒歩 10 分	
	周辺環境	学生、ビジネス、住宅街と、多様性にあふれる地域であり、近くには手頃なレストランやスポーツ施設もあり、またスーパーマーケットや昔ながらの商店、マクドナルドや畳屋さん、銭湯も揃っている。フィルムの現像やコピーなどは、近くのスーパーで行える	

## AAS Grow up!! Artist Project

レジデンス事業の概要	対象分野	指定なし			
	招へい人数	1人(もしくは1団体)	招へい期間	1月-12月(予定)	
			募集期間	9月-12月(予定)	
受入条件	年齢制限:なし 受入対象国指定:なし				
選考・支援	応募方法	公募(日本語のみ)		選考方法	アサヒ・アートスクエア運営委員会による選考
	支援内容	渡航費助成	○	サポート費(40万円)に含む	
		滞在費助成	○	サポート費(40万円)に含む	
		制作費助成	○	サポート費(40万円)に含む	
		成果発表・オープンスタジオ	○	形態は自由(作品発表でなくとも可)	
		人的サポート	○	ディレクター、担当スタッフ(各1名)、舞台テクニカル(1名)。その他、アーティストの必要に応じた専門家を別途紹介	
		記録集			
その他					
運営組織概要	団体名	アサヒ・アートスクエア運営委員会			
	URL	<a href="http://asahiartsquare.org/">http://asahiartsquare.org/</a>		事業開始年	2008年
	所在地	〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋 1-23-1 スーパードライホール 4F			
	電話	090-9118-5171(事務局直通)	FAX	03-5608-5319	Email <a href="mailto:aas@arts-npo.org">aas@arts-npo.org</a>
	事業目的	ジャンルを問わず、自らの表現のさらなる発展と新たなチャレンジを目指すアーティストをサポートすることを目的とする。さらに、本プロジェクトは、アーティストが自らの表現に向き合い「考える」ためのサポートを目的としているため、展覧会や舞台公演のように具体的な成果の発表は必ずしも求めない(最終的には、サポートアーティストによる報告会を一般公開で実施)。			
	事業内容	すでに発表実績のあるアーティストが、自らの表現ともう一度向き合い、多角的な視点からじっくりと「考える」時間を持つことで、アーティストとしてさらなるステップアップをはかろうとするプロセスをサポートする。サポートアーティストには、サポート費のほか、創作場所の無償提供、作品について考えるための有意義な情報や手段などを提供する。 具体的にはサポートアーティストと相談のうえ決定。 ● 振付家:クリティカル・レスポンス・プロセスの実施など ● 美術家:コラボレーションしてみたいジャンルのアーティストの紹介など ● 演劇:構想中の作品に応じたドラマトゥルクの紹介など プロジェクトの最後に行う成果報告会(一般公開)のチラシ作成及び宣伝告知は、アサヒ・アートスクエア事務局で行う。			
	事業実績／成果	【事業実績】 ● 2008年度(アサヒ・アートスクエアレジデンスプロジェクト):群々(むれ)『あたらしい世界』(ダンス公演) *2007年6月にプレ公演を実施 ● 2008年度(Grow up!! DanceProject): 振子びじん『syzygy』、石川勇太『Time Difference』(ダンス公演) ● 2009年度(アサヒ・アートスクエアレジデンスプロジェクト): 泉太郎「くじらのはらわた袋に隠れる、ネズミ」展(展覧会) ● 2011年度:岩淵貞太「雑木林」(ダンス公演)			

	招へいアーティスト	寺内大輔、岩渕貞太、振子びじん、泉太郎、石川勇太、群々(むれ)、蓮沼執太	
施設構成・内容	制作スタジオ	○	約 260 ㎡、天井高:約6m 裸火使用禁止
	展示スペース	○	約 260 ㎡、天井高:約6m 裸火使用禁止
	宿泊施設		
	その他	キャットウォーク及び常設照明機材あり、常設大型スクリーンあり、パテーションなし、展示用レールなし	
	交通アクセス	東京メトロ銀座線「浅草駅」4、5番出口より徒歩5分 都営地下鉄浅草線「浅草駅」A5 番出口より徒歩 10 分、「本所吾妻橋駅」A3 出口より徒歩6分 東武伊勢崎線「浅草駅」より徒歩6分	
周辺環境	隅田川のほとり、金色の大きなオブジェの下にあるアートスペース。浅草や両国といった東京を代表する観光名所ともほど近く、下町風情が色濃く残るエリアに位置する。また、上野や清澄白河など文化施設の豊富なエリアとも5km 圏内。最寄駅(浅草駅)には、銀座線、浅草線が走り、都心部へのアクセスもスムーズ。成田空港、羽田空港とも直結しており、地方や海外からのアクセスも便利な位置にある。		

画像



左上:蓮沼執太のスタディーズ(2012)

右上、左下:

蓮沼執太展「音的」展示風景(2013) 撮影:加藤健

12		AIT レジデンスプログラム				
レジデンス事業の概要	対象分野	美術、写真／映像、彫刻、版画				
	招へい人数	8-10名	招へい期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>アーティスト:2-3ヶ月</li> <li>キュレーター:1-2ヶ月 (一年間通じて招へい)</li> </ul>		
			募集期間	不定期(協定機関により異なる)		
受入条件	年齢制限:なし 受入対象国指定:なし					
選考・支援	応募方法	非公募 基本的に、応募は AIT の提携団体(海外財団)などを通じて受け付けている(IASPIS、FRAME、Fonds BKVB など)。		選考方法	選考委員会による選考	
	支援内容	渡航費助成	<input type="radio"/>			
		滞在費助成	<input type="radio"/>			
		制作費助成	<input type="radio"/>			
		成果発表・オープンスタジオ	<input type="radio"/>	作家による		
		人的サポート	<input type="radio"/>	事業による		
		記録集	<input type="radio"/>	作家による		
		その他	携帯電話の貸し出しあり			
運営組織概要	団体名	NPO 法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト]				
	URL	<a href="http://www.a-i-t.net/">http://www.a-i-t.net/</a>	事業開始年	2003年		
	所在地	〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町 30-8 ツインビル代官山 B-403				
	電話	03-5489-7277	FAX	03-3780-0266	Email <a href="mailto:otoiawase@a-i-t.net">otoiawase@a-i-t.net</a>	
	事業目的	国内外におけるアーティスト、キュレーターなどを対象に、東京における滞在場所とソフト面での支援を行うプログラム。人的交流、情報・資料の提供、AIT 主催のトークへの参加など様々な支援活動から、アーティストやキュレーターの知識や経験を共有し、国際交流の場の創出を目的とする。				
	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>アーティストやキュレーターの招へい及び海外への派遣</li> <li>アーティストの制作支援</li> <li>キュレーターによるトークイベントの開催</li> <li>アーティストやキュレーターによる講座の開講</li> <li>その他、実験的な事業</li> </ul>				
	事業実績／成果	<b>【事業実績】</b> 2003年-2010年度の招へいアーティスト及びキュレーター49名、派遣アーティスト及びキュレーター10名 <b>【成果】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>フェデリコ・エレーロ展(ワタリウム美術館、2005-2006)</li> <li>フェデリコ・エレーロ(愛知万博アート・プロジェクト出品、2005)</li> <li>12時間美術館(パナソニックセンター東京、2006)</li> <li>イエyson・バナル(シンガポール・ビエンナーレ2006出品、2006)</li> <li>ドナ・オン個展「ASLEEP A ROOM AWAKENS」(ワダ・ファインアーツ、2009)</li> <li>ラファエル・ローゼンダール個展「I'm good」(Takuro Someyama Contemporary Art、2010)</li> <li>カディム・アリ「平和と文化:特別シンポジウム『アジアにいきづく、平和の文化-対立を越え、共に生きる基盤をつくる-』」第2回(国際文化会館、2011)</li> <li>そのほか、AIT主催による、トーク、パフォーマンス、展覧会など</li> </ul>				

	招へいアーティスト	アブデラ・カルム、アリエル・シュレシンガー、エリカ・ヴェルズッティ、エリック・ヴァン・デル・ヴァイデ、エヴァ・ベレンデス、ジュリアン・フーパー、ティアゴ・ホシャ・ピッタ、テューラ・ナーヒネン、ドナ・オン、ヒュンジン・キム、ビアンカ・マリア・バーメン、フロレンシア・ロドリゲス・ヒレス、プラディープ・ミシュラ、ムナム・アパン、メリ・ニクラ、ヤコブ・サイモンソン、ヤン・シャルルマン、ラファエル・ローゼンダール
施設構成・内容	制作スタジオ	ただし、大型作品などを除く住居スペースでの制作可
	展示スペース	
	宿泊施設	○ インターネット設備あり
	その他	
	交通アクセス	東京急行電鉄池上線「雪が谷大塚駅」より徒歩 10 分
周辺環境	住宅街	

画像		
		<p>左上、右上: スコットランドから招へいた 3 名のアーティストによる「FOUND AND MADE」ワークショップ (2012) 撮影:越間有紀子</p> <p>左下:AIT が開講する現代アートの学校 MAD (Making Art Different)の授業風景 撮影:越間有紀子</p>

## トーキョーワンダーサイト青山:クリエイター・イン・レジデンス

レジデンス事業の概要	対象分野	指定なし		
	招へい人数	年間 100 人程度 (全プログラムを あわせて)	招へい期間	プログラムにより異なる 海外クリエイターの滞在制作プログラム(原則として最長3ヶ月) 国内クリエイターの滞在制作プログラム(原則として半年-1年) *プログラムの種類は(当事業ウェブサイト参照)
			募集期間	随時(当事業ウェブサイト参照)
	受入条件	年齢制限:なし 受入対象国指定:プログラムによる その他:滞在アーティストは、いずれのプログラムにおいても次の条件を満たすものとする <ul style="list-style-type: none"> <li>• 現代芸術文化活動に従事しているクリエイターで、専門とする分野で活動実績があること</li> <li>• 原則として宿泊はクリエイター本人のみとする</li> <li>• 健康状態が良好で、制作、生活に関わるすべてを独力で行うことができること</li> <li>• 滞中に支障のない十分な日本語あるいは英語力を有すること</li> <li>• 滞在の成果をプログラム内で発表すること</li> <li>• レジデンス滞在中、他のクリエイターとの相互理解や交流を深めることができると認められること</li> <li>• 滞在期間中、トーキョーワンダーサイトあるいは派遣先で行われているプログラムに積極的に参加できること</li> <li>• トーキョーワンダーサイトのプログラム推進のための広報活動などに協力できる者であること</li> <li>• 東京都の芸術文化活動の発展に貢献できること</li> <li>• プログラム終了後、トーキョーワンダーサイトに規定の報告書を提出すること</li> <li>• トーキョーワンダーサイト青山:「クリエイター・イン・レジデンス」滞在中、宿泊施設並びにスタジオ施設利用にあたっては、トーキョーワンダーサイトの規則を順守すること</li> </ul>		
選考・支援	応募方法	公募、推薦または指名 各プログラムの趣旨に従って、次のいずれかの方法により、滞在アーティストを選考 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 国内外の公的機関、文化団体、個人などからの推薦</li> <li>• トーキョーワンダーサイトによる公募、推薦または指名</li> </ul>		選考方法 選考委員会に諮問したうえで、各プログラムにより審査会を実施
	支援内容	渡航費助成	<input type="radio"/>	
		滞在費助成	<input type="radio"/>	
		制作費助成	<input type="radio"/>	
		成果発表・オープンスタジオ	<input type="radio"/>	
		人的サポート	<input type="radio"/>	
		記録集	<input type="radio"/>	以上、すべて支援内容はプログラムによる
		その他		
運営組織概要	団体名	公益財団法人東京都歴史文化財団 トーキョーワンダーサイト		
	URL	<a href="http://www.tokyo-ws.org/">http://www.tokyo-ws.org/</a>	事業開始年	2006年
	所在地	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-67 コスモス青山 SOUTH 棟 3F		
	電話	03-5766-3732	FAX	03-5766-3742
			Email	<a href="mailto:contact@tokyo-ws.org">contact@tokyo-ws.org</a>
	事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 若手アーティストの発掘・育成、そして東京からの発信をサポートする</li> <li>• アジア、そして世界のアートネットワークのハブとしての東京のプラットフォームをつくる</li> <li>• 街の活力である、東京における芸術・文化の多様性をサポートする</li> <li>• 東京都の文化政策とリンクしながら、戦略構想の提案、施策の試行、リサーチ、実験場として活動する</li> <li>• 文化に携わる人材の育成を行う</li> </ul>		
事業内容	<b>【TWS 本郷】</b> 若手アーティストの支援育成プログラムをはじめ、展覧会企画公募や音楽企画公募、美術大学との共同企画展などによるアーティストの支援、育成に特化したプログラムを実施。 <b>【TWS 渋谷】</b> 海外のオルタナティブ・スペースや、国際的芸術文化機関との連携プロジェクト、国際的に活躍する海外のアーティスト及び日本のアーティストの紹介、レジデンス成果展などを実施。			

		<p><b>【TWS 青山:クリエイター・イン・レジデンス】</b></p> <p>国内外のクリエイターが年間約 100 人滞在。宿泊室とスタジオのほか、交流スペースや若手アーティストファイルをアーカイブしたライブラリーなどの設備を備えている。TWS 本郷、TWS 渋谷と連携し、レジデンス滞在成果発表としての展覧会・コンサートなどの開催や、滞在制作のプロセスを重視したプロジェクトなど、斬新なプログラムを実施する一方で、世界的なネットワークを通じ、文化間対話や環境問題などの今日的な課題に積極的に取り組む協働スタジオプログラムを展開。</p>
	事業実績／成果	<p>トーキョーワンダーサイト(TWS)のクリエイター・イン・レジデンスでは、世界中の国や地域を代表する国際機関やアートセンターと連携を取り、様々な交流事業を進めている。2006 年6月から 2012 年3月末までに、44 の国と地域から、約 600 名のアーティスト、デザイナー、音楽家、建築家などがレジデンスに滞在して、TWS を拠点に、リサーチ・創作活動を行い、展示またはコンサート、ワークショップなどによって、様々な芸術文化を発信する。</p>
	招へいアーティスト	<p>Jang-Chi(オル太)、mamoru、イシャイ・ガルバシユ、ウィット・ピムカンチャナボン、オン・ケンセン、カールステン・ニコライ、ギョンウォン・ムン、クリスティン・トーメ、ジュンホ・チョン、ダニー・ユン、チャン・ヨンヘ重工業、ディン・Q・リー、デヴィッド・エリオット、ブラッドレー・マッカラム&amp;ジャクリヌ・タリー、ベティーナ・ベルガー、ヤンウィレム・スローファー、ワシフ・コルトウン、ヴィック・ムニーズ、二藤建人、木埜下大祐、潘逸舟、田村友一郎、米田知子</p>
施設構成・内容	制作スタジオ	<p>○ スタジオ5部屋(36-40 m<sup>2</sup>) インターネット回線、エアコン、一部給排水設備あり</p>
	展示スペース	
	宿泊施設	<p>○ 宿泊部屋 16 部屋(シングル8部屋[25-29 m<sup>2</sup>]、ワイドシングル4部屋[38 m<sup>2</sup>]、ツイン4部屋[65 m<sup>2</sup>]) インターネット回線、ミニキッチン、ユニットバス</p>
	その他	<p>サロン2部屋(49 m<sup>2</sup>、66 m<sup>2</sup>、共有ダイニングキッチン+共有リビングあり)、ライブラリー(73 m<sup>2</sup>、レクチャールームあり)、事務室、ランドリールームなど</p>
	交通アクセス	<p>東京メトロ「表参道駅」(銀座・半蔵門・千代田線)B2 出口より徒歩7分 「渋谷駅」(JR 山手線・埼京線・湘南新宿ライン、東急東横線・田園都市線、京王井の頭線、東京メトロ銀座線・半蔵門線・副都心線)東口より徒歩 8 分</p>
	周辺環境	<p>「トーキョーワンダーサイト青山:クリエイター・イン・レジデンス」のある青山は最先端のファッション・カルチャー・アート・デザインを発信する街である。周辺のクリエイティブな環境と呼応しながらアートからデザイン、音楽などの幅広い分野の若手アーティストの国際的な創造・制作拠点として活動している。</p>
画像		
		
		
		<p>左上: マリーナ・カポス、スタジオでの制作風景 (c) Tokyo Wonder Site</p> <p>右上: OPEN STUDIO の様子 (c) Tokyo Wonder Site</p> <p>左下: ヴィック・ムニーズ、小学校でのゴミを使ったワークショップ、2008 (c) Tokyo Wonder Site</p>

## 遊工房アトスペース

レジデンス事業の概要	対象分野	指定なし ＊個性ある空間とロケーション、その場と機会を活かした創造性豊かな活動を対象とする。				
	招へい人数	10人程度 ＊各々の滞在制作期間の組み合わせによる	招へい期間	年間を通じて、アーティストごとに滞在期間を設定。滞在は1ヶ月単位で、原則、最長6ヶ月。		
			募集期間	6月末と12月末の年2回締切(翌年度実施分)		
受入条件	年齢制限:なし ＊利用者の自立した生活を基本としている 受入対象国指定:なし					
選考・支援	応募方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>アーティストの直接応募並び、他機関からの依頼、推薦なども受け入れている</li> <li>原則として、応募は6月末(8月結果通知)及び12月末(2月結果通知)の2回。臨時に募集する場合はホームページなどで告知</li> </ul>		選考方法	選考委員会による選考	
	支援内容	渡航費助成	○	文化庁、文化芸術の海外発信拠点形成事業として合致する場合		
		滞在費助成	○	文化庁、文化芸術の海外発信拠点形成事業として合致する場合		
		制作費助成	○	文化庁、文化芸術の海外発信拠点形成事業として合致する場合		
		成果発表・オープンスタジオ	○			
		人的サポート	○			
		記録集	○			
その他	滞在家の要望に対応したフレキシブルな支援が可能。必要に応じ、アーティストの支援機関との調整にも協力					
運営組織概要	団体名	遊工房アトスペース				
	URL	<a href="http://www.youkobo.co.jp">http://www.youkobo.co.jp</a>	事業開始年	1984年		
	所在地	〒167-0041 東京都杉並区善福寺 3-2-10				
	電話	03-5930-5009	FAX	03-3399-7549	Email	<a href="mailto:info@youkobo.co.jp">info@youkobo.co.jp</a>
	事業目的	遊工房アトスペースの活動事業は、固有の施設並びに地域の様々な資源の活用も含めた、アートを通じた諸活動の実践により、国際理解と地域発展に寄与することを目指している。アーティスト・イン・レジデンス・プログラムは、海外のアーティストが東京で創作活動などを行う際の拠点となり、同時に、創作や展示さらにワークショップなどの活動を通じ、国内外のアーティストとの交流や、アートを通じた地域の人々との交流など、幅広い視野に立った国際交流、多文化理解の場でもある。また、国内外の若手作家の展覧会やワークショップの諸活動は、作家自身の活躍の場であると共に、現代美術を身近に親しむ機会を広く一般に提供することを意図している。				
	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>AIRプログラム:国内外のアーティストを対象とした、滞在中の新たな創作活動の機会と場を提供するプログラム。長期滞在中に適用し、滞在中の作家自身の意思による活動計画を尊重し、支援する。スタジオでの創作活動に対する協力だけではなく、ワークショップ、展覧会、アーティスト・トークなどの機会を、地元のアーティストや関係機関とのネットワークを活用して開催している</li> <li>ギャラリー・プログラム:国内外の若手現代アーティストの発表と交流の機会を提供するプログラム</li> <li>スタジオ・プログラム:スタジオやギャラリーを国内外の若手作家の制作スペースとして活用するプログラム</li> </ul> <b>【関連活動】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>AIR支援活動: AIRに関する情報の収集と提供、国内外のAIRとのネットワーク構築(Res Artis加盟団体としての活動、J-AIRネットワーク会議への参画など)</li> <li>海外交流展の企画・運営: 別途、都度プロジェクトを編成し企画・運営。国内外のアーティストへ活動の場を提供、またはともに創造</li> <li>コミュニティアート: 地域の都立善福寺公園での野外アート展「トロールの森」(別途実行委員会として企画・運営)、近隣小学校とのアート活動「アート・キッズ」ほか</li> <li>Global Internship Program: AIRや展示の運営に関する実務経験を通しての研修。研修期間1年</li> </ul>				
	事業実績／成果	これまでに約40ヶ国から180名以上のアーティストを受け入れた。2011年度より文化庁「文化芸術の海外発信拠点形成事業」として採択。				
招へいアーティスト	アネヒエン・ヴァン・ドーン、アラ・キム、アンドレス・ディ・サンティアゴ、イステッキ・ジハンギリ、イズマエル・デ・アンダ、オー・ジュン、カタリナ・テウカ、カトリン・パウエル、カリン・ヴァン・ダム、カーリー・スコフォフ、クレア・ヒックマン、サム・ストッカー、サラ・オッペンハイマー、サンテリ・トゥオリ、サーラ・ウッドファイン、サーラ・エクストラム、シー・ユン・ヨー、ジュリー・アップメイヤー、スリヤ・プーミヴォン、スーザン・ホワイト、タミコ・オブライエン、チャーベル・アカマン、ジョン・ヘスン、ティム・マクコーマック、デイヴィッド・フランクリン、トム・ヴァインク、ニッキー・クーツ、ニール・マローン、パット・ワーナー、ベンジャミン・ロー、マリタ・リウリア、マルト・ケッセルリング、マーク・ダンヒル、ミケル・ニーマン、ミシェル・コン、メルブ・エルトファン、ヤック・ピーターズ、ヤーッコ・マッティラ、ング・レイ、ヴァレリオ・ベルッティ					

施設構成・内容	制作スタジオ ○	<p>2ヶ所(スタジオ兼展示スペース)</p> <p>【スタジオ1(33㎡、天井高5m)】</p> <p>レジデンス1との併用を前提としている。元彫刻制作スタジオで、コンクリート床、道路に面した大型のスライディングドアを開けると直接屋外へ出られる。また、中庭へ通じるガラス戸がある。各入口、壁面上部の窓からも自然光が入る。天井スポットライト、蛍光灯、LAN・Wi-Fi環境、電気、水道、石油ストーブ完備。彫刻、絵画、インсталレーションなどの制作スペース、展覧会、ワークショップなど多目的な用途に使用されている。</p> <p>【スタジオ2(36㎡、天井高3m)】</p> <p>自然光が豊かに差し込む、独特の雰囲気をもった広いスペース。白く塗られた鉄骨が露出された高めの天井。木製フローリング床。可動式の壁で窓を塞いだり部屋を区切れる仕様。天井スポットライト、蛍光灯、空調、LAN・Wi-Fi環境、及び共用のキッチン、シャワー、トイレ完備。完備。インсталレーション、絵画制作スペース、トークショーや演奏会、また暗室にすることでビデオ作品の展示も可能で、自在な空間活用ができ、多用途に使用されている。</p>
	展示スペース ○	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ギャラリーは1ヶ所。ただし、スタジオ(2ヶ所)での展示も可能(制作スタジオ[2ヶ所]内の展示スペース利用)</li> <li>● 20㎡、天井高2.45m</li> <li>● 元診察室であった空間。4面壁使用可能。自然光展示または、暗室展示が可能。天井スポットライト、蛍光灯、空調、LAN・Wi-Fi環境完備。平面展示、インсталレーション、ビデオ作品展示、小規模なワークショップ、アーティスト・トークの会場などにも使われている</li> </ul>
	宿泊施設 ○	<p>2ヶ所</p> <p>【レジデンス1(35㎡)】</p> <p>スタジオ1との併用を前提としている。建物の1階に位置する緑の庭、スタジオ1に接続する和風の滞在施設。フローリングのダイニングキッチン、和室の寝室、バス、トイレ完備。2名滞在が可能。</p> <p>【レジデンス2(35㎡)】</p> <p>スタジオに隣接した住居棟の2階の洋室の滞在施設。キッチン、バス、トイレ、ベッド完備。南向きバルコニー付。比較的広い居間をデジタル作品の作業場として、とくに、アーティストが持参するデジタル機材を活用した滞在制作や、調査研究のベースとして使用されている。</p>
	その他	
	交通アクセス	<p>「吉祥寺駅」より車で5分</p> <p>成田空港より吉祥寺駅行リムジンバスあり</p> <p>関東バス／西武バス「善福寺」より徒歩1分(西荻窪駅、荻窪駅、武蔵関駅、上石神井駅より乗車)</p> <p>JR 中央線「西荻窪駅」より徒歩で約 20 分</p>
	周辺環境	<p>東京都杉並区の西北に位置し、近隣には都立善福寺公園、井草八幡宮、善福寺など、緑豊かな環境が残り、都心までのアクセスも良好である。</p>

画像	 <p>左上:池ヶ谷務展オープニング・トーク(2013)</p> <p>右上:Catalina Tuca(チリ) オープン・スタジオ(2011)</p> <p>左下:Erik Sille(スロバキア)スタジオでの制作(2013)</p>
----	--

15		r:ead (東アジア・ダイアログ・レジデンス)			
レジデンス事業の概要	対象分野	パフォーマンス・演劇・ダンス・テキスト・映像・身体・美術を横断する表現			
	招へい人数	6人	招へい期間	対話・リサーチ期:2012年12月11日-18日 制作期:2013年2月22日-3月13日	
			募集期間		
受け入れ条件	年齢制限:なし 受入対象国指定:中国・韓国・台湾のいずれかの国籍を有すること その他 ● 主催者が指定する期間、日本に滞在することが可能なこと ● 滞在期間中は本プログラム参加に専念できること				
選考・支援	応募方法	非公募		選考方法	初年度は主催者の指名による。2年目以降も原則として推薦による指名制度をとる。
	支援内容	渡航費助成	○		
		滞在費助成	○		
		制作費助成	○		
		成果発表・オープスタジオ	○	● レクチャーパフォーマンス形式の公演 ● 講演会・セミナー・ワークショップの開催	
		人的サポート	○	リサーチ、制作、滞在に対する人的・語学的サポート	
		記録集	○	成果を日本語・韓国語・中国語・英語でインターネットで公開(今後、書籍化やテレビドキュメンタリー化する可能性あり)	
その他		リサーチ、制作、滞在に対する技術的サポート			
運営組織概要	団体名	NPO 法人アートネットワーク・ジャパン			
	URL	<a href="http://r-ead.asia">http://r-ead.asia</a>		事業開始年	2004年
	所在地	〒170-0001 東京都豊島区西巢鴨 4-9-1			
	電話	03-5961-5200	FAX	03-5961-5207	Email <a href="mailto:read@anj.or.jp">read@anj.or.jp</a>
	事業目的	東アジアにおける先鋭的な芸術創造活動の拠点として認知され、アジアにおいて最もアクチュアルな問題意識を共有できる知的・芸術的プラットフォームとして機能することを目的とする。			
	事業内容	東アジアの表現者の滞在制作を企画・コーディネートする。中国、台湾、韓国で最も先端的、同時代的な表現を行っているアーティスト、キュレーター/ドラマツルク、若手アシスタント・アーティストの2人1組のグループを招へい。日本からも同様に2人が参加する。 プログラムは「対話・リサーチ期」と「制作期」の二度の滞在を前提とし、具体的には、以下のことを行う。 ● 招へい外国人芸術家による創作作品の発表機会の提供:滞在最終日にテキストと映像によるプレゼンテーションで、レクチャーパフォーマンス形式の公演の開催 ● 招へい外国人芸術家によるリサーチ活動:レクチャーパフォーマンス制作に向けたリサーチ ● 招へい外国人芸術家による講演会・セミナー・ワークショップの開催:滞在中に全参加者が一同に介し、それぞれのプレゼンテーションとディスカッションを行う機会を数回設け、自身の過去作や共通のテーマについて話し合うワーキングを非公開で実施。また、制作期の前半に各国の芸術状況や各自の創作をめぐるセミナーを公開で行う			
	事業実績／成果	2009年度:ダンス作品「コウカシタ」(振付・井出茂太) 製作にあたり、タイのダンサーがレジデンス、ドイツのアートユニット「リミニ・プロトコル」が作品の製作のため滞在 2010年度:中国のレジデンス拠点ワークステーションにスタッフを3名派遣し、レクチャーとプレゼンテーションを開催。 2012年度:「批評家・イン・レジデンス」事業を立ち上げアジア諸国より計10名の若手批評家を10日間招へい。日本の舞台芸術作品の観劇、トークイベント及び交流イベントを開催。また母国語で作品の批評を提出してもらい、ネット上に掲載。母国のメディアへの報告記事も掲載してもらう。			

	招へいアーティスト	キム・ジソン、キム・ジンジュ(韓国)、ラオ・チアエン、チェン・エイミー(台湾)、リー・ニン、リー・イーナン(中国)、小泉明郎、チェ・キョンファ(日本)
施設構成・内容	制作スタジオ	○
	展示スペース	○
	宿泊施設	
	その他	にしすがも創造舎は、2001年に閉校した豊島区立朝日中学校の校舎や体育館を利用し、2004年8月にオープンしたアートファクトリー。教室及び体育館を演劇・ダンスの稽古場として利用している。現在、滞在先として池袋周辺のウィークリーマンションを利用。
	交通アクセス	都営三田線「西巢鴨駅」A4(エレベーター出口)すぐ 都電荒川線「新庚申塚駅」より徒歩3分
周辺環境	にしすがも創造舎:巢鴨地藏通り商店街をはじめ下町の雰囲気が残る。 滞在先:JR 池袋駅徒歩2分	

画像



16		アートスタジオ五日市レジデンス事業			
レジデンス事業の概要	対象分野	版画 ＊木版・銅版・リトグラフなど			
	招へい人数	3人(日本人2人、外国人1人)	招へい期間	9月1日－11月30日(3ヶ月間)	
			募集期間	5月1日－6月15日	
受入条件	年齢制限:40歳以下 受入対象国指定:なし その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 日常会話レベルの英語の言語能力を有し、健康である者</li> <li>● 他の招へい者との共同生活や創作活動において、協調性を有する者</li> </ul>				
選考・支援	応募方法	公募 ＊推薦者が必要	選考方法	アートスタジオ五日市運営委員会による選考	
	支援内容	渡航費助成	○		
		滞在費助成	○		
		制作費助成	○		
		成果発表・オープスタジオ	○	アートスタジオ五日市 版画展	
		人的サポート	○	アシスタント1名	
		記録集		支援内容は年度により若干異なる	
その他					
運営組織概要	団体名	アートスタジオ五日市運営委員会			
	URL	<a href="http://www.city.akiruno.tokyo.jp/index.php?oid=17&amp;dtype=1004&amp;pid=109">http://www.city.akiruno.tokyo.jp/index.php?oid=17&amp;dtype=1004&amp;pid=109</a>	事業開始年	1993年	
	所在地	〒197-0814 東京都あきる野市二宮 350			
	電話	042-558-2438(直通)	FAX	042-558-1560	Email
	事業目的	アートスタジオ五日市レジデンス事業は、国内外で活躍中の版画制作に従事する若手芸術家を招へいし、若手芸術家の発掘・育成をはかるとともに、作品の発表や芸術家と地域住民などの交流をはかることにより、芸術や異文化についての相互理解を深め友好親善の促進に寄与することを目的とする。			
	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 4－6月、運営委員会にて、事業計画や募集について検討し、招へいアーティストを選考する</li> <li>● 9月1日－11月末、アーティストは滞在中近隣小学校での交流活動及びワークショップを行い、11月下旬に展覧会を開催する</li> <li>● 滞在中に制作された作品を一部市へ寄贈</li> </ul>			
	事業実績／成果	<b>【事業実績】</b> 外国人アーティスト:21名招へい 日本人アーティスト:37名招へい <ul style="list-style-type: none"> <li>● アートスタジオ五日市 版画展:19回(アートスタジオ五日市にて)</li> <li>● 寄贈作品展:1回(中央図書館にて)</li> </ul> <b>【成果】</b> 国内外での認知が広がりつつある			
	招へいアーティスト	ベス・ブラディー、アレクサンドラ・ダンニョロ、アンケ・メリン、アロン・クマール・チャタジー、イゴール・ピアチカ、ウェイン・クロザーズ、オム・ジョンホ、カール・クルル、ディクス・ヨリス、ナディア・クリング、ニール・クラーク、マイク・ボーマン、マカド・グラシエラ、マギダ・デ・ジョゼ、マリアナ・パロリン、ミッシェル・ロジェ、ミラコラ・ジャコモ、ヨランダ・ゴンザレス、ラケシュ・バニ、ヴェリコ・マリンチェフスキー、三溝利恵、今井庸介、加登なお、加藤美樹、原陽子、和田ときわ、塩川彩生、太田敦子、小木曾淳、尾関立子、山成景子、布施典子、杉本泰三、空谷圭章、松浦孝之、林里美、根岸一成、樋口真美、永澤孝			

		博、沈金源、河合真由子、浅井菜保子、清野耕一、濱田富貴、田中恵美、田島佳世、白須純、磯上尚江、神谷節、結城泰介、若月公平、西澤千晴、谷口聡子、近藤英樹、重野克明、鈴木吐志哉、阿藤久枝、霜山直良
施設構成・内容	制作スタジオ	○ 約 80 m <sup>2</sup> アトリエ:アーティスト3人が共同で使用するアトリエ。銅版・石版・木版の各版画の作品制作に必要な機械・機材あり
	展示スペース	
	宿泊施設	○ 4つの個室(各約 10 m <sup>2</sup> ) 共同で使用する台所、食堂、浴室、その他からなり、生活用備品を揃えている。個室の備品類はベット・机・クローゼット
	その他	旧戸倉村役場の庁舎を改修した。木造2階建ての建物で、1階はアトリエと管理事務室、2階が住居用の施設となっている。敷地面積:401 m <sup>2</sup> 、延べ床面積:247 m <sup>2</sup>
	交通アクセス	JR 五日市線「武蔵五日市駅」よりバスで約 10 分、「戸倉」より徒歩2分
	周辺環境	古くから住宅が立ち並ぶ閑静な地域。周辺には史跡が点在し、山並みや川が間近である。

画像



左上:スタジオ全景  
 右上:スタジオでの版画制作風景  
 左下:スタジオでの版画展示風景

17 横浜市・成都市 アーティスト・イン・レジデンス交流事業						
レジデンス事業の概要	対象分野	指定なし				
	招へい人数	各都市より1人程度	招へい期間	[成都から横浜へ]2013年2月20日－3月20日 [横浜から成都へ]2013年4月－5月(予定)		
			募集期間			
受入条件	年齢制限:なし 受入対象国指定:中国・成都市及び日本・横浜市					
選考・支援	応募方法	非公募 *海外のアーティストからの直接の応募は受け付けていない		選考方法	横浜市、成都市双方のキュレーターによる推薦・選考	
	支援内容	渡航費助成	<input type="radio"/>			
		滞在費助成	<input type="radio"/>			
		制作費助成	<input type="radio"/>			
		成果発表・オープスタジオ	<input type="radio"/>			
		人的サポート	<input type="radio"/>			
		記録集	<input type="radio"/>			
		その他				
運営組織概要	団体名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、Far East Contemporaries、A4 Contemporary Arts Center (A4 当代芸術中心)				
	URL	<a href="http://acy.yaf.or.jp/">http://acy.yaf.or.jp/</a>		事業開始年	2012年	
	所在地	〒231-8315 横浜市中区本町 6-50-1				
	電話	045-227-7322	FAX	045-221-0215	Email	<a href="mailto:acy@yaf.or.jp">acy@yaf.or.jp</a>
	事業目的	横浜市が目指す「文化芸術創造都市(クリエイティブシティ・ヨコハマ)」の実現、特にアジア各都市との文化交流をはかることを目的として実施。横浜からの発信性を高めるとともに、地域の人々やアーティストの交流により、芸術創造環境の整備をはかる。				
	事業内容	各都市から芸術家やキュレーターなどを受け入れ、長期滞在による作品制作、一般公開事業の開催、横浜市民やアーティストとの交流、リサーチプログラムなどを行う。				
	事業実績／成果					
	招へいアーティスト					

施設構成・内容	制作スタジオ	○	ホール・スペース3部屋(80-300㎡) *設備や資材については、施設側と要調整
	展示スペース	○	ホール・スペース3部屋(80-300㎡) *設備や資材については、施設側と要調整
	宿泊施設		
	その他		
	交通アクセス		みなとみらい線「馬車道駅」1b 出口直結 JR 根岸線及び市営地下鉄「桜木町駅」より徒歩5分 JR 根岸線及び市営地下鉄「関内駅」より徒歩7分 *成田空港から、バスまたは電車で約 90 分 *羽田空港から、バスまたは電車で約 30 分 *東京駅から、電車で約 30 分 *京都、大阪方面から、新幹線で新横浜駅まで 2 時間強。乗り換えて電車で約 11 分
周辺環境		首都圏に位置する日本第2の規模を誇る都市、横浜。「クリエイティブシティ・ヨコハマ」を都市戦略として掲げ、港湾都市としての開放的な空間と、歴史的建造物や倉庫などをリノベーションした施設を複数有する。	

画像



2009 年度 横浜市・北京市  
アーティスト・イン・レジデンス交流事業  
滞在作家:Sun Xun  
会場:ヨコハマ創造都市センター

## BankART Studio NYK アーティスト・イン・スタジオ

レジデンス事業の概要	対象分野	指定なし		
	招へい人数	60人程度	招へい期間	基本的な滞在期間は2ヶ月が原則
			募集期間	
受入条件	年齢制限:なし 受入対象国指定:なし *プログラムによっては、規定あり その他:滞在期間の60%以上の日数を使用すること			
選考・支援	応募方法	公募、または指名	選考方法	書類による審査
	支援内容	渡航費助成	○	
		滞在費助成	○	
		制作費助成	○	
		成果発表・オープスタジオ	○	
		人的サポート	○	
		記録集	○	
その他	すべてその時々個別に対応する			
運営組織概要	団体名	BankART1929		
	URL	<a href="http://www.bankart1929.com">http://www.bankart1929.com</a>	事業開始年	2004年
	所在地	〒231-0002 横浜市中区海岸通 3-9 BankART Studio NYK		
	電話	045-663-2812	FAX	045-663-2813
			Email	<a href="mailto:studio@bankart1929.com">studio@bankart1929.com</a>
	事業目的	BankART1929は、歴史的建造物や港湾施設を文化芸術に活用し、都心部再生の起点にしていく横浜市の推進するプロジェクト「創造都市」のパイロット事業。横浜市、有識者による創造都市推進委員と協働しながら、公設民営の新しい在り方を探っている。アート、建築、パフォーマンス、音楽のほか、ジャンルを問わず、スタジオ、スクール、カフェパブ、ショップ、コンテンツ制作をベースにしなが、主催事業、コーディネート事業を活発に行う。年間300事業以上。入場者数約12万人。 BankART Studio NYKのスタジオ事業は、アーティストに創作環境を低廉で提供するという目的とともに、街にアーティストを招き、ともに育ち、発信していくプログラム。海外との交換プログラムも増加している。		
事業内容	通常2ヶ月毎にBankART Studio NYK内にあるスタジオスペースにて、活動を行ってもらう。入居時にウェルカムパーティ、最後にスタジオオープンを企画する。また、レジデンス専門の施設と異なり、スタジオ事業と平行して、スクール・カフェ・パブ・ショップ・発表活動など、様々な事業がつねに行われているため、様々な人々と出会い、交流する機会が多い。 スタジオ内に居住することはできないが、近くに「BankART かもめ荘」という宿泊施設を有し、遠方、海外からのアーティストも利用できる。近年は、海外とのエクスチェンジプログラムも増える一方である。			

	事業実績 ／成果	<p>2004 年度:21 組招へい(磯崎道佳「横浜かくれんぼ／ずいっと野毛山あたり——横浜市立東小学校と武井家を巡って」)、ペピン結構設計公演『伝説』、「食と現代美術」など)</p> <p>2005 年度:20 組招へい(横浜市台北市アーティスト交換プログラム:陳妍伊(チェン・イェンイ)「日本翦影(影の断片コラージュ)——心の中にある輪廓」展、Off Nibroll 公演『public=un+public』、「借りた場所,借りた時間 photographers'gallery 横浜展」、「BankART Life」など)</p> <p>2006 年度:51 組招へい(横浜市台北市アーティスト交換プログラム:頼珮瑜「他/原郷 Another Homeland」展、合同オープンスタジオなど)</p> <p>2007 年度:67 組招へい(横浜市台北市アーティスト交換プログラム:何明桂(ホー・ミンクェイ)「干物女の最終電車」展、オープンスタジオ「Explosion」、合同オープンスタジオ、食と現代美術展など)</p> <p>2008 年度:8組招へい(横浜市台北市アーティスト交換プログラム:陳宛伶(チェン・ワンリン)「小宇宙」展、BankART Life II、合同オープンスタジオ、サンダーランド大学×BankART1929 交流事業など)</p>		
		<p>2009 年度:24 組招へい(横浜市台北市アーティスト交換プログラム:周育正(チョウ・ユウチェン)「Residency Goods」展、原口典之「社会と物質」展、藤本隆行・真鍋大度・石橋素「Time Lapse Plant」展、サンダーランド大学×BankART1929 交流事業「白井美穂」展「エリカ・タン」展など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 展覧会・公演などは、レジデンス事業に関連するおもなもののみ記載</li> <li>● 横浜市台北市アーティスト交換プログラムは、アーツコミッション・ヨコハマ、横浜市との共催</li> </ul>		
	招へいアーティスト	<p>のびアニキ・金子良、エリカ・タン、オフニブロール、タカノ綾、ミアカビデオアーカイブ、ミホカンノ、ルイス・カラム、中村恩恵、丸山純子、何桂明(ホー・ミンクェイ)、原口典之、周育正(チョウ・ユウチョン)、大鹿知子、平嶺林太郎、村田峰紀、浅井裕介、牛島達治、田中功起、白井美穂、藤本隆行、野老朝雄、開発好明、陳妍伊(チェン・イェンイ)、陳宛伶(チェン・ワンリン)、頼珮瑜(ライ・ペイユ)</p>		
施設構成・内容	制作スタジオ	○	700 m <sup>2</sup> 要企画書提出	
	展示スペース	○	2,000 m <sup>2</sup> 要企画書提出	
	宿泊施設	○	3部屋(BankART かもめ荘)	
	その他	NYK 施設内にシャワー2基あり		
	交通アクセス	みなとみらい線「馬車道駅」6番出口より徒歩4分		
	周辺環境	人口 367 万の横浜市の旧中心市街地。官公庁の建物が多い。代表的な文化施設に神奈川県立歴史博物館、開港資料館、横浜赤レンガ倉庫、横浜美術館などがある。ここ数年横浜市が推進する創造都市構想の流れのなかで、BankART1929 以外に「急な坂スタジオ」「北仲スクール」「宇徳ビルヨンカイ」「東京藝術大学大学院映像研究科」「黄金町バザール」「象の鼻テラス」のほか、クリエイティブな施設が増加している。また横浜トリエンナーレも次回(2011 年)で4回目の開催を迎える。		

## 「黄金バザール」国際アーティスト・イン・レジデンス

レジデンス事業の概要	対象分野	美術			
	招へい人数	6組	招へい期間	2012年8月－11月(30日以上)	
			募集期間		
受け入れ条件	年齢制限:なし 受入対象国指定:なし その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 社会とアートの関係について問題意識をもった表現活動を実践していること</li> <li>• 地域との交流を図る上で必要な最低限の英語、または日本語力、コミュニケーション力があること</li> </ul>				
選考・支援	応募方法	公募	選考方法	選考委員会により決定	
	支援内容	渡航費助成	<input type="radio"/>	往復国際交通運賃、往復国内移動費	
		滞在費助成	<input type="radio"/>	食費	
		制作費助成	<input type="radio"/>	国内調査のための旅費も含む	
		成果発表・オープンスタジオ	<input type="radio"/>	アートフェスティバル「黄金町バザール」にて成果発表	
		人的サポート	<input type="radio"/>	調査、制作、広報のサポート	
		記録集	<input type="radio"/>		
		その他			
運営組織概要	団体名	NPO 法人黄金町エリアマネジメントセンター			
	URL	<a href="http://www.koganecho.net/">http://www.koganecho.net/</a>	事業開始年	2009年	
	所在地	〒231-0066 横浜市中区日ノ出町 2-158			
	電話	045-261-5467	FAX	045-325-7222	
			Email	<a href="mailto:info@koganecho.net">info@koganecho.net</a>	
	事業目的	海外のアーティストのレジデンス枠を拡大し、これらのアーティストがコミュニティと関わるなかで、アートの新たな可能性と地域の新しい側面を見出すことを目的としている。			
	事業内容	毎年秋に開催する「黄金町バザール」の開催にあわせて、作品制作プランの公募と招へいを行う。			
	事業実績／成果	2009年－2011年度:黄金町バザール内で海外アーティストの滞在制作を行う。 2011年度:「黄金バザール」国際アーティスト・イン・レジデンスを実施。海外3組のレジデンスを行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• プログラム名:「リビングルーム:プライベートとパブリックが出会う場所」</li> <li>• 滞在制作期間:2012年1月11日－3月1日</li> <li>• 成果発表:2012年2月12日－2月26日</li> </ul>			
招へいアーティスト	Aung Myat Htay(アウン・ミヤツ・ティ/ミャンマー)、Robert Gutierrez(ローバート・グチャレス/フィリピン・米国)、Elia Nurvista(エリア・ヌルヴィスタ/インドネシア)、Subject to_change(サブジェクト・トゥ・チェンジ/英国)、Mimi Tecson(ミミ・テクソン/フィリピン)、Michael Johansson(マイケル・ヨハンソン)				
施設構成・内容	制作スタジオ	<input type="radio"/>	当センターが管理する施設を提供		
	展示スペース	<input type="radio"/>	当センターが管理する施設を提供		
	宿泊施設	<input type="radio"/>	当センターが管理する施設を提供		
	その他				

交通アクセス	横浜駅から京急線で「日ノ出町駅」より徒歩5分、「黄金町駅」より徒歩8分 JR/地下鉄「桜木町駅」より徒歩 15 分、JR「関内駅」より徒歩 15 分、地下鉄「伊勢佐木長者町駅」より徒歩 10 分
周辺環境	横浜の中心地区から徒歩圏内に位置する。かつて違法な風俗営業に使われていた小規模店舗を再利用したアトリエ空間が、京急線高架下の新設スタジオを軸に点在。またこれらのアトリエが立ち並ぶエリアは、港へと流れる大岡川と小売り問屋が並ぶ大通りに挟まれており、この地区の住民や商店主との連携により、当団体の活動はまち全体で展開している。

画像



左上:アウン・ミヤツ・ティ / ミャンマー  
 右上:エリア・ヌルヴィスタ / インドネシア  
 左下:マイケル・ヨハンソン  
 右下:サブジェクト・トゥ・チェンジ / 英国

20		2013(平成 25)年度川崎市市民ミュージアム・スタジオプログラムによる滞在制作			
レジデンス事業の概要	対象分野	絵画、写真／映像、彫刻、版画			
	招へい人数	1人	招へい期間	2013年4月－7月	
			募集期間	2012年12月14日－2013年1月21日	
受入条件	年齢制限:概ね40歳以下 受入対象国指定:なし				
選考・支援	応募方法	公募		選考方法	川崎市市民ミュージアムにて選考
	支援内容	渡航費助成			
		滞在費助成			
		制作費助成			
		成果発表・オープンスタジオ	○		
		人的サポート	○		
		記録集	○		
その他	制作委託費として90万円を支給				
運営組織概要	団体名	川崎市市民ミュージアム			
	URL	<a href="http://www.kawasaki-museum.jp/">http://www.kawasaki-museum.jp/</a>	事業開始年	2013年	
	所在地	〒211-0052 神奈川県川崎市中原区等々力1-2			
	電話	044-754-4510	FAX	044-754-4533	Email
	事業目的	「スタジオプログラム」は若手作家の制作支援を目的としている。若手作家が川崎市市民ミュージアムの施設を利用して一定期間(3ヶ月)制作できる環境を提供し、作家は、その成果を「新世代アーティスト展」(仮称)で発表する。また、滞在制作作家と市民との交流の機会を設けて、地域住民や子どもたちがより身近に現代の美術作品と作家に親しみ、芸術活動への関心と理解を深めることを目指す。			
	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>滞在制作活動:プログラム実施期間中、川崎市市民ミュージアムの施設内の所定の制作場所で制作する。制作時間は原則として開館時間内(休館日を除く、9:30-17:00)</li> <li>市民との交流:制作期間中、市民との交流を図るプログラムを実施。交流の方法は、公開制作(日時限定)、ワークショップ、市民との共同作業など、いずれかを作家が選択</li> <li>滞在制作作品の発表:滞在中に制作した作品は、開館25周年記念特別展「新世代アーティスト展」(仮称)で発表する。本展で発表する作品として、本展のテーマ「現代のコミュニケーションのありようを考える」に沿って制作する。なお、作品の所有権及び著作権はすべて作者に帰属する</li> </ul>			
事業実績／成果					
招へいアーティスト					

施設構成・内容	制作スタジオ	○	
	展示スペース	○	*企画展(グループ展)で展示
	宿泊施設		
	その他		
	交通アクセス		JR 南武線及び東急線「武蔵小杉駅」からバスで約 10 分
	周辺環境		川崎市市民ミュージアムのある川崎市は東京の郊外に発展した 140 万人の工業都市で、最寄駅である武蔵小杉駅は東京の渋谷から東急東横線で 15 分の距離にある。川崎市市民ミュージアムは 440,000 m <sup>2</sup> の等々力緑地という緑の多い公園内に建てられた 20,000 m <sup>2</sup> の比較的大きな規模の建物である。

画像



21		CAAK & Kapo Creator in Residence			
レジデンス事業の概要	対象分野	美術、建築、工芸、写真／映像、彫刻、デザイン、パフォーマンス			
	招へい人数	年2件程度	招へい期間	随時(1週間-3ヶ月)	
			募集期間	随時	
受入条件	年齢制限:なし 受入対象国指定:なし				
選考・支援	応募方法	非公募	選考方法	CAAK、Kapoメンバーの協議による	
	支援内容	渡航費助成			
		滞在費助成			
		制作費助成			
		成果発表・オープンスタジオ	○	Kapoギャラリーにて展覧会、交流パーティなど	
		人的サポート	○		
		記録集	○		
その他					
運営組織概要	団体名	CAAK: Center for Art & Architecture, Kanazawa Kapo (Kanazawa Art Port)			
	URL	<a href="http://www.caak.info/">http://www.caak.info/</a>	事業開始年	2010年	
	所在地	〒921-8033 石川県金沢市寺町 2-3-4			
	電話		FAX	Email	<a href="mailto:office@caak.info">office@caak.info</a>
	事業目的	<b>【CAAK】</b> アートと建築の横断的な場をつくる／学ぶ場をつくる／各地のオルタナティブ・スペースとの連携 <b>【Kapo】</b> 地域の活性化／アーティストへの制作・発表のためのスペース提供 <b>【まちやゲストハウス】</b> 町家の保存・活用／宿泊場所の提供			
	事業内容	a:アーティスト・イン・レジデンス b:展覧会、シンポジウム、ワークショップ、レクチャーの自主企画 c:記録集、ホームページなどを活用した情報提供 d:貸ギャラリー、貸アトリエ(Kapoのみ) e:宿泊場所の提供 f:カフェ・ショップの運営 CAAK:a+b+c+e、Kapo:a+b+c+d+f、まちやゲストハウス:e			
事業実績／成果	2009年度 ● トマス・モンセス(アムステルダム在住、ドイツ生まれ)／約3ヶ月半まちやゲストハウス及びCAAKに滞在、Kapoにて制作。Kapoにてオープンスタジオ、CAAKにてレクチャー&パーティ。記録集を作成 2010年度 ● ニコリン・ファン・スタプル(アントワープ在住、オランダ生まれ)／まちやゲストハウスに約1週間滞在。Kapoにて展覧会、パフォーマンスを開催。CAAKメンバーサポートの下、作品制作に用いるため、金沢の伝統工芸品である二俣和紙の調査を行う 2011年度 ● 斉藤幹男(北海道札幌市在住)／約1週間まちやゲストハウスに滞在。Kapoにて映像作品を滞在制作し、金沢市在住のアーティストと共同でライブイベントを行う ● 山田健二(東京都在住)／約1週間まちやゲストハウスに滞在。金沢市内の風土文化を調査し、Kapoにてアーティストトークを行う				

	2012 年度 <ul style="list-style-type: none"> <li>モーガン・ベッツ(ベルリン在住、オランダ生まれ)／約3ヶ月CAAKに滞在。Kapoと市内の陶芸教室にて制作。陶芸教室では陶芸技法で立体作品を制作した。また、湯涌創作の森の版画工房で木版画コースを受講。Kapoにて、版画技法で平面作品を制作し、オープンスタジオを行う</li> <li>児玉エミ(ゲント市在住、カナダ生まれ)／約3ヶ月CAAKに滞在。兼六園など日本庭園や日本の生活文化をリサーチ。Kapoにてパフォーマンスイベント、CAAKにてレクチャー&amp;パーティを行う</li> <li>『報告書(2009-2012)』を作成</li> </ul>	
招へいアーティスト	トマス・モンセス、ニコリン・ファン・スタプル、モーガン・ベッツ、ロハン・ハッチンソン、児玉エミ、山田健二、斉藤幹男	
施設構成・内容	制作スタジオ	○ 16 m <sup>2</sup> (Kapo 内) *Kapo 内、滞在期間、制作方法によって要相談
	展示スペース	○ 160 m <sup>2</sup> (展示スペース) + 12 m <sup>2</sup> (壁面) *Kapo 内
	宿泊施設	○ 築 80 年になる町家内の6畳間(CAAK)、8畳1部屋+6畳4部屋:計 144 m <sup>2</sup> (まちやゲストハウス) *CAAK は 300 円/泊、まちやゲストハウスは¥2,000/泊
	その他	宿泊先は宿泊者の予算によって選択可、まちやゲストハウスへの滞在は最長2週間。創作スペース・展示スペースの利用に関しては Kapo 担当者との相談による。無線 LAN でインターネットを利用可能。
	交通アクセス	【CAAK】 北鉄バス 20 番台 (20、21、22、25) もしくは 81 番で「寺町2丁目」より徒歩3分 【Kapo、まちやゲストハウス】 北陸鉄道バス「兼六園下」より徒歩1分
周辺環境	金沢市は人口 45 万人。北陸地方の中心都市で、藩政期の伝統が色濃く残る。CAAK、Kapo、まちやゲストハウスは、金沢 21 世紀美術館や兼六園のある金沢市中心部に位置し、互いに徒歩圏内。金沢美術工芸大学へも近い。伝統的な金沢町家を改装したCAAK やまちやゲストハウスに宿泊し、Kapo で制作・展示を行うことが可能。	
画像		
		<p>左上: Nicoline Van Stapele のパフォーマンスの様子 (会場: Kapo、2010)</p> <p>右上: Thomas Monses の制作の様子 (会場: Kapo、2009)</p> <p>左下: Emi Kodama のトークの様子 (会場: CAAK、2012)</p>

22 トヨタ コレオグラフィーアワード・受賞者のための金沢 21 世紀美術館レジデンスプログラム					
レジデンス事業の概要	対象分野	パフォーマンス			
	招へい人数	事業内容によって検討	招へい期間	2014 年 2 月 10 日 - 23 日	
			募集期間		
受入条件	年齢制限: なし * 事業による 受入対象国指定: なし * 事業による				
選考・支援	応募方法	非公募 * 美術館主催事業として実施	選考方法	トヨタ コレオグラフィーアワード審査委員による選考 * 同アワード「次代を担う振付家賞」副賞	
	支援内容	渡航費助成			
		滞在費助成	○	金沢 21 世紀美術館より、公演会場、稽古場、宿泊施設などの提供	
		制作費助成	○	トヨタ自動車(株)より受賞者へ制作費の一部として提供(200 万円)	
		成果発表・オープンスタジオ	○		
		人的サポート	○	舞台製作、音響、照明、美術など	
		記録集			
		その他			
運営組織概要	団体名	金沢 21 世紀美術館[公益財団法人 金沢芸術創造財団]			
	URL	<a href="http://www.kanazawa21.jp">http://www.kanazawa21.jp</a>	事業開始年	2007 年 金沢 21 世紀美術館としてのレジデンス事業の開始年	
		所在地 〒920-8509 石川県金沢市広坂 1-2-1			
	電話	076-220-2811	FAX	076-220-2802	
			Email	<a href="mailto:info@kanazawa21.jp">info@kanazawa21.jp</a>	
	事業目的	2008 年度より、金沢 21 世紀美術館がトヨタの本事業に賛同し、トヨタ コレオグラフィーアワード「次代を担う振付家賞」副賞として、受賞者公演とレジデンスプログラム(稽古場・宿泊施設など)の提供を行う。 金沢 21 世紀美術館でのレジデンスプログラム公演の実施は、金沢発の新作クリエイション及びその成果発表を実施すると同時に、長期滞在により地域コミュニティとの交流、コンテンポラリーダンスの地域への定着をさらに深めることを目的とする。 *「トヨタ コレオグラフィーアワード」は、トヨタ自動車株式会社が企業メセナ活動の一環として、世田谷パブリックシアターと提携し 2001 年に設立。			
	事業内容	およそ 2 週間程度のレジデンスプログラムとして公演場所、稽古場・宿泊場所などを金沢 21 世紀美術館が提供し、作品制作費の一部をトヨタ自動車株式会社が提供して実施される。受賞者は、制作段階から現地舞台スタッフと協同してクリエイションを行い、金沢滞在ならではの創作の可能性を探るもの。			
事業実績／成果	2009 年度 招へいアーティスト: 鈴木ユキオほか 8 名 滞在期間: 2009 年 6 月 15 日 - 28 日 受賞者公演: 『言葉の縁』(6 月 27 日、28 日) 演出・振付: 鈴木ユキオ 出演: ダンスカンパニー金魚(鈴木ユキオ、安次嶺菜緒ほか) 2011 年度 招へいアーティスト: 古家優里ほか 9 名 滞在期間: 2011 年 6 月 20 日 - 27 日 受賞者公演: 『キャッチ マイ ビーム』(10 月 29 日、30 日) 構成・演出・振付: 古家優里 出演: プロジェクト大山				

	招へいアーティスト	古家優里(プロジェクト大山)、鈴木ユキオ(金魚)	
施設構成・内容	制作スタジオ	○	シアター21
	展示スペース	○	
	宿泊施設		別途宿泊施設として、同財団で運営する「湯涌創作の森」を利用する可能性がある(宿泊5部屋[和室4、洋室1]、風呂・トイレ共同、定員 24 人)
	その他	館内ホール「シアター21」:芸術交流活動の拠点として、演劇、コンサート、パフォーマンス、講演会やシンポジウムだけでなく、新しい映像表現や舞台芸術の展開が可能な多目的に利用できるホール。展示、創作スペースとしても利用できる。 シアター21(可動席 156 席):252.0 m <sup>2</sup> 出演者控室1:17.9 m <sup>2</sup> 出演者控室2:15.6 m <sup>2</sup> 楽屋1:50.3 m <sup>2</sup> 楽屋2:49.7 m <sup>2</sup> シアター準備室:85.8 m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	小松空港より金沢市内経由バスにて約 50 分 *東京(羽田)ー小松:飛行機で約1時間 JR「金沢駅」バスターミナル東口7ー10 番、西口4番乗り場よりバスにて「香林坊(アトリオ前)」下車、徒歩約5分 *東京ー金沢:電車で約4時間、大阪ー金沢、名古屋ー金沢:電車で約2時間半ー3時間	
周辺環境	金沢市は本州のほぼ中心に位置し、日本海側気候で豊かな緑と水源に恵まれ、藩政時代から伝統工芸が盛んである。一方で県庁所在地として交通網や商工業も発展しており、人口約 45 万人の北陸有数の観光都市である。当館は金沢城及び兼六園に近接し市街の中心地に位置する。また市は2009年にクラフト部門でユネスコ創造都市に認定。国内外から文化都市としての金沢への期待が高まっている。		
画像	 <p>2011.6.20-27 トヨタ コレオグラフィーアワード 2010 レジデンスプログラム 古家優里(ダンサー・振付家) ワークショップ風景 @金沢 21 世紀美術館 シアター21 photo:池田ひらく</p>		

## 公演のためのレジデンシープログラム

レジデンス事業の概要	対象分野	音楽、写真／映像、パフォーマンス		
	招へい人数	事業内容によって検討	招へい期間	事業内容によって検討
			募集期間	事業内容によって検討
受入条件	年齢制限:なし *事業による 受入対象国指定:なし *事業による			
選考・支援	応募方法	非公募 *美術館主催事業として実施		選考方法
	支援内容	渡航費助成	<input type="radio"/>	事業内容によって検討
		滞在費助成	<input type="radio"/>	事業内容によって検討
		制作費助成	<input type="radio"/>	事業内容によって検討
		成果発表・オープスタジオ	<input type="radio"/>	レジデンスの成果を公演する
		人的サポート	<input type="radio"/>	通訳、舞台製作、音響、照明
		記録集	<input type="radio"/>	事業内容によって検討
		その他		
運営組織概要	団体名	金沢 21 世紀美術館〔(公益財団法人 金沢芸術創造財団)〕		
	URL	<a href="http://www.kanazawa21.jp">http://www.kanazawa21.jp</a>	事業開始年	2006 年
	所在地	〒920-8509 石川県金沢市広坂 1-2-1		
	電話	076-220-2811	FAX	076-220-2802
		Email	<a href="mailto:info@kanazawa21.jp">info@kanazawa21.jp</a>	
	事業目的	レジデンス及び公演を行うことで、金沢 21 世紀美術館で新作クリエイション及び金沢初演を実施して金沢から発信し、また同時に長期滞在により地域のコミュニティとの交流、現代パフォーマンス・アーツの地域への定着をさらに深めることを目的とする。さらには現地スタッフがクリエイションに関わることで地元の人材育成と意識の向上をはかる。		
	事業内容	レジデンス及び公演は、制作はカンパニーが行い、制作場所と宿泊費用は美術館が提供するなど、ダンスカンパニーと美術館との協同事業として実施するものである。公演に向けて、制作段階において現地舞台スタッフと協同してクリエイションを行い、金沢滞在ならではの新作公演の可能性を探る。		
事業実績／成果	2006 年度:珍しいキノコ舞踊団×ジャスティン・カレオ『3mm くらいズレてる部屋』新作初演 公演日:2006 年9月 23 日、24 日(全2公演)  2010 年度:GRINDER-MAN 『SONAR』新作初演 公演日:2011 年3月 11 日-13 日(全6公演)  2013 年度(予定):日韓英国際共同制作 ドリームシンクスピーク“1980/2013”			

	招へいアーティスト	GRINDER-MAN、珍しいキノコ舞踊団	
施設構成・内容	制作スタジオ	○	シアター21
	展示スペース	○	
	宿泊施設		別途宿泊施設として、同財団で運営する「湯涌創作の森」を利用する場合がある(宿泊5部屋[和室4、洋室1]、風呂・トイレ共同、定員 24 人)
	その他	館内ホール「シアター21」:芸術交流活動の拠点として、演劇、コンサート、パフォーマンス、講演会やシンポジウムだけでなく、新しい映像表現や舞台芸術の展開が可能な多目的に利用できるホール。展示、創作スペースとしても利用できる。 シアター21(可動席 156 席):252.0 m <sup>2</sup> 出演者控室1:17.9 m <sup>2</sup> 出演者控室2:15.6 m <sup>2</sup> 楽屋1:50.3 m <sup>2</sup> 楽屋2:49.7 m <sup>2</sup> シアター準備室:85.8 m <sup>2</sup>	
	交通アクセス	小松空港より金沢市内経由バスにて約 50 分 *東京(羽田)ー小松:飛行機で約1時間 JR「金沢駅」バスターミナル東口7ー10 番、西口4番乗り場よりバスにて「香林坊(アトリオ前)」下車、徒歩約5分 *東京ー金沢:電車で約4時間、大阪ー金沢、名古屋ー金沢:電車で約2時間半ー3時間	
	周辺環境	金沢市は本州のほぼ中心に位置し、日本海側気候で豊かな緑と水源に恵まれ、藩政時代から伝統工芸が盛んである。一方で県庁所在地として交通網や商工業も発展しており、人口約 45 万人の北陸有数の観光都市である。当館は金沢城及び兼六園に近接し市街の中心地に位置する。また市は2009年にクラフト部門でユネスコ創造都市に認定。国内外から文化都市としての金沢への期待が高まっている。	
画像	 <p>2011.3.02-13 GRINDER-MAN 「SONAR」レジデンスー&amp;公演 2011.3.13 公演風景 @金沢 21 世紀美術館 交流ゾーン photo:池田ひらく</p>		

24		ARTIST IN RESIDENCE YAMANASHI [AIRY]				
レジデンス事業の概要	対象分野	美術 ＊おもに現代美術				
	招へい人数	年間 20 人程度(予定)	招へい期間	1ヶ月単位での滞在推奨		
			募集期間	随時(一般公募)		
受入条件	年齢制限:なし 受入対象国指定:なし その他:1ヶ月以上滞在すること					
選考・支援	応募方法	公募、推薦		選考方法	応募書類をもとに運営メンバーによる審査選考	
	支援内容	渡航費助成				
		滞在費助成				
		制作費助成				
		成果発表・オープンスタジオ	○	ワークショップ、アーティストトーク、最終発表推奨		
		人的サポート	○	生活及び創作活動に関する情報提供と調整		
		記録集				
その他						
運営組織概要	団体名	ARTIST IN RESIDENCE YAMANASHI [AIRY]				
	URL	<a href="http://air-y.net">http://air-y.net</a>		事業開始年	2005 年	
	所在地	〒400-0031 山梨県甲府市丸の内 2-37-2				
	電話	090-6152-2786	FAX		Email ウェブサイト内メールフォーム	
	事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>アーティストの創作活動をとおして、各地への滞在や人々との文化的交流を実現させ、様々な表現方法に触れながら新たなネットワークを築く</li> <li>アーティストやキュレーターなど文化的芸術的な活動をリードできる人材を育て、地方から現代美術を発信することに力を入れる</li> </ul>				
	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>Residence/home(受入事業)</li> <li>Residence/away(派遣事業) ＊文化的な相互交流事業として、home/awayを設定している。</li> <li>展覧会、ワークショップ、イベントの自主企画</li> <li>ウェブサイトでの情報発信</li> </ul>				
	事業実績／成果	地域文化、自然環境を資源とした様々な表現活動の拠点として定着しつつある。レジデンス作家のほか、地域在住作家の発表の場として、また、ワークショップ、教育プログラムを開催することで、活動の幅に広がりを見せている。2005 年の活動開始からこれまでに、14 ヶ国のアーティストの受け入れ実績あり。				
招へいアーティスト	アヌー・ウイレニウス、イヴェット・プアーター、エンヘマ・プレブドルジ、カレン・ヘロルド、ケイト・ヒル、ケーリー・ノーマン、ジュリア・ステュアート、ナタリー・バルザン、ヌルディン・ムサエフ、バリー・ウイテカー、ファン・ユンジュ、フィリペ・カザカ、ブルガンツヤ・デチンドルジ、ブルガ・デチンドルジ、バルニ・シュルツ、増田沙織、山内廉					

施設構成・内容	制作スタジオ	○	65 m <sup>2</sup> (テラス含む)、鉄筋コンクリート3階建の2階部分 * 展示スペースと創作スペースは併用
	展示スペース	○	65 m <sup>2</sup> (テラス含む)、鉄筋コンクリート3階建の2階部分 * 展示スペースと創作スペースは併用
	宿泊施設	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>● A: 42m<sup>2</sup> (テラス含む)</li> <li>● B: 18.5m<sup>2</sup></li> <li>● C: 40m<sup>2</sup></li> </ul> ABCともに、鉄筋コンクリート3階建の2、3階部分、バス・トイレ・キッチン完備
	その他		築40年を経る元産婦人科病院(1999年閉院)建物を、2009年に、リノベーション工事と誰でも参加できる「壁塗りワークショップ」を行い使用している。
	交通アクセス		JR「甲府駅」より徒歩8分 甲府駅までは、新宿駅から特急1時間30分、または高速バス2時間
	周辺環境		甲府市は人口約20万人で、甲府盆地の中央に位置する。周囲には富士山・南アルプス・八ヶ岳などの名峰が見渡せる地方都市である。AIRYは小学校の校庭に面して建ち、四季それぞれの自然の変化を目前に見ながら制作することができる。駅や図書館に近く生活しやすい場所である。

画像



25 CfsSHE/木版画ラボ アーティスト・イン・レジデンス事業 水性木版画制作プログラム						
レジデンス事業の概要	対象分野	ビジュアルアート/版画分野				
	招へい人数	6人	招へい期間	2012年10月7日～11月10日		
			募集期間	35日間		
受け入れ条件	<p>年齢制限:30～55歳の間。 受入対象国指定:なし</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アーティスト・版画指導者、版画工房の版画専門家</li> <li>基本的に英語または日本語が話せる人</li> <li>公募規約及び選考後の活動規約の内容を了承し、それを実行できる人 <ol style="list-style-type: none"> <li>当事業の主旨を理解し、水性木版画の制作に真摯に取り組む人</li> <li>レジデンス滞在中、2～3のイメージの異なる作品をつくらることができる人</li> <li>制作した作品を展覧会活動のために、CfsSHE/MI-LABに寄贈すること(任意)</li> <li>地域の人々との交流や、他のレジデンスアーティストと協調し、滞在できる人</li> <li>健康であり、レジデンス活動中の自己管理ができる人</li> </ol> </li> </ul>					
選考・支援	応募方法	公募	選考方法	申請書より抜粋		
	支援内容	渡航費助成	○	一定額の往復航空運賃(上限10万円)。旅費・交通費		
		滞在費助成	○	1人5万円		
		制作費助成	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>水性木版画に必要な道具、材料費</li> <li>リサーチ活動に関わる国内の交通費、宿泊費</li> </ul>		
		成果発表・オープンスタジオ	○	東京のCfsSHE ANNEX、富士河口湖町役場での展示発表		
		人的サポート	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じて英語を話せるスタッフによる生活のサポートあり</li> <li>アドバイスを求めるための専門家への費用あり</li> </ul>		
		記録集	○	レジデンス活動、展覧会などの報告書を作成。アーティストには5部無料提供。		
		その他				
運営組織概要	団体名	一般社団法人産業人文学研究所				
	URL	<a href="http://www.endeavor.or.jp/mi-lab/jp/home/index.html">http://www.endeavor.or.jp/mi-lab/jp/home/index.html</a>	事業開始年	2011年		
	所在地	〒401-0392 山梨県南都留郡富士河口湖町勝山4018 (施設所在地)				
	電話	050-3304-9001	FAX	03-3234-6789	Email	<a href="mailto:mi-lab@endeavor.or.jp">mi-lab@endeavor.or.jp</a>
	事業目的	薬品処理を必要としない水性木版画技法と表現の国際的な普及活動。そのために国内において海外のアーティストに向けて、水性木版画の紹介と制作体験ができるアーティスト・イン・レジデンス事業の企画・運営を行う。また、レジデンスアーティストと国内の木版画家及び関連する専門家との相互の交流を図り、国内の専門家の国際的なネットワークの機会を広げる。				
	事業内容	海外で活躍しているアーティストや版画指導者を招き、制作の環境や素材、道具を整え、また優れた国内の専門家をアドバイザーにつけ、約35日間の長期滞在を行うことで、版画作品の制作プロジェクトの実現に向けて優れた制作計画を持つアーティストの制作を支援する。				
	事業実績／成果	<p><b>【AIRプログラム】</b> 1997年～2009年:兵庫県淡路市の長沢アートパーク:アーティスト・イン・レジデンス水彩多色摺り制作研修プログラムの企画運営を担当 2011年:長沢アートパーク事業の成果として第1回国際木版画会議(京都・淡路)開催 2011年:国際木版画ラボ 河口湖レジデンス/スタジオを開所 同年:国際木版画ラボラトリー/河口湖アーティスト・イン・レジデンス事業の実施</p> <p><b>【その他】</b> 1998～2001年 徳島県神山アーティスト・イン・レジデンスアドバイザー 2003～2010年: 年1回のベースでJ-AIRネットワーク会議・AIR担当者会議の開催(会場協力:オランダ大使館、オーストラリア大使館、カナダ大使館、フィンランド大使館(センター)、ノルウェー大使館、セルバンテス、ブリティッシュ・カウンシル)</p>				

		2008-2010年: 上記、担当者会議終了後に、国内外のAIRプログラムの紹介を、AIRに興味がある一般聴衆に向けて開催(ブリティッシュ・カウンシル、セルバンテス、ノルウェー大使館)
	招へいアーティスト	2011年:ジャクリーン・グリビン(英国/オーストラリア在住)、ラルフ・キゲル(英国/タイ在住)、ヒロキ・モリノウエ(米国) 2012年:エバ・ピッツカー(ドイツ)、リンダ・ビーマン(米国)、マーラ・コッゾリーノ(イタリア)、ユーミン・ナム(韓国/米国)、ポール・フルノー(英国)、トマシー・ガベウーチク(ポーランド)
施設構成・内容	制作スタジオ	120㎡の和室、2ヶ所
	展示スペース	○ 【CSHE ANNEX】 3331 Arts Chiyodaにあるギャラリースペース
	宿泊施設	○ 18-25㎡の和室8部屋、キッチン、ダイニング、風呂は共同
	その他	制作に使用する基本的な版木用の板、版画に使用する道具、紙などは用意されている。
	交通アクセス	電車:JR大月駅富士急行線河口湖駅下車。 バス:新宿西口高速バスターミナルより乗車し、河口湖駅下車。(約2時間)
周辺環境	レジデンスは、富士河口湖駅より、車で10分(タクシー¥1,200くらい)の所にあり、レジデンスからは、霊峰富士山が正面に見える。また、河口湖はレジデンスから徒歩5、6分の所にあり、朝夕の散歩が楽しめる。また、生活に必要な、郵便局、コンビニは隣接しており、スーパーへは徒歩で20分の所にある。近隣には小学校、中学校、コミュニティーセンターなどがある。	

画像



左上:制作風景

右上:レジデンスを背景に。2012年度の滞在アーティスト

左下:1階のリビングで、古い木版画を見るアーティスト

レジデンス事業の概要	対象分野	指定なし *紙の芸術「生活文化に根ざした紙を素材としたあらゆる芸術活動」			
	招へい人数	4人	招へい期間	9月-12月(90日間)	
			募集期間	2月-4月	
受入条件	年齢制限:20歳以上 受入対象国指定:なし その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>滞在中に美濃和紙を素材とした作品を制作する</li> <li>作品展示会のオープニングセレモニーに参加し、会場で説明する</li> <li>地域交流事業に積極的に参加する</li> <li>美濃和紙を用いて制作した作品を1点以上、美濃市に寄贈する</li> <li>美濃和紙のPRに協力する</li> <li>自国で傷病保険をかける</li> </ul>				
選考・支援	応募方法	公募		選考方法	専門家などによる選考委員会による選考により決定
	支援内容	渡航費助成	○	エコミークラスの往復航空運賃	
		滞在費助成	○	ホームステイ	
		制作費助成	○	材料費の一部	
		成果発表・オープンスタジオ	○		
		人的サポート	○	すべて市民ボランティア	
		記録集	○		
		その他			
運営組織概要	団体名	美濃・紙の芸術村実行委員会			
	URL	<a href="http://www9.ocn.ne.jp/~mino-bnk/">http://www9.ocn.ne.jp/~mino-bnk/</a>		事業開始年	1997年
	所在地	〒501-3729 岐阜県美濃市泉町 45-3 美濃市文化会館内			
	電話	0575-35-0522	FAX	0575-35-0144	Email <a href="mailto:minobunka@giga.ocn.ne.jp">minobunka@giga.ocn.ne.jp</a>
	事業目的	1300年の歴史を持つ伝統工芸「美濃和紙」を使った作品制作を通じ、アーティストと地域の交流を深め、紙芸術・地域文化の振興をうながす。			
	事業内容	世界各国からアーティストを招き、ボランティアの家庭にホームステイしながら美濃和紙を使った芸術作品を制作。展覧会で成果を発表するほか、市内小中学校でのワークショップなどを通じ、地域住民との交流をはかる。			
	事業実績／成果	2010年度までの14年間に日本を含めて30ヶ国から延べ74名及び特別参加5名を招へい			
	招へいアーティスト	エマ・ベル、ジーニー・ジャップフェ、ピーノ・バリラ、篠原猛史			
施設構成・内容	制作スタジオ	○	「うだつの上がる古い町並み」の空き家をスタジオとして利用		
	展示スペース	○	レンタルスペースとはせず、歴代招へいアーティストの作品を展示するのみ		

宿泊施設	○	招へいアーティストは市民の家にホームステイ
その他		
交通アクセス		直行高速バス「美濃小倉公園前」より徒歩3分 名古屋駅(名鉄バスセンター)より約 100 分 長良川鉄道「梅山」より徒歩5分 JR「美濃太田駅」より約 35 分
周辺環境		スタジオは国の重要伝統的建造物群保存地区に指定された江戸時代そのままの町並みのなか あり、隣には旧今井家住宅美濃史料館、辻を曲がると美濃あかりアート館など、歴史や文化的な資産を 身近に感じる環境にある。スタジオと事務局の間は徒歩3分。

画像



左上:ワークショップ  
右上:紙すき研修  
左下:作品展

27 静岡市クリエイターズビレッジモデル事業「体験移住」				
レジデンス事業の概要	対象分野	指定なし		
	招へい人数 程度	招へい期間	2013年3月15日ー2014年3月31日 *1回1週間以内(1週間以上を希望する場合は応募状況により要相談)	
		募集期間	2013年2月18日ー2013年3月31日	
受入条件	年齢制限:なし *ただし、健康であること 受入対象国指定:なし *ただし、日常会話に支障がない日本語が話せること その他:静岡市中山間地域外に居住している者(募集要項内の別表1「中山間地域対象地区」を参照 URL= <a href="http://www.okushizuoka.jp/info/体験移住募集要項.pdf">http://www.okushizuoka.jp/info/体験移住募集要項.pdf</a> )			
選考・支援	応募方法	公募 *静岡市中山間地振興課まで、郵送、FAX、Eメールにて申し込み、または直接持参。募集要項や申込書等は、中山間地振興課ウェブサイト「オクシズ」より入手可。送り先は「事業に関する問い合わせ先」を参照		選考方法 なし *ただし、希望日が重複した場合に限り調整する
	支援内容	渡航費助成		
		滞在費助成		
		制作費助成		
		成果発表・オープスタジオ		
		人的サポート		
		記録集		*体験移住についてのアンケート等あり
その他				
運営組織概要	団体名	静岡市役所		
	URL	<a href="http://www.okushizuoka.jp/">http://www.okushizuoka.jp/</a>	事業開始年	2012年
	所在地	〒421-1212 静岡県静岡市葵区千代 538-11 *施設所在地は 〒421-1407 静岡県静岡市葵区榑尾 329		
	電話	054-294-8805	FAX	054-278-3908
			Email	<a href="mailto:chuusankanchi@city.shizuoka.lg.jp">chuusankanchi@city.shizuoka.lg.jp</a>
	事業目的	創造性豊かな人材を活用して静岡市中山間地域の振興を図るため、自然豊かな静寂に包まれた場所での創作活動を望む者(クリエイター、アーティスト等)に体験の場を提供する(体験移住)。体験移住者のなかから長期移住を希望する者を探し、本市中山間地域への移住促進を図る。		
	事業内容	1回に1週間以内(1名[1組]程度)の体験移住を受け入れる。そのなかで、自身の創作活動や周辺の集落の生活環境や自然環境等を確認しながら、静岡市中山間地域への長期移住の可能性の可否を判断してもらう。		
	事業実績／成果			
招へいアーティスト				

施設構成・内容	制作スタジオ	○	44 m <sup>2</sup> 、旧音楽室
	展示スペース	○	校舎入口付近や廊下などに広めのスペースあり
	宿泊施設	○	3部屋／29 m <sup>2</sup> 、旧教室 * 光熱費として、1人1泊 1,000 円を宿泊者が負担
	その他		旧榑尾小学校校舎を改装し UB(ユニットバス)を設置。鉄骨造3階建
	交通アクセス		JR「静岡駅」から車で約1時間 静鉄バス(しずてつジャストライン 藁科線・日向行き) 終点「日向」から車で 15 分 * 自家用車などの移動手段が必要
	周辺環境		静岡市葵区大川地区(旧安倍六ヶ村大川村)は、人口 871 人 389 世帯からなる(2012 年9月現在)。同地区内には、静岡市大川生涯学習交流館(高齢者生活福祉センターとの複合施設)、湯ノ島温泉浴場(市営)などがある。

画像



左上: 旧音楽室(アトリエ)  
 右上: 旧教室(体験移住部屋)  
 左下: 景観

## クロード・レジ『室内』クリエーション

レジデンス事業の概要	対象分野	演劇		
	招へい人数	4人	招へい期間	2013年2月25日－3月26日
			募集期間	
受け入れ条件	年齢制限:なし 受入対象国指定:なし			
選考・支援	応募方法	非公募		選考方法
	支援内容	渡航費助成	<input type="radio"/>	
		滞在費助成	<input type="radio"/>	
		制作費助成	<input type="radio"/>	
		成果発表・オープスタジオ	<input type="radio"/>	
		人的サポート	<input type="radio"/>	
		記録集		
		その他		
運営組織概要	団体名	財団法人静岡県舞台芸術センター		
	URL	<a href="http://www.spac.or.jp/">http://www.spac.or.jp/</a>	事業開始年	
	所在地	〒422-8005 静岡市駿河区池田 79-4 *施設所在地は静岡市駿河区平沢 100-1		
	電話	054-203-5730	FAX	054-203-5732
			Email	
	事業目的	世界に通用する舞台芸術を創造するとともに、舞台芸術の発展に必要な人材の育成等を図り、もって静岡県の舞台芸術の振興と県民文化の向上に寄与すること。		
	事業内容	フランス演劇界の第一人者であるクロード・レジを招へいし、レジの真骨頂と言われるメーテルリンクの『室内』を日本人俳優によって創作する。2013年3月の招へいでは、2013年度の『室内』に向けて、俳優へのワークショップ及び稽古を実施し、レジの演劇理論を学ぶことができるワークインプログレスを実施する。		
事業実績／成果				
招へいアーティスト	クロード・レジ			

施設構成・内容	制作スタジオ	○	
	展示スペース	○	
	宿泊施設	○	
	その他		
	交通アクセス	JR 東静岡駅南口から徒歩約5分、グランシップ内（JR 東静岡駅は、静岡駅より東海道本線で3分） 静鉄長沼駅から徒歩約 12 分。	
	周辺環境		

画像



レジデンス事業の概要	対象分野	工芸とくに陶芸、ガラス工芸		
	招へい人数	3-4人	招へい期間	[第1期]2012年7月-8月 [第2期]2012年11月-12月
			募集期間	締切:2012年4月20日(必着)
	受入条件	年齢制限:なし 受入対象国指定:なし その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>滞在期間中に制作した作品のうち2-3点を、事務局と相談のうえ、瀬戸市に寄贈。寄贈作品は、瀬戸市美術館等において展示</li> <li>スライドレクチャー、一般・学生向けの公開制作、市民との交流事業の企画・開催、学校訪問、瀬戸市長への表敬訪問などを行う</li> <li>離日後1年以内に、アーティスト・イン・レジデンス事業の活動成果を、ウェブサイトや雑誌等のメディアにより記事や論文などとして公表し、事務局へ報告</li> </ul>		
選考・支援	応募方法	公募 申請書に必要事項を記入のうえ、これまでの活動がわかる資料(図録・パンフレット等)やその他、審査の参考となる資料を添えて提出。ウェブサイトから申請可。	選考方法	事務局による選考
	支援内容	渡航費助成	<input type="radio"/>	作家の居住地に最も近い空港(駅)から中部国際空港(あるいは名鉄瀬戸線尾張瀬戸駅)までを上限とする
		滞在費助成	<input type="radio"/>	滞在期間中の宿泊場所(アパートタイプ個室。シャワー・簡易台所付)を事務局が手配
		制作費助成	<input type="radio"/>	原料代・燃料代等。上限10万円
		成果発表・オープンスタジオ	<input type="radio"/>	スライドレクチャー、公開制作など
		人的サポート	<input type="radio"/>	必要が認められればアシスタント1名を提供(来日決定後に相談)
		記録集	<input type="radio"/>	寄贈作品写真、作家のことば、活動記録をまとめた図録を発行
		その他		詳細は募集要項を参照
運営組織概要	団体名	公益財団法人財瀬戸市文化振興財団		
	URL	<a href="http://www.seto-cul.jp/program.html">http://www.seto-cul.jp/program.html</a>	事業開始年	2000年
	所在地	〒489-0884 愛知県瀬戸市西茨町113-3		
	電話	0561-84-1093	FAX	0561-85-0415
			Email	<a href="mailto:air@city.seto.lg.jp">air@city.seto.lg.jp</a>
	事業目的	愛知県瀬戸市は、千余年の歴史と伝統を有する日本を代表するやきもの産地であり、市内では良質の粘土や珪砂(ガラスの原料)が大量に採取される。海外から優れた陶芸家、ガラス作家を招へいし、市内において滞在制作をしてもらうことにより、地元芸術家、市民などとの交流が深まり、国際性豊かな文化の形成に資することを期待している。		
	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>滞在制作</li> <li>スライドレクチャー</li> <li>公開制作</li> <li>制作作品展覧会</li> <li>市民交流</li> </ul>		
事業実績/成果	<b>【事業実績】</b> これまでに国内外より23ヶ国54名の陶芸家、ガラス作家を招へい <b>【成果】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>地元作家や市民に芸術的な触発を与えた</li> <li>瀬戸市の国際化の促進、知名度の向上</li> </ul>			

	招へいアーティスト	アナ・ムラゾフスキー、アレッサンドロ・ガッロ、ウラジミール・クライン、コウ・セツ、サリー・ウォーク、ブライアン・ベンファー、マーレ・サーレ	
施設構成・内容	制作スタジオ	○	陶芸工房、ガラス工房、体験工房、施釉室ほか。ガス窯、電気窯、ガラス溶解炉、グローリーホールほか
	展示スペース	○	ギャラリースペース(展示スペース)5部屋
	宿泊施設	○	アパートを利用
	その他	喫茶スペース、事務所	
	交通アクセス	名鉄瀬戸線「尾張瀬戸」駅より徒歩 10 分	
周辺環境	瀬戸市は名古屋市から北東へ約 20km の距離に位置し、1000 年を超えるやきものの歴史を有するまちである。本施設は市の中心部に位置し、近隣には瀬戸市美術館、瀬戸蔵ミュージアム、瀬戸市マルチメディア伝承工芸館といった文化施設がある。		

画像



瀬戸市新世紀工芸館 外観



展覧会風景

## 生活体験レジデンス ゆうがく邸

レジデンス事業の概要	対象分野	指定なし				
	招へい人数	未定	招へい期間	随時		
			募集期間	随時		
受入条件	年齢制限:なし 受入対象国指定:なし					
選考・支援	応募方法	公募 メールにてアーティスト・ステイメント、滞在の目的、滞在希望期間(第二希望まで)を送付 原則として、ACC 派遣作家の受け入れ、または NPO 主催のワークショップ講師に限る。ただし、生活体験としての滞在(最大1ヶ月)も可能		選考方法	ACC による紹介、NPO 理事会での選考	
	支援内容	渡航費助成				
		滞在費助成				
		制作費助成				
		成果発表・オープスタジオ	○	アーティスト・トークまたはワークショップ 希望に応じて「ゆうがく邸」内のスペースで展示を行うことも可能		
		人的サポート	○	コーディネーターが英語で対応。地域での活動のアレンジ、生活全般のサポート		
		記録集				
その他						
運営組織概要	団体名	特定非営利活動法人ア・ピース・オブ・コスモス				
	URL	<a href="http://apoc-mie.org/yugakutei">http://apoc-mie.org/yugakutei</a>	事業開始年	2010 年		
	所在地	〒519-3204 三重県北牟婁郡紀北町紀伊長島区東長島 128				
	電話	0597-47-2116	FAX	0597-47-2116	Email	<a href="mailto:apoc@solid.ocn.ne.jp">apoc@solid.ocn.ne.jp</a>
	事業目的	当法人は熊野古道地域の豊かな自然、歴史、文化を継承し、その良さを広く伝えるための活動を行っている。また、地域のまちづくりと生活体験による人材育成を行い、地域の発展を目指す。木材商が材にこだわった築 60 年の古民家を「ゆうがく邸」として改装し、空家調査や移住サポートを通して町並み保全を行うとともに、紀北町を訪れた方の滞在や地元の方との交流をお手伝いし、滞在しながら芸術活動を行うアーティスト・イン・レジデンスや、青少年のための生活体験合宿を行うことを通じて、当地の文化の継承・発信をはかる。				
	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活体験プログラム(農林水産業体験など)の実施</li> <li>移住・二地域居住のサポート及び情報発信</li> <li>青少年のための生活体験合宿の実施</li> <li>芸術家や専門家によるワークショップの実施</li> <li>ACC(アジア・カルチュラル・カウンシル)派遣作家の受け入れによるアーティスト・イン・レジデンス</li> </ul>				
	事業実績／成果	<b>【事業実績】</b> 2009 年度:3名招へい 2010 年度:8名寄宿 <b>【成果】</b> 2010 年1月:映像制作事業(町内の「音」をテーマに映像制作、上映会、ワークショップ実施) 2010 年3月:小中学生対象の漫画制作ワークショップ 2010 年5月:アーティストによる地元住民対象の講演会 2010 年8月:小学生対象の漫画制作ワークショップ 2010 年9月:熊野古道に影響を受けた作品制作(個展) 2010 年12月:井戸プロジェクト(井戸を囲む彫刻制作・ワークショップ・個展)				

	招へいアーティスト	アマダ・ベランタラ、キアンガ・フォード、スティーブン・ウォード、ヒメナ・エルゲダ、一色登希彦、元町夏央、奥まゆみ
施設構成・内容	制作スタジオ	
	展示スペース	○ ギャラリー(1階土間部分、58㎡)
	宿泊施設	○ <ul style="list-style-type: none"> <li>● 2階洋室(23㎡:シャワー、トイレ、洗面台、冷蔵庫、ベッド×2、デスク付)</li> <li>● 2階和室(36㎡:ミニキッチン、シャワー、トイレ、冷蔵庫、電子レンジ付)</li> </ul> 共用キッチン、共用バスタブ、テレビ、無線LAN、自転車あり
	その他	【生活体験部分】 1階:広間、オープンキッチン、共用キッチン、ピザ窯、バーベキュースペース 2階:6畳和室(2部屋)、12畳和室(2部屋)
	交通アクセス	JR紀勢線「紀伊長島駅」より徒歩1分(紀伊長島駅までは、名古屋から2時間、大阪から3時間) 紀勢自動車道「紀勢大内山IC」より国道42号線で車で約20分
周辺環境	世界遺産に登録されている熊野古道伊勢路と、三重県内でも有数の豊かな漁場を擁する熊野灘に囲まれた土地には、熊野の文化が根付いており、いまでも懐かしい町並みや漁師町の風情が残っている。海と山の古道を旅したり、車だと2時間ほどで熊野三山に行くことができる。 紀北町は、人口2万人ほどの小さな町で、海と山のあいだに町が密集しているため、スーパーや銀行も徒歩圏内と、生活の利便性は高い。	

画像



左上、右上: 展示会の様子  
左下: ワークショップの様子

レジデンス事業の概要	対象分野	陶芸に関わるもの				
	招へい人数	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲスト・アーティスト 年間5人程度</li> <li>スタジオ・アーティスト 年間20人程度</li> </ul>	招へい期間	4-3月(12月29日-1月3日は除く)		
			募集期間	11月末日締切(翌年度実施分) *空きがあれば随時対応		
受入条件	年齢制限:20歳以上 *スタジオ・アーティスト 受入対象国指定:なし その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>ゲスト・アーティスト:主催者からの依頼または公募</li> <li>スタジオ・アーティスト:陶芸家を志し、かつ陶芸についての基礎知識と経験がある人で、応募の時点で原則として20歳以上であること</li> </ul>					
選考・支援	応募方法	公募 スタジオ・アーティスト、公募ゲスト・アーティストの場合、書類(応募票・作文など)、作品データなどを添えて応募		選考方法	スタジオ・アーティスト、公募ゲスト・アーティストの場合、選考委員会による審査	
	支援内容	渡航費助成	○	ゲスト・アーティストのみ(エコノミークラスの航空チケット、または規定の旅費)		
		滞在費助成				
		制作費助成	○	ゲスト・アーティストのみ(一定額で、原材料費及び窯使用料を助成)		
		成果発表・オープンスタジオ	○	適宜対応		
		人的サポート	○			
		記録集	○			
		その他				
運営組織概要	団体名	公益財団法人滋賀県陶芸の森(指定管理者)				
	URL	<a href="http://www.sccp.jp/">http://www.sccp.jp/</a>		事業開始年	1992年	
	所在地	〒529-1804 滋賀県甲賀市信楽町勅旨 2188-7 滋賀県立陶芸の森				
	電話	0748-83-0909	FAX	0748-83-1193	Email <a href="mailto:studioartists@sccp.jp">studioartists@sccp.jp</a>	
	事業目的	国内外からアーティストを受け入れて、創作にふさわしい場所や設備の提供を行い、次代を担う陶芸家を育むことを目的としている。長い陶芸の歴史と製陶業に支えられた信楽というやきものまちなかで、新しい設備を整えた場を活用して自由に創作に励んでもらうことで、陶芸による芸術、文化、産業の発展に寄与すると考えている。				
	事業内容	陶芸家を志す人に創作の場を提供する「創作研修の制度」を設けるほか、著名な陶芸家や芸術家、評論家などを招へいして交流の場とするとともに、レクチャー、ワークショップなどを継続的に開催している。創作研修制度には特別なカリキュラムはなく、招へいした陶芸家やアーティスト、評論家、スタジオ・アーティスト同士が相互に刺激を与え合いながら創作活動を行っている。さらに一般への窯の貸し出しも行なっている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>スタジオ・アーティストの受け入れ</li> <li>著名な陶芸家などの招へい</li> <li>地元陶器業界との交流・連携</li> <li>地元メーカーと海外のプロダクト・デザイナーとのマッチング及び新製品開発</li> <li>一般への窯の貸し出し</li> <li>陶芸に関する調査・研究、情報の収集・発信</li> <li>レクチャー&amp;ワークショップ、短期講座の開催</li> </ul>				

	事業実績／成果	<p>2010 年度末で延べ 785 名を 47 ヶ国より受け入れ、作品制作を行ってもらった。また、評論家や美術研究者を招き、レクチャーを開催している。スタジオ・アーティスト、ゲスト・アーティストあわせて、常時 7 人前後の陶芸家が活動している。</p> <p><b>【ゲスト・アーティスト公開講座】</b></p> <p>2009 年6月 28 日：ペッカ・パイカリ(レクチャー)</p> <p>2009 年9月 13 日：池田晶一(レクチャー&amp;ワークショップ)</p> <p>2009 年 11 月 29 日：ダニエル・ポントロー+小路光男(レクチャー&amp;ワークショップ)</p> <p>2010 年2月 27 日、28 日：中里隆(短期研修)</p> <p>2011 年5月 21 日：サダシ・イヌズカ(レクチャー&amp;ワークショップ)</p> <p>2011 年7月 17 日：盧熾宇+加藤喜代司(レクチャー)</p> <p>2011 年8月 20 日：エンダン・レスタリ(アーティスト・トーク)</p> <p>2011 年9月 19 日：山田晶(レクチャー&amp;ワークショップ)</p> <p>2011 年 11 月 13 日：アディル・ライター(レクチャー&amp;ワークショップ)</p> <p>2011 年 12 月3日：アディル・ライター(アーティスト・トーク)</p> <p>2012 年2月 18 日：吉村敏治(レクチャー&amp;ワークショップ)</p> <p>2012 年3月 18 日：グウィン・ハンセン・ピゴット(レクチャー&amp;ワークショップ)</p>	
	招へいアーティスト	アディル・ライター、グウィン・ハンセン・ピゴット、サダシ・イヌズカ、ダニエル・ポントロー、ペッカ・パイカリ、中里隆、加藤喜代司、吉村敏治、小路光男、山田晶、池田晶一	
施設構成・内容	制作スタジオ	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 窯場：ガス窯、電気窯、穴窯、登り窯</li> <li>● 研修棟：情報閲覧室、共同作業室1(228㎡)、共同作業室2(138㎡)、土室、乾燥室、石膏室、施釉室、倉庫</li> </ul>
	展示スペース	○	創作研修館ギャラリー、ロビー、産業展示館ギャラリー、園内屋外
	宿泊施設	○	宿泊部屋：ゲストルーム3部屋(28㎡)、シングルルーム 10 部屋(17㎡) 和室、食堂、炊事場、サロン、洗濯室
	その他		管理棟、事務室(総務課・創作研修課)、館長室、応接室、管理人室、収蔵庫、図書室、視聴覚室(46人収容)
	交通アクセス		信楽高原鐵道「信楽駅」より徒歩 20 分 *信楽高原鐵道へは、JR 草津線「貴生川駅」にて乗り換え 帝産バス「陶芸の森」より徒歩0分 *JR「石山駅」より約1時間
	周辺環境		陶芸の森は、信楽の市街地を一望する丘に建ち、周囲の山並みが四季折々に素晴らしい景観を見せている。自然のなかで陶芸作品を鑑賞したり、散策をするなど、信楽の観光拠点となっている。

## 京都芸術センター アーティスト・イン・レジデンス プログラム

レジデンス事業の概要	対象分野	演劇、音楽、美術、工芸、写真／映像、彫刻、パフォーマンス、版画 *ビジュアル・アーツとパフォーマンス・アーツを隔年で募集(2013年度はビジュアル・アーツ部門、2014年度はパフォーマンス・アーツ部門で募集)				
	招へい人数	特に定めず	招へい期間	原則3ヶ月以内		
			募集期間	2012年4月1日～6月30日 *6月30日(必着)		
受入条件	年齢制限:なし 受入対象国指定:なし その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 新進または若手のアーティスト並び芸術分野の研究者で、京都に滞在し、制作・調査研究を行う理由が明確であること</li> <li>● 滞在期間中、市民との交流事業を企画・実施すること</li> <li>● 渡航費(交通費)、生活費(宿泊費以外)が確保できること</li> </ul>					
選考・支援	応募方法	公募 アーティスト、芸術関係者の直接応募		選考方法	専門家などによる選考委員会にて決定	
	支援内容	渡航費助成				
		滞在費助成	○	宿泊費を事務局が負担。最長3ヶ月		
		制作費助成	○	1グループ、または個人につき20万円		
		成果発表・オープンスタジオ	○	会場、日程などの調整による		
		人的サポート	○	アート・コーディネーター、ボランティアスタッフなど		
		記録集				
その他						
運営組織概要	団体名	京都芸術センター				
	URL	<a href="http://www.kac.or.jp/">http://www.kac.or.jp/</a>		事業開始年	2000年	
	所在地	〒604-8156 京都府京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町 546-2				
	電話	075-213-1000	FAX	075-213-1004	Email <a href="mailto:residence@kac.or.jp">residence@kac.or.jp</a> , <a href="mailto:info@kac.or.jp">info@kac.or.jp</a>	
	事業目的	京都芸術センターは芸術家同士が刺激しあい、交流する場であり、また市民が豊かな芸術に触れられるような場を目指している。そのため京都芸術センターのアーティスト・イン・レジデンス事業は異なる文化に触れることで新しい芸術表現を生み出そうとする若手のアーティスト、芸術分野の研究者の滞在・制作・発表など一連の活動を支援する。				
	事業内容	芸術センターを拠点とした制作・調査・研究活動。及び市民との交流事業の実施(レクチャーや公開制作、ワークショップ)				
	事業実績／成果	<b>【事業実績】</b> 2000年度:2名招へい 2001年度:4名招へい 2002年度:5名招へい 2003年度:4名招へい 2004年度:4名招へい 2005年度:3名招へい 2006年度:5名招へい 2007年度:3名招へい 2008年度:1名招へい 2009年度:1名招へい 2010年度:2名招へい 2011年度:2名招へい(内1名推薦)				

	招へいアーティスト	アイダン・ターカー、アニアス・ワイルダー、アネット・メイヤー、アンヘリカ・ペレス・ジェルマン、インファン・オ、エイミー・スミス&ベン・ターフェ、エヴ・マホトカ、オリヴ・ビエリガ&オットー・ラムスタッド、グレイディ・ゲルブラクト&クラウディア・ヴィエイラ、ジャン・ロウ、タミコ・ティール、ダグマー・パハトナー、トラッシュ/トレジャー、トリシア・マクラレン、ハンナ・ポホヨラ、バジル・R・ツイスト、ビョルン・メルフス、ピアソン・ウイドリック ダンスシアター、フロリアン・ゴツケ、ベティーナ・ヒスタッド、ペトラ・フェルメールス、マリオン・メンツェル、マリ=アンジュ・ギュミノ、マルティーナ・カルベ、モーリーン・フレミング、ヨハネス・レンハルト、ラム・カツィール、ラ・マンガ・ビデオ&ダンス Co.、リズ・ラーマン・ダンスエクステンジ、ロイック・ストラニ、ローリー・トビー・エディソン、三浦基、岡田ムツミ、岩田美保
施設構成・内容	制作スタジオ	○
	展示スペース	○
	宿泊施設	○ センター内に宿泊施設はなし。マンスリーアパートなどの滞在先を手配。費用は事務局で負担
	その他	1993年に閉校した元・明倫小学校を一部改修して活用。1869年に開校した同校は、すべて地元の人たちの寄付によって立てられた由緒ある建物で、建築物としての文化的価値も高い。 構造:鉄筋コンクリート造 西館:地上2階建て(地下1階) 南館:地上3階建て(一部4階建て) 敷地面積:4,387 m <sup>2</sup> 延床面積:5,209 m <sup>2</sup> アーティストが制作や稽古を行うための制作室 12 部屋や、舞台公演などが催されるフリースペースや講堂がある。また、ほぼ毎月のペースで展覧内容が変わるギャラリー2部屋や、京都や芸術文化に関する書籍及び映像資料が閲覧できる図書室、芸術文化に関するイベントのチラシやポスターが設置されている情報コーナーなどが一般に開放されている。
	交通アクセス	阪急京東線「烏丸」駅、京都市営地下鉄烏丸線「四条」駅下車徒歩5分
周辺環境	京都市の中心部に位置し、交通アクセスのよい地域にある。周辺には京都府立文化博物館、京都国際マンガミュージアム、二条城などの観光・文化施設が多数点在している。	

画像



左上: Mia Cabalfin & Rhosam Prudenciano Jr. Dance Performance "HOUSEWARMING"/2012.08.03-05  
photo by Takuya Matsumi

右上: Mia Cabalfin & Rhosam Prudenciano Jr. Dance Performance HOUSEWARMING"/2012.08.03-05  
photo by Takuya Matsumi

左下: "Oliver Herring: Emi, Nabe, Kohei, Asaka Yoshitaka, Yohei, Yuma, Hiroki... "/ Opening Performance /2012.11.06

レジデンス事業の概要	対象分野	舞踊		
	招へい人数	1人	招へい期間	2012年4月－6月：調査、7月：ワークショップ・オーディション、 2013年2月－3月 レジデンス、作品制作
			募集期間	－
	受入条件	年齢制限：なし 受入対象国指定：なし <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本事業の企画趣旨、目的に賛同していること。</li> <li>● 日本で1ヶ月以上の期間滞在し、日本人芸術家と作品創作に取り組んでみたいと要望するダンスアーティスト</li> <li>● 自身の創作したダンス作品の批評文と、30分以上のダンス作品映像を3作品以上提示できること</li> <li>● 英語で基本的なコミュニケーションが可能なこと</li> <li>● 5年以上のダンスアーティストとしての経験があり、その活動実績が劇場、文化組織などの推薦を受けられるアーティスト</li> </ul>		
選考・支援	応募方法	非公募/公募 *プログラムによる		選考方法 JCDN とパートナーとなる文化組織のディレクターが、ダンス評論家、劇場関係者等の情報や意見を取り入れた上、協議し選出する。
	支援内容	渡航費助成	<input type="radio"/>	
		滞在費助成	<input type="radio"/>	
		制作費助成	<input type="radio"/>	
		成果発表・オープスタジオ	<input type="radio"/>	創作した作品への評論家、鑑賞者からのレスポンスをもらえる機会の提供
		人的サポート		
		記録集		
		その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 作品創作場所の提供と創作環境の整備</li> <li>● 日本の文化、芸能、歴史などにふれる機会の提供</li> </ul>
運営組織概要	団体名	NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク		
	URL	<a href="http://www.jcdn.org">http://www.jcdn.org</a>	事業開始年	2002年 *本プロジェクトは2011年
	所在地	〒600-8092 京都市下京区神明町 241 オパス四条 503		
	電話	075-361-4685	FAX	075-361-6225
			Email	<a href="mailto:jcdn@jcdn.org">jcdn@jcdn.org</a>
	事業目的	日本と海外諸国のダンス・アーティストが、ダンス国際交流を通じて互いの活動の視野を広め、国際的な共同創作を深めていくことで、日本から海外へ、海外から日本へ双方の芸術文化を創造・発信していくことを目的とする。 そのために、JCDN が今まで培ってきた国内外のダンスの拠点となる劇場、オーガニゼーションや、これまで実施してきたダンス・エクスチェンジで知り合ったアーティストとのネットワークを活かし、協力的なパートナーシップのもと国際的なダンス・イン・滞在アーティストを双方の国のエクスチェンジとして行い、国際的に活動するダンス・アーティストの支援、作品制作のサポートを目的に実施している。		
事業内容	国際ダンス・イン・レジデンス・エクスチェンジ・プロジェクトの第二弾として、韓国との交換プログラムを実施する。韓国からダンスアーティストのチョン・ヨンドウ氏を招へいし、福岡で作品制作を行う。 4月－6月：作品制作に向けた日本の調査のため、2回の来日 7月：ダンサーを選出するためのワークショップ・オーディションを東京と福岡で開催 2013年2月－3月：選出されたダンサーとの作品制作を、福岡市内の演劇・音楽練習所において、1ヶ月間行う 2013年3月23日、24日：スタジオショーイング、日本と韓国のダンスによる交流の可能性についてのシンポジウムを開催する 2014年：日本人アーティストが韓国に滞在して、韓国人アーティスト・ダンサーと共に作品制作を行う。本作品と、韓国で制作された日本人アーティストの作品の両作品を韓国・日本にて行う			

	事業実績 ／成果	2002－2009年：日米振付家交換レジデンシープロジェクト 2004年 ● JCDN 国際クリエイティブ・レジデンシープロジェクト ● 京都芸術センター「アーティスト・イン・レジデンス・プログラム 2004」プログラムコーディネーター 2006年：オーストラリアー日本ダンスエクスチェンジ 2006 2008年：ダンスライフフェスティバル 2008 2009年：別府現代芸術フェスティバル 2009「混浴温泉世界」ダンス部門『ベップダンス』ディレクター 2011－2012年：日本ーフィンランド コンテンポラリーダンス レジデンス エクスチェンジ共同製作プログラム	
	招へいア ーティスト	チョン・ヨンドウ(2012年度)	
施設 構成・ 内容	制作スタジオ		
	展示スペース		
	宿泊施設		
	その他		
	交通アクセス		
	周辺環境		

レジデンス事業の概要	対象分野	指定なし*芸術分野のボーダーを越えて、共鳴する表現活動を見守ってゆきたい。制作、展示空間使用の基本的なルール(火の用心、危険物持込禁止など)の厳守以外は、自由な活動を!		
	招へい人数	規定なし *企画内容による	招へい期間	原則 15 日間 *ただし、夏季は村のイベントとの連動を考慮して、1-2ヶ月間を予定 * Gallery Den mym 本館では原則として2ヶ月に一度(3月、5月、7月、9月、11月の各 15 日間)の招へいアーティストの展覧会を開催。AIR 南山城村でも同時期に 15 日間の招へいアーティスト展を行う。 *上記以外の月は、「滞在制作」「ゼミ活動」「研究会」など随時受入れ *1日の滞在も可能
			募集期間	随時
受入条件	年齢制限:18 歳以上 受入対象国指定:なし その他:必ずしも「アート」という概念にとらわれることない、生の“人間の作業”をダイナミックに取り込んでゆきたい。			
選考・支援	応募方法	公募	選考方法	青い家プロジェクトメンバーによる選考
	支援内容	渡航費助成		
		滞在費助成		制作内容、イベント内容により異なるが、概算で一人あたり 2,000 円(内税)程度の滞在費を滞任者が負担
		制作費助成		
		成果発表・オープンスタジオ	○	Gallery Den mym 本館での展示・発表も可(使用料不要)
		人的サポート	○	プロジェクトメンバー6名がデザイン、翻訳、プロデュースなどをサポート
		記録集	○	Gallery Den mym 本館のウェブサイトなどに記録
その他	PR フライヤーは主軸の5展覧会開催のみ主催者が作成(ただし、印刷代は作家が負担)。それ以外の発表に関しては各自作成、デザイナー(プロジェクトメンバー)に依頼する場合はデザイン料要相談。			
運営組織概要	団体名	“青い家”プロジェクト		
	URL	<a href="http://galleryden-mym.com">http://galleryden-mym.com</a>	事業開始年	2012 年
	所在地	〒619-1422 京都府相楽郡南山城村字高尾小字下広見 35		
	電話	0743-94-0012	FAX	
			Email	<a href="mailto:gdmym@nifty.com">gdmym@nifty.com</a>
	事業目的	現代の切実な表現活動は、都会でしか生かれない「柔なもの」ではないはずで、むしろ故郷や原風景のなかで試されるべきである。現代アートの道なき道を、“体感”として切り開いてゆきたい。		
	事業内容	永い年月を重ねて、人々が営んできた生活の足跡が、この山里のいたるところにある。わたしたちが向かおうとする明日は、この足跡のメッセージを如何様に体感してゆくかにかかっている。Gallery Den mym 本館での「作品の展示、鑑賞」という仕業は言うに及ばず、AIR 南山城村での滞在を経て生み出される「作品の制作プロセスが孕むダイナミズム」にも触れてゆきたいと思っている。		
事業実績／成果	2013 年3月までの「展覧会企画」が進行中。  【事業実績】 <ul style="list-style-type: none"> <li>• SJQサウンドインスタレーション[A/o]: 音楽集団「SJQ」のメンバーが当地に滞在して収録した音を素材に楽曲を制作して、“青い家”全館の局所に音響装置を埋め込み、会期中の12時-17時にサウンドが自動制御で流れるサウンドインスタレーションを制作</li> <li>• しまだそう滞在平面制作「シマダラシックパーク」: しまだそうが展開するテーマパーク</li> <li>• 林勇気「すべては道の途中: 映像作家の林勇気による作品展示(2012年8月の村夏フェス「高尾小フェス」にあわせて開催)</li> <li>• 2つの森(Zwei Walder)ーデュッセルドルフと南山城村: デュッセルドルフ留学中の岩名泰岳が、数人の日独ペイント仲間と共同制作</li> </ul>			

	招へいアーティスト	SJG/ Samurai Jazz Quintet、suelu、しまだそう、伊吹拓、冬耳、小橋陽介、岩名泰岳、徳岡優子、志村高弘、松野智樹、水垣&岡本、池田慎、長谷川一郎	
施設構成・内容	制作スタジオ	○	160 m <sup>2</sup>
	展示スペース	○	160 m <sup>2</sup>
	宿泊施設	○	88 m <sup>2</sup> (10 m <sup>2</sup> 前後の 8 部屋)
	その他	使用スペースは、使用者の目的に応じて変更可能。事前に要相談	
	交通アクセス	詳細= <a href="http://galleryden-mym.com/access.html">http://galleryden-mym.com/access.html</a> (Gallery Den mym 本館へのアクセス)	
周辺環境	南山城村は、面積 6,421ha、人口約 3,000 人の京都府東南端に位置する京都唯一の「村」。人里離れた谷間や丘陵には、おもに茶畑の緑が広がり、木津川、名張川の清流を望む。神社が点在するほか、役場近くに、「やまなみホール」(村内外の文化イベント開催)や「地産特売場」があり、村民の交流場となっている。神社、廃校などで村祭りが盛ん。「Gallery Den mym 本館」はアートの拠点として注目を集めている。		

画像



35 近代化産業遺産を活用したアトスペースによる国際連携プログラム				
レジデンス事業の概要	対象分野	美術、都市計画		
	招へい人数	2人	招へい期間	2013年2月1日～3月4日
			募集期間	
	受け入れ条件	年齢制限:なし 受入対象国指定:オランダ *NDSMにて活動、または関連事業にて活動しているアーティスト、及びオランダを活動拠点にしているアーティストであること その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災復興支援に資する作品制作を行うこと</li> <li>滞在制作後、日本滞在の成果をオランダにて発表すること</li> </ul>		
選考・支援	応募方法	公募 *NDSMを通じてオランダにて公募を行う	選考方法	NDSMディレクター、当プロジェクトディレクター両者による選考
	支援内容	渡航費助成	○	
		滞在費助成	○	
		制作費助成	○	
		成果発表・オープンスタジオ	○	*状況による成果発表・オープンスタジオの提供
		人的サポート	○	作品制作、広報周知に関するソフト面のサポート
		記録集		
		その他		
運営組織概要	団体名	リッジクリエイティブ株式会社		
	URL	<a href="http://www.namura.cc/">http://www.namura.cc/</a>	事業開始年	2012年
	所在地	〒559-0011 大阪市住之江区北加賀屋 4-1-55 名村造船跡地		
	電話	06-4702-7085	FAX	06-4702-7086
			Email	<a href="mailto:cco@namura.cc">cco@namura.cc</a>
	事業目的	造船所跡地を改修した複合芸術施設「クリエイティブセンター大阪」(日本)と「NDSM」(オランダ)の国際連携を目的として、継続した滞在制作プログラムにより、更なる展開を目指す。		
	事業内容	<b>【ROBODOCK travels to creative shipyard in Japan】</b> 2011年3月に起こった東日本大震災復興支援の一環として、招へいアーティストが大阪・北加賀屋での滞在制作により、現代へのメッセージとして再構築したアートプランの発表、展示を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>「Robodock」日本初上陸 (名村造船所跡地:CCO)</li> <li>巨大自転車“Dicyclet”による移動式写真展覧会</li> <li>シアターアンサンブル「Tuig」日本初公演“Salto Vitale” 会期: 2月17日(金)、18日(土) 両日ともに19:00～21:00</li> </ul>		
事業実績／成果				

	招へいアーティスト	MAIK TER VEER、RUDOLF PANHUIJZEN	
施設構成・内容	制作スタジオ		
	展示スペース	○	
	宿泊施設	○	
	その他		
	交通アクセス	大阪市営地下鉄四つ橋線「北加賀屋」駅4号出口より徒歩 10 分	
	周辺環境		

36 Artist In Residence OSAKA(アーティストインレジデンス大阪/AIR 大阪)						
レジデンス事業の概要	対象分野	演劇、音楽、美術、建築、工芸、写真／映像、彫刻、デザイン、パフォーマンス、ファッション *創作活動に携わっている方であれば、どなたでも滞在制作の利用が可能(自費)				
	招へい人数	5人(予定)	招へい期間	随時。企画・アーティストにあわせて決定		
			募集期間	随時。企画・アーティストにあわせて決定		
受入条件	年齢制限:なし 受入対象国指定:オランダ					
選考・支援	応募方法	公募 *時期などは未定		選考方法		
	支援内容	渡航費助成	○	支援条件はすべて企画内容・アーティストによって異なる		
		滞在費助成	○	支援条件はすべて企画内容・アーティストによって異なる		
		制作費助成	○	支援条件はすべて企画内容・アーティストによって異なる		
		成果発表・オープンスタジオ				
		人的サポート				
		記録集				
		その他				
運営組織概要	団体名	Creative Center Osaka(クリエイティブセンター大阪)				
	URL	<a href="http://airosaka.com/">http://airosaka.com/</a> (AIR 大阪)		事業開始年	2003年	
		<a href="http://www.namura.cc">http://www.namura.cc</a> (クリエイティブセンター大阪)				
	所在地	〒559-0011 大阪府大阪市住之江区北加賀屋 4-1-55 名村造船跡地				
	電話	06-4702-7085	FAX	06-4702-7086	Email	<a href="mailto:cco@namura.cc">cco@namura.cc</a>
	事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 関西一円で創作活動を予定している方の滞在支援</li> <li>● 国内外を問わず、創作活動に携わっている方々同士や地域との交流の場の提供</li> <li>● 「北加賀屋クリエイティブ・ビレッジ構想」による創造拠点としての地域活性化</li> <li>● 北加賀屋地区に点在する空き家の再生促進</li> <li>● アートボランティアスタッフの主体的な企画立案と、運営実績の機会提供</li> </ul>				
	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AIR大阪、クリエイティブセンター大阪での滞在制作</li> <li>● アーティスト、またはアートボランティアスタッフの企画・立案によるイベント開催</li> <li>● 近代化産業遺産(名村造船所大阪工場跡地)を未来に活かす地域活性化委員会会議への参加・協力</li> <li>● クリエイティブセンター大阪との提携プログラム</li> <li>● アートコンプレックスグループとの提携プログラム</li> </ul>				
事業実績／成果	<b>【事業実績】</b> 年間滞在アーティスト数 2003-2007年(AIR 京都):約1,200名 2008-2010年(AIR 大阪):約450名 <b>【成果】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● フロレンティン・ホフマン「Rubber Duck Project2009」(水都大阪2009・NAMURA ART MEETING・OSAKA光のルネサンス出品、2009)</li> <li>● カトリン・パウル個展「Aufgelost Kristallisiert融解・結晶」(クリエイティブセンター大阪、2010)</li> <li>● b.「b.friends on the wall」(おおさかカンヴァス推進事業、2011)</li> <li>● b.「b.friends in the sky」(OSAKA光のルネサンス出品、クリエイティブセンター大阪にて展示、2011)</li> <li>● ノンバーバルパフォーマンス「ギア」第2弾トライアウト公演(2011)</li> <li>● ノンバーバルパフォーマンス「ギア」第4弾長期トライアウト公演(2011)</li> <li>● その他、AIR大阪主催による落語会、アートフリーマーケット、自主制作映画上映会、北加賀屋アートピクニックなどのイベントを開催</li> </ul>					

	招へいアーティスト	b.(ビードット)、カトリン・パウル、ノンバーバルパフォーマンスグループ「ギア」、フロレンティン・ホフマン	
施設構成・内容	制作スタジオ	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>• クリエイティブセンター大阪(約10ヶ所のスペースを所有するアート複合施設)内利用可能箇所多数</li> <li>• AIR大阪内ギャラリーなど</li> </ul>
	展示スペース	○	<p>クリエイティブセンター大阪内ホワイエ(497 m<sup>2</sup>)、ギャラリー/ホワイエ(244 m<sup>2</sup>)、AIR 大阪内ギャラリー(8 m<sup>2</sup>)他、利用可能箇所多数</p> <p>*利用条件は応相談</p>
	宿泊施設	○	クリエイティブセンター大阪利用者割引あり
	その他	同グループで運営している大阪市立芸術創造館(旭区)、ART COMPLEX1928(京都・三条)での作品制作・発表に関する連携が可能。	
	交通アクセス	市営地下鉄四つ橋線「北加賀屋駅」4番出口より徒歩3分	
	周辺環境	<p>北加賀屋は、昭和初期からおもに造船業などの重工業でたいへん栄えてきた。しかし、時代とともに業種が移り変わり、生産拠点も地域の外へ移されるなどといった動きが進む一方で、1989年に返還された名村造船跡地の新しい活用も十分に進んでいなかった。ここ数年、こうした地域に着目する文化芸術活動を行う人々が拠点を置き始め、さらには北加賀屋を文化芸術が集積する創造拠点として活性化していこうとする「北加賀屋クリエイティブ・ビレッジ構想」が、アート関係団体や地元企業との連携のもと推進され始めた。</p> <p>梅田より約20分、なんばより約10分。施設近隣にスーパー、コンビニ、ホームセンター、銭湯(25時まで入場可)、100円ショップなどあり。最寄駅前(北加賀屋駅)には、飲食店(お好み焼き、たこ焼き、和食など)多数あり。</p>	

37 DANCE BOX					
レジンダンス事業の概要	対象分野	パフォーマンス *とくにコンテンポラリーダンス			
	招へい人数	10人程度	招へい期間	年間を通じて随時。プログラムにあわせて決定	
			募集期間	年間を通じて随時。プログラムにあわせて決定	
	受入条件	年齢制限:なし 受入対象国指定:なし *おもにアジアとのネットワークの強化に努めている その他:プログラムの内容やプランによって決定			
選考・支援	応募方法	非公募 *現在のところは非公募であるが、将来的には公募制へと進めていきたい		選考方法	ダンスボックスの運営スタッフで決定
	支援内容	渡航費助成	○	企画条件/支援内容は各プログラムによって異なる	
		滞在費助成	○	企画条件/支援内容は各プログラムによって異なる	
		制作費助成	○	企画条件/支援内容は各プログラムによって異なる	
		成果発表・オープンスタジオ	○	企画の内容に準じる	
		人的サポート	○	英語での対応可	
		記録集	○	NPO 法人 DANCE BOX の年度の報告書に掲載	
		その他			
運営組織概要	団体名	NPO 法人 DANCE BOX			
	URL	<a href="http://www.db-dancebox.org/">http://www.db-dancebox.org/</a>	事業開始年	1996年	
	所在地	〒653-0041 神戸市長田区久保町6丁目1番 アスタくにつか4番館4階			
	電話	078-646-7044	FAX	078-646-7045	
			Email	<a href="mailto:mail@db-dancebox.org">mail@db-dancebox.org</a>	
	事業目的	DANCE BOX は、ダンス芸術の「自己表現の力」「コミュニケーションを創る力」「国際性」を現代社会に活かし、市民がより豊かな生活を享受できる環境をつくること、またダンスを通じて豊かな感性を持つ子どもの育成、及び人と自然が共生できる文化的なまちづくりの推進をはかることを目的としている。			
	事業内容	公募制の滞在アーティスト・プログラムの設置については、現在準備中である。現在は、DANCE BOX の主催もしくは共催事業として、アーティストの受け入れを行い、事業の遂行を行なっている。			
事業実績/成果	<b>【事業実績】</b> 2005年度:4名招へい(Osaka Internatinal Works 2005) 2006年度:9名招へい(Osaka Internatinal Works 2006、OSAKA-Asia Contemporary Dance Festival2007) 2007年度:1名招へい(Pichet Klunchun Osaka Resident Program/Japan Tour) 2008年度:3名招へい(dB Phisical Arts Festival 大阪 BABA) 2009年度:7名招へい(KOBE-Asia Contemporary Dance Festival #1、Osaka Resident Work by Arkadi Zaides)				
招へいアーティスト	アルカディ・ザイデス、ケイト・デンボロー、ジェコ・シオンポ、ビー・ワンダー、ピチェ・クランチェン				

施設構成・内容	制作スタジオ	○	約 56 m <sup>2</sup>
	展示スペース	○	間口8m×奥行 7.2m
	宿泊施設		
	その他		
	交通アクセス	JR「新長田駅」より徒歩8分 新長田駅までは、京都より約 70 分、大阪より約 40 分、三宮より約 15 分	
周辺環境	神戸市長田区は、同市の中南部に位置し、総人口は 10 万人程度。全国でも有数のコア・タウンがあり、本場の味と言われるお好み焼き屋や焼肉店も多く、そば飯もここが発祥である。阪神・淡路大震災では火災による被害が発生、その再開発にて、2009 年には「鉄人 28 号」の巨大像が新長田駅南側に誕生し、新たな地域の顔の象徴として親しまれている。		

画像



滞在アーティスト: ロニータ・ムカルジー (インド)  
写真: 草元利枝



滞在アーティスト: チョイ・カファイ (シンガポール)  
舞台出演: 文、田中幸恵  
写真: 草元利枝

レジデンス事業の概要	対象分野	絵画、写真、版画、そのほかあらゆる平面作品*テーマ=古と今——回帰的創造				
	招へい人数	5人程度	招へい期間	10日間 *2013年1月20日-29日		
			募集期間	2012年11月30日(金)		
受入条件	年齢制限:現代美術などの分野で活動する原則18歳以上35歳以下の者。高校生は除く 受入対象国指定:なし *詳細=明日香村役場ウェブサイト					
選考・支援	応募方法	公募 *詳細=明日香村役場ウェブサイト		選考方法	主催者等による審査を経て決定	
	支援内容	渡航費助成				
		滞在費助成	○	宿泊場所の飛鳥寺研修会館 修徳坊の宿泊費(朝・夕食代含む)		
		制作費助成	○	滞在制作にかかる原材料費として支給(上限5万円)		
		成果発表・オープンスタジオ	○	*成果発表として、制作した作品を奈良県立万葉文化館で展示		
		人的サポート	○			
		記録集	○	主催者により作家の作品、制作活動を写真やビデオ等で記録する。ただし、その著作権は主催者にあり、広報活動に利用することができるものとする。		
その他	*詳細=明日香村役場ウェブサイト					
運営組織概要	団体名	主催=奈良県明日香村 共催=奈良県立万葉文化館、(財)明日香村地域振興公社				
	URL	<a href="http://www.asukamura.jp/">http://www.asukamura.jp/</a>		事業開始年	2012年	
	所在地	〒634-0111 奈良県高市郡明日香村大字岡55番地				
	電話	0744-54-2001 (内線322)	FAX	0744-54-2440	Email	<a href="mailto:shinko@tobutori-asuka.jp">shinko@tobutori-asuka.jp</a>
	事業目的	歴史と自然あふれる明日香村から受ける「インスピレーション」と地域住民や異文化との出会いによって生まれる「インスパイア」が次世代アーティストの創作活動に好影響を与え、また住民も本事業を通じ再発見した村の魅力に新たな価値観を見出し地域の活性化につなげる。さらには、アートと村の新たな魅力を観光資源として情報発信することによって誘客の促進を目指す。				
	事業内容	将来性のある若手アーティストが、飛鳥のロケーションからインスピレーションを受け、従来の発想や枠組みにとらわれない作品を制作・表現(展示)するための芸術創作活動(アーティスト・イン・レジデンス)とともに、成果発表の場として奈良県立万葉文化館での作品展示や地域理解の促進をめざす普及活動での支援を行う。 【主なプログラム】 ● 滞在期間中の5夜程度、スペシャルアドバイザー等との芸術談義(車座夜話) ● 滞在期間中「国宝高松塚古墳壁画修理作業室」の見学等				
	事業実績／成果					
招へいアーティスト						

施設 構成・ 内容	制作スタジオ	○	
	展示スペース	○	
	宿泊施設	○	
	その他		
	交通アクセス	[A]飛鳥寺研修会館 修徳防 近鉄橿原線・近鉄南大阪線「橿原神宮前駅」下車、東口より奈良交通明日香周遊バス(かめバス)「飛鳥大仏前」より徒歩5分 [B]奈良県立万葉文化館 近鉄橿原線・近鉄南大阪線「橿原神宮前」駅下車、東口より奈良交通明日香周遊バス(かめバス)「万葉文化館西口」徒歩0分 *ともに近鉄吉野線「飛鳥駅」及び近鉄大阪線「桜井駅」からのバスもあり	
	周辺環境	明日香村は、奈良県の中央部に位置する村である。いまから1400年前、この明日香村には、都が営まれ、大化の改新を経て我が国最初の律令国家体制が形成された。当時、この地には仏教その他の大陸文化が伝来し、世界でも最先端の文明が開花した。現在、村内には宮跡、寺跡、古墳等の多数の埋蔵文化財が眠るとともに、「万葉集」に詠われた風景が残され、「日本人の心のふるさと」と称されている。	

## ARKO (Artist in Residence Kurashiki, Ohara)

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、工芸、写真／映像、パフォーマンス、版画				
	招へい人数	毎年1人 2006年度は2人	招へい期間	最長3ヶ月		
			募集期間	11月－12月頃(毎年)		
受入条件	年齢制限:なし 受入対象国指定:なし その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 美術に関わるアーティストであること</li> <li>● 健康状態が良好で、倉敷にて独力で日常生活ができること</li> <li>● 本プログラムの広報活動に協力できること(滞在期間中に各種メディアからの取材を受付、最低1回のアトリエ公開を行う)</li> <li>● 滞在終了とともに作品を完成させ、公开发表ができること</li> </ul>					
選考・支援	応募方法	公募 ＊大原美術館ウェブサイトより応募用紙をダウンロードして必要事項を記入のうえ、作品画像を添付して大原美術館へ郵送		選考方法	大原美術館にて選考	
	支援内容	渡航費助成	<input type="radio"/>	居住地から倉敷までの往復1度の交通費		
		滞在費助成	<input type="radio"/>	生活日当＝3,000円×滞在日数(月の初めに当月分を現金にて支給)		
		制作費助成	<input type="radio"/>	事前に美術館側と協議した金額を提供		
		成果発表・オープスタジオ	<input type="radio"/>	大原美術館で公開展示会を実施		
		人的サポート	<input type="radio"/>	材料の調達、日常生活の支援などには、大原美術館スタッフが当たる。ただし、制作上の技術的な支援はなし		
		記録集	<input type="radio"/>	招へい期間終了後に記録集を作成、美術館などに配布		
		その他				
運営組織概要	団体名	財団法人 大原美術館				
	URL	<a href="http://www.ohara.or.jp">http://www.ohara.or.jp</a>		事業開始年	2005年	
	所在地	〒710-8575 岡山県倉敷市中央 1-1-15				
	電話	086-422-0005	FAX	086-427-3677	Email	<a href="mailto:info@ohara.or.jp">info@ohara.or.jp</a>
	事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 若手作家の支援</li> <li>● 大原美術館の礎を築いた洋画家・児島虎次郎の旧アトリエ:無為村荘の活用</li> <li>● 倉敷からの発信</li> </ul>				
	事業内容	「若手作家の支援」「大原美術館の礎を築いた洋画家・児島虎次郎の旧アトリエ:無為村荘の活用」「倉敷からの発信」の3点を機軸として、滞在制作と、完成作の大原美術館での公開。 毎年1名のアーティストを招へいし、それぞれが一定期間、無為村荘のアトリエで滞在制作。招へい期間終了後、完成作を大原美術館にて展示。また、記録集を作成、美術館などに配布。				
	事業実績／成果	2005－2012年度:9名招へい				
招へいアーティスト	三瀬夏之介、北城貴子、彦坂敏昭、押江千衣子、津上みゆき、浅見貴子、町田久美					

施設構成・内容	制作スタジオ	○	電気・空調などの設備はなし。使用方法について事前に相談のこと。 大原美術館の礎となる作品を収集した児島虎次郎が居を構えた無為村荘(むいそんそう)内にあるアトリエ。通常は非公開。床面積約 70 m <sup>2</sup> 。壁高約 3m。東西南は壁面、北面はガラス窓。1927年に建設、木造。空調、電気配線などの設備はなし
	展示スペース	○	
	宿泊施設	○	光熱費主催者負担のうえ、主催者側で用意した物件(ワンルームタイプのマンスリーマンション)を提供。最低限の日常生活を営む家具、備品をそなえ、アトリエ及び美術館に近接する。アトリエより自転車で15分程度(自転車貸与)
	その他		
	交通アクセス		JR「倉敷駅」より車で約10分、自転車で約20分
	周辺環境		大原美術館より北西に約3km、倉敷市街に程近いながら、高梁川の蛇行する自然豊かな景勝の地、酒津にある大原家の別邸・無為村荘内に立地。高低差のある二千坪あまりの敷地に複数の建物が点在。滞在制作にはそのうちのひとつ、1927年に建設されたアトリエを用いる。

画像



レジデンス事業の概要	対象分野	演劇、音楽、美術、写真／映像、彫刻、版画		
	招へい人数	2010 年度 レジデンスサポート:3人 レジデンスフェロー:4人 2011 年度 レジデンスサポート:3人1組 レジデンスフェロー:4人1組 2012 年度 レジデンスサポート:8組 レジデンスフェロー:2組	招へい期間	レジデンスサポート:原則として 50 日間 (2013 年1月 22 日－3月 12 日) レジデンスフェロー:1－4週間
	募集期間	レジデンスサポート:2012 年4月－7月 ＊8月1日締切 レジデンスフェロー:通年		
	受入条件	年齢制限:なし 受入対象国指定:なし その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>● レジデンスサポート:若く(40歳以下)創作並びに滞在中の地域との交流に意欲的なアーティストであること。英語でのコミュニケーションがとれること。</li> <li>● レジデンスフェロー:他機関からの支援・助成によって来村することができ、特に芸術村でのリサーチ、制作が適当と認められる芸術家、研究者、並びに過去のレジデンスアーティスト。レクチャーやワークショップなどなんらかのかたちでの公開プログラムを行うこと。</li> </ul>		
選考・支援	応募方法	公募 レジデンスサポート:アーティストによる直接応募 (ウェブサイトから募集要項の入手が可能) レジデンスフェロー:芸術村担当者のリサーチに基づいた候補者の選考	選考方法	レジデンスサポートでは、選考委員会により招へいアーティストを最終決定
	支援内容	渡航費助成	○	レジデンスサポート:あり(アーティストの在住地による所内基準額) レジデンスフェロー:なし
		滞在費助成	○	レジデンスサポート:あり レジデンスフェロー:なし
		制作費助成	○	レジデンスサポート:あり(企画内容に応じて変動) レジデンスフェロー:なし
		成果発表・オープスタジオ	○	レジデンスフェローでは代替の公開プログラムでも可
		人的サポート	○	
		記録集	○	
その他				
運営組織概要	団体名	秋吉台国際芸術村		
	URL	<a href="http://www.aiav.jp">http://www.aiav.jp</a>	事業開始年	1998 年
	所在地	〒754-0511 山口県美祢市秋芳町秋吉 50 番地		
	電話	0837-63-0020	FAX	0837-63-0021
		Email	<a href="mailto:info@aiav.jp">info@aiav.jp</a>	
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アーティストに普段とは異なる場所での滞在の機会を与え、その場所やそこに生活する人たちとの関わりのなかで創作し、生活するための時間と場所を提供する</li> <li>● 地域の人々にアーティストと交流する機会及び鑑賞の場を提供し、芸術文化に関心を寄せる人々の裾野を広げるとともにその醸成をはかる</li> </ul>			
事業内容	<b>【アーティスト・イン・レジデンス事業】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● レジデンスサポート:国内外から幅広いジャンルのアーティストを公募し、選出されたアーティストを招へいする。参加アーティストは滞在創作活動並びに地域交流活動、公開プログラムを行う</li> <li>● レジデンスフェロー:リサーチや制作、交流、交換を目的とし、他機関からの助成や支援を受けて短期滞在活動を行う。公開プログラムあり</li> </ul> <b>【その他の事業】</b> セミナー&ワークショップ事業/やまぐちアーティスト支援事業/芸術村あーとルーム/教育普及事業/鑑賞事業/芸術村プログラムサポート事業			

事業実績 ／成果	<b>【事業実績】</b> 1998年度から2011年度に、招へい人数のべ 213組 157名(美術 99組、舞踏9組、写真4組、音楽 13組、その他2組)	
招へいアーティスト	アドリアナ・サラザール、アンナ・ストランド、クレア・ヒーラー&ショーン・コーデイロ、ジャスミナ・イオベット&ルイス・フェルナンデス・ポンス、ティファニー・チュン、ヘイニ・ヌカリ、マイク・ボード、レハマ・チャチャグ、ヴァレリア・ロクサナ・プリモスト、ヴォイチェフ・ギレビツ、山田健二、椎名勇仁、津田道子	
施設構成・内容	制作スタジオ ○	<ul style="list-style-type: none"> <li>● スタジオ1-7:20-49㎡(アトリエとして使用可能)</li> <li>● 研修室1-3:94-162㎡(研修室1は、ダンスなどの練習が可能)</li> </ul>
展示スペース	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ギャラリー:約267㎡</li> <li>● アンフィシアター(野外劇場):観客スペースは芝生スロープ。約600人収容</li> <li>● 中庭(屋外):739㎡(観客スペースは階段状。約300人収容)</li> </ul>
宿泊施設	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 客室:洋室8部屋、和室28部屋(最大100人宿泊可能)</li> <li>● 食堂:250㎡(最大120席)</li> <li>● 暗室:10㎡(現像機材などあり)</li> </ul>
その他	1998年8月25日創設 敷地面積:320,000㎡ 建築面積:本館=2,882㎡、宿泊棟=1,475㎡ 延床面積:本館=5,164㎡、宿泊棟=2,594㎡ 階数:本館=地下1階+地上3階、宿泊棟=地下1階+地上2階 駐車場:約250台(臨時駐車場を含む) ホール:482㎡ 客席数:最大480席(固定席ではない) 舞台(オープンステージ/間口:6.3-14.4m[可動ステージ]、奥行:5-6.3m、高さ:12.6m[天井高]) 残響時間:約2秒(空席時設計値) 楽屋・控室(楽屋1、2:30㎡、楽屋3:55㎡)	
交通アクセス	山口宇部空港より車で約1時間10分 JR山陽新幹線「新山口駅」より車で約40分 山口市内より自動車約30分	
周辺環境	木々に囲まれた静かで創作活動に集中できる環境。近隣には、日本最大のカルスト台地の秋吉台や秋芳洞など特殊な景観がみられ、アーティストの創作意欲を刺激している。	
画像		

41 神山アーティスト・イン・レジデンス (KAIR)						
レジデンス事業の概要	対象分野	美術、写真／映像、彫刻、版画				
	招へい人数	3人	招へい期間	2013年8月末－11月(約80日間)		
			募集期間	2012年12月－2013年2月15日		
受入条件	年齢制限:なし 受入対象国指定:なし その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 期間中、少なくとも1点以上の作品を制作すること</li> <li>• 期間中、招へいされた作家と共同生活ができること</li> <li>• レジデンスフェロー:他機関からの支援・助成によって来村することができ、特に芸術村でのリサーチ、制作が適当と認められる芸術家、研究者、並びに過去のレジデンスアーティスト。レクチャーやワークショップなどなんらかのかたちでの公開プログラムを行うこと他の作家や地域住民と交流ができること</li> <li>• 英語がある程度理解できること</li> </ul>					
選考・支援	応募方法	公募 実行委員会が指定する申請書により応募 大学、美術館などの公的機関、もしくはそれに準ずる機関の推薦が必要		選考方法	選考委員会による選考	
	支援内容	渡航費助成	○	上限:海外15万円、国内7.5万円		
		滞在費助成	○	食費、生活用品などを含め期間中10万円を助成		
		制作費助成	○	一人あたり材料費を含め30万円を上限に助成		
		成果発表・オープスタジオ	○			
		人的サポート	○	希望と必要に応じてサポート		
		記録集	○	報告書を作成、コンピュータ(ブロードバンド・インターネットアクセス可能)		
		その他				
運営組織概要	団体名	神山アーティスト・イン・レジデンス実行委員会				
	URL	<a href="http://www.in-kamiyama.jp/art/kair/">http://www.in-kamiyama.jp/art/kair/</a>	事業開始年	1999年		
	所在地	〒771-3310 徳島県県西郡神山町神領字中津132(神山町農村環境改善センター内)				
	電話	088-676-1177	FAX	088-676-1177	Email	<a href="mailto:info.gvi@in-kamiyama.jp">info.gvi@in-kamiyama.jp</a>
	事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「神山国際芸術家村」構想の中核事業</li> <li>• 地域住民が新しい価値感に触れることによって、未知との交流を楽しむこと</li> <li>• アーティスト自身の将来の活動に好影響を及ぼすこと</li> </ul>				
	事業内容	芸術村全般 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 町内に滞在し、学校、遊休施設などをアトリエとした創作活動の実施後、展覧会での作品展示</li> <li>• オープンアトリエ・デー:地域住民へのアトリエの公開</li> <li>• 課外授業:町内の子どもたちに芸術を通じた授業を行い、国際理解を深めてもらう</li> <li>• 食の交流:芸術家の故郷料理と日本料理を共につくり、食を通じて交流を深める</li> <li>• 招へい期間中に特別ゲストや講師を招いてのイベントの開催</li> <li>• 報告書の作成</li> </ul>				
	事業実績／成果	<b>【事業実績】</b> 2012年までに、45組のアーティストを招へい(外国人28名、日本人17名) 「作品展覧会」において作品展示を行なっている。				

		<b>【成果】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちへの国際理解の生きた実践の場となり、興味や関心が増している</li> <li>地域住民が後援会をつくり独自で作家を招へいし、創作活動の手助けを行うなど、芸術に対する関心が高まっている。</li> <li>招へいた作家や芸術愛好家が、神山町にアトリエの拠点を移したり、定住するなど、国際芸術家村の原形が生まれつつある</li> <li>徳島県内の現代アートの拠点としての地歩を固めつつある</li> </ul>	
	招へいアーティスト	ポーワング、内海聖史、出月秀明、城戸みゆき、安岐理加、廣田緑、水谷一	
施設構成・内容	制作スタジオ	○	
	展示スペース	○	
	宿泊施設	○	
	その他		
	交通アクセス	JR「徳島駅」から自動車です約 50 分	
	周辺環境	神山町は、徳島県の中央部に位置する山と緑に囲まれた人口約 6,000 人の町。	

画像



左上: 撮影: 小西啓三

右上: Poh Wang "Time & Rip" 撮影: 小西啓三

42		アート・ビオトープ小豆島公募プログラム				
レジデンス事業の概要	対象分野	演劇、美術、工芸、写真／映像、彫刻、パフォーマンス *「工芸」は、陶芸、染織 *「彫刻」は、小豆島花崗岩を用いて制作する作家を優先 *「染色」は、小豆島産オリーブを用いて制作する作家を優先				
	招へい人数	若干名	招へい期間	4月～翌3月 *滞在期間:最長3ヶ月		
			募集期間	12月締切		
受入条件	年齢制限:なし *学生不可 受入対象国指定:なし その他:アーティスト、あるいは研究者であること					
選考・支援	応募方法	公募	選考方法	提出資料などをもとに選考。選考委員制あり		
	支援内容	渡航費助成				
		滞在費助成	○	島内宿泊施設を無償(光熱費とも)にて提供		
		制作費助成				
		成果発表・オープンスタジオ	○	石彫作品は、島内に恒久展示		
		人的サポート		特に通訳は付けないが、コーディネート・スタッフがいる。		
		記録集	○	ウェブサイト上で公示		
その他	滞在中の移動手段としてクルマの手配調整。要運転免許					
運営組織概要	団体名	NPO 法人アート・ビオトープ				
	URL	<a href="http://www.artbiotop.jp">http://www.artbiotop.jp</a>	事業開始年	2009年		
	所在地	〒761-4111 香川県小豆郡土庄町甲 1313-1				
	電話	0879-62-3445	FAX	0879-62-3445	Email	<a href="mailto:yoko_yagyuu@olivelife.net">yoko_yagyuu@olivelife.net</a>
	事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>若手芸術家の育成</li> <li>芸術によって島内の健全な若者育成に貢献する</li> <li>小豆島の歴史と産業を未来に残し伝える</li> </ul>				
	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>プログラム中に作家の企画ワークショップの開催(1ヶ月に1回の開催義務)</li> <li>プログラム終了後には、展覧会(小豆島、東京、那須を巡回。作品を販売)。記録を年度ごとにアーカイヴ化</li> <li>*石彫作品は島内に恒久展示</li> <li>*プログラム中の成果作品は事業運営者へ寄贈</li> </ul>				
	事業実績／成果	2009年度:石彫1名(大野綾子、日本)、染色1名(稲垣有里、日本) <ul style="list-style-type: none"> <li>両名とも2回のWS開催</li> <li>「2009年度AIRプログラム作家展」(東京・千鳥が淵「冊」)</li> <li>「2009年度AIRプログラム作家展」(東京・千鳥が淵「冊」、2010年1月)</li> </ul> 2010年度:石彫1名(栗原優子、日本) <ul style="list-style-type: none"> <li>2回のWS開催</li> </ul> 2011年度:写真1名(マル・クエルボ・ペレス、スペイン) <ul style="list-style-type: none"> <li>3回のWS開催</li> <li>「2010年度AIRプログラム作家修了報告展」(那須・二期倶楽部ホール～東京・千鳥が淵「冊」～小豆島「MeiPAM」へ巡回)</li> </ul>				

		<p>2012 年度:現代美術1名(ジェーン・チェン・ミ、米国)、絵画1名(ドナルド・キャメロン、米国)、石彫1名(インドラ・ミロサヴィエビチュ、フランス)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 2回のワークショップ開催(ジェーン・チェン・ミ)</li> <li>● 各3回のワークショップ開催(ドナルド・キャメロン、インドラ・ミロサヴィエビチュ)</li> <li>● 「ジェーン・チェン・ミ修了展」(小豆島土庄中央図書館)、「ドナルド・キャメロン修了展」(小豆島 MeiPAM)</li> <li>● 「2011年度AIRプログラム作家修了報告展」(那須・二期倶楽部ホール～東京・千鳥が淵「冊」～小豆島「MeiPAM」へ巡回)</li> </ul>
	招へいアーティスト	インドラ・ミロサヴィエビチュ、ジェーン・チェン・ミ、ドナルド・キャメロン、マル・クエルボ・ペレス、大野綾子、栗原優子、稲垣有里
施設構成・内容	制作スタジオ	○ <ul style="list-style-type: none"> <li>● 79.8㎡(26.6㎡×3階)</li> <li>● 74.4㎡</li> <li>* 提携施設=MeiPAM</li> </ul>
	展示スペース	○ <ul style="list-style-type: none"> <li>● 79.8㎡(26.6㎡×3階)</li> <li>● 74.4㎡</li> <li>* 提携施設=MeiPAM</li> </ul>
	宿泊施設	2LDK のコテージ。バス、WC、テレビ、自炊用具完備
	その他	アート・ビオトープ小豆島は、滞在制作のために作家の希望に合わせて島内の作業可能な場所(施設)を提供。展示は、作家の希望に合わせて展示、上演可能な場所(施設)を提供する。
	交通アクセス	小豆島・土庄港より自動車为数分
	周辺環境	瀬戸内海第2の大きさである小豆島。瀬戸内海の波が穏やかで雨の少ない温暖な島は、古くから「石材」、最近では「オリーブ」産業が有名である。近年、現代美術のメッカとしてたくさんの美術館が近隣(高松、豊島、小豊島、直島など)に点在し、脚光を浴びている。

43		舞台芸術レジデンス・プログラム from 高知 and 横浜 2012				
レジデンス事業の概要	対象分野	舞台芸術に関わる芸術全般				
	招へい人数	5人	招へい期間	2013年1月15日-3月16日		
			募集期間			
受入条件	年齢制限:なし 受入対象国指定:なし					
選考・支援	応募方法	非公募		選考方法	協力団体との協議ののち、プロジェクトディレクター、コーディネーターなどとの協議により決定。	
	支援内容	渡航費助成	○			
		滞在費助成	○			
		制作費助成	○			
		成果発表・オープンスタジオ	○			
		人的サポート	○			
		記録集	○			
		その他				
運営組織概要	団体名	公益財団法人高知県文化財団				
	URL	<a href="http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/">http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/</a>	事業開始年	2011年		
	所在地	〒781-8123 高知県高知市高須 353-2				
	電話	088-866-8000	FAX	088-866-8008	Email <a href="mailto:museum@kochi-bunkazaidan.or.jp">museum@kochi-bunkazaidan.or.jp</a>	
	事業目的	海外のアーティストが地域と交流しながら、劇場という枠を超え、新しい舞台芸術の形を提示することを目的としている。				
	事業内容	今年度は、初年度に続き ST スポットをパートナーとして、横浜での滞在プログラムと連携して実施。高知では、2008年にも観客体験型のパフォーマンスを行った「ベルリン、ネバダ」(ユニット名「ジェマ&シルヴィア」より改め)を再招へいし、映像とオーディオを使った観客体験型作品の創作、小発表会を行った。横浜では、英国を拠点にアーティスト育成のための滞在制作を企画運営している団体ルールズ・アンド・レグスと、ST スポットが協働し、英国より3組のアーティストとディレクター、日本より1組のアーティストが参加し、いくつかのルールを共有しながら作品の製作、発表を行った。				
	事業実績／成果	<p>横浜滞在アーティスト3組(フレンチ・モッターシェッド、マシュー・モリス、イラ・ブランド)</p> <p>1月15日 入国 15日-22日 リサーチ 1月23日-30日 創作@神奈川芸術劇場(KAAT)・中スタジオ 31日 プレゼンテーション@神奈川芸術劇場(KAAT)・中スタジオ 2月5日-8日 仕込み@神奈川芸術劇場(KAAT)・中スタジオ 9日-10日 発表会@神奈川芸術劇場(KAAT)・中スタジオ 16日 帰国 内容:リサーチ、作品創作、関係者向け小発表会</p> <p>高知滞在アーティスト1組(ベルリン・ネバダ)</p> <p>2月15日-17日 東京入り、リサーチ 18日 高知入り 19日-3月5日 県内リサーチ、作業@高知県立美術館・創作室 6日-13日 創作@かるぽーと軽運動室 14日・15日 関係者向け小発表会@かるぽーと・軽運動室 16日 帰国 内容:リサーチ、作品創作、関係者向け小発表会</p>				

	招へいアーティスト	フレンチ・モッターシェッド、マシュー・モリス、イラ・ブランド、ベルリン・ネバダ
施設構成・内容	制作スタジオ	急な坂スタジオ、黄金町エリアマネージメントセンター、神奈川芸術劇場(KAAT)中スタジオ、高知県立美術館創作室、高知市文化プラザかるぽーと軽運動室を利用。
	展示スペース	○ ベルリン・ネバダの本公演は2014年3月を予定
	宿泊施設	
	その他	
交通アクセス	<p>【神奈川芸術劇場(KAAT)】</p> <p>みなとみらい線 日本大通り駅 3番出口より徒歩5分          みなとみらい線 元町・中華街駅 1番出口より徒歩8分          横浜市営地下鉄ブルーライン 関内駅より徒歩 15分          JR 根岸線 関内駅より徒歩 15分</p> <p>【高知県立美術館】</p> <p>はりまや橋から土佐電鉄路面電車「ごめん」、「領石」または「文珠通」行きで15分、「県立美術館通」下車徒歩5分          土佐電鉄バス「高知医大」行き・「県立美術館前」下車すぐ          高知龍馬空港から高知市内一空港間を結ぶ連絡バス有。バス停「西高須通」で下車。徒歩約10分          車・タクシー利用の場合はJR高知駅から約20分。高知龍馬空港から30分、高知自動車道南国インターから15分、高知インターから10分</p>	
周辺環境		

画像



左上、右上:  
 平成 23 年度レジデンス・アーティストのジェイコブ・ウレン(カナダ)  
 左下:平成 24 年度レジデンス・アーティストのベルリン、ネバダ(英国)

## 現代美術センターCCA 北九州(リサーチ・プログラム事業)

レジデンス事業の概要	対象分野	美術とくに現代美術		
	招へい人数	10人前後	招へい期間	9月-3月(7ヶ月間)
			募集期間	2012年度のプログラムの募集は終了 次年度の募集は2013年1月末まで
受入条件	年齢制限:あり(20-30代) 受入対象国指定:なし その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>20-30代のアーティスト、またはキュラトリアル・スタディに携わる人</li> <li>国籍・学歴不問</li> <li>要英会話、読解力</li> <li>授業料(プログラムへの参加費用):36万円 減免制度あり</li> </ul>			
選考・支援	応募方法	公募 例年6月以降に、現代美術センターCCA 北九州まで資料請求を行い、所定の方法 により応募		選考方法 第一次選考は、インターナショナル・コミ ティーにより、入学願書及び規定の添付資 料にもとづいて行なわれる。最終選考は、 面接を行う
	支援内容	渡航費助成		
		滞在費助成		
		制作費助成		
		成果発表・ オープスタジオ	○	
		人的サポート		
		記録集	○	
		その他		
運営組織概要	団体名	CCA 北九州事業実行委員会		
	URL	<a href="http://www.cca-kitakyushu.org/">http://www.cca-kitakyushu.org/</a>	事業開始年	1997年
	所在地	〒805-0059 福岡県北九州市八幡東区尾倉 2-6-1 3階		
	電話	093-663-1615	FAX	093-663-1610
		Email	<a href="mailto:mail@cca-kitakyushu.org">mail@cca-kitakyushu.org</a>	
	事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代美術に関する人材育成及び調査研究を行い、もって現代美術の普及と地域の文化芸術の振興に寄与する</li> <li>世界に通用する若手アーティストの育成、並びにアーティストが北九州市に滞在して活動することによる地域文化の振興を目指す</li> </ul>		
	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>リサーチ・プログラム:20-30代の若い現代美術作家や研究者を対象にした大学院レベルの学習・研究コース。教授・講師陣には、世界の第一線で活躍している現代美術作家などを招へいしており、教授は約1ヶ月ほど北九州市に滞在し、受講生の指導にあたる。あわせて、集中セミナーや特別講義、一般向けセミナーも行う。講師は短期間滞在し、指導にあたる</li> <li>情報発信事業:現代美術に関する図書・資料の収集・公開を行う</li> <li>地域還元事業:展覧会、公開セミナー、子どもワークショップなどの市民参加事業を行なっている</li> </ul>		
事業実績 /成果	日本全国及び世界各国から集まり巣立っていった受講生達は、日本のみならず世界各地で幅広く活動している。これまでに約183名(国内99名、海外84名)の受講生を輩出した。			

	招へいアーティスト	
施設構成・内容	制作スタジオ	○ <ul style="list-style-type: none"> <li>● ジム、スタジオ(各約22㎡、天井高:約3.5m)</li> <li>● セミナールーム</li> </ul>
	展示スペース	○ プロジェクト・ギャラリー、尾倉ギャラリー
	宿泊施設	宿舎紹介(民間の賃貸マンションなど)
	その他	ライブラリー、ビデオ編集室、IT ルーム
	交通アクセス	JR 鹿児島本線「八幡駅」より徒歩8分
	周辺環境	北九州市立八幡市民会館及び同市立八幡図書館の横に立地。

## 福岡アジア美術館 美術作家・研究者・学芸員等招聘事業

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、写真／映像、彫刻、版画		
	招へい人数	美術作家:4人 研究者・学芸員など:2人	招へい期間	5月－3月 美術作家:70日 研究者・学芸員など:42日
			募集期間	7月－8月 翌年度実施分
受入条件	<p>年齢制限:あり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アーティスト:40歳未満</li> <li>研究者・学芸員など:制限なし</li> </ul> <p>受入対象国指定:あり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>美術作家は、現在、活動実績が認められ、なおかつ将来の活躍を期待される美術作家で、対象「国・地域」の国籍を有し、なおかつ同国・地域で活動している個人</li> <li>アジアの近代・現代美術研究における実績があり、長期的な活動が期待される研究者・学芸員などで、対象「国・地域」を拠点に活動する個人</li> </ul> <p>*同館が規定するアジアの「国・地域」:バングラディシュ、ブータン、ブルネイ、カンボジア、中国、インド、インドネシア、韓国、ラオス、マレーシア、モンゴル、モルジブ、ミャンマー、ネパール、パキスタン、フィリピン、</p> <p>その他:日常生活が可能な程度の日本語、もしくは英語が話せる者</p>			
選考・支援	応募方法	公募 *一般公募は、2007年度より	選考方法	「福岡アジア美術館 招聘事業被招聘者選考委員会」で選考
	支援内容	渡航費助成	○	必要額
		滞在費助成	○	10万円／月
		制作費助成	○	35万円以内
		成果発表・オープンスタジオ	○	展覧会、トークなど
		人的サポート	○	地元作家や芸術系大学の協力、美術館スタッフ、ボランティア
		記録集	○	交流事業報告書
		その他		
運営組織概要	団体名	福岡アジア美術館		
	URL	<a href="http://faam.city.fukuoka.lg.jp/">http://faam.city.fukuoka.lg.jp/</a>	事業開始年	1999年
	所在地	〒812-0027 福岡県福岡市博多区下川端町 3-1 リバレインセンタービル 7・8階		
	電話	092-263-1103	FAX	092-263-1105
			Email	<a href="mailto:faam@faam.ajibi.jp">faam@faam.ajibi.jp</a>
	事業目的	アジアの美術作家、研究者・学芸員などを一定期間招へいし、市民との交流事業などを推進することにより、市民のアジア美術に対する理解・関心を深め、地域文化の質的向上に努めるとともに、アジア美術の交流拠点となることを目指す。		
	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民などとの共同制作</li> <li>滞在制作の成果を発表する展覧会の開催</li> <li>市民などを対象にしたワークショップの開催</li> <li>連続講座、アーティスト・トークやギャラリー・トークの実施</li> </ul>		
事業実績／成果	<p>【事業実績】</p> <p>1999年から2012年度までに、アジア20ヶ国・地域からアーティスト58名、研究者・学芸員など20名を招へい。滞在期間中に行う制作を市民共同創作活動と位置づけ、公開制作やワークショップ、講演会などを積極的に実施している。滞在の最後には、「アーティスト・イン・レジデンスの成果展」を開催し、作品を展示するほか、滞在中に行なったワークショップの記録などもあわせて市民に公開している。</p>			

		<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 作品制作に多くの市民を巻き込んだり、アジア美術についてのレクチャーや多彩なイベントを実施することにより、市民がアジアの文化や美術作品についての多角的な理解を深めている。また、多くの学校(小学校ー大学)と交流することで、アーティストによる専門的な創作活動を体験することができ、国際交流・理解にも役立っている</li> <li>● アーティストに制作を通じて地元の作家や美術関係者と交流する機会を提供し、福岡とアジアのアートシーンを発展させるためのネットワークづくりに貢献している</li> <li>● アーティストが帰国後にレジデンスについての報告や講義などを行い、アジア各国地域のアートシーンを刺激する一助となっている</li> </ul>
	招へいアーティスト	シヤーマン・オン、タン・ダウ、ナリニ・マラニ、ハディム・アリ、ムン・キョンウオン
施設構成・内容	制作スタジオ	○ <ul style="list-style-type: none"> <li>● 交流スタジオ (223.30㎡)</li> <li>● 招待者用研究室(3部屋:各32.79㎡)</li> </ul>
	展示スペース	○ <ul style="list-style-type: none"> <li>● 交流ギャラリー (369.54㎡)</li> </ul>
	宿泊施設	ウィークリーマンションなどを利用
	その他	
	交通アクセス	福岡市営地下鉄「中洲川端駅」より徒歩1分
周辺環境	福岡市の中心部にある商業複合ビルの7・8階に位置する。	

画像



レジデンス事業の概要	対象分野	指定なし			
	招へい人数	制限なし	招へい期間	随時(最大6ヶ月程度)	
			募集期間		
受入条件	年齢制限:なし 受入対象国指定:なし その他:日本語か英語でのコミュニケーションがとれること				
選考・支援	応募方法	非公募 紹介制(ただし、ギャラリーとの併用希望者はポートフォリオによる審査も可能)		選考方法	事務局及びアドバイザーによる書類審査または面接
	支援内容	渡航費助成			
		滞在費助成			
		制作費助成			
		成果発表・オープスタジオ			
		人的サポート			
		記録集			
		その他			
運営組織概要	団体名	トラベルフロント			
	URL	<a href="http://konya2023.travelers-project.info/konya2023/">http://konya2023.travelers-project.info/konya2023/</a>	事業開始年	2008年	
	所在地	〒810-0041 福岡県福岡市中央区大名 1-14-28 第一松村ビル 201			
	電話	092-984-6292	FAX	092-984-6292	Email <a href="mailto:travel-front@travelers-project.info">travel-front@travelers-project.info</a>
	事業目的	konya-gallery、konya-sky との連動で、展示するアーティストやイベント出演者、リサーチやプロジェクト参加、出張や観光目的の方などにご利用いただくことを目的としている。そのため、アーティスト・イン・レジデンス専門の施設ではない。運営上の都合で、関係者の紹介がある方のみご利用いただいているが、ギャラリーとの併用希望者はポートフォリオによる審査も可能としている。 紺屋 2023 は様々な人、時間が混在する場所なので、そこに長期/短期滞在者とその時間が加わることでバリエーションが厚みを増し、また訪れた人や滞在者には、その空気感を体感してもらうことができると考えている。			
	事業内容	3年に1回、国内外のアーティストを招へいし、3ヶ月程度の滞在制作、現地でのワークショップ、ギャラリーでの展示などをサポートする。ただし、これは以前に訪れたことがあるなど、事務局と面識があるアーティストに限る。そのほか、ポートフォリオ、本人の活動がわかるウェブサイトの提示などを通じ、ステイルームやギャラリーのディスカウントや制作協力も可能。			
	事業実績／成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2008年9月から12月にかけてドイツ人アーティスト・ミハエル・オットーを招へい。11月14日ー12月10日「静ヶサノ前ノ嵐ノ前ノ静ヶサ」展及びその関連企画を開催</li> <li>● 2011年9月から11月にかけてポルトガル人アーティスト ルイーザ・アルパリオンを招へい。11月11日ー30日「100人の食卓」展及びその関連企画を開催</li> </ul>			
	招へいアーティスト	ミハエル・オットー、ルイーザ・アルパリオン			

施設構成・内容	制作スタジオ	
	展示スペース	○ <b>【konya-gallery】</b> 約 12 坪(天井高:約 3.5m、展示パネル高:2.4m) 営業時間:11:00-20:00(変更あり) 部屋:201&202 号室 用途:展示、レクチャー、イベント、ライブ、ワークショップなど
	宿泊施設	○ <ul style="list-style-type: none"> <li>● 401号室(ショート)konya-stay S:約20㎡</li> <li>● 501号室(ロング)konya-stay L:約36㎡</li> </ul> 設備:トイレ、シャワー、ベッド、デスク、冷蔵庫、流し、エアコンなど 利用には事務局スタッフ以外のメンバーなどからの紹介が必要。 料金:約3,000円/1泊(長期割引あり)
	その他	● konya-sky:約50坪、水道、ガスなし *施設を利用の際は料金が課される。
	交通アクセス	地下鉄空港線「天神駅」より徒歩 10-15 分 西鉄バス天神駅周辺バス停(市役所北口、天神4丁目ほか)より徒歩 10-15 分 福岡都市高速 1 号線「天神北 IC」より車で約 15 分
	周辺環境	福岡市の中心である「天神」より徒歩 10 分圏内の「大名」というエリアに位置し、周辺は飲食店やアパレルショップなどが建ち並ぶ、若者が多い賑やかなエリア。

画像



左上:UFO PARKING 2010 by Michael Otto,(2010)  
 右上:Table for 100's by Luisa Alpalhao,(2011)  
 左下:紺屋エントランス

47 Artist in Residence Studio Kura						
レジデンス事業の概要	対象分野	音楽、美術、写真／映像、彫刻、デザイン、パフォーマンス、版画				
	招へい人数	3-4人程度	招へい期間	・3月-4月 ・7月-8月 ・8月-9月		
			募集期間	ポートフォリオは随時受付		
受入条件	年齢制限:なし 受入対象国指定:なし					
選考・支援	応募方法	非公募 *ポートフォリオは随時受付		選考方法	Studio Kura のレジデンス委員会による選考	
	支援内容	渡航費助成				
		滞在費助成				
		制作費助成		展覧会のための DM 作成。または展示スペースレンタルのための費用負担(ギャラリースペースをレンタルの場合)		
		成果発表・オープンスタジオ	○			
		人的サポート	○			
		記録集	○	ウェブサイトにて記録を掲載		
その他						
運営組織概要	団体名	株式会社 Studio Kura				
	URL	<a href="http://www.studiokura.info">http://www.studiokura.info</a>		事業開始年	2007年	
	所在地	〒819-1613 福岡県糸島市二丈松末 586				
	電話	092-325-1773	FAX	092-325-1773	Email	<a href="mailto:info@studiokura.com">info@studiokura.com</a>
	事業目的	海外の若いアーティストに日本で制作をする機会を与え、新たな創造を支援するとともに、プログラムに参加しているアーティストによるワークショップやアートスクールなど、様々な企画を通して地域社会におけるアートへの理解、異文化への理解をより深める。				
	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アーティスト・イン・レジデンス</li> <li>・展覧会、シンポジウム、セミナー、ワークショップ、イベントなどの自主企画</li> <li>・美術教育事業</li> <li>・貸ギャラリー事業</li> </ul>				
	事業実績／成果	<p>2007年度:1名招へい(マルセル・タスラー「Heil Welt Frieden」)</p> <p>2008年度:1名招へい(メリッサ・ステックバウアー「Sacred Artists and Animal Urges」+福岡市立北崎中学校での社会人講和での招へい作家の講和)</p> <p>2009年度:5名招へい(レブ・ケージン「Zeitwoerter」、ベンヤミン・フューグリスター「Luminous. Radiant」、ジャスミナ・イオバット+ルイス・フェルナンデス「機能の無い破片」、ホワン・パラ・カンチーノ「電子音楽の夜」[コンサート]、メリ・ニクラ「Now Lounge」[コンサート]、メリ・ニクラ「VOICING YOUR BODY」[ワークショップ]、ベンヤミン・フューグリスター「capture the light」[ワークショップ])</p> <p>2010年度:3名招へい(ジェーン・リーグレー「Journeys of Past and Present」[コンサート]、シー・ユン・イエオ「408 in Itoshima」+宮崎アートセンターでのワークショップ、キラ・シュトローム・ヴァン・リーウエン「Studies in Serial Beauty. Culture.and the Quantative System」)</p> <p>2011年度:3名招へい(チュヒ・ヤン「A growing point: Tiny Chaos」、バス・ノールデルメール「Still in Itoshima」、ユリアーネ・アイリツヒ「Das Haus der alten Dame」+九州大学でのワークショップ)</p>				

	招へいアーティスト	キラ・シュトローム・ヴァン・リーウエン、シー・ユン・イエオ、ジェーン・リーグラ、チュビ・ヤン、パス・ノールデルメール、ベンヤミン・ヒューグリスター、ホワン・パラ・カンチーノ、マルセル・タスラー、メリッサ・ステックバウアー、メリ・ニクラ、ヤスミナ・イオベット+ルイス・フェルナンデス・ポンズ、ユリアーネ・アイリッヒ、レブ・ケージン	
施設構成・内容	制作スタジオ	○	25 m <sup>2</sup>
	展示スペース	○	25 m <sup>2</sup> 民家の米蔵を改装したアトリエ兼ギャラリースペース
	宿泊施設	○	40 m <sup>2</sup> シャワー、ランドリー、無線 LAN あり。アトリエ一体型宿泊施設一棟
	その他		
	交通アクセス	JR 筑肥線「一貴山駅」より徒歩 15 分 JR 博多駅から一貴山駅までの所要時間は約 40 分	
	周辺環境	福岡の中心部から約 25km の距離に位置する風光明媚な糸島半島に位置する。海、山に囲まれた豊かな自然のなかでの滞在制作が可能。成果発表は都心のギャラリーやレジデンス周辺の施設と連携し、個々のアーティストをサポートする。	
画像			
			
			

レジデンス事業の概要	対象分野	現代美術		
	招へい人数	2組4人	招へい期間	2013年1月31日(木) - 2013年3月31日(日)
			募集期間	2013年10月19日(金) - 11月23日(金)
受け入れ条件	年齢制限:なし 受入対象国指定:なし その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>英語、もしくは日本語で日常的な会話が可能な者</li> <li>母国語でblogやfacebookを活用し、別府市での活動や様子を記し、広く公開すること</li> <li>滞在期間中に別府市内で作品展示を行うこと</li> <li>滞在期間中に市民との交流を目的とするワークショップや講演会を行うこと</li> </ul>			
選考・支援	応募方法	公募	選考方法	世界各国から集まった 546 のアプリケーションの中から、KASHIMA2013 のテーマであった「別府そぞろ歩き」を基に BEPPU PROJECT 事務局と審査員が選考を行い2名を選ぶ
	支援内容	渡航費助成	○	居住地から別府までの往復渡航費(国内の渡航費も含める)
		滞在費助成	○	滞在環境の提供
		制作費助成	○	100万円を上限とした制作費を支給
		成果発表・オープスタジオ	○	公民館や公共施設、私有施設を利用した展示のための、施設利用許可交渉
		人的サポート	○	97ヶ国からの留学生人材による生活面のサポート
		記録集	△	今回の展覧会を含め、BEPPU PROJECT が行う「KASHIMA」という AIR の考え方やこれまでの実施内容を含んだ、記録物を制作予定
		その他		作品発表のためのウェブサイト制作
運営組織概要	団体名	NPO 法人 BEPPU PROJECT		
	URL	<a href="http://www.bepuproject.com/">http://www.bepuproject.com/</a>	事業開始年	2008年
	所在地	〒874-0933 大分県別府市別府市野口元町 2-35 菅建材ビル2階		
	電話	0977-22-3560	FAX	0977-75-7012
			Email	<a href="mailto:info@bepuproject.com">info@bepuproject.com</a>
	事業目的	アーティスト・イン・レジデンス事業である「KASHIMA(カシマ)」は、別府の温泉文化の中に息づく湯治のための宿泊形態「貸間」から名付けられ、2008年より継続開催している。本プログラムは別府での滞在制作を支援し、成果発表展の機会をアーティストに提供する事で、新進芸術家の育成と芸術文化振興を目的としている。		
	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>招へいアーティストの創作作品の発表を建物の壁面や路地など、屋内外の公共空間を含む場所へ設置する</li> <li>また、音を使った作品はウェブサイト (<a href="http://www.bepuproject.com/project/kashima2013-1.html">http://www.bepuproject.com/project/kashima2013-1.html</a>) にアップロードされ、会期終了後もそこにアクセスすることで楽しむことができる、作品の特性を活かし作品を恒久設置する</li> <li>地域住民や国内若手アーティストとの交流促進を図るため、招へいアーティストによる講演会やパフォーマンス、地域のイベントへの参加、市民を撮影するイベントなどを開催</li> </ul>		
事業実績／成果	2008年度:KASHIMA 2008 BEPPU ARTIST IN RESIDENCE 2010年度:KASHIMA 2010 BEPPU ARTIST IN RESIDENCE 2011年度:KASHIMA 2011 BEPPU ARTIST IN RESIDENCE 2012年度:KASHIMA 2012 BEPPU ARTIST IN RESIDENCE			

	招へいアーティスト	アルテラジオ(シルバン・ジール、クリストフ・ロー)、エロディ・ドルノ&センワン・オ
施設構成・内容	制作スタジオ	○ <ul style="list-style-type: none"> <li>● 紙屋公民館</li> <li>● 能楽堂(NPO法人能楽を伝える観衛会 集会場)</li> </ul>
	展示スペース	○ <ul style="list-style-type: none"> <li>● 別府市内各所の屋外壁(公共温泉、商店、一般家屋 等)</li> <li>● WEBに設置した特設ページ</li> </ul>
	宿泊施設	○ <ul style="list-style-type: none"> <li>● 清島アパート(最大2ヶ月)</li> <li>● platform05(最大2ヶ月)</li> </ul>
	その他	<p>【清島アパート (<a href="http://beppuproject.com/kiyoshima/">http://beppuproject.com/kiyoshima/</a>)】</p> <p>戦後すぐに建てられたアパート。若手アーティストの居住・制作の場として1階はオープンアトリエやプレゼンテーションルームとして、2階は居住スペース利用を行っている。</p> <p>【platform05 (<a href="http://www.beppuproject.com/space/platform05.html">http://www.beppuproject.com/space/platform05.html</a>)】</p> <p>platform とは中心市街地の活性化を目的とする、別府市中心市街地活性化協議会が、家主さまのご協力のもとに改装工事(リノベーション)を行い、ギャラリーやアーティストの滞在制作の場、ブックカフェやセレクトショップなど様々な形で運営されているスペース。platform05 は主に創作者の滞在場所として活用しており、今回はエロディ・ドルノ&amp;センワン・オが滞在。</p>
交通アクセス	<p>【紙屋公民館】別府駅から徒歩 10 分</p> <p>【能楽堂】別府駅から徒歩7分</p> <p>【清島アパート】別府駅から徒歩 10 分</p> <p>【platform05】別府駅から徒歩6分</p> <p>* 全ての会場が徒歩5分～10分で行き来できる場所に位置している。</p>	
周辺環境	上記全ての施設の周辺には、コンビニエンスストアや飲食店、スーパーがある。また、100円で入湯できる地域の共同温泉が数多くあり、清島アパートやplatform05には内風呂がないため、そこに宿泊するアーティストは毎日のように温泉へ行く。そこに通うことで、多くの地域住民と交流することができる。	
画像		
		
		

49 ART11 号				
レジデンス事業の概要	対象分野	音楽、絵画、建築、写真／映像、彫刻、パフォーマンス		
	招へい人数	未定	招へい期間	未定
			募集期間	未定
受入条件	年齢制限:なし 受入対象国指定:なし			
選考・支援	応募方法	未定 *非公募が多いが、公募のプロジェクトもあり	選考方法	ディレクター及び、招待キュレーターによる選考
	支援内容	渡航費助成	○	
		滞在費助成		未定
		制作費助成	○	
		成果発表・オープンスタジオ	○	
		人的サポート	○	
		記録集		未定
		その他	プロジェクト毎のファンドレイジングとなるので、条件もプロジェクトによる	
運営組織概要	団体名	ART11 号		
	URL	<a href="http://www.artno11.net">http://www.artno11.net</a>	事業開始年	2006 年
	所在地	〒216-0023 神奈川県 川崎市宮前区 けやき平 1-11-204 増山方		
	電話	080-3008-3865	FAX	
			Email	<a href="mailto:info@artno11.net">info@artno11.net</a>
	事業目的	これまで海外で多数の有名アーティスト・イン・レジデンスに滞在してきたアーティストの増山士郎が自身の豊富な経験をもとに、アーティストの立場から企画ディレクションするオルテナティブ・アーティスト・イン・レジデンス・プロジェクト。		
	事業内容	自らが世界中のレジデンスをベースとして世界を転々と活動しているノマド型アーティストであるように ART11 号は場所にとらわれない、新しいスタイルのノマド型レジデンスプロジェクトを目指している。		
事業実績／成果	<b>【事業実績】</b> 2006 年度(“日本香港国際交流プロジェクト「見知らぬ人々——陌生人”、香港／日本): 日本より香港へ4名招へい／香港より日本へ4名招へい 2008 年度(“The Residency in the Residency”、韓国・Goyang): 日本より韓国へ1名招へい 2009 年度(“Territories”、東京／神奈川): 北アイルランドより日本へ1名招へい			
招へいアーティスト	エイミー・チャン、シネイド・オドゥネル、パク・シェン・チェン、水川千春、鈴木貴博、開発好明			

施設構成・内容	制作スタジオ		
	展示スペース	○	
	宿泊施設	○	
	その他	ノマド式レジデンスのためプロジェクト毎に条件も変化する	
	交通アクセス		
	周辺環境	ノマド式レジデンスのためプロジェクト毎に周辺環境も変化する	

画像





資料編

# 第2部

国内 AIR 団体へのアンケート調査・意見交換会の意見集



報告書「第5部」に記述したように、本調査研究では国内のアーティスト・イン・レジデンスに対するアンケート調査と意見交換会を行った。アンケート調査は資料編「第1部」に掲載した国内アーティスト・イン・レジデンスのデータ集のための掲載確認と合わせて行ったものである。また、意見交換会は、平成24年度文化芸術の海外発信拠点形成事業の採択団体から芸術分野と地域のバランスを考慮して抽出した。

アンケート調査と意見交換会の実施要領は、以下のとおりである。

## ◎ アンケート調査

調査対象	<ul style="list-style-type: none"><li>● 平成24年度文化芸術の海外発信拠点形成事業の採択団体(新規採択・継続採択の24団体、うち AIR-J 未掲載団体は8団体)</li><li>● 独立行政法人国際交流基金「AIR_J」掲載団体(平成25年2月1日現在、57団体)</li><li>● 計65団体</li></ul>
配布、回収方法	<ul style="list-style-type: none"><li>● 郵送発送とメール送信</li><li>● メール、FAX での回収</li></ul>
実施期間	平成25年2月15日－3月22日
有効回答数	40件(回収率70.2%)
調査項目	<ol style="list-style-type: none"><li>① 事業の成果、評価の視点: 貴団体がアーティスト・イン・レジデンスに取り込まれるにあたって、何を事業の成果として考えていらっしゃいますか。また、評価の視点として、何が重視されるべきだとお考えですか。</li><li>② AIR 運営上の現在の問題点や課題: 貴団体がアーティスト・イン・レジデンスを運営する上で直面する現在の問題点や課題は何ですか。</li><li>③ 今後、AIR の一環として取り組みたい事業や活動: 今後、貴団体がアーティスト・イン・レジデンスの一環として取り組んでみたいと考えておられる事業や活動があれば、ご記入ください。</li><li>④ 日本やアジア地域のネットワーク構築や連携: 日本やアジア地域のアーティスト・イン・レジデンスとのネットワーク構築や連携について、貴団体としてのお考えがあれば、ご記入ください。</li><li>⑤ 日本における AIR の社会的意義: 日本におけるアーティスト・イン・レジデンスの社会的な意義(芸術の振興、芸術家の育成、国際交流、国際貢献、地域貢献…など)について、どのようにお考えになっていますか。</li><li>⑥ 日本の AIR を活発化するために必要だと思われること: 日本においてアーティスト・イン・レジデンスをより活発にするために必要だと思われること(公的支援、人材育成、運営基盤の拡充、施設整備、ネットワーク構築…など)を自由にご記入ください。</li></ol>

## ◎ 意見交換会

日時	平成25年3月6日－3月7日(1回につき5－6団体ずつに分けて4回実施)
会場	株式会社ニッセイ基礎研究所 会議室
出席者	平成24年度文化芸術の海外発信拠点形成事業の採択団体から芸術分野と地域のバランスを考慮して抽出した21団体から29名が出席
調査項目	上記アンケート調査の6項目についての補足説明と意見交換による意見の具体化

## アンケート調査、意見交換会での意見の集約

ここでは、アンケート調査と意見交換会での意見について、回答要旨を質問項目ごとに箇条書きに整理し、主旨を同じくするものを分類して表題化した。これらの表題に沿って p.110以下に回答要旨を記載している。

### ① 事業の成果、評価の視点

---

- アーティストの創作環境の提供、インスピレーションによる刺激、新たな表現への試み
- アーティストのステップアップ、キャリアアップ、作品や活動に対する評価の向上
- 文化芸術に触れる機会やアーティストとの出会いを地域住民に提供すること
- 文化芸術を介したまちづくり、地域住民との交流、文化資源の発掘
- 文化芸術による国際交流、異文化交流、文化の多様性の促進
- 日本や地域に根ざした文化芸術の振興
- 定量的・短期的な評価に対する懸念、定性的・長期的な評価の重要性 など

### ② AIR 運営上の現在の問題点や課題

---

- 安定的で持続可能な財源の不足、資金調達面の困難さ
- 行政や一般市民の理解、関心、認知度の低さ、広報不足
- レジデンス業務の専門知識や経験を持つ人材不足
- 労働量に見合った人員の配置、雇用、報酬
- レジデンス参加アーティストとのコミュニケーション
- 助成制度に起因するスケジュール調整の問題
- 施設・設備面の不足、老朽化による改修
- 外部との連携やネットワークの開拓
- 立地条件や地理的な要因による困難さ
- 活動の記録・アーカイブ
- 地域住民との相互理解、ボランティアのコーディネート
- 評価手法の問題 など

### ③ 今後、AIR の一環として取り組みたい事業や活動

---

- 海外とのネットワーク、プラットフォーム、共同制作
- 双方向の交流・提携プログラム(海外から日本への受け入れと日本から海外への派遣)
- 国内における地域横断型レジデンスプログラム
- 新たな領域の開拓や領域を横断したレジデンスプログラム
- 地域の文化資源や特色を活用したプログラム
- 地域住民との交流機会、教育プログラム
- 大学や文化施設との連携
- 現地制作作品や寄贈作品の活用
- テーマを定めたプログラム、領域を横断するプログラム
- ミドルキャリア以上を対象としたプログラム など

### ④ 日本やアジア地域のネットワーク構築や連携

---

- アジア地域のAIR団体とのネットワークの連携・交流
- アジア地域との交流における経済的な格差の課題
- 海外のAIR団体との双方向プログラムでの連携・交流
- 海外のAIR団体との調査訪問、信頼関係の構築、人材育成の環境整備
- 国内のAIR団体との地域間交流や育成面での連携・交流
- AIR団体間のネットワーク、中間支援活動の必要性、相互に評価する仕組み
- ネットワークに関する課題や懸念事項
- 地域内の各種団体との連携・交流 など

### ⑤ 日本における AIR の社会的意義

---

- アーティストによる創作活動の発展、展開、成長
- 地域社会における多様な表現や価値観との出会い
- 文化芸術による地域振興、まちづくり
- 文化芸術を介した子どもたちの教育や地域コミュニティの活性化
- 地元在住のアーティストの人材育成、国内外との相互交流
- 優れた日本文化の海外への発信
- 国際交流の促進、文化芸術を介した国際間の相互理解 など

## ⑥ 日本の AIR を活発化するために必要だと思われること

---

- AIRに必要な専門的な人材(コーディネーター)の育成、研修プログラム
- 人材の確保、人件費の財源
- 国内外の芸術団体、大学、文化施設等との連携やネットワークの構築
- AIRに対する認知度の向上、理解、共感、支持の獲得
- 様々な規模や活動に対応可能な柔軟な助成制度、制度設計の緩和
- 施設の整備、活用、改修のための公的支援や支援制度
- 評価の仕組みの共有や成果のアピールのための情報交換、ネットワーク など

質問1 貴団体がアーティスト・イン・レジデンスに取り組まれるにあたって、何を事業の成果として考えていらっしゃいますか。また、評価の視点として、何が重視されるべきだとお考えですか。

## アーティストの創作環境の提供、インスピレーションによる刺激、新たな表現への試み

### 【アンケート】

- 参加アーティストにとっては新しい地域社会での体験を通して、自身の制作活動を社会との関係から再考察する機会となることを目標とする。
- アーティストが事業に参加したことで、自分の活動の中が広がること、アーティストとしての新たな発想、視野、テクニック、価値観などが得られたと実感できること。参加アーティスト自身が、ひとつのSTEPをあげたと実感できるレジデンスであること。
- 来日者(外国人芸術家、研究者など)が、設定した研究テーマに沿って効果的、効率的にリサーチを進めることができたか。来日者が日本国内の舞台芸術界に、新しい知見、ネットワークをもたらしたか。来日者に対して、日本の舞台芸術の最新の動向、知識、人材、ネットワークを紹介することができたか。来日者が帰国後、日本滞在の経験をどのように今後の活動に結びつけどのような成果をあげているか、などが考えられる。
- アーティストにとって、新しい遊び場(新しい創作の可能性やアイデアを見出せる場)であること。
- 街や人、文化と出会うことが、参加アーティストにとって自身の制作に結びつき、充実した滞在経験をえられること。
- 滞在作家と人々とのアイデアの交換。
- 作家がストレスを感じることなく展示・設置できるための補助機能として、レジデンスを使用していただくことが現段階での成果だと考える。
- 特に制作プロセスを重要視する滞在プログラムの実施により、新たな対話やコラボレーションを生み出し、新しい実験的な創造の場となっている。
- 作者に作品を滞在中に制作してもらうのではなく、クールジャパンと言われる「綺麗、可愛い、格好良い」の文化は何に根差しているかを体感してもらい、それが作者の中で消化され、その後の作品に影響を与えることが事業の成果だと考えている。
- 滞在作家が新しい土地でインスピレーションを得て、新しい視点で製作できる環境を提供でき、なおかつ作家と地域住民が十分なコミュニケーションを取る機会を提供できること。
- 国内外から招へいた芸術家が、地域住民の協力のもと創作活動に専念できる環境を提供し、ここで得た体験が今後の作家活動に何らかの好影響を及ぼすこと。

### 【意見交換会】

- レジデンスをきっかけとして作品に変化が生まれて新しい作品が生まれたり、評価が生まれたりしたこと。ただ関係が生まれるということを超えて、もっともっと深い関係とが生まれて、それが継続していく可能性に、非常に意味がある。
- 招へいたアーティストと、受け入れ側のこちらが抱えている俳優や舞台美術といったスタッフとの、どういった変化、お互いの刺激が生まれてくるかということ。
- ユーザーであるアーティストがどうしたか。満足したのか、成果を出したのかということがありきで、使ったどうかが一番大事な評価だ。
- いろいろなアーティストがいるが、どうしても滞在制作、自分の意思のプログラムをこなしたかが大事であり、そんなことが背景にあつての評価。ともかく滞在制作の満足度が一番大事な物差しだ。
- 私が一番考えているのは、アジアのアーティストが来たら、本当に心地よい気持ちで帰ってもらうことが一番。
- 創作活動に徹底して集中して取り組むことの出来る時間をどれだけ提供できるか。その中で自分の志向であったり、様々な未来に向けての創作の可能性の時間をここで作る事ができるか、ということがアーティストにとっての成果。
- レジデンスはアーティストにとっても創造環境整備ということ考えた時に、稽古場であったりハードの面であったり制作面であったり人材の提供であったりという、その作品を作る活動をするに当って必要な環境をどれだけ今こちらが、持っているかバロメーターになる。

## アーティストのステップアップ、キャリアアップ、作品や活動に対する評価の向上

## 【アンケート】

- 日本滞在で蓄積された知識や経験が、アーティストの今後の作品に結びつく、もしくは、キュレーターの研究に活かされるなど、レジデンスの断片が彼らのその後の活動に表れることが、一つの大きな成果と考えられる。また、日本の鑑賞者、及び関係者にとっては、多様な文化・社会背景を持ったアーティストやキュレーターの考え方、視点に触れることで、テレビや書籍から伝達される情報とは異なる、心の通った独自の思想を分かち合う場を創ることが成果である。
- アーティストが創作の発想を得てそれを具体化し、活躍の足がかりとすることが成果である。過去の招へいアーティストの受賞、展覧会への出品、個展の開催などを成果と考えている。AIR事業への応募アーティスト数が増加していることは、世界各国のアーティストによる評価の目安と考えている。
- 国内外から多数のアーティストからの応募があること。当団体での活動が、アーティストの次の活動につながったり、アーティストとしてのキャリアや作品の質を高める事につながったりしたか。
- 招へいたアーティストの滞在制作の結果が次の展覧会や活動につながることで、滞在制作により制作や作品が新たな局面を迎えること、アーティストとして滞在制作をきっかけにステップアップしていくことが事業の成果と考える。
- 滞在製作すること自体が目的であるため、すぐに結果につながらなくとも、アーティストと招へい団体双方にとって、将来につながる何かしらの得ることができればよいと考える。アーティストには、地方に滞在することで触れることのできる日本のアイデンティティを感じてもらい、そこから得たインスピレーションを基に作品を創り、帰国後、自国でその体験を広めてもらえればよいと考える。国内各地から発信されることで、日本の地域力を高めていくきっかけになるのではないかと思う。
- 当館の所在地の環境・多様な資源に触発されて生み出す作品・表現を事業の成果と捉える。同時に、当館での滞在制作と作品展覧によって、当該アーティストのキャリアアップや精神的活性化が果たされることも重視している。
- 滞在制作の後に開催する展覧会に出品する作品が主な成果の形になると考えている。作品が芸術的に優れたものになるかどうか、また、その活動がよい形で作品に結実しているかも評価の視点となる。
- 国内はもとより、世界を舞台に活躍する人材の輩出である。

## 【意見交換会】

- 過去に招へいた作家が、後に様々なトリエンナーレや、あるいは自国の美術館などに作品が所蔵されている。当地にしかできないプロジェクトが多く、そこに関わっている参加者の方の満足度、あるいは参加の深さ、頻度なども評価して頂けるのではないかと。
- でき上がった作品に対して価値がついていくということ、それからそれによって次の展開が彼らの自信にもなり、作品自身の評価にもなっていくと成長していく。
- 演出家や振付家にとっても代表作と呼べるような作品が結果としてでき上がってくるということ。
- 住むというより制作するための場ということでアーティストに向けてはフォーカスをしている。そこでいい作品を作りたい。それを彼らがまた別のところで発表してもらえば。
- レジデンスプログラムから作ったものが評価されると言うことが、やはり評価に繋がるのかなと考えている。
- 招へいたアーティストをどれだけその後フォローアップできるかというところがすごく重要だと思っていて、例えば1ヶ月滞在してもらって作られた作品の発表の場や、それを外に広める機会をきちんと提供できなければほんとに意味のないこと。
- どれくらい舞台芸術家に豊かなネットワークを提供ができるだろうかと言うのを最終的な成果として考えている。実際にアーティスト達が、日本のアーティスト、舞台芸術家の人達がどれくらいインパクトを得て何かを起こそうとするネットワークができ上がって来たのかということもある。

## 文化芸術に触れる機会やアーティストとの出会いを地域住民に提供すること

### 【アンケート】

- AIR事業を核として国内外の若手芸術家の育成や国際交流の推進、あわせて、地域住民に対して身近にアートに触れる機会を提供することを目的としている。
- 市民との共同創作やワークショップなどの交流プログラムを行うことで、市民のアジア美術についての理解と関心を深め、地域文化の質的向上を図ることを目的にしている。
- 世界の現在(いま)とともに生きる美術館、つまり同時代の芸術表現を市民とともに立ち会う場としての役割を果たしていくこと。

- 市民にとって第三者のアーティストが長期滞在し活動することで、思いがけない出会いが起こることや、違う視点で自分たちの住む街を捉える機会を得ること。アーティストが滞在中に市民と関わることで人や街に様々な面で影響を与えること。
- 芸術と呼ばれる分野や、そこに生きる人々との交流に恵まれることの少ない地域住民が、この事業を通じて新しい発見・新しい価値観・新しい交流を享受できること。
- 評価の基準としては、地域住民の芸術文化活動に対する理解度の向上とプログラムへの積極的な参加が挙げられる。

### 【意見交換会】

- 同時代の芸術表現を市民と共に立ち会う場ということなので、一緒にそれを作っていくというよりは立ち会っていく意味合いが大きい。市民にとっては、やはり、そういったもので発信されていく、この街で作ったんだということにある種の自負というか、それを最初に立ち会ったということが、聴衆を拡大していくことにも繋がっていく。
- 一般の公演の他に中高生の鑑賞授業もやっていて、平日に中高生に作品を見てもらって、週末に一般公演という形をとって、発表の機会を増やすということ。
- 展覧会として評価されているときの方が、入場者が入りやすい。ただ、レジデンス自体地元の人に助けられながら、関わっている人も楽しみながら作りたいなところが大きいので、作るプロセスをどれだけシェアできるか、それをどれだけ目に見える形にするかというのが評価の一個にはなる。

## 文化芸術を介したまちづくり、地域住民との交流、文化資源の発掘

### 【アンケート】

- アーティストによって地域資源が発掘されること。アーティストが地域に入り、関わることで、地域の新しい魅力や潜在的な力が発掘されることが期待される。
- アーティストが滞在地に愛着をもち、自ら地域について研究するようになること。滞在中のアーティストと市民の交流を通して、アーティストが社会的に認知されること。アーティストが制作した作品や、そのアプローチが新しい地域コミュニティを形成したり、観光と結びつき新たな観光商品（サービス）が組成されたり、地域に何らかの形でアーティストの痕跡が残って行くこと。
- 「ひととはちがうことをやる」人間の典型であるアーティストたちが地域に滞在し、世界レベルの作品創造を行うことが、地域に住む人々がここに住むことを誇りに思い、地域に住むことを自ら選択したと思えるようになるだろう。地域にアーティストが存在し、芸術活動を行うことが、そこにいる人間を刺激し、地域における多様性を保障するものになっていくと考える。
- 当地で生活し、作品を制作するなかで得た経験を、自国の人たちに伝えてもらうことで、当地の知名度向上、情報発信に役立つ。世界各国の作家とのネットワークが構築できる。
- 海外のアーティストが、新たな地域資源を発掘し、地元のクリエイターや一般市民と交流することで、人を育成すると同時に、地域の芸術文化の活性化につながると思う。また、当団体は派遣事業も行っており、地元や広くは国内の作家を、海外の提携先のプログラムに派遣することで、相互の交流を図っている。
- アーティスト滞在時に期待される地域住民との交流や、地域の魅力を再発見することに意義を感じている。
- 市民にとっては地域の文化、そして伝統が、そのアーティストによって新しい形で発信されていくこと。ただ単に滞在をするということのみでなく、滞在体験が何かの表現の形、例えば美術や舞台作品となって発信されていくことに重点を置いていきたい。
- アーティストの視点でまちを捉え直し、アーティストと市民とが協働して創作活動を通じて、「身近にある地域資源の価値を再認識させられ、市民のまちに対する価値が醸成される」、「従来の方法では決して交わることのなかった人々の間にコミュニケーションが生まれ、ネットワークが築き上げられる」など、自分たちの生活やまちに新しい価値を見出し、市民をはじめ、多様な市民が集まり、関わり、地域の課題が市民力により解決されながら地域が発展していくこと。
- 地域貢献ということが、レジデンス事業を行うにあたり地域からも求められている。地元の人と交流を深め、地域の文化を吸収し、それを作品の中にアーティストが活かすということが事業の成果と言える。
- 成果指標として、第一に「体験移住」の申し込みが多数あること。第二に、体験移住者の中から、本市中山間地域への本格的な移住を検討する方が生まれること。中山間地域が抱える問題については全国同様と思うが、まずは加速する人口の減少に歯止めをかけることが、地域の衰退を防ぐことに繋がると考えている。
- 地域に対して、アーティストという、いわゆる他者が一定の期間当地に滞在することによって、地域そのものにどのような活性化をもたらすことができるかということが我々にとっての成果。

## 【意見交換会】

- コミュニティとの接点をいかに形成していくか。
- レジデンスでの深い濃い体験とか地域の魅力とか、そういうこともきちんと持って帰ってもらえる。地域の方々の逆に鑑賞する側がそのアーティストと触れ合っていくことによって新しい地域おこしのようなことも評価にはもちろん入れている。
- 地域課題というものに、いかに有効であるかというところが成果の一つの観点。
- 作家が実際にあそこで作ってとてもいい体験ができた、と言ってもらったほうが地域の宣伝PRになるということで、世界中23カ国の54人の作家にそれをやってもらおうと地域がよりPRできると考えている。
- そこに参加する人々っていうものが、どう変化を受けて、住んでいる人として残っていけるか、という地域に残る人と招へいして帰っていく人というようなところの化学反応。
- 町と施設を繋ぐとどういうことをどのようにやるかで、評価につながるのではないかと。結局、入場者以外のどれだけ深いコミットメントができる人がいるかと言うことを創り出すことと、それを見せることを評価にしたい。
- 芸術に関わる事業所の誘致事業に非常に力を入れていて、我々の今までの経験としては、レジデンスにテンポラリーに入った人は、その後ろにそういう長期事業があると、かなりの確率で住み始める。つまり実験的に入ってから、当地に住んでみよう。
- 私たちは種をまいて芽を出して、花を咲かせる仕事だと思っている。アーティストを呼んできて市民と交流させて、要するに種をまいている。そこから花が咲くといことは、すぐにはできない。
- 海外のアーティストがいらっしゃった時に地域の人達とのつながりが新しく生まれて、例えばその方達が美術館にとってのサポーターになったりお客様になったり、今まで美術館を訪れたことのない方達が集まって新しいイベントを立ち上げたりというような出会いや創作の機会が生まれているのは、やはり海外のアーティストを招へいたからこそ。

## 文化芸術による国際交流、異文化交流、文化の多様性の促進

---

### 【アンケート】

- アーティストの満足度、国際的な文化交流事業への発展性。
- 考え方の異なる相手と時間を共にし、共鳴や摩擦を起こしながら構築される創造的関係性は、長期的に見ていけば、社会的・言語的な障壁も越境する相互理解と共に、文化交流の新たな在り方を生み出すアイデアの源泉とも成りうる。
- レジデンス事業が、それを受け入れる地元にとって外の世界への開口部であること。単にアーティストと交流することで自己満足に終わるのではなく、アーティストを通して、その背後にある文化や歴史を知るきっかけとなることが重要である。
- 異文化の中での創作活動が、作品づくりにどのように影響したか、滞在期間中の体験から何を得られたか、どのような出会いがインパクトをもたらしたか将来に繋がったかが重要だ。
- 当方では特にアジア圏に対するネットワークの形成を大きな目標の一つとしている。ネットワークとはすなわち実質的な連携体制のことを指し、国際展や交換プログラムなどの協働事業実施の可能性を孕む、コミュニケーションの取れた内容を目指す。
- 国境を越えたアーティストの相互交流及び活動を通じて、市民が気軽に芸術に親しみ芸術への関心を高め、また地域の人々と諸外国のアーティストとの文化交流と相互理解を深め、国際色豊かな地域の芸術・文化の形成を目的としている。
- レジデンスプログラムによる草の根国際交流を通して、いろいろな可能性を探っている。
- 双方の都市のアーティストの視点を通じて、両都市の文化の相互理解促進に繋げることを目標としている。

### 【意見交換会】

- アートを中心に広く話し合える機会になって、それがひとつ社会的な障壁を越境するという意味では相互理解に繋がる。
- 我々がレジデンスのきっかけとして日本人アーティストが海外に出て行くというようなことも今実際に起こっていて、それにはネットワークというのも非常に大事。我々が受け入れるだけではなくて外に送り出す仕組みというのが元々そのアーティストじゃなくても自然発生的にこうやって生まれてくるというのはひとつ評価だと思う。
- レジデンスをやっていることをきっかけに、世界の開口部として、本当の意味で繋がっていくということができていくと、その一つの成果と考えられる。
- 海外での広報のされ方について提案して欲しいというのがあって、僕はそれとても面白いと思った。情報の伝

わり方としてのレジデンスみたいなこともやれると面白い。

- 結果的にアーティストが町に住むと言うことは、発信力を持ってそれほどお金をかけなくても世界に発信してくれると言うことを実感したからだと思う。評価と言えばそういう制度ができてきたことも評価になるのではないか。
- 評価は対話の質であったり量であったりということを、どのように見ていくかということが重要になる。対話の質で言えば、非常に今、痛感しているのが通訳やコーディネーターとして入る人の力量や知識。
- 一定のレベルのコーディネーターというのは、やはり地方に関して言うとかかなり課題と言うか、まず語学ができるプラス更にアートに通じている方ということで、すごく限定されている。
- 地域にとって異文化の人が入ってきて、レジデンスの成果というのはそういう出会いが起きること、新しい視点の人がそこに入ることによって、その人たちによっても新しい発見があることが一番大きな成果。
- 全体的な生態系で言うと、アーティストという存在自体が、他の文化を運んできてその土地に何か新しいことを起こすくらいの、ある種大きなことなのではないかなと最近思う。

## 日本や地域に根ざした文化芸術の振興

---

### 【アンケート】

- 多くの版画の表現者や指導者がすぐれた版画作品や技法を持ち帰り、自国で紹介することにより、水性木版画の海外普及活動の目的が達成されること。
- 長い歴史を持つ伝統技術を使った作品作りを行なうことによって文化芸術の振興とPRに努めるとともに、アーティストと地域住民の交流を推進し、多文化共生の国際性豊かなまちづくりと活性化を図ることを目指している。

### 【意見交換会】

- 当団体が紹介する木版技術を身につけた後どうやって自分の国へ帰って行って、それを普及してもらえるか。
- 評価は市民がアーティストと出会って触れあうことでなんらかの人生に影響を与えるということと、アジアのアーティストが当地にやってきて、新しい文化とか新しい経験をすることで、自国に帰って自国のアジア美術の振興になればいいかなと思っている。

## 定量的・短期的な評価に対する懸念、定性的・長期的な評価の重要性

---

### 【アンケート】

- 単に目に見えやすい成果にとどまらず、レジデンスを契機として育まれる両者の発展的な関係などについても、丁寧に長期的に検証をお願いしたい。
- 単純な入場者数ではなく(集客を無視するわけではないが、残念ながらAIRは、滞在及びその成果品の展示会を実施するため、その性質上、イベント型展示会のような膨大な集客は望めない)、アーティスト、学芸員が地域や街とどのくらい関わったか、協働制作の実績、派生的・連鎖的活動の実績のほか、AIRがきっかけで波及的に後年生まれた実績(雑誌や論文等に取り上げられることによる地域の広報効果、プログラムに参加していた子どもたちの創造教育のその後、参加者がアーティストになった、市民活動のイベントが興ったなど)も評価の視点になるのではないだろうか。AIRは人と人を結び付ける事業であるがゆえに、長期的、派生的な事柄を評価の視点として重視すべきではないだろうか。
- 利用者が滞在経験を通して、創作活動、調査・研究活動、収集活動など、目標の達成度や達成感を得ることが最も大事な視点と捉える。ただし、この評価についての係数化は困難であり、主観的なものに陥りやすいことも事実だ。効果や成果の現れる時期の特定も難しい。
- 参加したアーティストの作品の質の向上が重要な成果のひとつと考えている。ただしそれらは短期的ではなく、長期的な視点で判断される必要がある。評価の視点としては、数値以外にも、専門家の批評及び個人の感想などを重要視している。加えて、レジデンス事業全体の成果としては、国際交流を通しての市民の満足度や波及率も勘案されるべきであると考えますが、説得力のある計測方法がないことが課題のひとつである。
- このプログラムの目的、及びその達成は、レジデンスの結果としてのアウトプットではなく、むしろ、参加者相互の間での、文化的背景のみならず芸術的・社会的な文脈での異なるバックグラウンドを共有するプロセスそのものである。
- 市民一人一人が作家と交流したことが刺激になり、今後の人生にいかされるであろうし、被招へい美術作家も当地での滞在制作や市民との交流、そして日本の文化に触れることが、今後の創作活動を発展させるきっかけになるだろう。そういった評価は、数値では表せないし、10年、20年といった長期的なスパンを要するかもしれない。

- 評価の視点としては、事務局との協働の過程や、結果発表の周囲に与えた影響などが対象となるのではないか。
- 行政的には、受け入れ者数、受け入れ国数などが、数字であることからわかりやすく、ひとつの成果の基準とされているが、本来は、受け入れた作家が、望んでいた制作をできたかどうか、評価の視点としてあるべきだと考える。
- 必ずしも展覧会や公演などの発表を義務づけていないため、毎年プロセス自体が評価対象となるが、客観的な指標や視点からの成果は確立できていない。
- 評価視点としては、利用者数も一つの指標になると思うが、利用者同士の繋がりの中から新たな事業展開が発生したかどうか、指標として捉えていいと思う。
- 必ずしも展覧会やイベント・公演といった形態での成果発表を問うものではないため、定数・定量評価の判断は難しく、往々にして理解されにくい現状が未だにある。したがって、制作のプロセスを重視し、経験を共有するというレジデンス事業ならではの特色が反映されるような事例、エピソードの集積に努め、そうした取り組みを継続していくことで、レジデンス事業の標準的な評価モデル、コア・バリューを定めていながら成果に繋げていきたいと考えている。

### 【意見交換会】

- 申請をして頂いた数が今回増えたというのは、増えればいいのかという話ではあるけれども、でもそのくらい興味を持って頂いたことは評価できる。
- 数字で、何人入ったとか、これには何人入ったとかそういう形、それからあとは予算にどう影響しているか、という、ただそれも最低レベルを今保っているということは、ある意味評価という形になっている。
- 人数だとか、そういったものが幸か不幸か、トリエンナーレという3年に一度のお祭りをベースがありながらその中に位置づけられている。
- 評価の在り方が「市民の側に立ってレジデンスをしなさい」と言うような傾向になってきている。そして役所なので、とにかく数値化しなさいと。その数値は何かというと、ワークショップを何回やったか参加人数は何人だったかが評価だと言う。その評価で数値化してその評価で予算が減ったり増えたりしているという状況にある。でもそれは私たちが思っている評価とはやっぱり違う。
- 価値自体を「これだけの価値があるのだ」と、例えば政治経済に並ぶ価値が文化交流の中にはあるんだ、というような説明ができないか。

## その他の回答

---

### 【アンケート】

- 美術専門のレジデンス施設では得がたい体験や新たな出会いを持ち帰ってもらえるよう心がけている。そのため制作発表の過程に、観客だけではなくいかに多くの人を巻き込めるかも大事にしている。
- 評価対象の点としては、滞在地域への貢献度(地元客の来客数、広報実績、リサーチ成果としての情報の獲得)、次年度への発展性(招へいアーティストの周囲ネットワークへの発展性、継続的なプログラム実施の可能性)の2点が大きい。

### 【意見交換会】

- 作家同士のつながりというのもできていくこと。

質問2 貴団体がアーティスト・イン・レジデンスを運営する上で直面する現在の問題点や課題は何ですか。

### 安定的で持続可能な財源の不足、資金調達面の困難さ

#### 【アンケート】

- 現在、文化庁の助成や緊急雇用創出基金等を使用して事業を実施しているが、今後も継続的に新しい財源を確保しながらの事業運営が必要となる。特に、アートマネジメント分野の優秀な人材を育成する意味でも十分な人件費を確保することが必要となるが、民間助成金で人件費を対象とすることができるものは非常に少なく、対応に苦慮している。
- 運営資金の確保(現在は、海外からのレジデンスは文化庁からの補助を頂いているが、それらがないと運転資金の確保は難しい)。
- AIRの成果は2年から3年にわたる長期的なプログラムとして発揮されるものだが、特に初年度は事業による収入を得ることは難しく、長期的な視点での成果への評価、及び収支バランスが課題だと考える。
- 予算の確保は困難。今回の文化庁の5ヵ年継続の予算は長期のプランが試せてとてもよいのが、この5年を過ぎるとレジデンスだけのために得られる助成金はほとんどない。
- 当団体は、レジデンスという直接的な経済利益のない事業を中心とした民間のNPO法人であることから、安定的な資金確保は常に課題であり、継続的な経営は非常に困難であること。現在は文化庁の事業で先3年間はある程度見据えることが可能になったが、年度末の精算や年度計画の承認・決定のタイミング等、年度ごとに完全に区切られている状態であるので、次年度を見据えた計画を立てることが難しい。
- 市の財政状況は非常に厳しく、AIR事業も毎年予算を削減されている(文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業からの補助金により何とか事業が保たれているのが現状)。文化庁の5年継続の補助金終了後の対応が課題になっている。このままでは、被招へい者数や滞在日数を縮減し、制作やワークショップ等の活動を制限しなければならない。
- 継続的なスポンサーや資金がなく、プロジェクト実施前に毎回資金調達が必要なこと。
- 当団体が研究対象としている東南アジアの諸地域の組織とは、平等な経済関係を結ぶのが現時点では困難。収益事業に積極的に取り組み、派遣事業の予算確保を目指す。
- アーティストへの活動支援資金の整備と共に、事業運営資金の算段が必須事項であり、ご理解頂ける財団からの助成を頂戴できるようにはなったものの、一層の拡充を図ることが最大の課題である。
- 3年に1回アーティストを招へいするために、助成金に申請して資金をまかなっている。場合によっては1件も獲得できない時もあり、そのようなときはクラウドファンディングでの資金集めを試みたり、施設運営からの利益等から捻出したりすることでなんとか賄っている状況。申請する助成金はほとんどが「展覧会開催のための助成金」であり、アーティストが現地を訪れてから初めて制作の方針や内容が決まることも多い滞在型制作発表展においては、申請時には漠然としたことしか書けないことも多く、助成金獲得の困難さを感じている。

#### 【意見交換会】

- 財源確保というのがやはり一番の課題。それに合わせて人材の確保。
- お金が全然足りてない。
- ネットワークの部分でけっこう難しいなと思うこともなくはない。ただやはり経済的な問題が一番大きい。
- 自分で資金を確保して運営していくということが一つ大きな課題。
- この5年間はなんとかできるということになっているが、これが終わったら次がどうなるか、まだ全然わからない状況。
- 対等に海外のレジデンスと交換プログラムが組めるようになった。すなわち私どもにも出入りするアーティストをどこかに送り込める。それは向こうが受け皿になっている。我々も受けたいが、こちらに今まで何も資金的な受け皿がなかったのだ。
- レジデンス事業のひとつの特徴は、不動産をととてもたくさん使う要素が多い事業だということ、期間が長いということ。アパート、アトリエ、事務所、展覧会場。これだけのものを運営するのに普通にやれば何千万ってかかってしまう。それを一からやるのはすごく大変だ。
- 今回4ヶ国の人達に各国の言語、例えば日本語と韓国語の通訳を各チームに2人ずつつけている。そうすると4ヶ国いるので日本語を除くと6人の方がスタッフとして我々以外に必要なってくる。予算面で、この事業をどういうふうに経済的に成り立たせていくのかと言うことがやっぱり一番大きい。

- 文化庁から5年間継続と言うことで補助金もらっているのですが、それでかろうじて保っている状況。これが5年経ってなくなったらもう消滅するんじゃないかという状況にある。
- 5年というのがテストケースだと思っているが、願わくば、ある種公演に対する助成金と同じくらいのボリュームで、是非5年で終わらないで欲しい。それくらいの価値があるのではないかと思っている。

## 行政や一般市民の理解、関心、認知度の低さ、広報不足

### 【アンケート】

- AIRが社会の器としての存在となるには、アーティストという職業の存在と社会での位置づけの確立の必要性がある。アートを通して展開される活動の存在意義、例えばコミュニティ・アート活動と、固有のアーティスト自身に特化した創作活動が、各々の活動の特質を損なうことなく共存して行われることが重要だ。
- 海外アーティストの創作活動と、県民・市民や地域資源との関わりが必ずしも十分に深められず、事業を20年近く実施してきた割に、県民・市民の認知度・関心が低い要因となっているとも思われる。
- 中間イベントや成果発表のための展覧会において、作品内容によっては集客が難しい。
- AIRの効果をそれぞれの自治体や運営団体が理解して設営し、運営したにもかかわらず、運営者の全てが本当に理解しているわけではないため、担当部署、担当者が変わるたびに、担当者の理解度によっては「説明できない」という理由により、マイナス方向の変更や見直しを余儀なくされがちである。
- 滞在中の事業進捗状況や、実施後の成果報告を継続して広報することができていない。特にアーティストの滞在中は、日々の活動のサポートを行うことに労力が割かれ、プロセスや成果のアピールが後手になりがちである。
- 行政機関がレジデンス事業を行う上でその効果測定、評価基準の設定の難しさが挙げられる。
- 広く一般に関係性を構築したい場合、イベント自体の山が作りづらい事業のため周知に苦勞する。特に都市部では、マスメディアなどに取り上げられる頻度は低い。

### 【意見交換会】

- 地域の発展であったり地域貢献であったり地域アピールにもなっている事業はしているが、なかなかそこが上手く活用できていない。
- 「アーティスト・イン・レジデンス」とは何か、誰にも通じていない、その存在をどうしたらいいか。アーティストが滞在中で作ると言う、この仕組みをもう少し社会に知ってもらおうようにする。
- 海外からアーティストが来て「なんか遊んでいるんじゃないの？」と思われるのは問題点。
- (当団体の運営施設は)行政が元々最終的に推進して作った施設で、行政に届かないといけないと思っている。行政に届くというのは一般に届くということ。
- 向こうから来てくれたら返すのが当たり前だと思うけど、それを「お金がないから行きません」と言う。そうするとそこで途絶えてしまう。次にリレーできない、なかなかしにくいということ。
- 広報が上手く追いつかなかったり、報告がちゃんと継続してできない。
- コミュニティにコミットするようなタイプのアーティストがすごく増えているので、もう頼らざるを得ないので、騒ぎ倒して助けてくださいって言うことをしているとなんとなく認知されてきているというのがちょっとはある。

## レジデンス業務の専門知識や経験を持つ人材不足

### 【アンケート】

- レジデンスの運営上、語学力、自動車運転免許資格、美術や版画の知識、また、海外との交渉や英文での書類作成など、かなり多岐に渡る専門的な経験が求められるが、それに対応できる人材が少ない。
- 生活面のサポートをするスタッフ、専門的なアドバイスをするスタッフ、アーティストやキュレーターの企画を実現するスタッフに加えて、アーカイブを専門とする人材を、経済的な理由から確保できない。
- アーティストの望む専門性の高いサポート体制の構築が難しい。
- 海外からのアーティストを受け入れる場合、通訳の存在は重要。アーティストの芸術的な意図を理解し、臨機応変に対応する現場に対応できる通訳の存在は不可欠。しかし特に長期に渡る作業では通訳の確保、またその経費は事業費の中で大きな問題の一つ。
- スタッフ人員の質の確保、国際性、バイリンガル、地域理解、アート全般的な知識などの総合力を期待している。望ましい人材は、日本の実態と、世界の現実が比較検討できる力を持っていることであり、AIR事業を発展させるための基本であると思う。
- 近年における資金調達の課題として、現状のスタッフにとって十分な資質を持つスタッフと十分な労働条件を

提供することは、決して容易なことではない。

- 国際的視野や経験値のある職員の不足。職員は他の事業も担当している場合がほとんどであり、滞在期間が長く手間のかかるAIRに時間を割く余裕がないため、外部に協力者を依頼しているのが現状である。
- 現在、全国のAIR運営団体が直面している最大の課題はプログラムを運営する側の人材不足であろう。今後のAIR事業助成制度の中でも運営側の人件費、人材育成に対する補助制度を考えていく必要がある。
- 優れたキュレーター、デザイナー、通訳者などのスタッフの雇用が難しい現状である。

### 【意見交換会】

- 人材の問題が大きい。
- 制作のサポートということになると地方都市では専門的な人材というのがなかなか難しい。
- プログラムを運営していく側の人件費に対しての助成が、まだまだ非常に少ない。
- 人材確保。集落との信頼関係を築きながらアーティストが外からやってくるバッファー(緩衝)にもなりながら、というような機能を果たさなければいけないとすると、そういった人を確保し続けるのはかなり大きな問題。
- 通訳の問題というのが一つ結構大きくて、なかなか演劇でしかもアーティストとアーティストを結ぶ通訳、という方を長期でしかもそんなに高くないお金でお願いしたいが、通訳の方の人件費がすごくやっぱりアーティストへのフィーに比べても大きいというような状況になってしまうのが難しい。
- 外国人を受け入れると、人間関係を作ったりするのがすごく大変で、地方であればあるほど英語をしゃべれる人も少ない。
- 一番課題だと思っているのはコーディネーターの育成。
- 演劇の専門知識プラスアルファの知識が必要で、例えば格差とか貧困層の問題とかを取り扱ったときにはハローワークに行くわけだが、今までそういうことに通じた人がネットワークにいなかったのも、それもどうやって探したらいいのか。

## 労働量に見合った人員の配置、雇用、報酬

---

### 【アンケート】

- レジデンス専門の団体ではないため、日常業務と並行しながら日々のサポートを行うことになり、十分なサポートが出来なかったり、逆に日常業務に支障が出たりということが発生している。
- レジデンス事業に係る事業総量の変動と専門スタッフの労働力が対応不十分。業務量の増減に応じた人員配置、雇用管理が課題となるであろう。
- 芸術家の創作活動＝労働ではないという思い込みや、助成金もそうだがアーティストの労働の対価としての支払いという概念がなく、プログラムの原動力であるアーティストへの支払いがしにくい。
- 常駐管理人がいないことで、施設管理の不備が発生している。特に、朝食や夕食の提供、昼食のケータリングなど食の提供をして頂けるボランティアがいることは、作家の精神的安定や経済的な補助に結びつくため重要。
- AIRは作家のアテンド等の業務量が膨大にあり、複数の語学が求められる。また、顔で繋がる関係性も大切である。つまり、時間＝コストがかかる。AIRを専門職化させるべきか、ローテーション化すべきか、内部化するか、外部化するか、理想と現実に大きな隔たりを感じる。

### 【意見交換会】

- スタッフが少ない。今二人研究員がいるが、対応できていない。
- 運営面に関して対応できる職員が限定されている。
- 文化庁の助成金があるので、レジデンスのためにひとり、専門のスタッフをつけることができたのはすごく大きくて、もし助成金がなかったら今ごろ当団体は全員がパニックになっていた。だからもしこれが続かなかつたらどうしようと。

## レジデンス参加アーティストとのコミュニケーション

---

### 【アンケート】

- 招へいするに相応しい外国人芸術家、研究者のリサーチをどのように進めるか。来日者に日本の情報を提供するために提供できる英訳されているウェブサイト、資料が非常に少ない。来日者の設定した研究テーマが、受入者にとって未知の領域である場合のサポート方法。
- 作家の選考に公募方式をとっているため、応募要項のみでは情報が足りない場合がある(性格や人柄など)。作家によって必要なものや重視するものが異なるので、それらを満たしていくのが難しい。

- 選考にあたって、作品はもちろんだが、人柄にも重点を置いている。そのため直接あったことがある作家を優先するが、新しいアーティストと出会う機会自体が少なくなっている。
- 大型ながら、けっして十分な設備が整っていないアトリエ使用を前提とするレジデンスのため、絵画作品を手掛けるアーティストを選択することに偏りがちになる。その解決のため、AIR事業と別の事業枠を設けて、異なる表現手段を用いるアーティストを柔軟に受け入れる体制を整えている。
- アーティストと運営側との役割分担。どこまでをアーティストに委ね、どの部分は運営スタッフも関わるか、という細かい部分の判断。特に、地域に入り込みコミュニケーションを重ねて行うコミュニティ・アートプロジェクトを行っているため、多様な市民が関わり複雑な関係が生まれやすい。その調整が困難。しかし、このプロセスこそがプロジェクトの要でもある。

### 【意見交換会】

- かみ合わないようなすごくきつい人が来たりすると、心底疲れてしまったりということもあるので、本当に紙だけの情報だけだとすごく難しい。
- 事前のリサーチ。本当にこの人は今私たちが求めているのか、先方も先方が求めることに私たちが応えられるかというのが、マッチングが課題。

## 助成制度や指定管理者制度に起因する諸問題

---

### 【アンケート】

- 国内と海外の事業年度のタイミングの違いから、公募や実施時期などが海外の国と異なるため、公募側と応募側の相互のスケジュール調整に不都合が生じる。
- 文化庁の助成の申請と決定が新年度の直前なので、助成の決定がわからない状態で事業をスタートさせなければならない点。文化庁の助成対象期間が1ヶ月以上であること。1ヶ月の間、アーティストをケアする体制をとることは非常に大変であることと、若手アーティストでないと1ヶ月以上レジデンスする時間的余裕がなく、実績のあるアーティストを招へいすることが難しい。
- 受け入れだけではなく、相手の国と双方のエクステンションを目指しているため、海外の年度と日本の年度の開始が異なるため、内容のつめ、申請の流れを合わせることで、オーガナイザーのお互いのニーズがあわないと成立しない難しさがある。
- 特に海外のアーティストのレジデンスの場合、短い滞在の繰り返しでは、渡航費等のコストがかかるのと、様々な関係性の構築がしづらくなってしまふ。単年度予算運営であるため、中長期的滞在プログラムなどを計画していくことが困難である。また文化庁等の助成制度を利用するにあたり“アーティスト・イン・レジデンス”におけるアーティストの枠組みや定義が、刻々と変化する現在(いま)を生きるアーティストたちにあわなくなっている現実がある。
- 公益法人の考え方と指定管理者制度のふたつのシステムの間で合致点を見いだすのは難しいと考える。公益法人となったことから、当館のAIR事業への寄付を募ることが重要となってきている。
- レジデンスの持つ幅広い活動に対して、柔軟な対応ができていないとは言えない。特に宿泊に対する制約が大きい。これらの障害になっているのは、日本で定められている許認可の問題が大きいと言える(滞在に関する許認可/旅館業法、滞在场所斡旋に関する許認可/旅行業)。

### 【意見交換会】

- 海外との関係プレーをする時に予算がこちらは年度単位で動くものだから、相手が9月の新年度でこちらが4月という年度のギャップをいつも引きずって大変。
- 1ヶ月間という滞在期間がもう少し融通がきくようにできないか。
- ホテル業とか旅館業としての適用になってしまう可能性があるということが専門家からの指摘もあって、少しリサーチをした。調べれば調べるほど、正当な形でそれを公にすることができず、今現状もプログラムの参加料ということで、宿泊費滞在費という名目では取っていない。設備的な整備の問題だが、自治体の保健所によって判断も変わる。
- 年度の違いで、日本は4月から始まって3月に終わるけれども、海外は9月から始まって、その年度に合わせていくというのが非常に難しい。

## 施設・設備面の不足、老朽化による改修

---

### 【アンケート】

- 既存の小規模店舗空間を宿泊施設として利用しているため、安全面と快適性を向上するためには改修工事が

必要。

- 住環境やスタジオといったハード面の整備。
- 小さいながらも創作、展示、滞在そして交流スペースを有する現在の施設を活用し、一層発展させるためには、類似のAIRプログラム(マイクロレジデンスと呼んでいる)との協働が適切と考え、フィンランド、台湾、中国・北京、シンガポールなどの緩やかな交換プログラムを試行している。
- アーティストが長期滞在するのに相応しい設備や創作スペースの不足。
- 平成5年に建設した滞在型工房は20年を経過し、建物等の老朽化に直面している。
- 設備面における問題(老朽化、浴槽、冷暖房などの設備不備、電子レンジ、洗濯機、冷蔵庫などの備品不足など)。
- 長期移住を希望する者に対し、周辺の空き家を紹介するなどの支援を考えているが、空き家を貸し出す人が少ない状況。
- 都心部は、様々なタイプの施設を有し、街全体を使って充実したレジデンス環境を整えている一方で、郊外部にそれらの拠点がほとんどない。廃校活用などが望まれる。

### 【意見交換会】

- ハードが整っているわけではない。
- 宿泊施設がない。住むところも実は固定したい。
- 新しい建物ではないわけで、そのリノベーションというか修理の部分というのをやっぱり先行投資しなくては行けない。
- 制作スペースとしては小さい。大きい施設はなかなか確保できない。
- もう少し交流を生むためにはできたら宿泊施設のようなものをプログラムで用意し、滞在中も生活を一緒に出来るような仕組みを作っていけたらいい。
- 創作スペースが美術館自体にはない。スタジオを借りることになってしまって予算の面があるし、外の場所を借りてというが、借りてそこにこもって作品を作ってもらっても、当館の事業としてどう位置づけるか。同じように宿泊スペースもありませんので、どうしてもウィークリーマンションとかそういうところに頼らざるを得ない。
- 稽古場の確保が大変になってきて、そこが課題。

## 外部との連携やネットワークの開拓

---

### 【アンケート】

- AIR事業以外の新たな芸術活動分野へのアプローチや、地域振興活動との連携の検討が必要となっている。これまでのように、AIR自体を事業目的とするだけではなく、地域の芸術・文化資源と、県内各地にある様々な地域資源を融合させて地域の特色を打ち出せる事業展開についても、新たに検討していく必要がある。
- レジデンスをする海外アーティストの情報、オーガナイザーの情報を得るのが困難なのでアーティスト情報、オーガナイザー情報、施設情報などの情報を交換できる国際ミーティングなどの場が2年に1回でもあるとよいと思う。
- 社会にアートを開く意味でも、他分野との連携も視野に入れるべきではないかと考える。

### 【意見交換会】

- 年に1回か2年に1回レジデンスミーティング、国際ミーティングみたいな場というのが、海外で行われているのかもしれないけれども日本でも行われてレジデンスの情報交換があってほしい。
- クリエイションの場は充実しているが、実際に作品ができ上がる時に、一緒にそれを見せるまで持って行ってくれるパートナーとなる劇場が将来的には必要になる。

## 立地条件や地理的な要因による困難さ

---

### 【アンケート】

- 立地条件の悪さ(最寄駅から10km近く離れていること)や、公共交通が運行していないため、駅とレジデンス間の送迎が発生。実行委員会の事務が繁雑になる。また人口集中部に立地していないため、地域住民との交流が限定的になってしまう。
- 交通の便が悪く、県外の体験移住者などが苦慮することが想定される。

## 活動の記録・アーカイブ

---

## 【アンケート】

- 情報の保存と広報のためにも、オンライン・アーカイブの構築が必要。
- アーカイブの重要性に対する不理解: またしばしばイベントと混同されやすく、記録集予算やデータベース作成といったアーカイブ作業への理解が得られにくい。活動記録でしかAIR事業は残せない。
- プロセスをどのように記述し、残して行くか。またその経過を、どうアーティストの次の活動にフィードバックしていくか。そのフォーマットがないこと。多様なジャンルのアーティストを受け入れています、そのため、各アーティストの専門性にどこまで応えられているかは不十分な点がある。

## 【意見交換会】

- どうやって記録として残して行くか、アーカイブして行くかというのもひとつの課題。
- レジデンス事業を記録してアーカイブする時間とスタッフが今いないということ。

## 地域住民との相互理解、ボランティアのコーディネート

---

### 【アンケート】

- 小さな集落で実施しているため、地元住民からの理解が重要で「来てくれて嬉しい」だけではなく、レジデンスの時期以外にもプロジェクトに対する理解を深めてもらうためのレクチャーや定期的なミーティングが必要となっている。
- アーティストの滞在中のサポートは、市民を中心としたボランティアで対応している。住居は、ホームステイ方式で対応している。このため、住居を提供しているホストファミリーには大きな負担をかけている。また、最近はこの事業をサポートするボランティアに新規参加する人が少なくなっており、全体的に高齢化してきている。

## 評価手法の問題

---

### 【アンケート】

- 評価基準の曖昧さは、その活動の目的を経済性、地域還元の特化させやすく(もちろんそれを無視しているわけではないが)、入場者数に偏った判断が採用されたり、過度な地域振興や街づくりとの関連を求められたりすることもある。その結果芸術家の創作活動という根幹が軽視され、アーティスト及び芸術文化そのものが消耗品のように扱われることがある。
- AIRは、アウトプットがあまり求められていないことが課題ではないかと思う。やはり、その成果を展覧会なり、芸術祭に反映させるようなことで、他者と共有できるようにすることが重要ではないだろうか。

### 【意見交換会】

- 代表作というものを作っていければ、それがゆくゆくは海外の演劇祭から招へいされますとか、どここのツアーに行きますという形で残っていくということもあると思うが、最初からそうはなかなか上手く行かない。でも作品を作るには初期投資がやはり必要。
- 人が足りないとかお金が足りないのはどこも一緒。評価の仕方がどうしても確立できないというか、それはたぶん私たちが今までミッションというか元々目指すところをはっきりしてこなかったの、それに対する仕方をやっつけてこなかったから。

## その他の回答

---

### 【アンケート】

- 単に一回限りの出会いを提供するのではなく、いかに長期間にわたってクリエイターの育成に関わるレジデンスシーをプログラミングできるかが、今後の課題となっている。また、レジデンス事業という制度的制約を超えることが難しい現状がある。今後は、レジデンスの単独の事業としての可能性とともに、教育機関や、美術館、ビエンナーレなどのプロジェクトと連携して、私たちが必要とする創造基盤をつくっていくことができるかが大きな課題になっている。
- AIRが、アーティスト個人を超えた社会的な意義をもつためには、それを主宰する団体が力をもたなければならないと思う。レジデンス・プログラムを運営する能力はもちろんだが、社会とアーティストをつなげるには、団体自身が地域や社会に根差した活動を恒常的に行っている必要がある。
- 運営資金確保、運営基盤の人材確保・育成、施設整備、寄贈作品の活用方法、野外作品の修繕、維持、公的支援、ネットワーク構築。

### 【意見交換会】

- 東南アジアはそういうレジデンスの施設というか、あるいはその関連のところというのは実にうち以上にお金を持っていないのでフェアな感じになかなか辿りつけない。
- 滞在、ここで公演をしていくというものにしたとしても、まずここでインスピレーション、調査し持ち帰って自分の拠点の場所である程度また作り込み、そしてまた戻ってくるというこの繰り返しが必要になってくる。
- アジアは貨幣価値が違うので、向こうで日本のお金を持ってくると、その貨幣価値の違いがすごく大きくて、どうしてもこちらから全部持って行かざるを得ないところがジレンマ。

質問3 今後、貴団体がアーティスト・イン・レジデンスの一環として取り組んでみたいと考えておられる事業や活動があれば、ご記入ください。

## 海外とのネットワーク、プラットフォーム、共同制作

### 【アンケート】

- 海外のAIR事業者を招へいし、スタッフの指導や事業運営上の意見交換・問題点の共有など。
- AIRのレジデンスアーティスト相互の情報共有化とネットワーク強化のために、3年に1度、国際会議を開催している。
- 地域社会との関係の中からアートが提案する「国際性」の可能性について考え、その議論を社会に広く発信していく機会としたい。そのためにも、本事業に参加しているアーティストのみならず、アートに従事する人々と一般市民の交流を促進するプラットフォーム作りを目指す。また海外組織との連携によるAIRを通じた交換事業の構築と長期的な展開に取り組んでいく。
- 当団体ではこれまでいくつか海外の芸術拠点と連携を行ってきたが、国際芸術祭開催に向けて、よりネットワークを広げた活動をしていきたい。
- 来年度以降新たに共同制作プログラムと、学生を対象とした新たなプログラムに取り組む予定。共同制作プログラムは、諸外国の類似施設や関連団体との連携事業で、共同で作品を製作し、双方あるいはそれ以上の地域で上演あるいは展示をすることを目指す。
- 今までつながりのなかった国、特にアジア圏との連携のために本事業を利用したい。美術館にパフォーマンス・アーツ部門があるという特徴を活かし、展覧会と関連したレジデンスを模索する。
- 世界各国の様々なレジデンス機関とのネットワークの構築。レジデンス事業の成果の地域還元。
- いわゆる、OB、OGの会の設立をおこない、情報交換等の中核に育てること。
- 美術を中心とする事業と、舞台芸術を中心とする事業を各々のテーマ設定のもと隔年のサイクルで実施することで、2年に1回ずつプログラムやそのピークが集約され、当団体の活動指針がより広く浸透し、国際的プラットフォームとしてのプレゼンスが高まっていくことを期待している。

### 【意見交換会】

- 海外とダイレクトに、意識的に当団体で作ったものをそこで発表するというを最初から組み込んだプログラム。
- 共同制作ということで、当アートセンターなり他の機関と一緒に作品を作るというをより積極的に。あとは学生向けのプログラムを作る。

## 双方向の交流・提携プログラム(海外から日本への受入と日本から海外への派遣)

### 【アンケート】

- 当館のレジデンス事業は「交流事業」という事業名で、アジアとの美術交流をうたっているが、アジアから美術作家を招へいする一方向の交流にすぎない。今後、地元の美術作家をアジアの国々のAIRに参加できるような、双方向の「交流事業」にしていきたい。
- 昨年末、海外の国際交流基金を会場に、一時的なアートスペースを立ち上げ、海外と日本のアーティストが交流するというプロジェクトに私どもの代表が参加した。このプロジェクトの逆バージョンというか、海外や他の都市のアートスペースと提携して、一定期間に複数のアーティストを当地に招き、出来れば1つ建物を仮設のアートスペースと見立てて、地元の人やアーティストと交流する一時的な場を立ち上げることができないかと思っている。
- 「派遣」というかたちで、国内の作家を海外に送り出し相互交流ができるようなシステムの構築。
- 代表が今年海外のレジデンス・プログラムのボードディレクターに就任したこともあり、海外レジデンス・プログラムや海外での展覧会やイベントとの提携による、プロジェクト展開を今後考えている。

### 【意見交換会】

- 人材交流。「せっかくお世話になったので、お金を出すからお世話したい」というケースも結構あるので、そこに対応できる体制になるといい。
- 当団体のベルリン支局を創設する方向で動いている。ベルリンに拠点を持つということ。それから釜山とかソウルの韓国は朝鮮通信使の関係で数十の組織と行ったり来たり交流に入っている。

## 国内における地域横断型レジデンス・プログラム

---

### 【意見交換会】

- 長期的に考えられるようなAIRの展開をしていきたい。例えばトリエンナーレのアーティストや、その時期はおそらくいろんな施設で事業が集中するのでレジデンスも集中する。それをできればうちで賄えて、そういう人達同士の交流が当地でできるというような、そういう場所にしていきたい。
- 日本でもこれだけいろいろレジデンスができてきて、ネットワーク化しようという動きもあるので、ひとつは地域横断型のレジデンス。
- レジデンスができた成果というのが、そこでだけで発表されて他のところではどうなっているのか。興味があるけどなかなかいいけない。何かレジデンスの中のネットワークというか、ネットワークの中でそういうことが起きたことを、もう少しちゃんと他のレジデンスで関わっている人たちと影響し合う必要がある。
- ほぼ同じような規模を持つ劇場のスタッフ間で制作者のエクステンションのようなことが将来的に可能になれば。
- レジデンスでできた種を、実際に実に結びつくプロセスも続けて、今度は別のプログラムで支援をする。発表に向けてというフェーズになった時に、今度はパートナーが必要になるので探していかなければいけない。

## 新たな領域の開拓や領域を横断したレジデンス・プログラム

---

### 【アンケート】

- 国内の演劇やダンスといったパフォーマーのAIRに取り組みたいと考えている。
- アーティストやキュレーターに限定せず、若手の批評家や小説家、教育者、学者など、領域横断的なAIRに取り組みたい。異なる経験を持つ者が同時期に滞在することで、実践と理論が融合し、全く新たな表現・知を生む可能性を持つ。また、そうすることで、評論や論文など、現代日本の状況が、作品に限らず、テキストで記録・伝達されていくことも考えられる。
- 今後、舞台芸術だけでなく、現代美術や音楽といった他ジャンルのアーティストとの協同作業が生まれ、場の全体が一つのステージのように変貌するような事業を実施したいと考えている。
- アーティストの滞在期間を長期(半年以上)にして作品制作に取り組む試み。各国の成果としてよかった例などを発表共有できる機会を作りたい。そこから波及効果がおこるような参加者が触発される場。美術、舞台芸術、音楽、映像などジャンルをまぜたものの発表の場として、ひとつのジャンルに捕らわれないもの。
- 国際的にもアートの分野が細分化される中で、他分野との連携は、アートを社会に開くためにも、また、アートを通してその分野が社会に開かれて行くためにも、多くの可能性を秘めていると考える。

### 【意見交換会】

- 領域横断的な、つまりアーティストやキュレーターに限定せず批評家とか小説家とか教育とか学者とか何らかの形で、もちろん芸術分野との関連が見いだされるような方々をレジデンスに招へいするようなこともしてみたい。
- 可能性として食だとか、パフォーマンス、ものを作るというより事を起こすこと。レジデンスとしてこの芸能とか身体表現というものがはいつてくることはできたらいい。
- ジャンルを超えたネットワークというかレジデンスをやりたい。

## 地域の文化資源や特色を活用したプログラム

---

### 【アンケート】

- 当地の特産品を活用したAIR事業の実施。
- 地域文化資源の新たな魅力や価値を再発見、再提示するような試みを始めている。アーティストによる伝統工芸品等の展示会を実施することで、そうした地域文化や大衆文化に関心のあるアーティストにとっては調査に対する支援を行い、埋もれていた文化財にとっては、アーティストの選択によって日の目を見ることとなる。
- 街中の、例えば空きスペースや空きビルに滞在設備と活動拠点を作り、そこに地元アーティスト等が集まりはじめることでハブとなり、様々なアーティストや芸術関係者が集い競い合う小地区が生まれることで、周辺の商店街が活気立ち、それがまちの再生につながっていくようになれば、まちとアートの活性化、クオリティアップにもなっていく。
- 地域の可能性を開く事業。産業にとって:デザイナーと工芸技術。まちづくりにとって:建築家と共同で行うリサーチ・提案。地域のアーティストにとって:交流展の開催。
- 当市は、紙の産地である海外の都市と姉妹都市提携を結んでいる。毎年招へいするアーティストとは別に、これらの都市の国のアーティストを招へいし、紙に関する芸術活動を行なってもらうことを検討している。

- 市内の様々な場所(海、山、工場地帯…)など、近年主に市内の若い人たちに見直され始めているエリアを活用したプロジェクト、またはそれらをネットワークし、広域的に地域の魅力を発信するプロジェクトなどに取り組んでいきたい。
- 地域の特色を生かしたレジデンス活動。
- 街中の空き店舗や空き部屋を利用する、AIRプログラムを実施していきたい。人々の生活の身近にアーティストが存在すること、アーティスト本人が文化芸術に対する理解を、一般のより多くの人々へ普及していく啓蒙効果として力を発揮すると考える。

#### 【意見交換会】

- あるホテルをレジデンスのスタジオにしつつショップも併設されるとか、少し複合型のスペースを作り、そういう場所をいくつか本当に泊まれる場所として1日単位のレジデンスといつか泊まれる場所としても使いたい。
- 伝統工芸だとかというのがあるので、そういうものと上手くコラボレーションできるような工程、そこで生まれて行く商品をいろんな形で外にもまた発信すること。
- アーティスト・イン・レジデンス通りが将来できればいいなと思っている。
- 空きスペース、空きビルは地域にもそういった所は非常に多いので、そういった場所を活用してレジデンスプログラムを組めないか。

### 地域住民との交流機会、教育プログラム

---

#### 【アンケート】

- 学校や福祉施設などでのアウトリーチ。
- 招へい作家と市民との交流の機会を増やしていきたいとも考えているが、作家は2ヶ月弱の滞在期間中に作品制作も行わなくてはならないため、双方の時間配分のバランスが難しい。
- 運営主体が教育機関でもあるため、教育とからめたAIRも考えている。例えば学生によるサポート組織をつくるとか、芸術サークルとアーティストの出会いの場を設定することや、招へい期間を長めにし、定期的に授業のようなものを持ったり、継続的なワークショップを行ったりといった一種の学校のようなプログラムも考えられると思う。
- 作家と地域住民との交流事業の活性化。作家、地域住民、実行委員、行政などと繋がるきっかけになり、次の展開に発展できる有意義な場所として認知いただけるようにすることが大切。
- 地域住民や学生を対象とした定期的な現代美術講座の開催。
- 芸術家と地域住民や子どもを交えたワークショップ形式のレジデンス。

#### 【意見交換会】

- 教育プログラムと上手く連携させることによって、あらかじめこういうふうな実験的な教育をやってみたいというようなプログラムに沿って来てもらう。
- 教育や子どもに関するプロジェクト。商店街の中でアーティストが作ったおもちゃで遊べるような。
- 地域の人たちともっと交流をもっと深めてというのもやりたい。
- 私たちの事業は滞在制作ではなくて、市民協働制作なので、市民といかにコラボレーションをするのが大事。レジデンスのアーティストと地元のアーティストがほんとうに対等に何か作品を作って欲しい。

### 大学や文化施設との連携

---

#### 【アンケート】

- 美術大学とレジデンスとの連携。大学院生や大学生が、一定期間レジデンス活動などに参画(インターンシップ制など)し、レジデンスの運営に参画し、滞在アーティストと生活を共にしながら、これからの国際社会の中で専門性を高め、サバイバルしていくための方策を学ぶ。
- 市の美術館などの公的施設とのタイアップ。
- アーティストの創作意欲を掻き立てる異文化に晒される機会と場の需要と、その供給のバランスを調整する交換プログラムの世界ネットワークを形成すること。アーティストの創作スペース、移動するアーティストの受け皿であるAIR運営の場に、アーティストが一定期間充実した活動できるよう、各国の美大が核となった継続運営できる仕組みを確立したい。

#### 【意見交換会】

- 大学との連携。人材の養成に時間がかかるので、インターンシップ制について上手く大学と連携を取りたい。

- 公的な大きなレジデンスや、マイクロレジデンスの集合体が受け皿になり、そういう体験ができる仕掛けを美大と生み出せないか。
- 地域文化資源みたいなものと学生の教育を絡めた年間を通じたレジデンス。

## 現地制作作品や寄贈作品の活用

---

### 【アンケート】

- 滞在の成果として、継続に値する日本関連の事業が立ち上がった場合、創作、発表の実現のため別枠の助成事業プログラムで支援を継続し、さらなる事業の展開を進める。場合によっては、共同制作のパートナーとして参画することも考えられる。
- 平成5年度から今年度までに寄贈された作品は190点を超えているため、その作品の活用を検討したい。
- 現在、当事業の課題としてある、寄贈されている作品の活用方法をアーティストと共に模索し、取り組んでいきたい。これまでに招へいされた作家が再度、来訪することにより、当地での経験がアーティストとしてのキャリアに引き起こした変化や影響、活動を継続していくための何らかの糧となっているのかということを知り共有することにより、この活動のもつ意義を再考し、今後の活動へ活かす。

## テーマを定めたプログラム、領域を横断するプログラム

---

### 【アンケート】

- 年ごとにテーマを決めたAIR事業の実施。
- 海外では他分野の研究所でのAIRや、特定のテーマに焦点を当てたレジデンス事業を行う機関等が存在し、そのようなプログラムの多様性が芸術の振興に相乗効果を発揮している点で、地域独自の取り組みができるのではないかと思う。

## ミドルキャリア以上を対象としたプログラム

---

### 【アンケート】

- 若手に限らず、中堅以上のアーティストやキュレーターを招へいするプログラムも作りたい。多忙を極めるそうした彼らだからこそ、一ヶ月以上など、一定の滞在期間を条件とするレジデンス・プログラムには参加が難しい。数日～数週間の滞在が可能になれば、招へいの選択肢もさらに広がる。例え、滞在が数日であっても、経験を積んだアーティストやキュレーターによるレクチャーや講演は、参加者にとって刺激となり、得難い経験になるに違いない。

### 【意見交換会】

- 中堅者のアーティストやキュレーターを招へいするプログラム。

## その他の回答

---

### 【意見交換会】

- もう一度オープンスタジオというものをどういう形で公開するか、その過程の公開の仕方をアーティストも含めて決めていきたい。
- 4年目とか5年目に、それまで参加した人達が総会みたいに集まって、今後のフォローを睨んで何をしてきたかとか、それぞれの経験を交換できるように。
- 1年間ではなくて2年とか、いかにもう少し長期的なプロジェクトにしていけるのかということと、あと、もう少し半年ぐらい滞在する方法も持ってみたい。
- 成果上演や成果展示をすることがほんとに必要なのかということをちゃんと見直したい。例えば見せることを前提として進めないといけなくて、こういうことを試してみたいと試行錯誤をしていることをそぎ落としていくという過程に入って行く。「本当はもっとここを試行錯誤したかったのと違うの?」ということが見えてくることもある。

質問4 日本やアジア地域のアーティスト・イン・レジデンスとのネットワーク構築や連携について、貴団体としてのお考えがあれば、ご記入ください。

## アジア地域の AIR 団体とのネットワークの連携・交流

### 【アンケート】

- 過去5年間のAIR事業を通して、東南アジアの諸地域を拠点に活動するアーティストや組織とのネットワークを構築してきた。経済格差から現時点では双方からの出資による交換プログラムの実現には自己努力が必要とされるが、活発な情報交換によりネットワークが深められていることを実感している。
- 発展が期待されるアジア地域のレジデンス施設や政府系機関・財団の施設見学を行い、定期的に意見交換を行う場を創出することで、アジア地域独自のレジデンス・プログラムの構築やアーティストにとどまらない人物交流が可能となる。具体的には、意見交換の延長線上に、レジデンス施設による合同企画を立ち上げることが考えられる。
- アジア地域のアーティストは、日本との距離も近く、その文化歴史的背景も似通っているにも関わらず、創造作業を進めるプロセス、物事を捉える思考は、時によって西欧文化圏のアーティストに対するよりも、異文化と対峙するような感覚がある。であるからこそ、AIRの作業を通じて、理解を深めていくことは有効であると思う。
- アジアは中国を始めとして経済成長が著しく、交流できる相手先も増えて来ており、これからもネットワークを強化する重要性のある地域であると考え。社会情勢により関係が不安定になる場合も多いが、それ故に草の根レベルでアートを通じた交流によって貢献できることは大きいと感じる。政治的外交が悪化した場合でも、そのような国からのアーティストを受け入れ、また派遣することで、草の根での国際交流を実現することができる。その点で、地域貢献型レジデンス＝地元市民との関わりは、政治には成し得ない重要な役割を果たしている。
- アジア地域に限定することなく、アジアに根ざしたグローバルなつながりを視野に活動展開してきた。受け入れと同時に、派遣の実現を意識して、滞在制作するアーティストのチャンネルも重要なものとなる。国際交流基金のJENESYSプログラムによる、アジアからの若手アーティストなどの招へい制度にも寄与させていただいた経験から、更なる発展拡大のためには、同様の事業の継続を期待する。将来のアジア地域とのネットワークを考えると、歴史的、地理的にも日本との関係が深い近隣国であり、言語も文化も多様で創造性豊かな地域である。対等な立場で、交流が活発に行われることは、今後の世界情勢にとっても重要である。若い世代の交流の必要性は大きい。
- これまでにアジア20ヶ国・地域から美術作家62名（研究者・学芸員22名）を招へいし、これらの被招へい者によるネットワークが構築されている。被招へい者から国際美術展や各種展覧会開催のための各国の美術状況の情報提供をしてもらい、当館も「美術館ニュース」等を送付・配信して情報発信も行っている。過去には、被招へい者の企画あるいは協力による展覧会を当館で開催したこともある。被招へい者が来日した時に、当館に来てもらって講演会を開催したこともある。また、これまでの被招へい者からAIRの候補者を推薦してもらっている。今後もAIR事業を継続することでネットワークをより強固にしていきたい。
- アジアのアートスペースとの連携は今後も積極的に行なっていきたいと思っている。現在具体的にはシンガポールの機関との連携があり、それぞれが行うイベントに人を行き来させるなど、今後さらに発展させていく予定。
- 多様な価値観と社会によって構成されるアジアでは、単一の価値観による同一性を意味する共同ではなく、差異を価値と認め合う共同性の中で、いかにネットワークや創造基盤をつくってゆくことが課題である。そして、これまでの欧米圏を中心に形成されたネットワークや枠組みをこえながら、規模の小さな活動が主であるアジアのレジデンシーをサポートするストラクチャーの構築化を実践してゆきたいと考えている。
- 同じアジアで活動するAIRとして、事業間のネットワーク構築や連携を通じて、アーティストの交流プログラム、地域をベースとした交換・交流プログラム、事業間でのプロジェクト実施、情報を共有することなどを通じ、各事業の抱えている課題に向き合うなど、他事業の事例等を知ることにより、学ぶことは多くあるように思われる。また、他AIRと連携することにより、AIR参加アーティストへのアジア諸国でのAIRの情報提供をするなど、アーティストにとってもネットワーク構築の場となるかと思われる。

## アジア地域との交流における経済的な格差の課題

### 【アンケート】

- アジア、とりわけ東南アジアの場合、日本との貨幣価値の差が大きく、アジア諸国は自国の予算を持っていな

いことがほとんどないため、アジア側がアーティストを招へいするという形がとりにくい現状があり、アジアサイドから積極的なネットワークがつくりにくいという現状が見受けられる。一方、レジデンス可能な施設は各国にあるし、日本のアートにとってアジアはとても重要な芸術的要素の高いパートナーの要素があるので、なんとか積み重ねていきたい気持ちは変わらない。ただ、常にアプローチは日本からアジアへというベクトルになること、こちらから働きかける、予算をつくるのが条件になるところが、正直、苦しい一面だと感じる。専門の助成団体があり、サポートが恒常的になると別だと思う。経済の深刻な問題は大きい。

- 韓国、シンガポール以外のアジア地域においては、パートナーとなる機関、拠点がまだ多くないので、キーパーソンとなる人物との個人的つながりでリサーチする方向になる。そのような個人を中心とした小規模フェスティバルの開催が増えてきているので、それらの場所を訪問することで連携の第一歩を作ることができるのではないかと。
- アジアにおいて最も裕福な国である日本は、特にアジアの文化的なネットワークの構築と強化における牽引的な役割を果たすべきである。
- 地理・距離的に言えばアジア地域とのネットワークはコミュニティのようになればと思う(アジア地域で閉じるというのではなく)。そのためには、アジアの若手アーティストが日本でも滞在しやすいように、金銭面でアーティストの負担をなるべく抑えることが大事だと考える。
- 「オープンレジデンス」のプログラムでは、欧州、米国、オーストラリアといった地域からの応募が多く、アジア地域からの応募がほとんどない。これは、レジデンスプログラムへの理解度や、国よっての文化支援など、様々な要因によって差が生まれているものと考えられる。これらの要因を現状と考え、当方が助成制度より獲得した助成金を利用して招へいプログラムを行い、積極的に応募の少ないアジア圏のアーティストについてピックアップできるよう情報収集を行っている。

#### 【意見交換会】

- レジデンスプログラムの運営者がやはりレジデンスをよりよくするためにいろいろ学ぶ機会があったり、特にアジアのレジデンス、アジア地域でレジデンスをしている人達の交流の場を持つこと。
- 今からアジアとの運営者の行き来、アーティストだけではなく運営者の行き来というのはひとつ重要。
- アジアのネットワークを横堀さんも言っているようにいつも作ろうとしていて、人と人はすごく繋がっているけども、全体で何かをやるうとするときに、やっぱりこちらがお金を作らない限り何も動かないというジレンマがある。
- アジアのいろんな地域と、いかに対等な条件をエクスチェンジで作れるかというところでまだ止まっている。アジアでのフェスティバルとレジデンスを結びつけて、予算を獲得しながら何かできないか。

### 海外の AIR 団体との双方向プログラムでの連携・交流

---

#### 【アンケート】

- 海外のAIR機関と連携し、当プロジェクトで支援費を負担しないアーティストの受け入れ等も実施したいと考えている。
- 今後は海外のアーティストやAIR機関とのネットワークの構築への移行に取り組んでいる。特に、アジア地域を意識はしていないが、何人かの木版画指導者、アーティストは活躍しており、連絡は取り合っている。
- アーティストの帰国後は各関係機関での成果発表も計画されており、日本での成果を各地で公開することができるのと同時に、日本側にとっても良いアーティストを招へいする機会を得ることができる。
- 将来的には、アーティストの派遣を相互に行なえるような交換プログラムとして持続的な関係性を築き、アジアだけではなく、広く世界の他の地域とのレジデンス機関とのネットワークを構築し、地域の魅力を発信する。

#### 【意見交換会】

- 例えば大学とか教育機関とかの場合はこっちで仕掛けたものに関しては、強制的にネットワークができるが、外国人を呼ぶ場合よりも日本人を呼んでいる時の方が数倍進む。今一番外国人を呼べるのは地元のクリエイターや、モノを作っている人たち同士のネットワークで進みやすい。
- 相互交流というか、時々往来という言葉を使っているが、往来が始まるのがネットワークなんだと思う。文化庁には、文化交流するにしても、もっと大きめの一つフレームを作ってくれたらいいと思う。国がやるけれど地域に任せるようなリレーを。

### 海外の AIR 団体との調査訪問、信頼関係の構築、人材育成の環境整備

---

#### 【アンケート】

- 能力と熱意のある若手(40歳以下)の育成を行い、今後の日本のレジデンスプログラムを牽引する人材を育て

る環境を整えることは、文化外交においても重要と考える。なお、近年、各国の大使館がレジデンスプログラムを開始しているが、専門スタッフがいないため、招へいアーティストの交流の場の創出に頭を悩ませている。こうした交流の働きかけは、そうした大使館関係者にとっても有効だと考えられる。

- 人と人との交流が主体であるAIRにおいて、海外とネットワークを構築するためには、メールや電話だけでできることではなく、相手との信頼関係も重要である。今回実際に学芸員が当地を訪れたことは、プログラムばかりでなく、そのスタッフ自身も当地の関係者に知ってもらうのに非常に効果的であったようだ。またこちらとしても担当者がアーティストのスタジオを実際に訪問したことで、安心してアーティストを招へいできる。そのことは友好な連携関係を築く上で重要なプロセスだと考える。
- レジデンスのネットワーク化は必要だと思う。レジデンス全国協議会のようなものが欲しい。

### 【意見交換会】

- 「お互いが何をしているか」は、日本とアジアだけでなくアジアの中での相互のネットワーク作りも非常に重要だと思うし、私どもの方でも国内の日本に来たらこの人の所に行ったらいい、ここに行ってみたらいい、という風なことで、国内ネットワークも非常に重要。
- プロジェクトがないとなかなか深い関係というのは生まれにくい。例えばミーティングでいろいろ話を聞いて、例えば「台湾でこういうスペースがある」とか、「こういうアーティストがいる」と聞くと、やはり行って見たくなる。それがたぶんネットワークの始まりだと思う。

## 国内の AIR 団体との地域間交流や育成面での連携・交流

### 【アンケート】

- 国内のAIR機関とは、運営上の意見交換など、スタッフレベルでの交流は行われており、今後も継続・拡大していきたいと考えている。スタッフの人材育成も重要であるため、交流を活発化していきたい。
- 住民の生活水準の似た地域同士の連携に関心がある。当団体の活動拠点は地方小都市だが、近似の文化的環境をもつ地域がいかにかアーティストと接しているか、継続的に活動状況を報告しあう機会をもちたい。上記のネットワークを利用して、複数の団体でアーティストを招へいする事で招へい費などのコストを抑えて、AIRの実施ができるかも検討していきたい。
- AIRがそれぞれの場所で完結してしまうのではなく、それが人の動きを生み出すようなものになることが望ましい。アーティストがそこに滞在することで、地元やそこに関わる人々との関係性が生まれ、今度はその人たちがアーティストの土地を訪れる。実際、AIRという形ではないが、そうした地域間交流が生まれており、それは地域やアーティストにも活力を与える。
- AIRを行っている他機関と提携し、各地で創作された作品の発表の場を増やせばよいと考える。
- 具体的な構想はないが、他所の施設の視察や担当者レベルの交流を行う等、施設間交流には非常に興味がある。

### 【意見交換会】

- 団体のスタッフ間の交流やアーティスト同士の交流は結構生まれている。うちに来たアーティストが例えばどこか、京都へ行きたいとかそれこそ別府へ行きたいとかってなった時に、1週間とか交換で泊まれるような仕組みがあれば面白い。
- 専門性あるスタッフとかの交流や交換。
- 当団体が招へいするレジデンスアーティストで、海外の方の国内の旅費のための予算は取っている。
- 交換で1ヶ月とか半年とかみたいな形でお互いに人間を交換する。
- 事業ベースで回っているということと言うと、もうすでにそういうネットワークは構築されつつあって、ネットワークというのは、そういう中で一つのことをやることで増えていくってことがある。やはり一つのを協働してやっていくのが、一番ネットワークを作る上ではてっとり早い。
- 5団体ぐらいのレジデンスの地域と連携する巡回型AIR。チーム間の連携も出てお互いのレジデンスに今度行ってみようという風な、事務局同士だが、そういったやりとりもできたのも、非常によかった。
- お互いの人は知っていて行き来があるという状態の中で、何か一つ作業をしていくことで変化が生まれてくることもある。
- 瀬戸内国際芸術祭に比べれば全然小さいが、違う形でちょっと広い圏域で発信していこうという流れはある。地域としてももう少しブランディングして行きたい。
- 創作の場としてのレジデンスというのと、国際だけではなくて日本のアーティストも、東京のアーティストが地方の公共スペースで空いているスペースがあればレジデンスができないか。すぐにネットワークと言うよりはやって

る人と興味ある人が集まる場を作ることの方が先なのかなという気がする。

- 国内に関してはこのプログラムでもやっているように、他団体と協働したり、アーティストを交換で受け入れたりというような、関西圏内でアーティストが動いていく状況を少しずつは作れてきている。

## AIR 団体間のネットワーク、中間支援活動の必要性、相互に評価する仕組み

---

### 【アンケート】

- レズ・アルティスを活用してAIR団体間の交流を活発化し、連携の強化を図るべきである。国内のAIRが根付いていない現状をふまえ、AIRと社会を密接につなぐ議論を進めるべき。
- 2003－2010年、毎年、日本のレジデンス担当者を対象にしたJ-AIRネットワーク会議を、在日大使館や文化機関などの協力を得て開催してきた。運営事務局にはAIRの担当者がボランティアスタッフとして参加していたが、スタッフの関わるAIR事業の終了やAIRからの退職などで、現在、開催はペンディング中。
- レジデンス機関同士の連携も構築できれば、より作家に関する情報などが得られるため、有益だと考えられる。
- 美術館ではないAIRプログラムでは、予算的にも人数的にも学芸員が頻繁に海外調査に出かけることができない。残念ながら現状では地方公共団体である運営団体は国内、もっといえば地域に目が向いているため、調査費の援助は望めない。そのため個人的に調査に行ったりするのだが、それで構築できるのは個人的なネットワークとなってしまう、担当者がいなくなればそのネットワークは途絶えてしまう。公的なネットワークの構築のためにも、上記のような助成金による調査等の機会が増えれば良いと考えている。
- 施設単独で、未知の地域のアーティストやプロジェクトと出会ったり選定したりするのはとても難しいので(文化や言葉の違い、レジデンスプログラムへの認識の違いなどもあって)、例えばレジデンスのウェブサイト「AIR\_J」に掲載している施設間でつながりを持って、アーティストの紹介や各国の状況、各施設のノウハウなどを情報交換できるとよい。国際的で多様なものの見方を促す機会としても、アジア各国とのネットワーキングは重要と考えるが、複数の施設が連携することでより効果的なつながりが生まれるのではないか。その後ろ盾となってくれる母体があればよいのでは。
- 各地方の特色ある小さなレジデンスのネットワークを築きたい。
- ネットワークが出来ていくプロセスを支援する仕組みがあれば素晴らしいと思います(例:アサヒアートフェスティバル)。現状の文化庁のレジデンスへの援助はそうっていない。

### 【意見交換会】

- いろんなアーティストが頻繁に横の連携をして、アーティストが繋いでくれる場合もある。
- 事務局同士のやりとりをもっと密にしていかなければならない。
- レジデンス機関が持っている情報を事前にもらえれば、例えば書面でしかわからないが、その作家についていろいろ事前情報ももらえるということもできる。
- 評価の仕方のところが一番気になるので、それぞれがそれぞれのことのところを何か見ていただけるか、意見を頂戴できるという形にできるのであれば何か助かる。
- 今までお付き合いしたことのないところとも情報交換させていただいたりとか、なにか一緒に企画ができたりということとは常に考えている。

## ネットワークに関する課題や懸念事項

---

### 【アンケート】

- 国内のネットワークに関しては、それぞれが競合施設であるので、情報やノウハウの共有がどこまで機能するのか疑問が残る。ネットワークを活かした事業等が具体化できるのであれば、必要性も高まるのではと考える。案としては、成果発表作品の評価やレジデンス事業全体の評価を、批評家だけではなく、別の施設の担当者が専門家として意見や感想を述べる機会を作るなど。それらを通して友好的かつ建設的なネットワークを作ることができれば。
- お互いの運営ノウハウを高めるための情報共有のための連携は大いに必要。ただネットワークの構築や連携により、レジデンス事業を行う施設、組織のインデックス化が進むと、個別の事業特性をあまり考慮せず、ともかくレジデンスを渡り歩くために申請するアーティストを生み出してしまふことなどが懸念される。

### 【意見交換会】

- 大使館とのコネクションを作る、それからアクティブな窓口になってもらうということで大使館のひとつのパートナーとして組んでもいい。アーティストの滞在中の生命の担保が必要。自然災害はもちろんのこと、危機管理に対する責任をどう取り組んでいけばいいのか。

- どうすれば情報がスムーズにいくかということから、ニーズからネットワークというのをやっぱり考えていく。フレーム、枠組みからではなくて、私達が実際にやっていること、何が起きているかということからネットワークを考えて行く。ネットワークは常にネットワークの構築とかネットワークの更新とか、情報更新しないと全部途切れてしまうので、まめに行き来するしかない。
- ネットワークの構築とはどういうことを指すのかということのを、そこをテーマにしないとわかりにくくなる。
- 情報センターの事務処理をまずは一手に引き受けるか、結局、核となって事務局になる誰かがいなくてはできない。ネットワークは自然形成されるものでもいいのかもしれないし、大上段に振りかざして何かやるとなると、事務局があつて、事務局スタッフが必要でしかるべき情報センターになってという、その方程式ではない。
- レジデンス施設間のネットワークに関しては、若干懐疑的ではあるというのは正直なところ。上手くシステム化できるというか、有効に活用できる形が作れるのであれば、あつてもいい。徐々にネットワーク疲れしているのが正直なところ。
- アジア各国とレジデンス事業だけではなく、美術全体のネットワークは完全に構築してできている。レジデンスはほんの一部に過ぎない。すでに完全に拠点になつてる。
- 自分たちがやっている方向性と、それぞれにされている方向性と規模が違うので、会員制のネットワークってなつた時には、まだよくわからない。実際にお話を聞かせていただくのは、本当に貴重な機会だ。
- 今いきなりネットワークの構築と連携という話しより連絡会みたいなものが基本ではないか。

## 地域内の各種団体との連携・交流

---

### 【アンケート】

- 当団体が行っているAIRの大きな特徴として、まちの環境づくりに取り組んでいる地域の協議会、町内会や商店主の会との地域内での強い連携があり、食事会の開催や作品の材料の提供、調査協力や技術指導など、多岐にわたるサポートが提供されている。

### 【意見交換会】

- 本当に地域の方の関係者がいなければ何もできない。
- 地域の教育機関との連携が大切。
- 草の根というか、普通にダイレクトに個人レベルとかもう少し小さいレベルのものを公的機関に価値のあるものとして還元できれば。

質問5 日本におけるアーティスト・イン・レジデンスの社会的な意義(芸術の振興、芸術家の育成、国際交流、国際貢献、地域貢献…など)について、どのようにお考えになっていますか。

## アーティストによる創作活動の発展、展開、成長

### 【アンケート】

- AIRプログラムを地域社会のひとつの要素として捉えることで、海外のアーティストにとっては現実の空間で自身の創作活動や理論を試す機会となり、その気づきがレジデンス以降の活動に自然と影響を及ぼしていくだろう。
- 当団体が運営する滞在施設には常時アーティストが生活し活動をおこなっている。その彼らと短期のレジデンスを行うアーティストが交流することでそれぞれにとって制作意欲を刺激する交流となる。
- AIRの成果は、目にみえてはかれるものではない分、どこに、意義があるかということがわかりにくいものだと思うが、実際はアーティスト自身が、自国の文化以外の異なる習慣、文化から刺激や影響を受けることで、アーティスト自身が変化できる機会として重要なものであり、その活動を通して、アーティストのつくり出す創造的な価値観を、レジデンスをする地域、スペース、劇場を通して、ダイレクトに滞在する地域の人々に影響をあたえることができる。
- 芸術の振興・育成という点では、レジデンスを体験すること自体がアーティストの育成に直接繋がるものだが、滞在先で出会った地元アーティストや他の滞在中のアーティストと帰国後も繋がることでネットワークが形成され、彼らの日本での経験が海外に知られるようになる点で非常に効果的である。
- アーティストの側からすれば、滞在制作による制作に集中する時間の確保、専門スタッフや技術員の支援によりそれまで一人ではできなかったような作品制作の可能性を得ることのみならず、そこで出会った人脈により国内外の他のプログラムに参加したり、活動を展開させるきっかけを生むこととなる。
- 国内外のアーティストが連携できる機会を与えることに意義があると考えている。特に地方では、海外アーティストとの交流や共同制作の機会が少ないため、本事業は重要な役割を担っている。
- アーティストに自由な創作の場や試行錯誤を許容する場として、とても貴重だと感じる。常に結果がどうなるかわからないという意味で、アートやアーティストの本質を捉えた事業だと思うし、創作力や創造力の源泉となるような時間であると思う。
- 若手クリエイターが専門的な教育を終えた後の、社会の中でキャリアを発展させていくモデルが明確ではない日本の現状の中での「若手アーティストや文化に携わる人へのキャリアパスの提供」。こうしたレジデンス事業の実施を通じて「日本の文化的魅力とプレゼンスの向上」という社会的なインパクトにつながっているのだと考えている。
- アーティストが異なった文化の中で生活、制作することにより、生活者の視点で滞在制作できる状況を通じて、作家自身の制作に新しい変化等が生まれると思われる。

### 【意見交換会】

- アーティストにこの場所で何かやってくれとか、あれでやってくれということだけではなくて、もっともっと自由に考えてもらえることができれば。
- 当団体はキャリアアップを意識していて、過去にはギャラリーのアーティストになった人が何人かいる。そういうような形で日本での足場作りみたいなものができるように、というのも、やっぱり私達の場所に帰ってきて欲しいから。
- リサーチの対象がアートのことに限らないアーティストというのが多くて、それがわりと当団体に来る受講生、普通の社会人の人達と触れ合うことによって、意外なキャリアマネジメントができていく。
- 海外のアーティストにとってプラスに働いて、本国でも助成を受けられやすくなったとか、例えば次の年に英国を始めとする欧州のフェスティバルにいろいろと企画をアピールしやすくなったという。そのアーティストにとってもプラス面ができた。地方のアーティストは、そのあと東京で行われたフェスティバルの方にも招待された。そういう今までなかったネットワークが、大小いろいろとできていることは、社会的にも意味がある。

## 地域社会における多様な表現や価値観との出会い

### 【アンケート】

- 当プロジェクトでは、国内外の若手芸術家への支援、地域における国際交流、地域住民へのアートに触れる機会の提供を主な目的として事業を展開している。

- AIR事業を通して、地域住民やその他芸術文化の分野外で活動する人たちが、アーティストという「人」と触れ合うことで、創造的な活動を「作品の鑑賞」とは別の方法によって、身近に感じることができ、芸術文化活動に対する関心が高まることが期待できる。
- アーティストの顔が見えるので、地域メディアの取材対象になりやすい。結果、住民が文化芸術に理解を深めることに貢献しうる。
- そこに住む人々にとって地域が誇りとなり、自らが選択して住んでいるという意識改革をもたらす。東京以外の地域で人口が減少していく現在、住民が「この場所に住むことは自分の主体的な選択だ」と思える地域は人口が減りにくく、これは地域振興の最も重要な基盤となると考えている。
- AIR事業の意義は、滞在制作を受け入れる側にとっては、生きているアーティストたちが、生きている人々に出会うことで生まれる相乗効果、教育的効果、異文化交流のみならず、異質なものが社会に働きかけることで広がる地域社会の許容の幅の拡大であろう。
- 創造の過程において、異質なものと出会いは不可欠なものであると考える。ジャンル、世代、地域などの異なるものが出会うことで、より豊かな表現が生まれ、それらを育む土壌が広がる。多様な表現は多様な社会に対する理解へとつながり、地域貢献や国際交流に対して有効であると考えている。
- 海外から来るアーティストにとっても自分たちにとってもそうで、受け入れる場合も行く場合も、違う場所や違う国籍の人との交流を通して気づかされたり考えさせられたりすることがたくさんある。そういった気づきが、アーティストの活動や、自分たち自身の活動に反映されていくことを考えると、自らを取り巻く社会により意識的な人間が増えるということにおいて、社会的な意義があるのではないかと。
- 多様な価値観、文化的背景を寛容に受け止める姿勢を、日本の社会に根付かせる方策としては、極めて有用だと考える。
- 社会的意義についてはまずアーティスト個人や関わる人達の単位から考えている。アーティストが滞在中に起こる出来事や出会いや刺激が自ずと社会的意義を持つと考えると、その方向性はアーティストの活動内容による。大きく言えば地域貢献という事になるのかもしれない。
- 新しい可能性を探求する若手アーティストを住民が共に支援するという視点に基づけば、創造体験をアーティストと住民が共有するという更に意義の深い事業になると思われる。
- 今でも「少々変わった人」と思われているアーティストが施設にいるような状況は、一種の集団に対する恐怖感、憎悪感を世間に抱かせてしまう恐れがある。そのため、できるだけ常に大勢の市民と交流できる場所にレジデンスを設置し、オープンな場にしていくことが地域住民の理解に繋がるために重要と考える。
- 文化を通じての国際交流は言語の問題を超えて基礎教育の向上や、地域文化力の向上に繋がると感じている。来訪者としてのアーティスト・受け入れ側としての地域の、双方に学びや経験がもたらされるプログラムとして大きな意義を持つ。
- 地域と作家の交流の架け橋となる施設であると考えている。また地元、海外の作家が様々な人と関わりながら製作していくことは作家にとって学びの場になると考える。
- 芸術は文化であり異国間の相互理解を深める上で有効な手段、一方、国内においては地方の過疎化が進み、環境は良くともかき混ぜるものがなければ地方は腐ってしまう。レジデンスの意義は外部からもたらされる、少量のスパイスもしくはかき混ぜ手と呼び寄せることではないかと思っている。
- 事業を通じてコミュニティ内における芸術の振興、国際交流の場の普及などにより、新しい発見、価値観、交流が生まれ、内部の住民の意識の変化や地域資源の再発見による魅力の形成等を促し、交流人口の増加にも結び付くと思われる。

### 【意見交換会】

- アーティストが活動しているのに触発されて自分もやりたいというような人達が出てくるので、それはまず同じ場所で同じフィールドでまず活動している空間があるということ自体はひとつの意義。アーティストは不可思議な人というレッテルというか、そこから抜けられる。
- 毎年のごとくとして受け入れて行くということは、地域の寛容性が上がっていくことでもあるし、いろんな気づきというものが生まれてくる。不思議なことをやったりやっている。それが当たり前になっていて、その前を通る時に、「あれは何？」と言うと「アートだから大丈夫」みたいな感じで(笑)。
- クリエイティビティを伴うデザイン力と、構想力、問題発見力と言えるかもしれない。家賃を安くしていくという在り方もとても大切だなと感じることがある。
- 地域に変わった人がいるというか、変な人がいるということで地域の人が多様性を担保する部分、それが「自分の地域に自分がいてもいい」、「地方でも変わった人でも生きていける」というような場所にしたい。

- AIRの社会的意義の前にアートの社会的意義がある。作品だけが公開されていてそこからある程度吸収することがあるけど、作家の作品を美術館で見るより、より直接的に、実際にアトリエに行く方が深い。「生身」は大きな社会的意義で、アートより上位。アートの社会的意義よりもAIRのほうがよりアリティを感じさせるシステムだという言い方はないか。作品だけ持ってくるだけではなく、人も持ってくることを美術館の機能として拡大してやったほうがいい。
- なぜアーティストにお金を出すかは非常にはっきりと答えが出ている。アーティストは、その未知数さを含めて特殊な能力を持つ存在。その何か不可解な人を、周りの人が理解するためにザワザワし始めるということが決定的なこと。それからもう一つは、能力を持つアーティストが来ると発信力が10倍ぐらいある。それがAIRの意義ではないか。

## 文化芸術による地域振興、まちづくり

### 【アンケート】

- 全国でまちづくりのキーワードとなっているアートを、地域住民の間に普及・定着させるためには、住民自らの発意による展覧会やワークショップの開催を支援すること、また、コミュニティデザインの視点で、芸術・文化を活用して人と人とのつながりを広げ、地域の課題を解決したり、活力を生み出し、積極的に地域社会に関わっていくことなど、時代に先駆けて、様々な取り組みを進めていく必要がある。
- ユネスコ世界自然遺産に向けた地域の芸術文化事業の一環として、富士山を題材とした作品制作が盛んに行われるなど、地域のPR活性化の一翼を担っていると思う。
- 新たに生まれた芸術文化に対する理解によって、地域の資源が再発掘され、独自の地域振興の手法を見いだすことができるだろう。
- 地域の知名度向上、情報発信をするにあたり、海外の作家が日本、当地での滞在を経て得た経験や技術をその作家自身の言葉で発信してもらえるため、意義深い。
- 地域の人たちへの特化したワークショップや、レクチャー、共同作業、その地域の祭りや伝統行事へのアプローチなど、アーティスト同士の活動だけでなく、一般の生活の中に滞在することで、深くその国、地域文化との相互作用が成立し、地域に貢献できる。
- 日本のレジデンスは、欧州の自立した活動を求めるスタイルとは異なり、比較的地域貢献型のプログラムが多い傾向にあるが、上記に述べた草の根レベルでの役割を果たしている点など、それはそれで独自の進化として利点があると感じる。
- 滞在制作により、比較的短期間で地域と係わらざるを得ないし、地域住民も聞いたことしかなかった国のアーティストと日常的な部分で接する機会を得る。こうした滞在制作で観光以上の地域の経験をしたアーティストが、一種のスポークスマンとなって招へいされた地域や国の魅力や文化を外に発信していく。異質なものが少ない日本にとって多様性を受け入れやすい場がAIRであり、その多様性の存在が地域社会に及ぼす影響は、長期的な社会貢献となるのではないだろうか。
- 近年の日本の社会状況から、地方都市が生き残り、その存在をアピールしていく上で、「アート」の視点を活かした分野横断的な取り組みで地域に活力を生み出し、自分の町にしか存在しない生活文化や美意識を守っていくことが価値のあることと考える。このことから、市民の創造力が刺激・誘発されるような活動を推進することにより、関わった市民一人一人の感性や独創性が磨かれ、教育や産業、地域コミュニティなど様々な分野において個々の創造力が発揮される地域社会の形成に、AIRの社会的な意義がある。
- 滞在作家との交流や共同制作から、地域の価値を見直し、再発見することができる。作家同士の協働により、世界のアート状況について知り、刺激を受けることができる。特に若い作家にはよい経験となる。地域の空きスペースや空き建築物などの積極的利用により、新たな活用法を提示することができる。
- クリエイターやアーティスト関連など中山間地域にはない分野であり、新たな風を吹き込むという意味では、地域貢献への足掛かりになるのではと考える。
- アーティストにとって、異なる環境に身を投じることにより、創作意欲の刺激、そこから生まれる新たな創作活動といった点だけでなく、アーティストの活動そのものがその国、その地域での文化振興の一端を担うことにもつながっていくと考える。
- 市場化により世界が狭くなる中で、都市の発展に欠かせない差別化をはかることは難しくなっている。こうした中で、世界中から個性や知恵が集まる環境づくりが都市には求められている。私達は、主にアーティスト達の英知の結集により都市の個別課題を解決し、またそれを人から人へ繋ぐことで、世界的な都市問題として共有していくことができ、これもまた他の事業形態にはないもので、レジデンス事業が持つ魅力である。

### 【意見交換会】

- かつては対外的に名乗ることが憚られていた地区が、最近では堂々と地区名を不動産物件に名前をつけるようになって、結果として行政の中で言えば税収が上がっているということ。
- 地域の知名度を上げて、情報発信をするということで意義がある。

## 文化芸術を介した子どもたちの教育や地域コミュニティの活性化

---

### 【アンケート】

- 今後は、市内のみならず、広く県南地域の小・中・高等学校等に対し、アーティストの派遣や、芸術・文化の発表プログラム(ワークショップ等)を実施するため、学校、地域、コミュニティとのマッチングや、コーディネーション機能を果たしていく必要がある。なお、こうした取り組みは、若手アーティストに社会との接点をもたらし、芸術活動や就業機会の幅を広げることにもつながるものと期待できる。
- AIRは、異国の芸術家が日本の地域の学校やコミュニティで人々とともに活動することで地域貢献している。
- その地域が大きく開いていくきっかけになるとともに一番の意義がある。その地域なり社会なりが変わっていくことを求めるのであれば、何かしら一つ成果というのを、作家にも求めるべきかもしれないし、地域としても一緒に何か一つやったという結果を一つ一つ残していきましょう、ということにはむしろ必要ではないか。

### 【意見交換会】

- 教育機関との連携は必須。
- 市民と共にとなっているので地域性は考えているのかもしれないけれども、よりそこに集まるアーティストとそこに集まってくる人との関係性の中で起こっていく一つのコミュニティみたいなことなのかな。
- 内なる国際性ということをテーマに挙げています。地域にとっても街の活性化にもなりますし、あと自分たちにとっても新しい視点に気づくことや、実はそこにあるコミュニティにもう一度改めてアクセスし直せるきっかけをアーティストがもたらしてくれている。
- 意外とAIRをやることでお互いがその地域をもう一回再発見する。
- コミュニティの在り方の可能性を開くにはこういった誰か他者が入ってこないといけない。一つのことを一緒にやろうということで実現しなければならぬものがあるから地域も変わらざるをえない。
- レジデンスをしようとする人たちが増えてきているような気がして、マイクロレジデンスを立ち上げようとしている人が増えてきたり、芸術センター以外でもレジデンスのようなことをしようとしている人の動きが出て来ている。
- アーティストが当地で生活することが大きい。海外のアーティストが来たということで、そこに普通のおじさん達が湧く、帰ってくるのが徐々に出てきている状況。彼女たちがアルバイトを当地でするとか、銭湯に日々通うという中で、実は地元の方の来場者率が今すごく上がってきている。他者というか、ストレンジャーがそこにいるということで、それぞれがセパレートしている、分断しているコミュニティが緩やかにつながり始めている。

## 地元在住のアーティストの人材育成、国内外との相互交流

---

### 【アンケート】

- 当該レジデンスでは、海外の水溶性木版画に対する関心や興味を抱く美術大学の教育者、アーティストが長期滞在し、制作に集中できる環境を用意している。大学教育のプログラムとは異なる、より専門性を高められる「持続的な自己啓発プログラム」の充実を図ってきている。複数のアーティスト、指導者が共に長期滞在を可能にすることで、相互交流が深まり、レジデンス終了後も、展覧会や会議発表などに向けて、国境を越えて共同で制作したり発表したりしている。
- レジデンスという事業があることにより、それに色々な形で関わる地元のアートを支える側の関係者も経験を積むことができ、さらなる芸術事業につながるという点は、長期的視点で日本全体の芸術振興にとって非常に大きな収穫になると思う。
- 外国人芸術家、研究者の滞在中に生まれる交流、交渉、対話、体験、知見の獲得などが、来日者のみならず日本のその後の芸術振興、芸術家の育成、国際交流において刺激となり、より深いレベルでの、国際貢献、地域貢献に繋がると考える。また、そのようなプロセスを体験することによって、国際的な場面で活躍する人材の育成にも寄与すると考える。
- AIRは、芸術家が日本での制作等の活動をとおして、これまでのコンセプトを発展し、新しい技術を習得することができ、芸術家を育成している。
- 地域のアーティストとレジデンスアーティストが関わることで、刺激になるという点においては芸術家の育成ということも言える。

## 【意見交換会】

- 海外からも確実に「連携しませんか」というオファーが増えてきているような気がする。
- 種やきっかけが一番ある。最終はものを作るプロセス。種を作る、きっかけを作るといことがないものはできないので、やはりいろいろなクリエイションとか交流が根幹にあるという意味においてすごい意義がある。実際にものを、ほんとに何もないところから、対話から作り出していく交渉力とか自分の知識の獲得とか語学の力とか、そういうものすべてがここで学ぶことができる。

## 優れた日本文化の海外への発信

---

### 【アンケート】

- 当該レジデンスが推進する水性版画は、薬品処理を必要としないため環境に優しい版画技法として海外から関心が寄せられていることから、今後、当該プログラムの更なる普及活動により、国内の素材、道具のメーカーや、伝統木版画の高度な職人の活性化に貢献できればと考えている。
- アーティストが帰国後に国際展や個展などで発表されることも多く、海外の鑑賞者にも受け入れられることとなった。招へいキュレーターにおいては、日本人アーティスト研究に重点が置かれ、帰国後の展覧会やレクチャーにおいて、広く紹介される契機となった。
- AIRは、異国から芸術家を招へいし、活動させることで、日本の芸術の振興に寄与している。
- 「国際文化交流」と「若手クリエイターの育成・支援」といった視点から大きく二つの日本におけるレジデンシーの社会的な意義が考えられる。日本から世界への窓口となっている二国間派遣事業や、様々な国々から海外クリエイターを受け入れ出会いを演出する「アジア及び世界のアートネットワークのハブとしてのプラットフォームの提供」。

### 【意見交換会】

- 作家も市内を散歩しながら、日本や地域を吸収して作品を作っていくため、持ち込みの作品の展示とはまた全然違い、2ヶ月間、ここにいたからこそでき上がっていく。それはレジデンスをしないと得られない。

## 国際交流の促進、文化芸術を介した国際間の相互理解

---

### 【アンケート】

- 近年、アジアやアフリカ、南米などからアーティストやキュレーターを積極的に紹介しており、そうした国々からの招へい者が、自国の教育や人権問題、ポスト・コロニアリズム、ジェンダーなどの事例と比較検証しながら研究や表現が行われる機会も増えてきた。このように、アートを軸に、そこから派生する社会の課題に対する議論が活発化されることにより、互いの状況を学び合い、考えを深めることが可能となった。
- 国内の情報をアーティストが海外に持ち帰り、自国でその状況を広めてもらうことは、アーティストの実際の体験に基づいたものであり、国際交流の観点から重要なものであると考えている。
- 諸外国のアーティストと交流し、創造することは、観光や娯楽以外の、アートによる生産的な国際交流を促していく。そのことで最終的には、日本という国から海外へ、オリジナルな価値を輸出することに繋がる。
- フィンランド等北欧諸国は、これまでの文化的、政治的侵略の歴史もあり、欧州の中では小国であり弱国であるという意識が非常に強いと感じた。だからこそそうした小国が生き残るために現代芸術の振興、アーティストの支援、AIRの活用を非常に意識的に行っている。
- AIRは、共有や対話のためのオルタナティブなプラットフォームを提供することができる。この対話（政治的な対話とは別物の）は、一つの結論を導き出すこともなく、調整を固めるためを主導するものでもなく、自由に、そして「境界線」を抜きにしてアイデアや考えを交換する機会を与える。それが私の希望であり、今日における東アジアの状況をより多様で開かれたものとするに資することが可能な対話であると考えている。
- AIRは、異国の芸術家と日本の人々が触れ合い、語り合うことでお互いの芸術・文化を学ぶ国際交流の場になっている。AIRは、経費を負担したり、制作場所や宿泊先を提供して、異国の芸術家を招へいし、活動させることで、ひいては被招へい国の芸術・文化を発展させることになり、国際貢献している。
- 文化・芸術の交流によって、それぞれのアーティストの国の文化・芸術の違いを互いに理解することができる。また、アーティストとのワークショップ等を通じての交流、作品展の開催等によって将来のアーティストの育成にもつながるとともに国際交流の推進にも役立つものとする。
- 海外からアーティストが来訪した場合でも、外国の文化状況について「人・アーティスト」を通じて知ることができ、よりリアルで新鮮な情報交換ができるプログラムとしても役立つ。
- 都市や地方の風土、時間や空間を通じて、何気なく顔をあわせて、またはじっくりと作品を前にして対話が行

われることが最大の意義。現在、私達は、高度に市場化された結果極めてフラット化された世界の中にいる。特に日本において、私達が日常生活の中で海外の文化に対し文化摩擦を感じることはほとんどない。しかし、人々の感覚が本当の意味で開かれていくためには、心地よい状況ばかりでなく良い意味での摩擦が必要と感じている。国際交流の趣旨は、日常的な友好関係の中で異文化を排除することなく強く意識することだろう。ここにAIRの価値があると考える。

### 【意見交換会】

- 地域は本当に意識しない中でやはりアーティストが1ヶ月2ヶ月快適に生活が送れるということは地域のパブリックディプロマシーのセンスがないとなかなかできない。
- 当団体がチャリティーフェンドレジデンスをやった時は、アフガニスタンのアーティストがバーミヤンの石仏が爆破された地区の出身の方で、彼はその作品を作るかわらで、子ども達と一緒に絵を描いたりとか、女性が学校教育を受けられるような活動にも取り組んでいて、それを知ること、活動の一部に寄付をするというようなことができたりというのがあるので、そこは具体的に非常に社会的意義という意味では大きい。
- まだまだ「異人さんがウロウロしている施設みたいね」くらいの認識しかなく、社会的な器にするための努力が足りない。生活者としてのアーティストの存在はとても重要だと思う。往来のために生活者としてのアーティストの海外から来てもらう、海外に行く、この仕組みが出来上がれば社会的にもこの仕組みが受け入れられる。
- 世界のアーティスト、世界の資本を育てることに関わることができればいい。特に海外のAIRの場合、外交として考えてもいいと思う。制度であれば制度が変われば、すぐ変わってしまうこともある。けれども、人間関係の場合は何十年続く可能性がある。これはものすごい資本だと思う。
- 具体的な反応で、具体的なアクションが外部から出てくることが答えだと思っている。つまり、例えば当団体に招いたら、今度は、相手が向こうのお金で招きたいと言ったということ。当団体が500万円の経費をかけて招いたところ、海外の5つの国から誘われて、日本人アーティストに200万円ずつ予算をつけるとする。海外で1,000万円の経費を使ってくれていると言うことが起これば、それがタネ銭になって外貨が動いているということになると思う。
- 参加している4ヶ国が、政治の関係においては緊迫した関係にある中で、敢えてアーティスト、あるいはキュレーター同士が何を語るのか。そういった個々のつながりを作っていくと言うことが、一言では「国際交流」や「文化交流」ということかもしれない。その輪が広がっていくと言うことはなかなか見えないけれども、重要なところ。
- レジデンスで一番大きいのは日本の国際化。地方に行けば、外国の人がしばらくいることなどない。これからの日本では過疎や高齢化が起きてくる中で、そういうことがどんどん増えていくことによって、日本人だけで日本は成立するのではなく、外国の人たちと、どのように付き合っていくのかといったことが、いろいろなところで起きていること。
- アーティストだけがほんとうに政治や経済と関係なく、国境を越えられる存在なのではないのだろうか。国際化と言っても国と国との利害関係の付き合いではなくて、他の国、他の地域で生まれた人とどういうふうにつき合うかということが、国際化の原点ではないか。

### その他の回答

#### 【アンケート】

- 日本における社会的な意義というよりは、それぞれの運営団体、個人によりAIRの目的が違う。例えばアーティストにとっては自己啓発、また新しい可能性を広げる場、また反対に活動拠点を離れることで得られる充電、休息の場所であるかもしれない。弊館のような事業団体であれば新しいクリエイションの過程とその成果を発表する場であることと発信地となることの意義があり、個人でいえば将来のアーティストの育成となるかもしれない。近年のアートはますます多様化され国というレベルの特徴よりは、前述のように個々のアーティストまた運営団体、それぞれの地域という単位で考えるべきではないだろうか。そこから自ずと社会的意義というものが見えてくるのではないか。
- 当市のAIR事業については、芸術の振興、地域振興や国際交流に寄与している。
- レジデンス機関の特徴(プライベートなのか、公的な施設なのか)にもよるが、特に公的な施設においては、住民に開かれた事業としてのレジデンス事業が求められ、国際交流、地域貢献という視点も重視される。
- 1. 芸術、文化の振興という社会的な意義があると考え。2. 地域貢献については、当然貢献せねばならないものであるが、例えば小学生を対象とした部分のみ注目されるようになると、レジデンスの本来の意義、目的が失われるように思う。
- 以前よりもAIRの社会的意義が認識され、日本中でプログラムが増えているのは喜ばしいこと。

- 「作家が作品を個人的に作ってきて展示室に設置する」という従来型の芸術活動を超えて、人、地域などとの交流を生み出すものと考えている。その意味で、グローバル化した現代社会に必要な制度であり、芸術の振興、芸術家の育成、国際交流、地域交流など様々な面での意義を確認できるだろう。

#### **【意見交換会】**

- 結果が何かはっきりしないものを、でもやっていこうかとできるのが、アーティストと呼ばれる人たちなのかもしれない。
- 24時間アーティストを独占できる、それがAIRのすごいところだ。
- すごくいいことやっている。でも理解されない。

質問6 日本においてアーティスト・イン・レジデンスをより活発にするために必要だと思われること(公的支援、人材育成、運営基盤の拡充、施設整備、ネットワーク構築…など)を自由にご記入ください。

## AIRに必要な専門的な人材(コーディネーター)の育成、研修プログラム

### 【アンケート】

- AIR担当者の海外研修制度。他国のAIRの現場を視察することで、自国のAIR運営に反映し、また、海外の専門家とのネットワーク作りも可能になると思う。
- AIR事業が日本の社会において発言力を獲得するためには、継続が要であると考え。そのためには、資金の確保はもちろんのこと、地域振興、国際関係などの観点からAIRが果たすべき役割を見据え、企画・運営を担う人材の育成が必要である。海外の諸地域の見聞を深め、これまでに蓄積された知識とネットワークを更新していくためには調査のための予算の確保が必要である。
- AIRという活動が受け入れられるためには、その活動自体が地域や社会に新しいなにかを提案する必要がある。アーティストと地域の間には、企画を実施する人材育成が必要だと考える。
- 本当の意味で、地域とアーティストをつなぐコーディネーターの存在が必要。
- 国内外のアーティストを招へいして実施するAIRでは、受け入れ側の体制が、その地域にとってこの事業が意味があるものになるかどうかかかってくる重要なポイントだと考えている。招へいしたアーティストが、地域でどのような人と出会い、どんな作業をするのか、アーティストとアーティストを結び、地域の人的・物的資源を熟知し活かすノウハウに長けたアート・コーディネーターの存在が必要だと考える。
- オーガナイズするスペースのコーディネーターの育成と同時に、アーティスト自身が自分でやりたいという意思を伝えられる受け口になる体制づくり。恒常的な予算をつけて、レジデンスができる枠をつくること。情報公開を積み上げていき、AIRの意義や必要性が、場所、地域、人をつなぐ役割になることを認知させていくこと。
- 関係者(運営スタッフ、地元アート関係者、交流する一般市民)のさらなる育成(それによる自立)が重要である。現在日本のアーティストが経済的に自立できていないことには様々な要因があるが、まずはアーティストを支える側の人材育成が早急に必要なのではないかと考える。それには、そのような人材を教育できる制度またはそれを支援する制度が必要であり、そのため、また、それにより人材を活用できる機会を増やすことが必要である。また、日本のアーティストが海外でのレジデンス経験を積むことが重要であり、そのような支援もあるが、運営する側としては、招へいすることと派遣することがもっと円滑であれば、海外の機関とも連携しやすく、相互的なエクスチェンジの形が取りやすいと、アートを通じた国際交流は信頼により成り立つものであるため、より効果的な交流が可能になると思う。
- 文化施設全般に言えることだが、専門職員や現場の担当者の雇用状態が事務職に比べて圧倒的に悪い。従って担当者が頻繁に変わり、その結果国内のネットワークは個人レベルでの構築しかできず、拠点と拠点との公的なネットワークが構築しにくい。また国際的な活動が基盤となるAIRでは、担当者は欧米の教授レベルの学芸員たちと対等に仕事をしなければならないが、こうした状況では専門家が育ちにくく、定着しにくいことが問題であると考え。
- 継続活動のためには、専門的知識と経験を持った実践者の拡大を強く感じる。中長期的な運営基盤の拡充と、人材育成は必要不可欠の課題である。
- AIR事業をこなすことができる国際的視野や経験値のある職員の育成。
- 受け入れ側のコーディネーター育成。
- 人材育成に関しては、特に海外からのアーティストを迎えた場合、言語の問題が大きく、通訳、地域の人とのコーディネートなど、支える側の人材に高い能力が求められる。地元の人とコミュニケーションをとるには、受け入れる側(支える側)も予め地元の人との関係を築いている必要がある。そのような人材を育成するため、長期的な視点から専門スタッフを育成する必要があるだろう。
- アートマネジメントのできる人材の育成を地方大学でも行う。公的支援の枠を広げて支援を受けやすくする。
- 今後AIRをより活性化していくには、レジデンスに必要な人材の育成であると考え。人材には当然、組織運営能力、基金運用等の経理能力、語学能力、また、美術のバックグラウンドを持つことが求められる。

### 【意見交換会】

- 担当者のメンタリング(対話や助言による指導)が結構大事。海外の先取的な例のどこかのメンターをお呼びして、私達がそこの方を通してメンタリングして頂くとか。やっぱり行くだけではなくてそういうノウハウを私達が身につけられるようなテーブルがあってもいい。

- レジデンス運営者ってアーティストの面倒を見なくてはならない、企画もしなくてはならない、様々な行政とも接触してはならない。いろいろなスキルを求められる中で、そういうことに興味がある人達を育てるようなプログラム作りが求められている。
- 運営する側の人材育成。支える側の基礎も作らないと、なかなか発展性がない気がするし、そこがきっちり基礎固めができるとネットワークも徐々に生まれていく。
- メンターシステムが一つあるだけで、すごく助かるかもしれない。始めから有給とかは無理だと思うし、初めから組織は難しいけど、例えば始めはボランティアとして「自分はこういうことは相談に乗れます」というような仕組みが、何か一つあるといい。
- 実際に現場に行かせてもらってそこで研修というか、アシスタントの一人として入らせてもらうというのは現場で学ぶことが大きいのでは。

## 人材の確保、人件費の財源

---

### 【アンケート】

- AIR事業の性格からも、収益を伴う事業展開が困難であり、助成等、財政援助を得て運営せざるを得ないため、中長期的な計画の立案や人材の確保が難しくなっている。スタッフについては、当プロジェクトでは、公募で毎回優秀な人材が集まっており、彼らのようなやる気のある若者を、将来のアートマネジャーに育成していくためにも、十分な人件費を確保することが必要であると考えます。
- また、AIR現場は、スタッフにとって業務と私的な時間の境目がなくなることが多く、スタッフの疲弊を軽減するためには運営体制をある程度システム化していく必要があると思われる。
- 資金支援がしばしば施設や設備、展覧会設営といったハード面にされがちであるが、AIRは、物を展示する美術館とは異なり、人的な関係やその資質がプログラムの良し悪しを大きく左右するため、アーティスト、スタッフといった人材とその活動に対しての支援があればより活発になるのではないかと考える。
- 施設の整備、人材育成やネットワーク作りを進めるには、これからは公的支援だけでは難しくNPO法人などに運営基盤を拡充していく必要がある。
- これから新規で立ち上げられるAIR施設でも、ボランティアで場所の提供やプログラムの運用に関わる人が多くいるので、持続性を持って成果を求める場合は長期的な運用資金の獲得が必要になると考える。しかし、現段階では助成金の助けがとても大きいですが、いずれは自立した運営方法にたどり着くことが、日本国内で運用するAIR事業の大きな成果の一つになると考える。
- 現在、全国のAIR運営団体が直面している最大の課題はプログラムを運営する側の人材不足であろう。今後のAIR事業助成制度の中でも運営側の人件費、人材育成に対する補助制度を考えていく必要性がある。

### 【意見交換会】

- レジデンスをするためにアーティストの調査や地域の調査があると思うが、同時に職員がしっかりその分のお給料をもらいながら研修ができていくということ。
- 継続していくためにも公的支援、財源確保は課題。人材確保・育成、情報発信、広報というのをうまく効果的に。
- AIR自体は継続性というか一過性ではないものという、何かを残していかなければいけない。継続性ということとそれが広がっていく必要がある。継続性という意味では資金的なことと人材が必要。

## 国内外の芸術団体、大学、文化施設等との連携やネットワークの構築

---

### 【アンケート】

- 当団体は、現在、連携事業として県域を越えた連携組織の構成メンバーとして活動していることもあり、今後も、県内のアート団体はもとより、国内外のアート団体、さらには、大学等の高等教育機関、また文化施設などとの、広域的な連携による、新たなレジデンス事業の在り方についても検討していく必要がある。
- AIRのプログラム間のみならず、美術館やギャラリー、劇場や工房、大学研究機関などレジデンスの仕組みを持たない文化組織との横のつながりを形成することで、各AIRプログラムの特徴を明確にし、日本国内の中で果たすべき役割を見いだしていくことも必要ではないだろうか。
- 教育機関との連携可能性。NPO法人単体で教育委員会の方針や年次計画に入り込むには、アーティストを迎える以前の調整などが必要であったりするため、自治体や教育機関との連携はAIRを活性化させるために重要な取り組みだと考える。
- 国内、さらにはアーティストを派遣する海外大使館等の支援が不可欠。特に過疎高齢化の進む当地域におい

ては、助成・協賛・寄付など、地域外のサポートによって成り立っている。

- AIRを行うにあたっては、運営に熟知したスタッフが必要であり、長期的な観点で人材を育成しなければならない。そのためにも全国的な研究会や研修等の活動が必要になってくるので、内外のAIR・ネットワークを構築しなければならないし、日本で行っているAIR機関をまとめるような組織が必要かもしれない。
- 団体が地域のコミュニティに参加していること。地域外との団体とのコミュニケーションを円滑にすること(ネットワーク。または連絡会など)。
- 公的支援、ネットワーク構築が特に重要であると考え。各自治体や施設単独の事業の中で積み上げられるノウハウには限りがある。予算や人材にも限りがあることから、先細りしやすい。よって、地域に新しい視座をもたらすこのAIRの社会的な可能性をもっと世間にアピールするには、公的なバックアップ(資金面、人材面)とネットワーク構築が欠かせないと思う。
- 海外とのネットワーク及び日本国内におけるレジデンス機関のネットワーク構築も大切であり、特にレジデンスに関わる情報を国内で共有することが、AIR事業を拡充していくだろう。
- 海外のレジデンスとのネットワークの構築と、そのための資金の援助。
- 初めてAIRをスタートさせる館の担当者として感じたことは、運営側がいつも慣れているとは限らないので、ソーシャルワーカーのような一般的な相談窓口があると嬉しい。具体的な話だが、契約書のひな形などが利用できるシステムがあるとありがたい。関連するが、様々な国の方が来られる可能性があることを考えると、国際的な法律上のサポートもあるとよいと思う。

### 【意見交換会】

- オルタナティブな教育機関として何ができるかということ在地域貢献とか学生とからめて、アーティストを呼んでそのプロセスを一緒に作っていくことで、それ自体が教育と言えるようなことができればいい。

## AIR に対する認知度の向上、理解、共感、支持の獲得

---

### 【アンケート】

- 公的支援などを含む、環境あるいは枠組みの改善ではなく、なぜそれが必要であるかという考え方を、あるいは思想を広く多くの人に伝え、理解、共感を得て行くことが重要だと考える。具体的には、レジデンスにまつわるすべての活動において、「アーティストが社会に必要な存在である」ということを伝えるには何をすべきかを考え、実験的な企画に取り組むことが挙げられる。アートやアーティストが社会に必要な理由としては、単に、私たちの生活や心を豊かにする、多様性を受け入れるといった、及第点的な回答に頼るのではなく、ときに彼らが社会を鋭く批判し、目を背けていれば平穩に暮らせる事柄に光をあてることで、複雑で苦々しい経験や思考にさえ向き合う状況を促してくれるということにある。私たちがどのように生きるべきかを問い、その重要性を繰り返し語り続けていくためにも、一つの解を定めず、思考の幅を広げてくれるアートの表現が果たせる役割は大きい。
- それぞれのレジデンス事業に必要な補助・支援。成果発表の機会を増やすなどして、AIRという事業の認知度を向上させること。
- 今回の文化庁の支援は大変ありがたかった。それは金額の問題だけではなく、「国が認めた」というある種のお墨付きが公的支援として地方公共団体に強く作用したからである。AIRの意義が一地方の問題でないとすると、地方は「国のためになぜうちが支援するのか」ということになってしまいがちである。そういった意味において国の支援は重要だと考える。
- 国や地方自治体等の公的支援が得られれば、日本におけるAIRはより活発になるだろうし、広く周知されて、その意義が認知されるだろう。
- 成果を、地域や広く社会に周知するための広報スキルの向上、及び説得力のある評価方法の確立。
- 国際交流や教育、福祉など異なる分野と連携し、芸術の側面からでは社会的な理解が得にくい部分を補足していくなど、発想の転換をしていくことも必要であると思う。
- レジデンスの果たす社会的意義を、より多くの地域住民に知って頂くことが、活動を活発化させる近道だと思う。レジデンスに住まう人、訪れる人、関わる人が、楽しく、前向きな姿勢でいれば、自然と地域の住民も関わってきてくださるはずだ。
- 今、日本においてAIRをより活発にするためには、アートを支える文化機関や事業の大きなフレーミングの中でレジデンシーを再度位置づけ、その役割を確認すると同時に、政府による芸術文化振興策の中でも、改めて位置づけがされる必要があると考える。そしてレジデンシーをその大きな枠組みの中で改めて考え直し、その中から新たなAIRの在り方と可能性を探ることで、国内のレジデンシーも活性化されるのではないかと。

- 施設整備、人材育成や拡充など課題は多くあると思うが、その根幹はこの事業が多くの人に知られていないという実態だと思う。客観的に見て、日本はまだまだ芸術に対しての関心が遅れているように感じる。やはり、多くの人の関心をよせることが国を動かすことに繋がるので、ハード整備より先に、このような事業をもっと広く周知していくような活動が重要ではないか。
- 施設整備や費用面での支援もさることながら、その国、その地域での十分な広報活動も必要ではないか。それが十分になされれば、現地での人的支援も受けやすくなり、アーティストの滞在もより円滑なものになると考える。

### 【意見交換会】

- レジデンスがなかなか世の中に浸透するのが難しいというのは成果を見る機会がないからというのはある。
- 継続していくことが大事。文化庁の支援だけではなくて、例えば自治体や他からのサポートをもしかしたら得やすい状況を作れるかもしれない。
- 継続とアピール。今数が増えているので、トレンドとしてすごくそれが注目されている手法だということを示すためにも、そこを活発にさせなきゃいけない。

## 様々な規模や活動に対応可能な柔軟な助成制度、制度設計の緩和

### 【アンケート】

- 公的支援の継続がのぞまれることはもちろんだが、AIRがより活発化するためには、フレーム重視ではなく、多様性、自由な運営を担保するような資金提供の方法が望まれる。また、AIR運営自体への支援に加えて、人の往来、情報の交流を盛んにするようなモビリティ支援の方法も検討されるといい。
- 運営基盤や施設整備はそれぞれのAIR機関が行うしかないが、そのための補助金が出るような制度があればいい。
- 様々な規模、種類のAIRに対応可能な、柔軟な助成制度があるといいと思う。人的な支援(通訳の派遣、制作アシスタントの派遣など)や広報協力(メディアへの推薦)なども受けられると、ずいぶん助けられる部分があると思う。
- 公的補助制度の補助対象経費をもう少し緩和していただくと更に活発するのではないかと思う。
- 美術館やレジデンス施設のようなハードに対する投資だけでなく、今後はソフトに対する経済的な支援も必要な時代だと思う。

### 【意見交換会】

- 5年後みんなどうなっているかなみたいな思いが多分ある。何らかの形で継続的なやっぱり助成の制度というのは今後も続けられる方向はないのか。
- お金というのは単年度のものでなくて、今回のような継続というのが前提にあるので、それはすごくありがたい。
- 旅行業に該当するという判断が入ってくる可能性を示唆された。申請・登録をしなければその業務をしてはいけないということもあって、登録をするために何百万もの登録料が必要になってしまう。法律的なネックがあるというのが非常に今後の発展性を阻んでいるというか狭めている。資格の取得のためや、設備を整備するための費用が非常にかかってしまうので、その部分のサポートが望ましい。
- 公的な資金とそうでない動きも、マッチングの取れた状態で発信につながる我々なりのマイクロのレジデンスの情報整理をしていきたい。
- 制度的な助成金のことで、日当の上限があって、そんなに高くは出せないことがネックとなっている。
- 5年間という期間が今あって、その5年が終わった後にこの補助金は果たしてどうなるのか、また、要求できるのかという部分も含めて。その5年経った時には、少なくとも今のまま継続することは多分ない。何のために、例えば国際化のために効果的だとか、日本を発信するために効果的であることが必要なのか。数を増やすのか、数をもっと限って1団体に対する補助金を増やして重点的に支援していくのか。

## 施設の整備、活用、改修のための公的支援や支援制度

### 【アンケート】

- アーティスト固有の活動へ、空きスペースなどを利用する権利が、社会的に容易に受け入れられるような時代の到来を期待したい。アーティストの創作活動を活発にし、価値あるものとするためには、ベースとなる活動スペースの確保が必要だ。市民の創作活動の場の提供は重要であると認識されていることと同等にあるべきと考える。それぞれの目的、趣旨を尊重する認識が必要だ。このためアーティスト主導のAIRの存在の調査を進め、

その顕在化を試みている。マイクロレジデンスの調査研究として継続しており、ご支援とご理解をお願いしたい。また、公的支援は、必ずしも金銭のみを示すのではなく、制度的な支援も意味する。税負担の軽減、活動のための規制の緩和も必要であろう。

- アーティストが長期滞在するのに相応しい設備や創作スペースを備えた施設整備の改善。
- 施設維持・改修のための公的支援。
- 助成金なしで運用を考えるAIRの場合、経費をまかなう収入を得ることも運営上とても大切です。その際に、現在の社会状況として法的に大きな障害を持つことになる許認可の問題（滞在に関する許認可／旅館業法、滞在場所斡旋に関する許認可／旅行業）については、文化政策を行う行政の立場としては解決の糸口を探って頂きたい。
- 日本の誇る建築文化の古民家が日に日に取り壊されている。古民家に公的助成金を入れリノベーションし、なおかつ規制緩和してレジデンスとして活用すべきだと思う。

## 評価の仕組みの共有や成果のアピールのための情報交換、ネットワーク

---

### 【意見交換会】

- 過去の蓄積をもう1回、我々が再利用できるような仕組みを。過去の蓄積は、アーティストそのものが最たるものだと思う。
- 他のレジデンスの皆さんも情報として共通のイメージとして、項目というかまとめて共通の何か資料として保てるような機関であったり、確立フォーマットのようなものがあるといい。日本中のアーティストや外国人も含めて、今後どうなっていくのか、どうやって活躍しているのか、といった情報の共有。
- 「自分達はこんな成果がありました」ということを言っても、多分納得というか説得できないというか、どんな小さなエピソードでもいいからたくさん集めて国に対して出していく。
- 学会ではないが、そういう組織。美術には美術館連絡協議会というのがあって、みんなまとまって会報を発行したり、留学制度をやったり、論文に賞を上げたりそういうことをやったりしているので、そういう組織作り。
- ネットワークの構築、プラス人材の育成。情報交換の機会は定期的にいただきたい。どんどんネットワークを築きながらアーティストがよりいい環境で創作活動ができるというのを長い目で見て作っていかねばならない。

## その他の回答

---

### 【アンケート】

- 日本の作家に対しての公的支援が、海外に比較すると少ないと感じる。国内留学的なフェロシップをつくることで、都市部の作家が地域の特色ある制作拠点で活動できるようにすれば、結果として地方にあるレジデンスの活性化につながるのではないかなと思う。
- 人材育成や運営費の支援も欠かせない。ネットワークの構築も必要。
- 事業を円滑に運営するにあたり、資金確保、公的支援、人材育成、運営基盤の拡充、最低限の施設整備等が必要と思われる。また、国内、国外のAIR事業間のネットワーク構築や、その他のアート関連団体とのネットワーク構築も必要かと思われる。
- 第一に、NPOや企業財団等を中心とするオルタナティブな活動を支援し、社会を鋭く批評できる環境を整え、多様性を確保し、裾野を拡大することが肝要である。第二に、日本ならでのレジデンスブランドの構築。自然、歴史等日本独自の風土の中で、作家が滞在し交流できる環境づくりが大切である。これは、滞在率、再来率、回遊率を高め、前述と同様に裾野の広がりが期待できる。第三に、これらの成果が、世界レベルで発表できる場づくりである。国や大都市の自治体を中心となって、欧米、アジアに比肩するレジデンス施設を運営する必要がある。同時に、各国のアートハウスを各地方の旧政令市級に誘致すると効果的と考える。これら公的拠点とオルタナティブな拠点对等な関係でネットワークされ、作家だけでなく運営人材の育成・交流も積極的に行われることが大切である。そして、例えば海外から重要なゲストが来日した場合、大都市部だけでなく、地方が持つ日本特有の魅力を巡回しプレゼンテーションできるような仕組みを有することを期待する。日本のAIRが一種リーグ化することで引き起こされる経済的効果やコンテンツ創出等の権益を中央集権化しないことが重要だ。

### 【意見交換会】

- 行き来できるような状況になっているというのが継続してAIRをしていくための意義だ。
- 作家のCVを見ていると、海外のアーティストは大抵、受賞歴やレジデンスの経験歴をつけている。日本から出

すときには書いていない人には必ず出すように言っている。

- キャリアアップはわりと自然に起こっている気がする。
- 効果を聞かれる場合、当団体では、以前に招へいしたアーティストがカンヌ映画祭でグランプリを受賞したり、ヴェネチア・ビエンナーレに出品した作家もいることを答えている。
- 今、あるべき美術館像の問題。「お金をかけて下さい」ということではなくて、元々持っている資産として、美術館はお金をかけているし、いい場所にあるし、相当豊富な資産だ。しかし、眠っているものがあまりにも多い。多分持っているポテンシャルの50%も使っていないと思う。
- かつて現代アートのギャラリストを6年くらいやしたことがあって、それこそ欧米流にマーケットをつくらなければダメだと考えていたが、結果から言うと、当地はそれをやるにはそれほど向いてないなという気がした。逆に、何に向いているかなど考えてみたら、住むことや、制作環境としてはいいかもしれない。作品を単品作って販売していく活動と、生活し、地域と交流しながら作っていくものは必ずしもイコールではない。今は地域交流が求められる時代なので、それに向いている作家を選んでいる。今のようなスタンスでやっているレベルでは、リソースやマーケット作りにはならない。

資料編

# 第3部

海外のアーティスト・イン・レジデンス一覧



報告書「第2部」に記述したように、本調査研究では11ヶ国37件の海外の主要なアーティスト・イン・レジデンスの現地訪問調査を実施した。その際、3つのステップによって調査先の選定を行ったが、その際に作成した二次リストのアーティスト・イン・レジデンスも海外の主要な事例と考えられるため、ここでは、それら96件を対象に、次の項目を各機関のウェブ掲載情報から抽出、整理して、表形式のデータ集にまとめた。

#### ◎ レジデンス事業の概要

- 対象分野
- 招へい人数
- 受入期間
- レジデンス事業の内容
- 受入条件

#### ◎ 選考・支援

- 募集方法
- 支援内容
  - 渡航費助成
  - 滞在費助成
  - 成果発表・オープンスタジオ
  - 制作費助成
  - 人的サポート
  - 記録集
  - その他の支援

#### ◎ 施設構成・内容

- 制作スタジオ
- 展示スペース
- 宿泊施設
- その他の施設
- 周辺環境

#### ◎ 運営機関概要

- URL
- 事業開始年
- 組織の目的・ミッション
- 事業実績／成果
- 所在地、電話、FAX、Email

なお、「支援内容」「施設構成・内容」の表の一部に空欄があるが、それらの空欄は基本的に該当する支援や施設がないことを表す。ただし、インターネット等に該当情報が掲載されていないケースもある。また、該当情報が把握できない場合は、「-」（ハイフン）を記入した。

報告書「第2部」に詳細な調査レポートを掲載した事例についても、他事例と概要を比較できるよう、データ集に含めることとした。

海外の主要なアーティスト・イン・レジデンスデータ集掲載リスト	
--------------------------------	--

英国	Cove Park	151
	Delfina Foundation	152
	Fireworks Clay Studios	153
	Gasworks	154
	ISIS Arts	155
	Metal	156
	North Lands Creative Glass	157
	Wordsworth Trust, Poets in Residence	158
ドイツ	Akademie Schloss Solitude	159
	International Artist-in-Residence Programme of the RWE Foundation	160
	K3 – Centre for Choreography	161
	Künstlerhaus Bethanien	162
	Künstlerhaus Dortmund	164
	Künstlerhaus Schloss Balmoral	165
	LIA – Leipzig International Art Programme	166
	Node Center for Curatorial Studies	167
	PACT Zollverein	168
	Schloss Bröllin International Art Research Location	169
フランス	La Biennale de Lyon	170
	CAMAC (Centre d’art – Marnay Art Centre)	171
	Centre Choreographique National Montpellier Languedoc-Roussillon	172
	Centre international d’accueil et d’échange des Récollets	173
	Centre National de Dance Contemporaine - Angers	174
	Cité Internationale des Arts	175
	FRAC Nord-Pas de Calais	177
	Nicéphore Niépce Museum	178
	Les Subsistances	179
オランダ	De Appel Arts Centre	180
	De Atelier	181
	Hotel Mariakapel	182
	International Choreographic Arts Centre (ICKamsterdam)	183
	Jan van Eyck Academie	184
	Rijksakademie van Beeldende Kunsten	185
	sundaymoring@ekwc	187
ベルギー	Kaaitheater	188
	WIELS	189
	workspacebrussels	190
イタリア	Civitella Ranieri Center	191
	UNIDEE in Residence International Programm, Cittadellarte	192
スペイン	Hangar	193
スウェーデン	Konstepidemin	194
	IASPIS	195
フィンランド	Helsinki International Artist Programme (HIAP)	196
デンマーク	Guldagergaard International Ceramic Research Center	197
ハンガリー	Kecskeméti Contemporary Art Studios/International Ceramics Studio	198

米国	18th Street Arts Center	199
	Anderson Ranch Arts Center	200
	apexart	201
	Archie Bray Foundation for the Ceramic Arts	202
	The Art Students League of NY (Vytlacil Campus Artist-in-Residence Program)	203
	Djerassi Resident Artists Program	204
	The Fabric Workshop and Museum	205
	Indianapolis Museum of Art	206
	The International Studio & Curatorial Program (ISCP)	207
	Kansas City Artists Coalition International Artists' Residency Program	208
	Location One	209
	Lower Manhattan Cultural Council	210
	New York Art Residency & Studios Foundation (NARS Foundation)	212
	The Playwrights' Center	213
	Residency Unlimited	214
	Triangle Arts Association	215
	Vermont Studio Center	216
	Virginia Center for the Creative Arts	217
カナダ	The Banff Centre	218
	La Chambre Blanche	219
	CHRISTIE - CAFKA ARTIST IN RESIDENCY PROGRAM	220
	Dragon Dance Artist Residency	221
	Est-Nord-Est, residence d'artistes	222
	Fonderie Darling	223
	"International Writers' and Artists' Residency", Val David, Québec, Canada	225
	Musique Multi-Montreal	226
	PRIM	227
中国	Arrow Factory	228
	Living Dance Studio (CCD Workstation)	229
	Platform China / Beijing International Artist Platform	230
	Red Gate Gallery / Red Gate Residency	231
	Swatch Art Peace Hotel Artist Residency Program	232
	Three Shadows Photography Art Centre	233
	Videotage	234
	Vitamin Creative Space / the Pavilion	235
韓国	Gyeonggi Creation Center (GCC)	236
	Incheon Art Platform (IAP)	237
	Korea Seoul Art Space_Geumcheon	238
	Korea Seoul Art Space_Munre	239
	The National Art Studio Changdong & Goyang	240
	Open Space Bae	241
シンガポール	Instinc Air	242
	Objectifs / Objectifs Residency & Lab	243
	Singapore Tyler Print Institute	244
	The Substation / Associate Artist Research Programme (AARP)	245
	Theatre Works	246
オーストラリア	Artspace Visual Arts Centre	247

Bundanon Trust .....	248
Gertrude Contemporary / International Artist and Curatorial Residency .....	249
IASKA .....	250
Performance Space .....	251

- 1英ポンド=150円で換算
- 1ユーロ=130円で換算
- 1スウェーデン・クローナ=15円で換算
- 1デンマーク・クローネ=16円で換算
- 100ハンガリー・フォリント=40円で換算
- 1スイスフラン=100円で換算
- 1米ドル=100円で換算
- 1カナダドル=100円で換算
- 1中国元=16.5円で換算
- 100韓国ウォン=9.0円で換算
- 1シンガポールドル=80円で換算
- 1豪ドル=100円で換算

## Cove Park

英国

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、音楽、舞台芸術、音楽、文学、工芸、分野横断型芸術、教育					
	招へい人数	—		受入期間	1週間—3ヶ月		
	レジデンス事業の内容	各専門分野の現代的な表現に対応した環境を提供することを目的としている。分野横断型の受け入れも行っている。自己負担型滞在と奨学金支給型滞在中を中心に滞在が可能。2015年の完成を目標に施設を改修工事中。専門性の高い施設整備、宿泊施設も2人分拡張予定。					
	受入条件	<p>【自己負担型】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数日から数週間の滞在が可能</li> <li>滞在費は、1泊45ポンド(約6,750円)、ただし、2泊以上、月・木含む日程で滞在可。専門スタジオ利用の場合は別途、利用料1日20ポンド(約3,000円)の支払いが必要。週末(金曜日—月曜日)の3泊滞在プログラムは130ポンド(1万9,500円)。ウィークデーの滞在中と組み合わせて7泊する場合310ポンド(4万6,500円)。Pods施設に利用の場合は、1泊100ポンド(1万5,000円)、ただし、2泊以上が条件</li> <li>予約は2週間まで保留可、ただし、予約確保のため、要半額事前払い</li> </ul> <p>【団体滞在型】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>10人を基準にアーティストや文筆家の団体が低価格で滞在できるプログラム</li> </ul> <p>【委嘱作品制作滞在型(Cove Park Commission)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新作の制作支援を目的としたレジデンス。2005年にアーティストのSimon STARLINGが初めて滞在、2006年に新作「Autoxylopyrocycloboros」の発表へとつながった</li> </ul> <p>【奨学金支給型】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>直接招へい、または、申請書の選考を経て決定し、一定の費用と宿泊が支給される。文学ではScottish Book Trust New Writers Awards受賞者、Writers of the African Commonwealth Residency 2012対象者、舞台芸術ではJerwood Residency対象者、美術では、日英レジデンス交換プログラム(大和日英基金)対象者、Henry Moore Fellowship対象者など</li> </ul>					
選考・支援	募集方法	公募、提携機関からの受け入れ					
	支援内容	渡航費助成	—	滞在費助成	—	成果発表・オープンスタジオ	—
		制作費助成	—	人的サポート	—	記録集	—
		その他の支援	—				
施設構成・内容	制作スタジオ	○	5部屋。各部屋最低 26.4 m <sup>2</sup> (天井高 2.64m)				
	展示スペース						
	宿泊施設	○	伝統工法による「Pods」4部屋。台所、バスルーム、床暖房付き輸送用コンテナを転用した宿泊専用「Cubes」×6部屋。スタジオ兼住居×3部屋				
	その他	工具・機材のある共用工房、図書室など					
	周辺環境	最寄の空港はグラスゴー国際空港。Paisley Gilmour Street 駅よりシャトルバスで10分					
運営機関概要	URL	<a href="http://covepark.org/">http://covepark.org/</a>		事業開始年	1999年		
	組織の目的・ミッション	1999年のPeterとEileen JACOBSにより設立されたCove Parkは現在クリエイティブ・スコットランド、トラスト、財団、個人による支援を財源に運営されている。					
	事業実績／成果	これまで滞在した著名人には小説家Margaret ATWOODや美術家Simon STARLINGなど。ロイヤル・オペラ・ハウスやサドラーズ・ウェルなどの舞台芸術団体の滞在実績もある。また、海外は、オーストラリア、パナマ、メキシコ、スペイン、米国、ナイジェリア、ドイツ、オランダ、イスラエル、パレスチナ、中国、インド、フランス、ルーマニア、ポーランド、ハンガリー、アイルランド、ロシア、カナダ、台湾など。					
	所在地	Cove Park, Peaton Hill, Cove, Argyll and Bute G84 0PE, UK					
	電話	+44-1436-850123	FAX		Email	<a href="mailto:information@covepark.org">information@covepark.org</a>	

レジデンス事業の概要	対象分野	美術   キュレーターを含む					
	招へい人数	約 15 人	受入期間	約3ヶ月			
	レジデンス事業の内容	<p>デルフィナ財団は英国と中東や北アフリカとの文化交流を促進することを目的に、アーティスト・イン・レジデンス事業に取り組む。主に中東や北アフリカの国や地域からアーティストやキュレーターを招へいする事業と、英国やそのほかの欧州の国からアーティストやキュレーターを派遣する事業の2つで構成され、その特徴は、国内外の文化機関との数々のパートナーシップをネットワーク化し、その独自のネットワークの下で招へい事業と派遣事業をセットに推進していることである。</p> <p>滞在アーティスト等は主にリサーチやプロジェクトを目的に活動し、滞在成果をアーティスト・トークやオープンスタジオでプレゼンテーションする。滞在中に作品の制作や発表を義務付けられていない。若手のアーティスト等は英国のアートシーンのリサーチや創作のアイデアの試作を目的に滞在を希望するケースが多く、実績のあるアーティストは実践的なプロジェクトを実現することを目的に滞在を希望するケースが多い。そのため、アーティスト等の要望に応じて様々な支援を行っている。</p> <p>各プログラムの受入期間は3ヶ月間だが、滞在アーティスト等の滞在の目的や活動内容に応じ、リサーチのために2週間、創作のために2ヶ月、展覧会のために2週間というように受入期間を3回に分けることも可能である。</p>					
	受入条件	<p>デルフィナ財団のレジデンス事業は国内外の芸術団体や文化機関とのパートナーシップで推進されており、個々のプログラムに応じて、様々なアーティストの募集や選考方法がある。</p> <p>基本的に英国と中東や北アフリカの文化交流を目的としているため、それらの国のアーティストとキュレーターが対象である。</p>					
選考・支援	募集方法	公募、推薦					
	支援内容	渡航費助成	○	滞在費助成	○	成果発表・オープンスタジオ	○
		制作費助成	○	人的サポート	○	記録集	
その他の支援							
施設構成・内容	制作スタジオ	○	スタジオ兼住居×4部屋				
	展示スペース	○					
	宿泊施設	○	(スタジオに併設)				
	その他	-					
	周辺環境	ロンドン市内中心部、ヴィクトリア駅から徒歩 10 分圏内の住宅街					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.delfinafoundation.com">http://www.delfinafoundation.com</a>			事業開始年	2007 年	
	組織の目的・ミッション	<p>デルフィナ財団は中東と北アフリカの国や地域との国際的な共同事業を軸に文化交流を促進すること、また、創造的な試みを推進することをミッションとして、レジデンス事業、パートナーシップの形成、パブリック・プログラムに取り組んでいる。</p>					
	事業実績／成果	<p>2007 年のデルフィナ財団の創設から現在までの6年間で、110 名以上のアーティストとキュレーターが参加した実績がある。そのうち、主に中東や北アフリカから 69 名のアーティストとキュレーターを招へいし、また、英国から 41 名のアーティストやキュレーターを中東や北アフリカの国や地域に派遣した。なお、デルフィナ財団として日本からのアーティストの受け入れを行った実績はないが、デルフィナ・スタジオでレジデンス事業を実施していたときに、大岩オスカルや高橋知子が滞在した実績がある。</p>					
	所在地	7-9 Tryon Street, London SW3 3LG, UK					
	電話	+44-20-7233-5344	FAX		Email	<a href="mailto:info@delfinafoundation.com">info@delfinafoundation.com</a>	

# Fireworks Clay Studios

英国

レジデンス事業の概要	対象分野	陶芸					
	招へい人数	—			受入期間	—	
	レジデンス事業の内容	<p>1995年に陶芸専門の大学卒業生6名が作った活動拠点づくりに由来する。現在は、カーディフ市の中心地にスタジオと機材を提供する施設を構えている。2005年にウェールズのアーツカウンシルに「Captial Grant」を申請、施設を改修し、機材を一新。以降、3部屋をレジデンスプログラム専用のスペースとして活用。ウェールズ・アーツ・インターナショナルの支援を受けて米国のフィラデルフィア・クレイ・スタジオとの交換プログラムを実施するほか、その他の海外アーティストを3ヶ月から4ヶ月受け入れるプログラムを実施。</p> <p>中国人アーティストの Geng Xue (2009年)の滞在時には Cardiff Metropolitan University (UWIC) と University of Glamorgan より技術支援を受け、ウェールズ国立博物館で展示、Aberystwyth の国際陶芸フェスティバルでレクチャーを実施するなど、他団体との連携も行う。</p>					
受入条件	<p>【プロフェッショナルなアーティスト、実績のあるアーティスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>費用:スタジオ費は月60ポンド(約9,000円)、個別の窯利用代、光熱費共用</li> <li>陶芸専門の大学教育修了の新卒アーティスト</li> <li>大学卒業したばかりの新卒アーティストにはスタジオを低価格の月50ポンド(約7,500円)で提供。機材利用含む</li> <li>9月1日より11ヶ月の滞在を受け入れる。2人まで</li> </ul> <p>【海外の陶芸アーティスト対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>受入期間:3ヶ月</li> <li>支援:渡航費、宿泊費、スタジオ費、日当、材料費、光熱費を全額支援</li> <li>滞在成果:ウェールズ国立美術館にて展示</li> <li>条件:UWIC とAtriumにて各1日レクチャー、プレゼン、ワークショップ、デモなど</li> </ul>						
選考・支援	募集方法	公募					
	支援内容	渡航費助成	○	滞在費助成	○	成果発表・オープンスタジオ	○
		制作費助成		人的サポート	○	記録集	
その他の支援	技術支援や割引価格にて材料が入手可						
施設構成・内容	制作スタジオ	○					
	展示スペース						
	宿泊施設	○					
	その他	—					
周辺環境	—						
運営機関概要	URL	<a href="http://www.fireworksclaystudios.org/">http://www.fireworksclaystudios.org/</a>			事業開始年	1995年	
	組織の目的・ミッション	Fireworks Studios はカーディフを拠点に活動する陶芸アーティストを中心に利用されている。プロフェッショナルな活動に必要な空間と機材を確保するために1995年に協同組合を発足。各自個別の活動に専念しているが、スタジオ施設の運営のために15名(2008年現在)の陶芸家とテキスタイル/本を扱うアーティスト、画家が常駐している。運営母体はアーティスト6名による共同組合。					
	事業実績/成果	過去にスタジオを利用した44名の滞在アーティストと現在の協同組合メンバーの多様性と継続性に対する強い意志が成功へと導いている。 2007年には設立10周年を記念して巡回展と出版物を企画。ウェールズのアーツカウンシルからの助成金4,000ポンド(約60万円)を使い6ヶ所に巡回。					
	所在地	24 Tudor Lane, Riverside, Cardiff CF11 6AZ, UK					
	電話	+44-29-2039-7195	FAX		Email	<a href="mailto:mail@fireworksclaystudio.org">mail@fireworksclaystudio.org</a>	

レジデンス事業の概要	対象分野	美術   キュレーターを含む					
	招へい人数	約 16 人	受入期間	約3ヶ月			
	レジデンス事業の内容	<p>ガスワークスでは、アーティスト・イン・レジデンスに関連する事業として海外からアーティストを招へいする「インターナショナル・レジデンシー」と英国のアーティストを海外に派遣する「インターナショナル・フェローシップ」の2つのプログラムがある。インターナショナル・レジデンシーは、若手のアーティストの育成を目的としたプログラムで、ガスワークスの4つのスタジオを活用して、年間約 16 人のアーティストを海外から招へいしている。主に海外の公的機関や民間財団をパートナーとするプログラムと、ロンドン市内の文化施設や教育機関との共同プログラムがある。</p> <p>滞在アーティストに英国のキュレーターやアーティストと面会する機会を与え、対話を促すことを重視しているガスワークスでは、アーティストは新しい環境で新しい人と出会い、対話をすることで、創作のアイデアを発展させ、スタジオでそのアイデアを実験することができる。なお、滞在中に作品を制作することを義務付けられていない。</p> <p>ロンドン市内の文化施設や教育機関との主なプログラムは以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 英国の最大のアートフェア、フリーズ財団との共同プログラム:35歳以下の海外のアーティストを対象にアートフェアのためのインスタレーションを制作する機会を提供。滞在アーティストは、ガスワークスのスタジオを利用してサイトスペシフィックな作品の制作に取り組む</li> <li>• 自然科学博物館との共同プログラム:海外のアーティストを対象に博物館のコレクションのリサーチの機会を提供。滞在アーティストはリサーチで得たアイデアを発展させ、ガスワークスのスタジオで小作品を制作。自然科学博物館にて展覧会を行う</li> <li>• テート・モダンとの共同プログラム:海外のキュレーターを対象にテート・モダンのキュレーターとともに共同リサーチを行う機会を提供。滞在キュレーターはテート・モダンでパブリック・トークを行い、また、リサーチを通じて展覧会を企画する</li> </ul>					
	受入条件	インターナショナル・レジデンシーでは、海外のパートナーが公募を行う場合と、海外のパートナーが10名程度のアーティストを推薦する場合がある。いずれの場合も、ガスワークスは選考委員会を組織して委員会のメンバーとの議論の上、最終決定をする。					
選考・支援	募集方法	公募、推薦					
	支援内容	渡航費助成	○	滞在費助成	○	成果発表・オープンスタジオ	○
		制作費助成	○	人的サポート	○	記録集	
その他の支援	-						
施設構成・内容	制作スタジオ	○	4部屋				
	展示スペース	○	展覧会事業はレジデンス事業と別				
	宿泊施設	○	ガスワークスの施設外に宿泊施設がある				
	その他	-					
	周辺環境	ロンドン南部のガス製造工場の隣。テート・モダンやサウスバンク・センターへバスで 10 分					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.gasworks.org.uk">http://www.gasworks.org.uk</a>			事業開始年	1994 年	
	組織の目的・ミッション	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 創作のアイデアを発展させ、議論し、実験する場をアーティストに提供すること</li> <li>• キュレーションのリサーチやアーティストへのコミッションを通じて、現代アートのメインストリームでは語られていないアイデアや議論を活性化すること</li> <li>• 展覧会事業、レジデンス事業、教育普及事業の相乗効果を発揮し、野心的で革新的なプロジェクトを広く普及すること</li> </ul>					
	事業実績／成果	ガスワークスは創設以来の約 18 年間で世界約 70 ヶ国から約 200 名以上のアーティストを招へいした実績がある。2012 年度はスウェーデン、ポルトガル、アイルランド、米国、ブラジル、コロンビア、チリ、韓国、インド、ニュージーランドの 10 ヶ国から合計 14 名を招へいした。					
	所在地	155 Vauxhall Street, London SE11 5RH, UK					
	電話	+44-20-7587-5202	FAX	+44-20-7582-0159	Email	<a href="mailto:info@gasworks.org.uk">info@gasworks.org.uk</a>	

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、メディアアート					
	招へい人数	4人(1回につき2人まで)	受入期間	3週間(4月-12月の期間中)			
	レジデンス事業の内容	美術及びメディアアートを支援するアーティスト・ランの組織 ISIS Arts のコア事業として運営されるレジデンス。各国とパートナーシップを組んで実施。 リサーチを支援することが力強い作品づくりにつながることを理解し、アーティストの構想を実現すること、また、一般の観客にその作品を発表することを中心に活動している。ゆえにプロジェクトの初期段階にいるアーティストをレジデンスに受け入れ、調査研究に必要な時間と空間を提供。作品の完成が必須ではない。					
受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的: 作品の制作ではなく、リサーチ</li> <li>対象者: 英国内外のアーティスト(美術、メディアアート)。プロフェッショナルのみ。新進アーティスト、実績のあるアーティスト両方可。学生は不可</li> <li>受入期間: 3週間(2011年事業では、受入期間は4月-12月、ただし8月を除く期間)</li> <li>招へい人数: 海外2人、英国北部出身者2人(カンブリアを含む北西部、北東部、ヨークシャー出身)</li> <li>個人またはグループでの申請可(ただし、経費は人数にかかわらず同額)</li> <li>ISISの機材、批評的な支援、専門家ネットワークへのアクセスが可</li> <li>技術支援あり(研修・支援計2日分はプログラムに含まれている)</li> <li>アーティストトークにて作品を成果発表すること</li> <li>渡航費、滞在費、宿泊費を含む最低1,500ポンド(約22万5,000円)を自己負担すること</li> </ul> <p><b>【選考基準】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会と関わる実践をしているアーティストでISISの理念に合う人</li> <li>デジタルメディアや技術を活用した実績があること</li> <li>自身のアイデアを調査、解釈、発表する能力があること</li> <li>期限のあるレジデンスプログラムでスケジュール管理された滞在実績があること</li> </ul>						
選考・支援	募集方法	公募					
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成		成果発表・オープンスタジオ	○
		制作費助成		人的サポート	○	記録集	
その他の支援	技術支援((研修・支援計2日分)						
施設構成・内容	制作スタジオ	○	2部屋(個室)				
	展示スペース						
	宿泊施設	○	アパート(個室)				
	その他	インターネット接続、台所、コンピューター、メディアラボ					
周辺環境	ニューカッスルの都心部						
運営機関概要	URL	<a href="http://www.isisarts.org.uk/">http://www.isisarts.org.uk/</a>		事業開始年	1991年		
	組織の目的・ミッション	1991年に設立以来、20年の間に作品委嘱、レジデンス、イベントの各種事業を実施。Sharon BAILEYとClymene CHRISTOFOROUの2名のディレクターのもと、アーティストの国際交流と異文化交流及び広い観客層との対話を目標に活動。アイデンティティや偏見を探求するアーティストを特に支援。また、ニューカッスル・アポン・タインの多文化なコミュニティと関わることを前提に広い観客層へのアートの普及を目指している。					
	事業実績/成果	-					
	所在地	5 Charlotte Square, Newcastle NE1 4XF, UK					
	電話	+44-191-261-4407	FAX	+44-191-261-6818	Email	<a href="mailto:isis@isisarts.org.uk">isis@isisarts.org.uk</a>	

## Metal

英国

レジデンス事業の概要	対象分野	文化芸術、思想など分野不問					
	招へい人数	—	受入期間	—			
	レジデンス事業の内容	<p>アイデアの構築、関係者とのネットワークづくり及び制作する場を提供。リバプールとサウスエンド・オン・シーの2拠点にて施設を運営。</p> <p>リバプールの拠点では世界最古の旅客鉄道駅エッジヒル駅舎跡を 2009 年に大規模改修し、レジデンス事業を実施。英国人アーティストを対象に1年間の滞在を受け入れている。サウスエンド・オン・シーの拠点は、2007 年に4階建てのジョージアン様式の家屋を建築家 Bill DUNSTER (ZEDfactory)とアーティスト Ackroyd &amp; Harvey が改修し、風力や太陽光を利用する設備を導入。環境にやさしい施設を実現。英国内外よりアーティストの短期滞在を受け入れている。</p>					
	受入条件	—					
選考・支援	募集方法	—					
	支援内容	渡航費助成	—	滞在費助成	—	成果発表・オープスタジオ	○
		制作費助成	—	人的サポート	—	記録集	
その他の支援	スタジオ以外の経費は全額自己負担						
施設構成・内容	制作スタジオ	○	サウスエンド・オン・シー:スタジオ兼住居 リバプール:2人共用スペース(8m×4m)の半分(5.5m×4m)				
	展示スペース	○					
	宿泊施設	○	リバプールの施設には宿泊なし				
	その他	—					
	周辺環境	—					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.metalculture.com/">http://www.metalculture.com/</a>			事業開始年	2002 年	
	組織の目的・ミッション	Metal は 2002 年に英国の文化の考え方に刺激を与えるようなアイデアを追求するために設立された芸術研究所。分野横断型のレジデンスプログラムを実施している。アーティストの公共的な役割を検討・検証。展覧会、イベント、パフォーマンス、ディスカッション、出版など様々なチャンネルを通して以上の考え方を発信している。					
	事業実績／成果	<p>【過去の主な滞在アーティスト:】</p> <p>Lee BAKER, Anna MULHEARN, Ruth CATLOW, Jonathan AASGAARD, Sam WIEHL, Macoto MURAYAMA, Mary FLANAGAN, Rohini DEVASHER, Flo't'Sam, Justin HOPPER, Garry MORRIS, Stacey SPIEGEL, Caroline SMITH, Iwona ZAJAC, Phelim McDERMOTT, Seth PARIS, Oreet ASHERY, Leo ASEMOTA, The Suitcase Ensemble, Noel WALLACE, Humberto VELEZ, Paul Howard and David Matthews, Rachel LICHTENSTEIN, Ackroyd &amp; Harvey, Rebecca Joy Sharp, Simon POULTER, Al and Al, Adrian JEANS, Nelson Guzmán, James QUIN, YoHa Katriona BEALES, Dennis MORRIS, Christopher SIMPSON, Delcy MORELOS, Adelin SCHWEITZER</p>					
	所在地	サウスエンド・オン・シー: Metal at Chalkwell Hall, Chalkwell Avenue, Southend on Sea SS0 8NB, UK リバプール: Metal at Edge Hill Station, Tunnel Road, Liverpool L7 6ND, UK					
	電話	+44-1702-470-700	FAX		Email	<a href="mailto:chalkwell@metalculture.com">chalkwell@metalculture.com</a> <a href="mailto:edgehill@metalculture.com">edgehill@metalculture.com</a>	
	+44-151-707-2277						

# North Lands Creative Glass

英国

レジデンス事業の概要	対象分野	ガラス				
	招へい人数	春・夏 各4人	受入期間	春・夏 各6週間－8週間		
	レジデンス事業の内容	スコットランド北東部の風光明媚な海岸線に位置する Caithness を拠点にガラス芸術の研究の専門施設として世界各国よりアーティストが集まるレジデンス。春と夏に4人ずつガラスアーティストまたは美術家が6週間から8週間滞在。当該施設での滞在または、他機関での滞在を組み合わせたミックストメディア・パートナーシップのレジデンスも可。 スタジオのみ、機材のみの貸し出しもを行っている。				
	受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>1週間に1日はNorth Lands主催の文化活動やアウトリーチに参加</li> <li>作品1点をコレクションに寄贈</li> <li>施設にて作品売買可能</li> </ul>				
選考・支援	募集方法	公募				
	支援内容	渡航費助成	○	滞在費助成	○	成果発表・オープスタジオ
		制作費助成		人的サポート		記録集
その他の支援	North Lands Creative Glass Hot Workshop 無料参加(4週間分)、基本材料費、総額 400 ポンド(約6万円)の日当、生活費、宿泊費					
施設構成・内容	制作スタジオ	○	2002年に開館した Alastair Pilkington Studio は、最新の設備と倉庫、台所、庭付の施設			
	展示スペース	○	North Lands Creative Glass Gallery			
	宿泊施設	○	寝室4部屋の一軒家または寝室4部屋のアパートを無償提供。光熱費は実費払い			
	その他	図書室と宿泊施設は2004年に開設				
	周辺環境	スコットランド北東部の漁村				
運営機関概要	URL	<a href="http://www.northlandsglass.com/">http://www.northlandsglass.com/</a>			事業開始年	1996年
	組織の目的・ミッション	<p>ガラスを素材とする創作領域の拡張を目的に分野を問わずアーティスト同士の実験とコラボレーションを支援すること。</p> <p>レジデンスプログラムのほかに、著名なアーティストを講師に迎えるマスタークラスや、ガラス細工のスキル講座、初心者ワークショップやコミュニティ・プログラムなど幅広い事業を実施。</p> <p>ガラスに関わるテーマを中心に現代美術と現代工芸、歴史的・社会的インパクトと地域文化の関係などを議論する国際会議も開催。</p> <p>著名なガラスアーティストによる作品約160点をコレクションに収蔵。過去17年間、著名なアーティストの作品のほか、レジデンスの滞在アーティストの作品を収集。特にアーティストのキャリア上代表的な作品を収集し、現代ガラスの発展をあらゆるアーカイブとして貴重な資料を入手。</p> <p>定期的に展覧会も開催。作品が販売可能な場合はショップで購入可。</p>				
	事業実績／成果	－				
	所在地	Quatre Bras, Lybster, Caithness KW3 6BN, UK				
	電話	+44-1593-721-229	FAX		Email	<a href="mailto:info@northlandsglass.com">info@northlandsglass.com</a>

## Wordsworth Trust, Poets in Residence

英国

レジデンス事業の概要	対象分野	詩				
	招へい人数	—	受入期間	10ヶ月(12月—翌年9月)		
	レジデンス事業の内容	20年の実績を誇る詩人を対象とするレジデンス。英国を代表する詩人ウィリアム・ワーズワースがインスピレーションを受けた湖水地方に滞在しながら、詩の執筆活動とワーズワース財団の各種活動に参加するプログラム。滞在する詩人の作品はパンフレットの形で出版。アーツカウンシル・イングランドの助成を受けて活動している。				
	受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象者: 出版実績のある詩人で、滞在がキャリア上、重要な役割を果たすと判断される人</li> <li>滞在条件: 詩の執筆に加え、ワーズワース財団が主催する「Dove Cottage Poets」の月例会の運営、ほかに学校事業、毎週行われる「Spot of Poetry」朗読会をはじめとする各種朗読会及びメンターによる指導プログラムに参加すること</li> <li>受入期間: 10ヶ月(12月—翌年9月)</li> <li>支援: 宿泊用コテージ(有料、ただし割引価格)、月1,000ポンド(約15万円)の日当</li> </ul>				
選考・支援	募集方法	公募				
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成	○	成果発表・オープスタジオ
		制作費助成		人的サポート		記録集
		その他の支援	作品パンフレットの出版			
施設構成・内容	制作スタジオ					
	展示スペース					
	宿泊施設	○	近隣のコテージを利用			
	その他	—				
	周辺環境	—				
運営機関概要	URL	<a href="https://wordsworth.org.uk/poetry/residence.html">https://wordsworth.org.uk/poetry/residence.html</a>	事業開始年	1990年		
	組織の目的・ミッション	Wordsworth Trustは、1891年に詩人ウィリアム・ワーズワースの自宅であるDove Cottageを管理するために設立された。同施設にはワーズワースによる作品原稿の90%が保管されている。文学に関わる各種プログラムを実施しており、国内有数のポエトリー・リーディングのイベントや他機関と連携し、書き手と読み手向けの講座を実施している。				
	事業実績／成果	<p>レジデンス滞在后、有名な詩人としてキャリアを積み、各種賞を受賞したり、出版の機会を得た詩人を輩出。</p> <p>【過去の主な滞在アーティスト】</p> <p>Carolina LUTHER (2011-12)、Helen MORT (2010-11)、Emma JONES (2009-2010)、Adam O'RJORDAN (2008-09)、John HARTLY (2007-08)、Neil ROLLINSON (2005-07)、Hamis ROGINSON (2005)、Rebecca O'CONNER (2005)、Matthew HOLLIS (2005-06)、Helen FARISH (2004-05)、Owen SHEERS (2003-04)、Henry SHUKMAN (2002-03)、Jack MAPANJE (2002-04)、Jacob POLLEY (2002)、Paul FARLEY (2000-02)、Matthew CLEGG (1999-2001)、Sean BORDATE (1999-2000)、Bill HERBERT (1997)、Gerard BENSON (1994-06)</p>				
	所在地	Dove Cottage, Grasmere, Cumbria LA22 9SH, UK				
	電話	+44-15394-35544	FAX		Email	<a href="mailto:enquiries@wordsworth.org.uk">enquiries@wordsworth.org.uk</a>

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、音楽、舞台芸術、文学、映像、ニューメディア、デザイン、建築、科学、ビジネス					
	招へい人数	約 100 人(2年間)	受入期間	3ヶ月-1年			
	レジデンス事業の内容	1990 年の創立以来、アカデミー・ソリテュードはシュトゥットガルト近郊やドイツ国内だけではなく、世界の有能な若手アーティストの育成を目的としてレジデンス事業を行う。受入期間は3ヶ月から1年であるが、この期間中、滞在アーティストには一切の義務や拘束はない。滞在期間の3分の2をアカデミー・ソリテュードで過ごすこと、月に一度の全員での食事会に参加することだけが求められる。アーティストたちがアート市場の動きに目を奪われず、何をやりたいのかを追い求める時間と空間を与えることがレジデンスプログラムの最大の目的で、アーティストの滞在計画に応じた様々な支援が行われている。					
受入条件	35 歳以下、大学に在籍中の者は応募できない。応募者が 35 歳を超えている場合でも、大学卒業から5年以内の場合は応募が可能である。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 選考:各分野の専門家によって構成される審査員による選考により、奨学金の金額と受入期間が決定。審査員は2年ごとに新しく任命される</li> <li>● Kunststiftung Baden-Württemberg GmbHの奨学金申請とアカデミー・ソリテュードへの同時申請は不可</li> <li>● 選考から外れた申請者は、最大2回再申請が可能。ただし、元滞在者は対象外</li> <li>● 言語:ドイツ、英語、フランス語</li> <li>● 歴史的な建造物の中にスタジオ兼住居を設置しているため、原則当該者1名の利用のみ可。例外が適用された場合は、1家族につきスタジオ2部屋を充当する</li> <li>● 滞在が決定次第、奨学金と同じ期間分、シュトゥットガルト市に住民登録すること</li> <li>● 滞在者は、スタジオ兼住居の契約書(house contract)と管理運営規定(house rules)の締結が義務付けられる</li> </ul>						
選考・支援	募集方法	公募(2年に1度)					
	支援内容	渡航費助成	○	滞在費助成	○	成果発表・オープスタジオ	○
		制作費助成		人的サポート	○	記録集	
その他の支援	月額 1,100 ユーロ(約 14 万円)の奨学金を支給。欧州以外を拠点としているアーティストには、必要に応じて素材・機材・道具・楽器などの輸送費を支給する						
施設構成・内容	制作スタジオ	○	スタジオ兼住居×45 部屋				
	展示スペース	○					
	宿泊施設	○	(スタジオに併設)				
	その他	レクチャーホール、コンピュータールーム、図書室、食堂やラウンジなどの共同スペース有					
	周辺環境	Carl Eugen 侯爵が 1763 年-1769 年に建設したバロック後期の様式を取り入れたソリテュード城は、高校、軍事訓練学校、病院、レストラン、刑務所、学生寮などへの転用を経て、1990 年よりレジデンス施設として利用されている。シュトゥットガルト市を眺望する丘の上に立地					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.akademie-solitude.de/de/">http://www.akademie-solitude.de/de/</a>			事業開始年	1990 年	
	組織の目的・ミッション	芸術と生活の「解放区(free zone)」として機能しつつ、対外的には展覧会や革新的な実験、ディスコースの生成が行われる場所として知られる。滞在アーティストはインキュベーションセンターとして、また従来手法に拘束されずにプロジェクトを実現する場として利用できる。1990 年よりレジデンスの滞在機会と奨学金を提供することにより、アーティストを支援してきたが、2002 年からは、科学やビジネスの分野の若手を受け入れる「art, science & business program (芸術、科学、ビジネスプログラム)」を開始した。また、本館で展覧会、シンポジウム、パフォーマンス開催。2008 年より敷地内にある納屋を改築した場所でクラシック音楽のコンサートを開催している。さらに、シュトゥットガルト市内にてプロジェクトスペースを運営。					
	事業実績/成果	創立から現在まで 70 を超える国々のアーティスト約 1,100 名がアカデミー・ソリテュードに滞在した実績がある。日本人では塩田千春や山下残などが過去に滞在した。					
	所在地	Solitude 3, 70197 Stuttgart, Germany					
	電話	+49-711-99-6190	FAX	+49-711-99-61950	Email	<a href="mailto:ab@akademie-solitude.de">ab@akademie-solitude.de</a>	

## International Artist-in-Residence Programme of the RWE Foundation

ドイツ

レジデンス事業の概要	対象分野	デジタル系アート(写真、ビデオ、映像、ウェブアートなどを対象)					
	招へい人数	2人	受入期間	3ヶ月			
	レジデンス事業の内容	RWE社の業態であるエネルギーと社会の関係について直接触れる作品制作のためにアーティストを招へいするレジデンス。 若手アーティストを3ヶ月招へいし、ドイツ国内もしくは在外にある RWE 社の拠点での活動を支援する。アーティストと社員が相互に交流することにより、分野を横断し、異なる視点への理解を深める契機となることをねらいとする。					
	受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象者:ドイツ人、または、RWE社の拠点のある欧州出身で、30歳以下の若手アーティスト</li> <li>選考: 専門家、アーティスト、RWE社の代表で構成されている選考委員会による</li> <li>支援: 月1,500ユーロ(約19万5,000円)×3ヶ月の滞在費、制作費を支給。渡航費、宿泊費、材料費の支給額については個別に相談</li> <li>滞在成果: 社内及び所定の外部会場にて作品発表及び記録集・カタログの発行</li> </ul>					
選考・支援	募集方法	指名					
	支援内容	渡航費助成	○	滞在費助成	○	成果発表・オープスタジオ	○
		制作費助成	○	人的サポート	○	記録集	○
		その他の支援					
施設構成・内容	制作スタジオ	-					
	展示スペース	-					
	宿泊施設	-					
	その他	RWE社の拠点が活動拠点となる					
	周辺環境	-					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.rwe.com/web/cms/en/587332/visit-progr amm/">http://www.rwe.com/web/cms/en/587332/visit-progr amm/</a>	事業開始年	2010年			
	組織の目的・ミッション	欧州を代表する電気・ガスを扱うエネルギー関連企業 RWE 社の財団が運営するレジデンスプログラム。					
	事業実績／成果	<b>【過去の主な滞在アーティスト】</b> Joana DELTUVAITE (リトアニア)、Sebastian MÖLLEKEN (独)、Axel BRAUN (独)、Lukas MARXT (オーストリア)、Peter MILLER (米)、Helge FISCHER など					
	所在地	RWE Stiftung gGmbH, Opernplatz 1, 45128 Essen, Germany					
	電話	+49-201/12-15505	FAX	+49-201/12-15361	Email	-	

### K3 – Centre for Choreography

ドイツ

レジデンス事業の概要	対象分野	ダンス   振付家を対象					
	招へい人数	年間3人	受入期間	8ヶ月			
	レジデンス事業の内容	<p>振付の実践、研究、制作、資格を密接に関連づけながらダンスの振付と研究を目的とした若手振付家対象のレジデンス事業。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>長期レジデンス: 毎年3人の振付家を8月から翌年4月までの8ヶ月間受け入れ、各自のプロジェクトに必要な調査研究のための時間と空間を提供。K3のほかのプログラムとも連動し、滞在アーティストのためにメンター(指導者)が配置されるほか、ドラマトゥルク、テクニカル、プロダクションなどの分野での専門的な支援が提供される</li> <li>教育・研修事業と連携している短期滞在プログラム: 非公募</li> <li>短期滞在プログラム: 利用状況により、1週間単位でスタジオをリハーサル用に貸出</li> <li>Tour d'Europe des Chorégraphes、Treffen Total、Surviving Dance、Ping-Pongなどのパートナーとの提携による交換レジデンスなども実施</li> </ul>					
受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象者: 若手振付家で、自身のプロジェクトをすでにいくつか手掛けた実績があること。また、自身の振付を批評的にとらえ、課題に対して自律的に取り組むことができること</li> <li>個人のみ。チームやアンサンブルなどの団体での受け入れは不可</li> <li>成果発表: 作品をひとつ完成させ、ステージで発表すること</li> <li>滞在条件: 継続的にハンブルクに滞在できること。また、アウトリーチ・プログラムやK3のコース・プログラム(制作にかかわるプログラムのほか、ダンスやパフォーマンスの理論に関わるものも含む)に積極的に参加すること。他のアーティストや観客との交流にも関心があること</li> </ul>						
選考・支援	募集方法	公募					
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成	○	成果発表・オープンスタジオ	○
		制作費助成	○(成果発表作品)		人的サポート	○	記録集
その他の支援	オプションとして、専門家向けワークショップと研修への参加及びハンブルク大学のパフォーマンス・スタディーズの修士コースへの出席なども可						
施設構成・内容	制作スタジオ	○	リハーサルスタジオ				
	展示スペース						
	宿泊施設						
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>滞在開始の時期にハンブルクの地元アーティストを迎えてオリエンテーションを実施</li> <li>ドラマトゥルク、組織づくり、テクニカルアシスタント、広報の各分野のメンターを配置</li> </ul>					
周辺環境	-						
運営機関概要	URL	<a href="http://www.k3-hamburg.de/">http://www.k3-hamburg.de/</a>		事業開始年	2007年		
	組織の目的・ミッション	<p>2007年にTanzplan Deutschlandより5ヶ年(2006年-2010年)の助成を受けて設立。元工場を舞台芸術施設に改装し、ダンススタジオ3部屋とスタジオ・ステージの空間が生まれる。Kampnagel劇場の組織下で運営されているが、芸術的には自立。コンテポラリーダンスと振付を専門とするアートセンターとして、調査やアウトリーチ活動も実施。</p> <p>欧州でも数少ないドイツ語圏のダンス専門のアートセンターとして、内外とのネットワークを拡大・活用し、ダンスの認知度向上と地位向上に努めてきた。レジデンス、教室と研修、ダンスのアウトリーチ活動の3本の事業が核となっている。2012年からDancehouse Network(EDN)に参加。</p>					
	事業実績/成果						
	所在地	K3 - Centre for Choreography   Tanzplan Hamburg Kampnagel Internationale Kulturfabrik GmbH, Jarrestraße 20, 22303 Hamburg, Germany					
	電話	+49-40-2709-4945	FAX	+49-40-2709-4911	Email	<a href="mailto:tanzplan@kampnagel.de">tanzplan@kampnagel.de</a>	

レジデンス事業の概要	対象分野	美術			
	招へい人数	約 25 人	受入期間	1年	
	レジデンス事業の内容	<p>キュンストラーハウス・ベターニエンは、世界中の新進アーティストのためのプラットフォームとして、以下の支援を提供している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 専門的スタッフからの支援:生活上の問題の解決だけではなくスタッフとの交流を通じた様々な支援を提供。その中には、ベターニエンに常勤している3名の技術者との対話も含まれている。アーティストの意向を確認しながら、オブジェの作成、展示空間の構成など、作品の制作や展覧会に必要な援助をしている。</li> <li>● 専門家との交流・対話:ベターニエンが招待するキュレーター、展覧会企画者、哲学者、学術研究者、批評家、ジャーナリストなどとの対話を通じて、多様な交流の場を提供。ベターニエンでは、ベルリンだけではなくドイツ国内や世界的な芸術祭のキュレーターや世界の展覧会企画者を招き、アーティストのスタジオを訪問させるスタジオビジットも実施している。また、オープンスタジオは年に数回行われ、アーティストには、常に美術界の専門家との対話や交流のプロセスに参加できる仕組みが用意されている。</li> <li>● 展覧会の開催とキャリア形成:滞在期間中にベターニエンの展示スペースで展覧会を開催するチャンスを提供。その他にも様々な形で、ベターニエンはアーティストのキャリア形成に尽力している。カタログなどの出版物の作成に当たっての支援、出来上がった出版物をベターニエンが持っているネットワークを通じての配布を通して、ドイツではまだ知られていないアーティストが認知度を高められるような支援体制が整えられている。</li> </ul> <p>また、ベターニエンは毎年「be」という冊子を発行しているが、これは滞在アーティストとベルリン在住の作家による共同作業によって発行されている。ドイツ人あるいはベルリンで作家活動をしているドイツ人以外の作家が、滞在アーティストのスタジオを訪ね、対話を重ねる。その結果をエッセイとしてまとめたものが「be」で、ベターニエンは滞在アーティストをベルリン在住の作家との共同作業を通じてプロモーションしている。</p>			
受入条件	<p>ベターニエンでは、海外の助成機関による支援を受けることが前提で、滞在のための生活費のほか、スタジオ費、材料費や成果発表費を含む費用が必要である。そのため、ベターニエンは世界各国にパートナー機関を有し、それらのパートナー機関がアーティストの滞在中に必要な資金を提供する。また、パートナー機関のない国や地域のアーティストは、滞在中に必要な資金を提供する助成機関から助成金を自ら獲得して、ベターニエンに滞在する場合もある。</p> <p>ベターニエンに応募するアーティストの条件には、とくに年齢制限はない。滞在アーティストは25歳から55歳が中心で、少なくとも5年から7年の実践経験を持ち、選考過程ではアーティストとしてのキャリアを発展させていく潜在能力があるかどうかことが重要視される。</p>				
選考・支援	募集方法	パートナー機関を通じて公募もしくは推薦、アーティストの自薦も可能			
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成	
		制作費助成		人的サポート	○
	その他の支援		成果発表・オープンスタジオ	○	
施設構成・内容				記録集	
	制作スタジオ	○	スタジオ兼住居×25 部屋(45-75 m <sup>2</sup> )		
	展示スペース	○	約 730 m <sup>2</sup>		
	宿泊施設	○	(スタジオ併設)		
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● バスルーム、シャワーは共用</li> <li>● 木工、金属、プラスチックの工房及びビデオと音源の編集用機材あり</li> <li>● コンピューター、プリンター、スキャナーなどを備えたラウンジあり</li> </ul>			
周辺環境	2010 年、現在のディレクター、Christoph TANNERT のリーダーシップのもと、Stiftung Klassenlotterie Berlin(ベルリン宝くじ財団)による財政支援を受けて、1975 年にキュンストラーハウス・ベターニエンが設立された旧ベターニエン病院の建物から、同地区の照明工場跡に移転				

運営 機 関 概 要	URL	<a href="http://www.bethanien.de/">http://www.bethanien.de/</a>		事業開始年	1975年
	組織の目的・ミッション	ベターニエンは現代美術と批評的な文化の発展に寄与することを目的に、プロフェッショナルなアーティストを対象としたにスタジオと高度なプロジェクトを実現する機会を提供している。異なる地域や文化的背景を持つアーティスト同士が出会い、交流する場を提供するとともに、観客との交流を推進する。そのため、オープニング・レセプションを行ったり、スタジオビジットを手配したり、オープンスタジオ用のツアーを行う。また、アーティストや展覧会のカタログとアートと批評の雑誌「be」(年1回)を発行。			
	事業実績／成果	1975年の創設から現在までベターニエンに滞在し、制作活動を行ったアーティストは約1,000名である。その中の10%に当たる100名のアーティストを取り上げた「回顧－キュンストラ－ハウス・ベターニエンの32年(Review - 32 Jahre Künstlerhaus Bethanien)」というカタログが発行されている。これら100名のアーティストは、ドクメンタをはじめ、世界中の名だたるビエンナーレなどの芸術祭に招待されている作家である。例えば、マリーナ・アブラモビッチ、ヤン・ファーブル、カースティン・ヘラー、トーマス・ヒルシュホルンなどが、このカタログに登場している。日本人アーティストでは、宮本隆治が100名に含まれているほか、ベターニエンに舞台芸術のプログラムがあった時代に開催された大野一雄ら舞踏のパフォーマンスの写真も掲載されている。宮本隆治は、滞在アーティストではなかったが、1999年、当時のディレクターであったヘルター氏から招待を受け、ベターニエンで個展を開催した。 カタログに掲載されているアーティスト以外にも、それぞれの国や地域、あるいは国際的な場で活躍しているアーティストは多い。例えば宮島達男も、1990-91年、ドイツ文化省芸術家留学基金(DAAD)留学生としてベターニエンに滞在したアーティストの一人である。			
	所在地	Kohlfurter Straße 41-43, Berlin 10997, Germany			
	電話	+49-30-616-9030	FAX	+49-30-616-90330	Email

# Künstlerhaus Dortmund

ドイツ

レジデンス事業の概要	対象分野	美術(絵画、彫刻、グラフィック・アート、写真、映像、ビデオインスタレーション、ニューメディア等)					
	招へい人数	1人	受入期間	6週間-8週間(6月-8月)			
	レジデンス事業の内容	実験的な作品を制作している若手アーティストを支援し、地元ドルトムントの美術館やギャラリーとともにアートシーンを盛り上げることを目的としている。国際レジデンスプログラムは2005年から開始。夏(6月-8月)のシーズンに受け入れている。					
	受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象者:海外アーティストは年齢不問。ただし、ドイツ在住の海外アーティストは対象外</li> <li>受入期間:6月-8月の6週間-8週間</li> <li>支援:スタジオ・宿泊の無償提供、渡航費、日当10ユーロ(約1,300円)、制作費上限1,000ユーロ(約13万円)(ただし、主催者による承認が必要)。健康保険は自己負担</li> <li>成果発表:実施は任意。ただし、実施する場合は広報及び印刷物などの支援あり</li> <li>申請受付:毎年12月1日-31日</li> </ul>					
選考・支援	募集方法	公募					
	支援内容	渡航費助成	○	滞在費助成	○	成果発表・オープスタジオ	○
		制作費助成	○	人的サポート	○	記録集	
		その他の支援					
施設構成・内容	制作スタジオ	○	50 m <sup>2</sup>				
	展示スペース	○					
	宿泊施設	○	居間・寝室は個室、バスルームと台所は共用				
	その他	-					
	周辺環境	-					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.kh-do.de/de/">http://www.kh-do.de/de/</a>			事業開始年	2005年	
	組織の目的・ミッション	<p>1983年に設立された会員制のアーティスト・ランの非営利団体が、2005年に開始したレジデンスプログラム。ドルトムント市の公的助成が主財源。レジデンスプログラムのほか、展覧会も実施。地域をはじめ、ドイツ全域から海外の文化機関までネットワークを広げている。</p> <p>次の構成員により組織が構成されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会員:施設運営メンバーとして議決権があり、展覧会事業の方向性の決定、展覧会の運営、印刷物のデザイン、ウェブ運営などの広報活動行う</li> <li>マネージャー:常勤で予算管理や事務などの日常業務を担う。議決権はない</li> <li>ネットワーク会員(K.i.N. [Artists in the KH Network]):年会費72ユーロ(9,360円)。施設利用や情報交換など可。議決権はない。</li> </ul>					
	事業実績/成果	<p>【過去の滞在アーティスト】</p> <p>2013年 George GROSHKOV(1986年生まれ、ブルガリア)、2012年 Caroline MOLUSSON(仏)、2011年 HUI Wai Keung(1973年生まれ、中国・香港)、2010年 Maria RAPONI(1975年生まれ、加)、2009年 Dillan MARSH(1980年生まれ、英)、2008年 Tamara FLEMING(1983年生まれ、米)、2007年 Helen JOHNSON(1980年生まれ、オーストラリア)、2006年 Anna-Maria KARCZMARSKA(1981年生まれ、ポーランド)、2005年 Anna GONZALEZ(1980年生まれ、スペイン)</p>					
	所在地	Sunderweg 1, 44147 Dortmund, Germany					
電話	+49-231-820304	FAX	+49-231-826847	Email	<a href="mailto:buero@kh-do.de">buero@kh-do.de</a>		

# Künstlerhaus Schloss Balmoral

ドイツ

レジデンス事業の概要	対象分野	美術(絵画、彫刻、インスタレーション、ドローイング、グラフィック・アート、デザイン、写真、ビデオ、ニューメディア、ランドスケープアート等)					
	招へい人数	9人以上	受入期間	3ヶ月(3月-5月)、6ヶ月(6月-11月)			
	レジデンス事業の内容	<p>ライン・プファルツ州のアーティストをはじめとするドイツ国内及び海外のアーティスト対象の奨学金支給付きレジデンスプログラム。アーティストの思考・思索、制作、交流・交換の支援を目的としている。同時にライン・プファルツ州のアーティストの指定都市への海外派遣、フランスのパリ、バーガンディー、ドイツのヴィーパースドルフの奨学生を受け入れる事業も実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理論と実践の交換: 専門家交流及びコブレンツ＝ランダウ(Koblenz-Landau)大学との連携による学術講座を提供</li> <li>思考と創作の実践: 専門家向け設備と温泉街としての街並みなど思索に適した環境を提供</li> <li>展覧会: 一般公開の展覧会にとどまらず、地元以外のギャラリーやアートフェアへの出展も行い、アートマーケットや国際的な地位確立を支援。展覧会来場者は合計10万人以上</li> <li>奨学生同士の交流の推進: 過去と現在の滞在アーティストのネットワークと交流を推進</li> <li>フンデルワッサーの建築資材用タイルを開発した企業としても有名なBaukeramik Ebinger社によるタイル素材の調査・研究のため、同社の専門スタッフによる指導・相談が可</li> </ul>					
	受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>年齢不問。ただし、美術大学の修士号及び同等の専門教育を受けて、3年以上の継続的なアーティスト活動の実績があること。独学の場合は受賞歴などの実績があること</li> <li>言語: ドイツ語、英語、フランス語のいずれかの言語でのコミュニケーションが可能なこと</li> <li>滞在条件: パートエムス市内に滞在登録し、受入期間中はレジデンスに常駐すること</li> <li>奨学金: 月1,200ユーロ(約15万6,000円)の奨学金あり(3ヶ月滞りは2件、6ヶ月滞りは7件)。奨学金受給決定後、施設利用の覚書を締結し、滞在終了時に報告書を提出すること</li> <li>選考: 選考委員会(委員長1名、専門家・行政職員7名から構成、2年任期交代制)による</li> </ul>					
選考・支援	募集方法	公募					
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成	○	成果発表・オープスタジオ	○
		制作費助成		人的サポート	○	記録集	
その他の支援	滞在後のネットワーク支援あり						
施設構成・内容	制作スタジオ	○	電気、水道、ヒーター付き、ペット不可				
	展示スペース	○					
	宿泊施設	○	ひとり用家具付きアパートあり。シャワー、トイレ、専用電話、インターネット接続あり。ペット不可。希望により、ラジオ、テレビ接続可。台所と食堂は共用				
	その他	木工ワークショップ、ビデオラボ施設、図書室(蔵書約 5,500 冊)の利用可					
	周辺環境	パートエムス市は、ラーン川ほとりにある人口1万人の温泉リゾート都市					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.balmoral.de/">http://www.balmoral.de/</a>		事業開始年	1995年		
	組織の目的・ミッション	1867年に建設され、ドラクロワ、ドストエフスキー、リスト、リムスキー＝コルサコフ、ワーグナーも滞在されたとされる元別荘を1983年に歴史的建造物認定。1995年より州立財団が運営するレジデンス事業の拠点となる。ネットワーク構築と事業支援のため2003年に「Balmoral 03」協会を設立。独自にアワードを授与し、レジデンス事業とアーティスト支援組織として機能している。					
	事業実績/成果	<p>展示スペースでは、クリスチャン・ボルタンスキー、ギュンター・ユッカー、ジョナサン・ミース、ベン・パターソンらの展覧会の開催実績あり。滞在アーティストのなかには、映画監督・舞台演出家のクリストフ・シュリンゲンズィーフや国際的に活躍するフィリピン出身のアーティスト、デイヴィッド・メデッラらがいる。</p> <p><b>【滞在実績】</b></p> <p>2012年12名、2011年17名、2010年16名、2009年17名、2008年13名、2007年20名、2006年15名、2005年15名、2004年11名、2003年11名、2002年9名、2001年11名、2000年9名、1999年8名、1998年8名、1997年9名、1996年9名</p>					
	所在地	Kuenstlerhaus Schloss Balmoral, Villenpromenade 11, 56130 Bad Ems, Germany					
電話	+49-2603-9419-0	FAX	+49-2603-9419-16	Email	<a href="mailto:info@balmoral.de">info@balmoral.de</a>		

## LIA – Leipzig International Art Programme

ドイツ

レジデンス事業の概要	対象分野	美術					
	招へい人数	5人	受入期間	3ヶ月、6ヶ月			
	レジデンス事業の内容	LIA は国際交流プラットフォームの形成を目的とする非営利団体。1884 年に建設された7万㎡の大型紡績工場を文化施設に転じた「Spinnerei」の施設を拠点にレジデンスプログラムを実施。同施設には著名なアーティストを含む約 120 名のアーティストが入居するほか、国際的に著名なギャラリーなど 11 社がテナントとして入っている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>1月、4月、9月に行われる「Spinnerei Gallery Tour」または、LIAの夏・冬の定期展覧会での作品発表の機会あり</li> <li>支援サービス:キュラトリアル・アドバイス、ビザ取得・奨学金・助成金申請など</li> <li>プログラム:スタジオビジット、批評セッション、メディア視察など</li> </ul>					
	受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>言語:英語</li> <li>受入期間:3ヶ月または6ヶ月</li> <li>施設利用料:月1,100ユーロ(14万3,000円)。受入通知後、4週間以内に1/3を入金すること</li> <li>支援:渡航費、滞在費、材料の支援はないが、助成申請に必要な書面は一式提供可。健康保険は自己負担</li> </ul>					
選考・支援	募集方法	公募					
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成		成果発表・オープスタジオ	○
		制作費助成		人的サポート	○	記録集	
		その他の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>助成金申請支援あり</li> <li>作品売買可。ただし、LIAに30%のコミッションを支払うことで消費税納税や輸送手配などの事務手続きの支援を受けられる。経費を引いた残金は、非営利活動のために使われる</li> </ul>				
施設構成・内容	制作スタジオ	○	スタジオ兼住居×5部屋(各 83 ㎡、タオル・シーツ付き)				
	展示スペース						
	宿泊施設						
	その他	バスルーム、台所、洗濯機、冷蔵庫、オープン、電子レンジ、食器は共用。無線 LAN あり(月6ユーロ、デポジット 30 ユーロ)					
	周辺環境	ライプツィヒ市は、人口 50 万人以上のサクソニー州最大の都市。歴史のある大学や大手の展示会の拠点として有名。出版の歴史も古い。文化拠点としては、具象画を専門とする「New Leipzig School」と大型文化施設「Spinnerei」がある。ベルリンから特急列車で1時間					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.liap.eu/en/">http://www.liap.eu/en/</a>			事業開始年	2007年	
	組織の目的・ミッション	現ディレクター兼キュレーターのアナ・ロウゼ・ロールランドが2007年にLIAを設立以来、現代美術と文化を推進する活動の柱としてレジデンスプログラムを実施。若手アーティストが内外で展示する機会を設け、「Spinnerei」に入居しているアーティストやギャラリーのみならず、コレクターや美術館へとつなげる支援を目的としている。ライプツィヒ市長、ライプツィヒ市国際交流室の支援あり。					
	事業実績/成果	これまでに40ヶ国100名以上のアーティストの展覧会を企画。スイス・バーゼルのChristoph Merian財団、国際交流基金、ニューヨーク・アカデミー・オブ・アート、オランダのMondrian Fondsなどの各文化機関の支援を受けて運営。2008年には、ライプツィヒのBMW工場がメイン・スポンサーとなり、14ヶ国35名のアーティストを招へい。また、Department for European and International Cooperation, Leipzigの支援を通じて、ウクライナとエチオピアのアーティストとの交流も積極的に行う。					
	所在地	Spinnereistraße 7, Building 18, 2. floor, right, 04179 Leipzig, Germany					
電話	+49-176-9945-9111	FAX		Email	<a href="mailto:artists@LIAp.eu">artists@LIAp.eu</a>		

レジデンス事業の概要	対象分野	美術   キュレーターを対象					
	招へい人数	約 30 人(各プログラムで 10 人)	受入期間	3ヶ月(春、夏、秋の年3回)			
	レジデンス事業の内容	<p>ノード・センターのキュラトリアル・プログラムは、春、夏、秋の年3回、若手のキュレーターを対象に約3ヶ月の滞在機会を提供するプログラムで、各プログラムで約 10 人のキュレーターを受け入れている。</p> <p>ベルリンに滞在するアーティストとの出会いをつくり、ファイナルプロジェクトとしてそれらのアーティストと共同で展覧会や出版物の制作を促している。また、通常、キュレーターは他のキュレーターと共同作業をする機会が少ないため、ノード・センターでは、他の滞在キュレーターと共同作業をすることを重視している。そのために、滞在キュレーターが気軽にディスカッションやミーティングをできる環境を提供し、滞在キュレーターはノード・センターのオフィスにあるプロジェクト・スペースを拠点に活動することができる。</p> <p>キュラトリアル・プログラムは 12 週間(週 30 時間)で、①オリエンテーション、②ベルリンのアートシーンのリサーチ、③展覧会や出版物の企画・制作、④展覧会や出版物の発表の4つのワークプランで構成されている。</p>					
受入条件	<p>滞在キュレーターの条件は、美術、美術学、美術史学、キュラトリアル学、アーツ・マネジメント学、建築、デザイン、映画等を高等教育機関で専攻したか、これまでにそれらの分野での活動で実践してきたかが求められる。高等教育機関を卒業したばかりの場合は、在学中にキュレーターとして美術館やギャラリーで研修した経験や、展覧会等の企画・制作をした実地経験が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>登録料:720ユーロ(約9万3,600円)</li> <li>受講料:月約770ユーロ(10万100円)×3ヶ月</li> <li>滞在条件:滞在成果を展覧会と印刷物で発表すること</li> <li>言語:英語</li> </ul>						
選考・支援	募集方法	公募					
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成		成果発表・オープンスタジオ	○
		制作費助成		人的サポート	○	記録集	
その他の支援							
施設構成・内容	制作スタジオ	△	プロジェクトスペース				
	展示スペース	○	プロジェクトスペース				
	宿泊施設						
	その他	-					
	周辺環境	キュンストラーハウス・バターニエンから徒歩 15 分					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.nodecenter.org/">http://www.nodecenter.org/</a>		事業開始年	2011 年		
	組織の目的・ミッション	ノード・センターは、アーティストとキュレーター、美術関係者が出会うネットワークの場として、実験的で、協働的で、領域横断的なアプローチで活動することをミッションとする。					
	事業実績/成果	ノード・センターは創設以来の約2年間で世界 28 ヶ国から 56 名のキュレーターを受け入れた実績がある。ノード・センターに滞在したキュレーターの多くは、プログラム終了後も同期の滞在キュレーターやプログラムで出会ったアーティストと親密な関係を維持し、展覧会やプロジェクトを共同で実施するケースが多い。そして、ノード・センターはそれらの活動をフェイスブック等でフォローアップするようにしている。					
	所在地	Waldemarstr. 37a, 10999 Berlin, Germany					
	電話	+49-152-2769-9078	FAX		Email	<a href="mailto:info@nodecenter.org">info@nodecenter.org</a>	

レジデンス事業の概要	対象分野	ダンス、パフォーマンス、メディアアート、サウンドアート					
	招へい人数	年間約 30 組(個人とグループ)	受入期間	2週間～4ヶ月			
	レジデンス事業の内容	PACT はアーティストの創造環境にとってより良い条件や場所を提供することを目的にレジデンス事業を推進している。そして、PACTを拠点に多様な分野のアーティスト、学者、学生同士が交流し、批評的な対話や制作に関わる手法や成果を検証することを推奨する。アーティストの希望に応じて作品の発表を行うことも可能であるが、作品の発表は義務ではない。短期的な成果より恒常的な仕組み作りを求め、実現可能なモデルを複数作り出すことに主軸を置いている。					
	受入条件	一つのプロジェクト当たり、最大6人までのグループを受け入れている。特別な条件はなく、応募に当たって、国籍、年齢、性別は不問であるが、応募者は応募の動機、滞在中に実施するプロジェクトについての企画書、プロジェクトに参加するアーティスト全員の略歴、ビデオなどの資料を提出する必要がある。					
選考・支援	募集方法	公募(年2回)					
	支援内容	渡航費助成	○	滞在費助成	○	成果発表・オープスタジオ	○
		制作費助成	△	人的サポート	○	記録集	
		その他の支援					
施設構成・内容	制作スタジオ	○	63 m <sup>2</sup> ～173 m <sup>2</sup>				
	展示スペース	展示スペースはないが、舞台作品を発表するスペースあり					
	宿泊施設	○	施設外にアパートあり				
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>滞在費として週200ユーロ(約2万6,000円)を支給し、最大6人分を提供</li> <li>渡航費は金額を事前に合意の上、1人につき往復1回分を提供</li> <li>機材(利用状況による)や専門的な技術スタッフ支援つきリハーサルの機会を提供</li> <li>プロジェクトに関する資金調達、マネージメント、広報・PRの専門的なアドバイスを提供</li> </ul>					
	周辺環境	PACT の立地する旧ツォルフェアライン炭鉱はルール地方が巨大な炭鉱資源を有する鉄鋼業の中心であったが、1986年に閉鎖された。2001年にはユネスコの世界遺産に指定され、敷地内の建物はデザインミュージアムや博物館として再利用されている					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.pact-zollverein.de/">http://www.pact-zollverein.de/</a>		事業開始年	2002年		
	組織の目的・ミッション	<p>PACT は、ダンス、パフォーマンス、メディアアート、サウンドアートと芸術全般を支えるイニシエーター、キャタライザー、そして創作の発展を促す場として機能することを目的とし、「プラットフォーム(Platform)」、「舞台(Stage)」、「アーティスト・センター(Artists' Centre)」という名称の3つの事業を推進している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プラットフォーム: 学生、アーティスト、研究者たちの学びと交流、さらには実験の場を提供する事業で、外国の芸術大学をパートナーとして、PACTが主催する国際的な学生交流プログラムの「フェルトシュテルケ」や、著名なアーティストと学生・研究者・ジャーナリストなど約40名の参加者が3日間にわたって集中的に議論しあう「イムパクト(IMPACT)」などを推進する</li> <li>舞台: PACTがプロデュースあるいは共同制作した作品の上演、外部カンパニーの客演、ルール・トリエンナーレの公演、他のレジデンスプログラムで制作された作品の上演などを行う公演事業</li> <li>アーティスト・センター: 世界各国からアーティストを迎えるレジデンスプログラムを事業の中核とする</li> </ul>					
	事業実績/成果	2008年から2012年の資料によると、33ヶ国から137名のアーティストが滞在した。欧州諸国をはじめ、イスラエル、トルコ、ロシア、ブラジル、日本、オーストラリア、チリ、ニュージーランドなど世界の多くの国のアーティストにとって、PACT は重要な拠点となっている。					
	所在地	Bullmannaue 20a., D-45327 Essen, Germany					
	電話	+49-201-289-4712	FAX	+49-201-289-4701	Email	<a href="mailto:residenz@pact-zollverein.de">residenz@pact-zollverein.de</a>	

# Schloss Bröllin International Art Research Location

ドイツ

レジデンス事業の概要	対象分野	舞台芸術				
	招へい人数	—	受入期間	—		
	事業内容	国際的な調査拠点として各地よりアーティストを受け入れている。 ● 共同制作を優先 ● 新作の制作または旧作の更新				
	受入条件	● 年齢、国籍不問。ただし、過去滞在者は滞在後2年までは再申請不可 ● 支援:スタジオ、技術、国内旅費、共同宿泊施設(個室利用希望の場合は追加費用あり) ● 滞在条件:支援対象はリハーサルのみ。成果発表はワーク・イン・プログレスで行う(公演やその他の協力のため、他団体とのパートナーシップも奨励)。公演時に当レジデンス名などをクレジットラインに入れること ● 別途、外部の助成金を確保することも可 ● 選考基準:才能の見込み、地域性を見込み				
選考・支援	募集方法	公募				
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成		成果発表・オープスタジオ
		制作費助成		人的サポート	○	記録集
その他の支援	豊富な音響システムあり。テクニシャン、機材など有料で提供					
施設構成・内容	制作スタジオ	○	3部屋 ● Studio I (24.80m×16.60 m、ステージ108㎡/奥行18m×幅6m) ● Studio II (9.50 m×16 m、ステージ127㎡/奥行14 m×幅9.10m) ● Studio III (劇場16.00 m×18.30 m、ステージ137㎡/10.50 m×13 m、90席、暗転可)			
	展示スペース	○	広さ 160 ㎡ (20.40m×6.7m)、照明用レール付き			
	宿泊施設	○	バスルーム付き(シングル、ダブル、複数ベッドルーム)、バスルーム共用(シングル、ダブル、複数ベッドルーム)、屋外キャンプ、ドームトリー			
	その他	Florian-Vogelfrei-Hall(大型作品用スペース 21.50 m×36.20m×天井高 10 m)、German-Polish Meeting Centre(2006 年新設、プロジェクター、スクリーン、など装備の会議室)、Meeting room (127 ㎡の多目的会議室、30 人から 120 人収容)、大セミナールーム(121 ㎡の会議室、30 人から 120 人収容、ベビーグランドピアノ、インターネット接続付き、暗転可)、小セミナールーム(45.5 ㎡の小セミナールーム、10 人から 40 人収容、インターネット接続あり、暗転可)				
	周辺環境	ベルリンより北に 130km、ポーランドとの国境近くに立地する 53,000 ㎡の広大な敷地				
運営組織概要	URL	<a href="http://www.broellin.de/">http://www.broellin.de/</a>		事業開始年	1992 年	
	組織目的	劇作家、俳優、ダンサー、音楽家、ステージ・デザイナー、美術家などが発起人となり設立。 ● ダンス、演劇、音楽に適した内外のリハーサルスペース、会議室など提供 ● 国際的なネットワーク、地域のネットワークづくり、内外のアートシーンに積極的に参加				
	事業実績/成果	ダンス、演劇、パフォーマンスのプロジェクトが 500 本以上、当レジデンスで制作され、その後内外で上演されている。 舞台芸術の変化に伴う制作現場に必要な条件を把握するために 2010 年に海外のパートナーとともに「PAiR-Performing Arts in Residence」を発足。美術、音楽、文学の分野に比べて舞台芸術分野のレジデンスが少ないため、レジデンス数の増強、主催者者同士の交流と連携の強化、財政基盤の刷新などを推進。2011 年に実態調査を実施。 <b>【過去の主な滞在アーティスト】</b> RA.M.M.theaterart、POPE、Ziguri Ego Zoo(2001 年より Anna Totó Company)、tatoeba-theatre danse grotteque、TEN PEN Chii art labor、Arthur KUGGELYN、Daniel WEISSROT、Delta RAI、Joaxhim MANGER、Martin MENGDEHLI、Yumiko YOSHIOKA、Jens FEMERLING など				
	所在地	Bröllin 3, D-17309 Fahrenwalde, Germany				
電話	+49-39747-5650-0	FAX	+49-39747-5650-11	Email	<a href="mailto:residenz@broellin.de">residenz@broellin.de</a>	

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、ダンス					
	招へい人数	美術：6人（2011年度実績） ダンス：8組（2012年度実績）	受入期間	美術：約1ヶ月 ダンス：約2週間			
	レジデンス事業の内容	<p>リヨンには2つのビエンナーレがあり、ダンスは1984年、現代美術は7年後の1991年にそれぞれ始まった。それ以降、偶数年がダンス、奇数年が現代美術というリズムで交互に開催されている。近年どちらのビエンナーレにもレジデンスプログラムが取り入れられた。</p> <p>リヨン・現代美術ビエンナーレのレジデンスプログラムは、住民とのコミュニケーションを促進するソーシャルプログラム、「ヴェデュータ(VEDUTA)」の一環として、2009年の第10回のビエンナーレからスタート。3名のアーティストが滞在アーティストとしてリヨンとその近郊に滞在し、住民と共に制作を行なった。2011年のヴェデュータでは、6名のアーティストがレジデンス・プロジェクトに参加した。</p> <p>リヨン・ダンス・ビエンナーレのレジデンスプログラムは、2012年の第15回のビエンナーレから始まった。ビエンナーレにおける創造活動の強化と密接に結びついており、レジデンスプログラムに招へいされたレジデンス・カンパニーは、ビエンナーレの初日の約2週間前からリヨン入りし、初演へ向けての最終調整を行う。</p>					
	受入条件	-					
選考・支援	募集方法	指名					
	支援内容	渡航費助成	<input type="radio"/>	滞在費助成	<input type="radio"/>	成果発表・オープンスタジオ	<input type="radio"/>
		制作費助成	<input type="radio"/>	人的サポート	<input type="radio"/>	記録集	
その他の支援	-						
施設構成・内容	制作スタジオ						
	展示スペース						
	宿泊施設						
	その他	リヨン・現代美術ビエンナーレは展覧会場、リヨン・ダンス・ビエンナーレは劇場等を発表の場とするが、リヨン・ビエンナーレが所有する施設はない					
周辺環境	リヨン市中心部						
運営機関概要	URL	美術： <a href="http://www.biennaledelyon.com/">http://www.biennaledelyon.com/</a> ダンス： <a href="http://www.biennaledeladanse.com/">http://www.biennaledeladanse.com/</a>	事業開始年	美術：2009年 ダンス：2013年			
	組織の目的・ミッション	ラ・ビエンナーレ・ド・リヨン(La Biennale de Lyon)という1901年のアソシエーション法による協会組織(日本のNPOに近い非営利組織)が、ダンスと現代美術のビエンナーレの両方の運営母体となっている。ラ・ビエンナーレ・ド・リヨンの主な使命は、作品創造の支援と発信、一般の人々へのアートの普及、フランス、特にリヨンとその地方の国際的な発信、地域の振興である。					
	事業実績/成果	-					
	所在地	3 rue du Président Edouard Herriot, 69001 Lyon, France					
	電話	+33-4-2746-6560	FAX		Email	<a href="mailto:info@labiennaledelyon.com">info@labiennaledelyon.com</a>	
						<a href="http://www.labiennaledelyon.com">m</a>	

## CAMAC (Centre d'art – Marnay Art Centre)

フランス

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、音楽、舞台芸術、文学等					
	招へい人数	年間 30 人	受入期間	—			
	レジデンス事業の内容	<p>CAMAC は分野横断的なアートセンターとして専門家にユニークな滞在環境を提供している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Ténnot財団奨学金:美術、文学、音楽(演奏家または作曲家)の分野各1人ずつを対象に2ヶ月滞在の奨学金を提供し、キャリアアップの機会を提供。専門家から構成される選考委員会がプロジェクトの内容を精査の上、滞在者を選考</li> <li>• ユネスコ・アッシュェバーグ奨学金:美術、文学各1人ずつを対象に3ヶ月滞在の奨学金を若手に提供</li> <li>• カナダのバンフ・センター、英国のチェルシー・カレッジ・オブ・アート、フランスのヨーロッパ・ペピニエールとの提携あり</li> <li>• 自己負担の短期滞在も可。費用は、週500ユーロ(約6万5,000円)、月1,800ユーロ(約23万4,000円)</li> </ul>					
受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 言語:フランス語、英語、またはスペイン語</li> </ul> <p>【Ténnot 財団奨学金】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 支援:渡航費、宿泊費(個室)、日当。健康保険、ビザは自己負担</li> <li>• 滞在条件:ワークショップや成果発表などパブリック・プログラムにも積極的に関わること、滞在后、CAMACコレクションに作品を寄贈すること</li> </ul> <p>【ユネスコ・アッシュェバーグ奨学金】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 年齢:35歳まで</li> <li>• 支援:渡航費、宿泊費、日当</li> </ul>						
選考・支援	募集方法	公募、提携機関からの受け入れ					
	支援内容	渡航費助成	○	滞在費助成	○	成果発表・オープンスタジオ	○
		制作費助成		人的サポート	○	記録集	
その他の支援							
施設構成・内容	制作スタジオ	○	6部屋				
	展示スペース	○					
	宿泊施設	○	9部屋				
	その他	インターネット接続あり、機材(映像編集、彫刻など、ただし事前確認が必要)、図書室、会議室					
周辺環境	パリより南東に 110km、電車で1時間						
運営機関概要	URL	<a href="http://www.camac.org/">http://www.camac.org/</a>			事業開始年	1999 年	
	組織の目的・ミッション	1993 年にアーティストの Alexandra KEIM と Lilian DOMEK が当時のマルネイ市の市長でフランスの音楽出版界で著名な Frank TENOT にアートセンターを提案。1997 年に市内の物件の改築に着手。アーティストが滞在制作できるスペースを建設し、1999 年に開館。					
	事業実績/成果	—					
	所在地	1 Grande Rue, Marnay-sur-Seine 10400, France					
	電話	+33-3-2539-2061	FAX	+33-3-2524-8243	Email	<a href="mailto:camac@camac.org">camac@camac.org</a>	

レジデンス事業の概要	対象分野	ダンス				
	招へい人数	3人-6人	受入期間	1週間-4週間		
	レジデンス事業の内容	<p>マチルダ・モニエ (Mathilde MONNIER) がディレクションするセンターで行われている振付の研究を目的とするレジデンス。リサーチを主軸としているため、作品制作による成果発表は求められないが、アーティスト同士、同センターのメンバー、一般の観客を交えて、次のトピックについて思索することが求められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• コンテポラリーダンスの振付の状況</li> <li>• ダンス作品を「書く」ということ</li> <li>• リサーチの成果発表</li> <li>• 他分野との交差に関する考察</li> </ul>				
	受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 申請条件:リサーチに関する提案書、リサーチの発表方法の提案書、略歴</li> <li>• 申請受付:随時</li> </ul>				
選考・支援	募集方法	公募				
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成		成果発表・オープンスタジオ
		制作費助成		人的サポート	○	記録集
その他の支援	テクニカル面、広報活動で支援あり					
施設構成・内容	制作スタジオ	○	ひとつは劇場空間つき			
	展示スペース	○				
	宿泊施設	○				
	その他	-				
	周辺環境	モンペリエ市の旧市街に位置する。同市は 20 以上のダンスカンパニーが参加するコンテポラリーダンスの国際フェスティバルの主催などを通じて、コンテポラリーダンスとは縁深い。現在の建物は新しく、スタジオ、屋外パフォーマンス空間、展示ホールとアーティスト・イン・レジデンス用宿泊施設を備えた最新の施設				
運営機関概要	URL	<a href="http://www.mathildemonnier.com/#pa_992a2ceb239c98bc42edef81802af396">http://www.mathildemonnier.com/#pa_992a2ceb239c98bc42edef81802af396</a>		事業開始年	2001 年	
	組織の目的・ミッション	<p>元修道院「Ursuline」を「Agora, Cité Internationale de la Danse」と改名し、国際的にも著名なマチルダ・モニエのディレクションのもと、実験的な活動を展開、欧州随一の振付家の受け入れを実施。2001 年よりダンスの制作、研究、研修の事業を中心に活動。一般への公開も重要な柱となっている。レジデンス以外の事業は次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•  domaines[:プロジェクト実現のために必要なリサーチを促し、その過程と成果を会議やワークショップなど実験的な方法を通じて発表報告</li> <li>• ex.e.r.ce:20歳以上の振付家志望者15名を対象に7ヶ月のリサーチの機会を提供</li> <li>• ゲスト招へい: マチルダ・モニエとコラボレーションするアーティスト対象</li> <li>• モンペリエの振付家支援事業:リハーサル用にスタジオ貸し出し</li> <li>• 高校生向け事業:フランスの教育課程に合わせたかダンスのカリキュラムの提供</li> <li>• Le CCN: Métiers du Centre National de la DanseとRelais Culture Europeとの連携情報発信</li> <li>• Montpellier Danse Saison DanceWebEurope-Vienna, FUSED-New York, Cultures France-Paris, DBM-Marseille, CDC la Termitière-Ouagadougouとのネットワークに参加</li> <li>• 中欧、東欧中心 (ArtLink/ルーマニア, Bimeras Culture Foundation/トルコ, CCN Montpellier/フランス, Cullberg Ballet/スウェーデン, danceWEB/オーストリア, Lokomotiva/マケドニア, Southbank Centre/英国, Station/ユーゴスラビア, Ultima Vez/ベルギー, Workshop Foundation/ハンガリー)のダンスネットワーク「Jardin d'Europe」を共催</li> </ul>				
	事業実績/成果	2013 年3名、2012 年5名、2011 年7名、2010 年9名、2009 年8名、2008 年4名、2007 年7名、2006 年6名、2005 年2名、2004 年7名、2003 年6名、2002 年5名、2001 年4名				
	所在地	Agora, Boulevard Louis Blanc, 34000 Montpellier, France				
	電話	+33-4-67-60-06-70	FAX	+33-4-67-66-44-79	Email	<a href="mailto:accueil@mathildemonnier.com">accueil@mathildemonnier.com</a>

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、舞台芸術、文学等   研究者等を含む				
	招へい人数	約 20 人	受入期間	3ヶ月		
	レジデンス事業の内容	パリ市、CNRS(国立科学研究所)、フランス国立図書館、大学など 35 のパートナー機関により選出されたアーティスト及び研究者を対象にしたレジデンスを提供。 なお、海外アーティスト対象のプログラムはパリ市とアンスティチュ・フランセの共同によるものがあり、年間約 20 人を受け入れている。				
	受入条件	【パリ市とアンスティチュ・フランセの共同プログラム】 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 受入期間:3ヶ月</li> <li>● 条件:原則レコレに滞在。外国への旅行などは回避すること。仕事をしないこと。過去の滞在より3年を経過していること</li> <li>● 資格:5年以上の活動歴があり、重要な制作実績を証明できること</li> <li>● 言語:フランス語または英語を話すこと</li> <li>● 支援:食費、日当、市内交通費月1,500ユーロ(約19,500円)を支給(アンスティチュ・フランセ支援)、スタジオ兼住居費(パリ市支援)(渡航費は自己負担)</li> <li>● 申請条件:基本的な申請書類のほか、推薦状2通、パートナー(共同プロジェクトの機関またはアーティスト)からの同意書を提出すること</li> </ul>				
選考・支援	募集方法	公募				
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成	○	成果発表・オープンスタジオ
		制作費助成		人的サポート	○	記録集
		その他の支援	不定期の交流会あり			
施設構成・内容	制作スタジオ	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本館と別館の1階から4階に81部屋、各部屋とも台所、クローゼット、ベッドなど家具付き</li> <li>● 住居のみ14部屋(25㎡-29㎡)、スタジオ兼住居55部屋(30㎡-40㎡)、スタジオ兼住居(大)12部屋(50㎡-125㎡)(内、5部屋がパリ市とアンスティチュ・フランセの共同プログラム用)</li> <li>● 部屋の広さに応じて1週間、2週間、1ヶ月の家賃が異なる(31㎡=週約535.5ユーロ/月約952ユーロ、55㎡=週725.46ユーロ/月1289.7ユーロ)</li> </ul>			
	展示スペース					
	宿泊施設	○	(スタジオに併設)			
	その他	-				
	周辺環境	パリ市の北東部、東駅とサンマルタン運河の間に位置する。17世紀初頭に建てられた修道院を改修した建物を利用				
運営機関概要	URL	<a href="http://www.centre-les-recollets.com/">http://www.centre-les-recollets.com/</a>		事業開始年	2003年	
	組織の目的・ミッション	フランスをはじめとする欧州、その他の大陸の文化・学術施設や大学との相互交流を行うため、フランス内外のアーティストや研究者を受け入れること。運営は、RIVP(第三セクターパリ市不動産公団)の子会社リシュモン社				
	事業実績/成果	10年間で80ヶ国から180名のアーティストと文筆家が滞在。うち、日本人2名。 2012年の滞在実績は、美術8名、舞台芸術と文学各6名、計20名。出身国は、トルコ、ノルウェー、インド、チリ、アルゼンチン、ドイツ、英国、カナダ、ルーマニア、オーストリア、ブラジル、日本、スイス、米国など。 2013年の滞在実績は、美術9名、舞台芸術3名、文学6名の計18名。米国、デンマーク、イタリア、英国、ポルトガル、アルバニア、ギリシャ、ケニア、コスタリカなど。				
	所在地	150/154, rue faubourg Saint-Martin, 75010 Paris, France				
電話	+33-153-26-21-00	FAX	+33-153-26-21-08	Email	-	

## Centre National de Dance Contemporaine - Angers

フランス

レジデンス事業の概要	対象分野	ダンス					
	招へい人数	-		受入期間	-		
	レジデンス事業の内容	<p>プロフェッショナルな振付家向けに作品制作を目的とした支援あり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レセプションスタジオ:カンパニー招へい事業。共同制作のカンパニーにスタジオと宿泊施設を提供し、テクニカルな支援と事務的な補助を行う。生活に密着した活動が求められ、学校との交流や公的な空間での発表などが期待される</li> <li>テクニカルレジデンス:照明や音響に関してテクニカルチームの支援を受けてスタジオ制作ができる事業</li> </ul>					
受入条件	<p>【レセプションスタジオ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>申請条件:申請書は毎年2月が締切。カンパニーの基本情報のほか、プロジェクト全体の予算と支援を受けたい金額、また、その他に具体的なテクニカルな要件などを明記すること</li> </ul> <p>【テクニカルレジデンス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>申請条件:カンパニーの基本情報のほか、テクニカルな要件を明記すること</li> <li>選考:テクニカルディレクターの承認をもってレジデンスへの受け入れが決定</li> <li>滞在条件:宿泊施設が提供され、アウトリーチ活動への参加が求められる</li> </ul>						
選考・支援	募集方法	公募					
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成	○	成果発表・オープンスタジオ	○
		制作費助成	○	人的サポート	○	記録集	
施設構成・内容	制作スタジオ	○ 照明と観客席のあるスタジオ×2部屋、創作用スタジオ×6部屋					
	展示スペース						
	宿泊施設	○ 市内各所に点在					
	その他	スタジオの貸出はスタジオの利用状況により可。シフト決定 15 日前までに申請。アマチュアも可					
	周辺環境	-					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.cndc.fr/">http://www.cndc.fr/</a>		事業開始年	1978 年		
	組織の目的・ミッション	1978 年に文化省と Anger 市により設立。振付専門センターとフランス唯一のコンテンポラリーダンス専門の高等学校から構成される。2007 年に現在地に移転。2013 年にリバート・スウィントン (Robert SWINTON) がディレクターに着任。ミッションは5つ:創作、レジデンス、プログラムづくり、普及・認知度向上、Ecole Supérieure.でのトレーニング。					
	事業実績	<p>【過去の主な滞在アーティスト】</p> <p>2012 - 13 年 : Amala DIANOR、Lenio KAKLÉA、Marlene Monteiro FREITAS、Trajal HARRELL、Loïc TOUZÉ、Jefta Van DINTHER、Aline LANDREAU、Beryl BREUILL、Laurie Peschier PIMONT-ANTOINE-MONZONIS-CALVET/2011 - 12 年 : Danya HAMMOUD、Books BAGOUeT、Basile DOGANIS、Alain BUFFARD、Latifa LAÂBISSI.Yair BARELLi、Johann MAHEUT、Trajall HARAL、DD DORVILLIER / 2010 - 11 年 : Maria Donata d'URSO、Fabienne COMPET、Sophie PEREZ and Xavier BOUSSIRON、Marco BERRETTINI、Vincent DUPONT、Ko MUROBUSHI、Nuno BIZARRO and Agnieszka RYKZIEWICZ、Beryl BREUIL、Aline LANDRAU and Laurie PESCHIER-PIMONT、DD DORVILLIER、Sylvain PRUNENEC、Claudia TRIOZZI、Fanny CHAILLÉ、Erna OKARSDOTTIR、SAKAMOTO・HUYNH・FATTOURMI・LAMOUREUX・THERO、Herman DIEPHUIS、David WAMPAC、Guillaume MARIE、Olga de SOTO、Marco BERRETTINI / 2009 - 10 年 : Nathalie BÉASSE、Sylvain PRUNENEC、Loïc TOUZÉ、Manuel COURSin、Lia RODRIGUES、Claudia TRIOZZI、Annabelle PULCINI、Gustavo CIRIACO、Helen IRATCHET、Ayse ORHON、Fabrice LAMBERT、Company S'Poart、Jeanne JULIEN、Ana BORRALHO、João GALANTE、Mickaël PHELIPPEAU、Faustín LINYEKULA、François CHAIGNAUD、Cecilia BENGOLEA、Laurent PICHAUD、Olga de SOTO、Fabrice RAMALINGOM、Raimund HOGHE、Cécile PROUST</p>					
所在地	Théâtre Le Quai 17, rue de la Tannerie, BP 50107, 49101 Angers, France						
電話	+33-244-01-22-66	FAX	+33-244-01-22-77	Email	<a href="mailto:contact@cndc.fr">contact@cndc.fr</a>		

レジデンス事業の概要	対象分野	美術系(絵画、デッサン、彫刻、ビデオ、写真、マルチメディア、パフォーマンス、文筆、シナリオ等)と音楽系(作曲、楽器演奏、声楽)					
	招へい人数	—	受入期間	2ヶ月-1年(公募)			
レジデンス事業の内容	レジデンス事業の内容	<p>パリ市内の2拠点(マレ地区、モンマルトル地区)にスタジオ兼住居約310部屋、年間1,100人のアーティストを受け入れる世界有数の規模を誇るレジデンス事業。</p> <p>【推薦制(提携先パートナーとの交換プログラム)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スタジオ兼住居施設の約8割はフランス国内外の国立・公立・民間の文化機関、大学などの教育機関などのサブスクリパー(出資者、寄贈者)が保有し、各機関がそれぞれアーティストを推薦、シテ・デ・ザールの財団理事会の選考委員会の承認を得て滞在が決定。財団は推薦を不适当として拒否する権利を持っている</li> <li>フランスの外務省や文化省、パリ、リヨン、ニース、トゥルーズなど自治体、財団、学術機関、出版社など国内27機関が全体の1/3強(107部屋)を保有</li> <li>3部屋以上のスタジオを保有する国と部屋数:ドイツ20、スイス17、フィンランド9、スウェーデン/ノルウェー5、ブルガリア3、米国5、カナダ4、中国16、日本13、韓国5、オーストラリア8、モロッコ4、南アフリカ/チュニジア3、イラン4</li> </ul> <p>【公募制(直接応募)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パートナーの保有しないスタジオ兼住居への入居希望者が対象(競争率は約10倍)</li> <li>分野ごとに年2回、春と秋に審査委員会を開催</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目的別プロジェクトに合わせた受け入れも可</li> </ul>					
	受入条件	<p>公募(直接応募)の場合(推薦制は別)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国籍、年齢不問</li> <li>美術系(絵画、デッサン、彫刻、ビデオ、写真、マルチメディア、パフォーマンス、文筆、シナリオ等)と音楽系(作曲、楽器演奏、声楽)の2分野</li> <li>対象者:プロフェッショナルなアーティスト。ただし、例外的に修士2年以上の学生の採用も可。</li> <li>受入期間:2ヶ月から1年</li> <li>選考:パリ市、文化省、外務省の各担当者、国立美術学校、FRAC(地方現代美術基金)、展覧会コミッショナー、国立音楽院、IRCAM(フランス国立音響音楽研究所)などの専門家によって構成される選考委員会による選考(審査委員は任期交代制、1/3ずつ交替)</li> </ul>					
選考・支援	募集方法	公募、提携機関からの受け入れ					
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成		成果発表・オープンスタジオ	○
		制作費助成		人的サポート	○	記録集	
	その他の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミュージアム・カードの支給</li> <li>家族同伴を希望するアーティストは、大人120ユーロ/3-7歳の子ども100ユーロ(3歳未満は無料)の追加費用を支払うこと</li> <li>事前申請により子どもの短期滞在も可(週150ユーロ/月200ユーロの追加費用を支払うこと)</li> <li>希望によりオープンスタジオや展覧会、コンサートの開催も可</li> <li>毎週火曜日に開催されるシテ・デ・ザール主催公演への参加可</li> <li>「PP(プレザンエプロジェクト)」と名付けられた成果発表や、他の滞在アーティストや一般の観客との交流プログラムを企画することも可</li> </ul>					
施設構成・内容	制作スタジオ	○	<p>スタジオ兼住居:作業スペース、台所、風呂・洗面室、家具付き、シーツ交換(タオル持参)、コインランドリーあり。清掃は各自で行うこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マレ地区(約280部屋):20-40㎡(広さに応じて月415-475ユーロ(5万3,950-6万1,750円)、インターネット接続あり</li> <li>モンマルトル地区(約30部屋):マレ地区のスタジオより広い(月490-622ユーロ、6万7,000-8万,860円)、電話とインターネットの設備なし。ただし、3ヶ月以上の滞在者は契約可</li> </ul>				

	展示スペース	○			
	宿泊施設	○	(スタジオ併設)		
	その他	<p>マレ地区のレジデンスには次の施設がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 展示スペース(有料)</li> <li>● コンサートホール「エドモン・ミシュレ」(128席) : 合計300㎡(内舞台30㎡)、セミ・グランドピアノ1台、パイプオルガン1台</li> <li>● 共同スタジオ(申請・承認の上、予約・利用可)</li> <li>● 版画工房、リトグラフ工房、シルクスクリーン工房には、エッチング用のプレス機、紫外線のバックなど制作に必要な備品が揃っており、四半期ごとに予約の受付あり</li> <li>● 陶芸工房は1日単位で予約可</li> <li>● 写真工房は1日単位で予約可</li> <li>● リハーサルスタジオ、練習室:グランドピアノやアップライトピアノを備えた練習用スタジオ9部屋が9時から24時まで利用可(公演も可能なリハーサルスタジオ2部屋:100㎡/定員49人と70㎡/38人、アップライトピアノつきスタジオ:35㎡×3部屋と12㎡×4部屋)</li> </ul>			
	周辺環境	-			
運営 機 関 概 要	URL	<a href="http://citedesarts.pagesperso-orange.fr/citedesartsparis.html">http://citedesarts.pagesperso-orange.fr/citedesartsparis.html</a>	事業開始年	1965年	
	組織の目的・ミッション	<p>シテ・デ・ザールの運営財団の設立は1957年。レジデンスの構想は1938年にフィンランドの篤志家が同胞のアーティストがパリで活動できるスタジオを提供したいと考えたのが始まりだとされる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● アーティストの才能の発言を助け、フランスのアートシーンにおける創造活動の交流を促進するという条件のもとで、世界のあらゆる分野のアーティストを受け入れること。また受入・支援を通してフランスのアートシーンでの交流を促進すること</li> <li>● 異文化との交流を通してパリ市の芸術活動を活性化・多様化させ、多様な文化間の対話に参加すること</li> </ul>			
	事業実績／成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>● これまでの滞在者数は合計18,000名以上。日本人滞在者は、2010年までに120名を超える。内38名がピアニストなどの音楽家、82名が美術家(画家36名/写真家10名/マルチメディアやビデオ6名)</li> <li>● 2013年3月時点の滞在者は305名。内美術68%、24%が音楽分野のアーティスト。内日本人は14名。</li> </ul>			
	所在地	18, rue de l'Hôtel de Ville, 75004, Paris, France			
	電話	+33-1-42-78-71-72	FAX	+33-1-42-78-40-54	Email

## FRAC Nord-Pas de Calais

フランス

レジデンス事業の概要	対象分野	美術   キュレーターを含む					
	招へい人数	—		受入期間	1年		
	レジデンス事業の内容	<p>フランス北部にある FRAC の拠点 FRAC Nord-Pas de Calais でのレジデンスプログラム</p> <p>【キュレーター対象のレジデンスプログラム(H+F Curatorial Grant)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コレクターで著述家のHan NEFKENSからの支援を得て2007年に開始。若手キュレーターに展覧会を企画・運営する機会を提供</li> <li>選考:FRAC ディレクター Hilde TEERLINCKとパトロンでコレクターでもある著述家Han NEFKENSが行う。FRAC Nord-Pas de Calais のコレクションとH+F のコレクションをもとに企画提案書を作成し、提出する必要がある。選考されたキュレーターはFRACを拠点に活動すること。ただし、展覧会は別の会場で開催することのみ可</li> </ul> <p>【フランス東北部アーティスト交換レジデンスプログラム(Air Nord-Est)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>FRACメンバーの5館(Alsace、Champagne-Ardenne、Franche-Comté、Lorraine、Nord-Pas de Calais)で各地域の若手アーティストの交流と交換レジデンスを行う</li> <li>該当FRACのディレクターが自分の地域以外のアーティストを選び、レジデンスに受け入れる</li> </ul> <p>【ベルギーの Waregem にあるアートセンターBe-Part との交換レジデンス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地元FoncquevillersのLa Brasserieアートセンターと連携</li> </ul> <p>【アーティスト派遣事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>FRAC (Champagne-Ardenne, Franche-Comté, Lorraine) 及びアルザス地方のKunsthalle Mulhouseの各レジデンスへNord-Pas de Calaisのアーティスト5人を毎年派遣</li> <li>派遣期間:7月から12月にかけて、最短5週間から最長3ヶ月まで</li> </ul> <p>【写真家対象のレジデンス事業(Ecritures de Lumière)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Mason des Jeunes et de la Culture (MJC) Reosendaëlと連携</li> <li>学生を対象に成果発表を行うレジデンスプログラム</li> </ul>					
	受入条件	個別のプログラムによる					
選考・支援	募集方法	—					
	支援内容	渡航費助成	—	滞在費助成	—	成果発表・オープスタジオ	—
		制作費助成	—	人的サポート	—	記録集	—
		その他の支援	—				
施設構成・内容	制作スタジオ	—					
	展示スペース	—					
	宿泊施設	—					
	その他	—					
	周辺環境	—					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.fracnpdc.fr/">http://www.fracnpdc.fr/</a>			事業開始年	2007年	
	組織の目的・ミッション	FRAC は、フランスの現代美術コレクションを維持管理している地方の文化機関。FRAC Nord-Pas de Calais は、フランス北部にある FRAC の拠点のひとつ。					
	事業実績／成果	キュレーターレジデンス事業では、Annette SCHEMMEL (独)、Lumi TAN (米)、Irene ARISTIZÁBAL(コロンビア)につづき、ナカハラ・サヨコ(日)が滞在。					
	所在地	930 Avenue de Rosendaël, F-59240 Dunkerque, France (2013年6月まで改装中のため、仮の住所)					
	電話	+33-3-28-65-84 20	FAX			Email	—

## Nicéphore Niépce Museum

フランス

レジデンス事業の概要	対象分野	写真				
	招へい人数	年1人	受入期間	3ヶ月		
	レジデンス事業の内容	<p>写真技術を発明したニセフォール・ニエプスの故郷シャロン=シュル=ソヌにある写真とカメラの博物館で行われている BMW 社の支援によるレジデンス事業。</p> <p>*BMW 社は広告写真を重視。2004 年よりパリ・フォトと連携してきた実績がある。また、1975 年より現代アーティストによる自動車のデザインも手掛けている</p>				
受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>言語:フランス語、英語</li> <li>申請条件:基本情報のほかに推薦状を添付すること</li> <li>支援:宿泊費などの滞在経費のほかに6,000ユーロ(約78万円)を支給</li> </ul> <p>滞在条件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最新の設備を備えた写真ラボを活用し作品を制作、カタログを編集すること</li> <li>作品を「Recontres D'Arles祭」に出品すること</li> <li>作品は3つのエディション制作の上、アーティスト、美術館コレクション、BMW各社に納品すること</li> </ul>					
選考・支援	募集方法	公募				
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成	○	成果発表・オープンスタジオ
		制作費助成	○	人的サポート		記録集
その他の支援	6,000 ユーロ(約 78 万円)					
施設構成・内容	制作スタジオ	-				
	展示スペース	-				
	宿泊施設	-				
	その他	-				
	周辺環境	-				
運営機関概要	URL	<a href="http://www.museeniepce.com/">http://www.museeniepce.com/</a>			事業開始年	2011 年
	組織の目的・ミッション	写真技術を発明したニセフォール・ニエプスの故郷シャロン=シュル=ソヌにある写真とカメラの博物館。				
	事業実績/成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>BMW社支援による連携レジデンスは2011年より年に1人受け入れている。2011年Alexandra CATIERE (1978年生まれ、ベラルーシ)、2012年Marion GRONIER (1976年生まれ、仏)</li> <li>BMW社支援によるレジデンスのほか、過去10年ほどかけて、写真家の活動が注目されるスカンジナビアよりアーティストをレジデンスに受け入れた実績あり</li> <li>2004年にはElina BROTHERUS、Eija KESKINENやJ.H. ENGSTRPRÖMが滞在。ENGSTRPRÖMは当レジデンス滞在中を契機に国際的認知度が向上。滞在中制作した作品をコレクションに収蔵</li> <li>一定の作家を継続的に追跡、支援することにより、コレクションを充実させている</li> </ul>				
	所在地	28 Quai des Messageries, 71100 Chalon-sur-Saône, France				
電話	+33-3-85-48-41-98	FAX	+33-85-48-63-20	Email	<a href="mailto:contact@museeniepce.com">contact@museeniepce.com</a>	

レジデンス事業の概要	対象分野	舞台芸術(ダンス、演劇、サーカス等)					
	招へい人数	年間約 70 カンパニー	受入期間	2週間-1ヶ月			
	レジデンス事業の内容	国際的な舞台芸術の表現領域の拡大を目的に制作、創造、実験、一般の観客との対話の機会を提供。アーティストに空間と時間を提供するのみならず、知識、技術、財政、事務など包括的な支援を行っている。アーティストやカンパニーに対して、メンター(指導者)となることを目標にパフォーマンスの発表の機会のみならず、作品が流通するところまで支援する。					
	受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>申請条件:カンパニーの活動実績を示す情報を送付すること</li> <li>受入期間:基本的には、2週間から1ヶ月。ただし、プロジェクトの内容と実現するために必要な支援(財政、技術、事務)の規模により決定</li> <li>滞在条件:滞在中制作された作品は、フランス国内や海外で公演する前にレ・シュブジスタンスにて発表し、観客の反応なども見る。1年を通して複数のカンパニーが同時に滞在するので、カンパニー同士の意見交換や交流が可能</li> <li>個人での滞在は、目的に応じて2週間、1ヶ月、あるいはそれ以上の期間滞在するプログラムを組んだり、状況により、滞在期間を2回、3回に分けることも可</li> </ul>					
選考・支援	募集方法	指名					
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成		成果発表・オープンスタジオ	○
		制作費助成	○	人的サポート	○	記録集	
		その他の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>初演は基本的にレ・シュブジスタンスで実施。滞在中に単独公演を行う場合と、フェスティバル(3回)の枠で発表する場合と様々なケースがある</li> <li>共同製作費はプロジェクトの規模やカンパニーの人員に応じて支給1,000-15万ユーロ(約13万-約2,000万円)</li> </ul>				
施設構成・内容	制作スタジオ	○	3部屋(内、1部屋はアマチュアのパフォーマー向け)				
	展示スペース	○	高等美術学院と共用				
	宿泊施設	○	14 部屋、アパート×3部屋				
	その他	パフォーマンス用屋内スペース3部屋、アトリウム1部屋(大型公演向け)、リハーサル室2部屋、レストラン					
	周辺環境	リヨン市のソーヌ河岸の世界遺産に登録された歴史地区に位置している。17世紀には修道院だった建物は、その後軍隊の倉庫や工房が共存する敷地となり、2001年に文化センターに生まれ変わった。2005年には、建物全体を対象に約9,000㎡にわたる改装工事を実施。2007年には、敷地内にリヨン国立高等美術学校(Ecole Nationale des Beaux-Arts de Lyon)、Le Peuple de l'Herbe、Cap Canal、“Enfance, Art et Langages” of Lyon が同敷地内に移転					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.les-sub.com/">http://www.les-sub.com/</a>		事業開始年	2001年		
	組織の目的・ミッション	舞台芸術の新しい表現(ダンス、演劇、サーカス、音楽)を対象に芸術創造の国際的な実験場(International Laboratory for Artistic Creation)、アーティストと一般の人々との対話と交流もプログラムの重要な柱になっており、公演はもちろん、ワークショップ、フェスティバルなど、1年を通じて、レジデンス・カンパニーが一般の人々との分野を超えた協働・創造・対話のための場を提供するため、レジデンス事業のほか、いくつかの事業を行っている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>2003年以来、ヴァルテール(Guy WALTER)、ブヴァール(Cathy BOUVARD)の2名のディレクター制</li> </ul>					
	事業実績/成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>月平均7カンパニー、年間ではおよそ70カンパニーが滞在</li> <li>海外アーティストの割合は1/3、フランス人の半分は地元リヨン出身。海外アーティストでは、米国、ドイツ、ベルギー、スイス、イスラエル、スペイン、イタリア、ポルトガル、コンゴなど</li> <li>日本人アーティストはフランス在住アーティストが多いが、日本を拠点に活動するカンパニーによる滞在中の実績はない。ただし、川俣正が舞台美術の制作のために滞在したことがある</li> </ul>					
	所在地	Laboratoire international de création artistique, 8 bis, quai Saint-Vincent, F-69001 Lyon, France					
	電話	+33-4-78-39-10-02	FAX		Email	<a href="mailto:lise.gaillard@les-sub.com">lise.gaillard@les-sub.com</a>	

レジデンス事業の概要	対象分野	美術   キュレーター、ギャラリストを対象					
	招へい人数	6-8人	受入期間	約 10 ヶ月			
	レジデンス事業の内容	<p>デ・アペル・アーツセンターはアーティスト・イン・レジデンスに関連する事業として、滞在型のキュラトリアル・プログラムとギャラリスト・プログラムを実施している。</p> <p><b>【キュラトリアル・プログラム】</b>          キュラトリアル・プログラムは毎年、9月にスタートして6月に終了する 10 ヶ月のプログラムで、前半の9月から1月までは主にチュートリアル、レクチャー、フィールド・リサーチを行い、後半の2月から6月までは展覧会の企画・制作を中心にチュートリアルやレクチャーを行う。</p> <p>フィールド・リサーチでは、オランダ国内や海外の主要な国際展、アートフェア、文化機関等の視察を実施。オランダ国内では、アムステルダムライクスアカデミーなどに滞在するアーティストのスタジオを訪問す。海外のフィールド・リサーチでは、欧州の都市を訪問する短期の視察と欧州以外の国や都市を訪問する長期の視察がある。</p> <p>プログラムの参加者のキュレーションする展覧会を毎年4月にデ・アペルで開催。企画から参加者全員で考え、共同作業で一つの展覧会を制作する。参加者は企画から制作、運営までの一連の作業を通して実務的な経験を積み、多くの知識を得ることができる。</p> <p><b>【ギャラリスト・プログラム】</b>          主要なアートフェアを視察するツアーに参加し、また、デ・アペルが提供する資料を読み、2つの研究課題を提出することが求められる。アムステルダムに滞在する必要はないため、デ・アペルと参加者、参加者同士の交流は主にメールとインターネットを介して行われる。</p> <p>主要なアートフェアを視察するツアーでは、年度ごとに6ヶ所から8ヶ所の候補が選出される。2013 年度はライクスアカデミー・オープンとアート・ロッテルダムのオランダ国内の2ヶ所、海外ではフリーズ・アート・フェア、アーモリー・ショー (The Armory Show)、ABC ギャラリーウィークエンド・ベルリン&amp;ワルシャワとアート・バーゼル・香港の4ヶ所のアートフェアやアーティスト・イン・レジデンスの視察を予定している。ファイナルプロジェクトでは、スイスのバーゼルのリステ・ヤング・アート・フェア (Liste The Young Art Fair) に出展するデ・アペルのスタンドの企画運営を行う。</p>					
	受入条件	キュラトリアル・プログラムの一人当たり 7,000 ユーロ (約 105 万円)、また、ギャラリスト・プログラムの一人当たりの1万ユーロ (約 130 万円) の参加費を徴収している。					
選考・支援	募集方法	公募					
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成		成果発表・オープンスタジオ	
		制作費助成		人的サポート	○	記録集	
		その他の支援	-				
施設構成・内容	制作スタジオ						
	展示スペース	○	キュラトリアル・プログラムのファイナルプロジェクトを開催				
	宿泊施設						
	その他	-					
	周辺環境	アムステルダム中央駅から徒歩 10 分圏内					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.deappel.nl/">http://www.deappel.nl/</a>		事業開始年	1994 年		
	組織の目的・ミッション	デ・アペルは現代美術の潮流を視覚化し、広く一般に発信することをミッションとする。					
	事業実績／成果	過去の主な滞在キュレーターは Lorenzo BENEDETTI (イタリア、現ディレクター、フレスハル)、Defne AYAS (トルコ、ディレクター、ヴィッテ・デ・ヴィス)、Annie FLETCHER (アイルランド、現シニア・キュレーター、アベミュージアム)、神谷幸江 (チーフ・キュレーター、広島市立現代美術館)、原田真千子 (キュレーター、秋吉台国際芸術村) など。					
	所在地	Prins Hendrikkade 142, 1011 AT Amsterdam, Netherlands					
	電話	+31-20-6255-651	FAX		Email	<a href="mailto:info@deappel.nl">info@deappel.nl</a>	

レジデンス事業の概要	対象分野	美術				
	招へい人数	60 部屋(ライクスアカデミーと連携)	受入期間	2年		
	レジデンス事業の内容	<p>滞在アーティストの支援に、ティーチング・アーティスト制度を導入し、ティーチング・アーティスト、滞在アーティストとも専門性にかかわらず交流する環境が提供されるレジデンス。2013 年より、ライクスアカデミーとパートナーシップを組み、ライクスアカデミーと合わせて計 60 部屋のスタジオを利用可。スタジオ以外の施設も相互利用可。ライクスアカデミーのアドバイザーとデ・アトリエのティーチング・アーティストは徐々に統合される予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● レクチャー:年2回(春・夏)、注目度の高いアーティストによる公開トークを開催。滞在アーティストに限定したゲストによるトークも実施</li> <li>● 研修旅行:年度はじめにティーチング・アーティストと一緒に旅行する機会を提供</li> <li>● 展覧会:1973年より開催してきたデ・アトリエ卒業生による展覧会を2006年に「Offspring」という展覧会シリーズに刷新し、毎年5月に開催。2年の滞在を終了したアーティストの成果発表展となる。本展は、ING 10GroupとAmsterdams Fonds voor de Kunstの支援を受けて実現</li> </ul>				
受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 対象者:若手アーティスト(原則25歳-35歳)。ただし、25歳未満、36歳以上も申請可</li> <li>● 選考:ライクスアカデミーと共同で実施。(オランダ人アーティストの選考には、Mondriaan Fondsも参加)</li> <li>● 支援:アトリエ基金(Ateliers Support Fund)とオランダ政府からの助成金と補助金年1万2,500ユーロ(約162万5,000円)を原資にアーティスト(オランダ国籍、外国籍問わず)の滞在費をデ・アトリエが負担。ただし、アーティストは、年2,750ユーロ(約35万7,500円)の授業料を払うこと</li> <li>● 条件:ティーチング・アーティストと批評家によるスタジオビジットが毎週火曜日。ほかにオランダや海外のアーティストによる単発のスタジオビジットもある</li> </ul>					
選考・支援	募集方法	公募				
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成	○	成果発表・オープンスタジオ
		制作費助成		人的サポート	○	記録集
その他の支援	滞在はじめに実施される研修旅行費					
施設構成・内容	制作スタジオ	○	23 部屋(70 m <sup>2</sup> -100 m <sup>2</sup> )。初年度は任意に充当、2年目は希望のスタジオの選定・交渉可 1年更新型で、毎年 30 部屋分のアーティストを入れ替える。住居利用は不可			
	展示スペース					
	宿泊施設	○	市内に滞在用宿泊施設 12 部屋を管理し、海外アーティストに優先的に貸し出している。 借用期間はレジデンス受入期間と同期間に限定。家賃は月 350 ユーロ(約4万 5,500 円)			
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 共用のワークショップ(工房)は9時から5時まで利用可能。機材や道具などが揃っており、テクニカルアシスタントも常駐。時間外利用については応相談</li> <li>● 暗室、ビデオワークショップ、図書室、食堂(原則、自主管理)</li> </ul>				
	周辺環境	アムステルダムの中核地に位置し、公共交通機関で中央駅から 10 分、空港からも 30 分				
運営機関概要	URL	<a href="http://www.de-ateliers.nl">http://www.de-ateliers.nl</a>		事業開始年	1992 年(アムステルダムでの事業開始年)	
	組織の目的・ミッション	デ・アトリエの前身は、若手アーティストが当時の美術教育に疑問を呈し、直接プロフェッショナルな関係者と接する場を作りたいと 1963 年にハーレムに設立された「Ateliers '63」。以来、ティーチング・アーティストが組織の方針や政策を担っている。設立当初のティーチング・アーティストは現在の事業モデルを確立し、認知度の高いプログラムへと成長させた。				
	事業実績/成果	設立から 50 年の歴史が誇る経験と専門性が多くのアーティストに注目され、競争率の高いプログラムとなっている。若いアーティストに専門性の高いプロフェッショナルな環境を提供することを重視。卒業生には、Toon VERHOEF、Marlene DUMAS、Joep van LIESHOUT、Rob BIRZA、Aernout MIK、Robert ZANDVLIET、Urs FISCHER、Matthew MONAHAN、Erik van LIESHOUT、Melvin MOTI、Natasja KANMSIL、Keren CYTTER など。				
	所在地	Stadhouderskade 86, 1073 AT Amsterdam, Netherlands				
	電話	+31-20-6739359	FAX	+31-20-6755039	Email	<a href="mailto:office@de-ateliers.nl">office@de-ateliers.nl</a>

# Hotel MariaKapel

オランダ

レジデンス事業の概要	対象分野	美術				
	招へい人数	—	受入期間	—		
	レジデンス事業の内容	元孤児院を拠点に海外アーティストを受け入れるレジデンス。新作の制作を通して、新しい経験や異なる視点を獲得することを目標とする。 設立の趣旨が実験的なコンテキスト・ベースのアートプロジェクトの実現とアーティストの制作支援。近年の予算削減により、ゲストハウスを移動。				
受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象者: 広く美術(インスタレーション、映像、パフォーマンスアートも可)。個人、またはグループでの滞在可</li> <li>滞在条件: 成果発表をすること</li> <li>支援: 宿泊施設の無償提供と展覧会関連の広報活動の支援あり。渡航費と制作費支援の水準と内容はプロジェクトにより支援をすることもあるが、他の財源からの支援を確保することを推奨</li> </ul>					
選考・支援	募集方法	公募				
	支援内容	渡航費助成	○	滞在費助成		成果発表・オープスタジオ
		制作費助成	○	人的サポート	○	記録集
その他の支援						
施設構成・内容	制作スタジオ					
	展示スペース	○	15 世紀に建設された元チャペル。滞在アーティストの成果発表展を3-4週間開催。単発の事業も実施することあり * 同スペースは 1985 年より別団体により実験的な作品展示スペースとして使われていた			
	宿泊施設	○	無線 LAN、共用の台所、洗濯機、ドライヤーなど			
	その他	—				
	周辺環境	拠点のあるホールン市は、アムステルダム の北 40km				
運営機関概要	URL	<a href="http://www.hotelmariakapel.nl/hmk3/index.php/about/general_information/">http://www.hotelmariakapel.nl/hmk3/index.php/about/general_information/</a>	事業開始年	2003 年		
	組織の目的・ミッション	Hotel Mariakapel は、アーティストと地元のボランティアと海外のボランティアによって設立。設立当初は小さな組織だったが、その後事業が拡大し、現在では海外のアーティストからも注目されるような国際的なレジデンスへと成長したため、公募の申請書は世界中から届く。国際的なネットワーク拡大のため、交換プログラムや国際展での作品展示などの活動も実施。予算縮小により、ゲストハウスを移転する予定。				
	事業実績／成果	<b>【過去の主な滞在アーティスト】</b> Navid NUUR, Feiko BECKERS, Jan ADRIAANS, Alex FARRAR, Alexia MELLOR, Life Of A Craphhead, David BLANDY, Annegret KELLNER, David Horvitz, Marijke APPELMAN en Daan den HOUTER				
	所在地	Korte Achterstraat 2a, 1621GA Hoorn, Netherlands				
電話	+31-229-752252	FAX		Email	<a href="mailto:office@hotelmariakapel.nl">office@hotelmariakapel.nl</a>	

## International Choreographic Arts Centre (ICKamsterdam)

オランダ

レジデンス事業の概要	対象分野	ダンス					
	招へい人数	—		受入期間	—		
	レジデンス事業の内容	<p>ディレクターとともに話題性の高いダンス作品を制作する事業のほか、ゲストアーティスト、アカデミーの3つの事業を柱としている。</p> <p>【ゲストアーティスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若手アーティストを対象に芸術面と資金面の両方をコーチングする事業で、ICKamsterdamでの経験を経て、キャリアが向上することを目指す</li> </ul> <p>【アカデミー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育・研究プログラムを実施することにより、ダンスに関する知識形成にも寄与することが目標</li> <li>「SPAZIO, a European network for dance creation」というプログラムをCSC DanceHouse(イタリア、バッサノー・デル・グラッパ)、Croatian Institute for Movement and Dance(クロアチア、ザグレブ)、Art Stations Foundation(ポーランド、ポズナン)と共催。欧州の若手ダンス関係者を対象に、ダンス制作にかかわるトピックを学び、在欧のプロフェッショナルな振付家や他分野のアーティストにワークショップ、レクチャー、ディスカッションなどを通して新作の制作に挑戦する機会を提供。年6人を受け入れ、共催機関の4ヶ所の拠点を活用した通年レジデンスを実施。参加者は各地のコミュニティと交流する機会にも恵まれる</li> </ul>					
	受入条件	<p>SPAZIO 参加の条件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象者: 振付家を目指して間もなく、制作者としてのキャリア形成にフォーカスしているEU国籍のダンサー。ひとり、または、共同で1-2本、制作にかかわったことがあること</li> <li>参加条件: 前拠点のレジデンスの全期間、参加できること</li> <li>言語: 英語</li> <li>支援: 活動費、旅費、宿泊費、日当などの参加経費は主催者が全額負担</li> </ul>					
選考・支援	募集情報	公募 (SPAZIO)					
	支援内容	渡航費助成	—	滞在費助成	—	成果発表・オープスタジオ	—
		制作費助成	—	人的サポート	—	記録集	—
		その他の支援	—				
施設構成・内容	制作スタジオ	—					
	展示スペース	—					
	宿泊施設	—					
	その他	—					
	周辺環境	—					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.ickamsterdam.com/">http://www.ickamsterdam.com/</a>		事業開始年	2009年		
	組織の目的・ミッション	Emio GRECO と Pieter C. SCHOLTEN (ダンスカンパニー名: Emio Greco PC) がディレクターを務めるコンテポラリーダンスのプラットフォーム。明確なディレクションのもと、ダンスにおける新しい表現を探求している。海外との交流も積極的に行い、ベルギー、フランス、イタリアのカンパニーとパートナーシップを組んでいる。Performing Arts Fund NL (FPK) とアムステルダム市から助成を受けて運営。					
	事業実績/成果おもな招へいアーティスト	これまで、Andrea BOŽIĆ、Monique DUURVOORT、Pere FAURA、Jack GALLAGHER、Sébastien GAXIE、Etta LILIENTHAL(映像制作者、プロダクション・舞台デザイナー)、Belinda McGUIRE(ダンサー、振付家、プロデューサー)、Rob van RIJSWIJK /Jeroen STRIJBOS、Atefeh TEHRANIなどをゲストアーティストに迎えている。					
	所在地	事務所: Nieuwezijds Voorburgwal 120-sous, 1012 SH Amsterdam, Netherlands スタジオ: Studio Habertu, Oudezijds Voorburgwal 106, Amsterdam, Netherlands					
	電話	+31-20-6167240	FAX		Email	<a href="mailto:info@ickamsterdam.nl">info@ickamsterdam.nl</a>	

# Jan van Eyck Academie

オランダ

レジデンス事業の概要	対象分野	美術(写真、パフォーマンス、絵画、理論、ビデオ、映画、キュレーション等)、デザイン(ランドスケープ、グラフィック、都市計画等)				
	招へい人数	48人	受入期間	-		
	レジデンス事業の内容	教育機関を卒業したアーティストを育成することを目的とするレジデンス事業。位置づけとしては、ポスト・ドクター機関。国際交流と領域横断を推進し、思索と実践を引き出すラボの提供や海外とのパートナーシップを組むことにより、若手アーティストの活動を支援。				
	受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援:スタジオ、日当、プロジェクト費(working and programme budget)、経験のある専門分野の指導者、ラボなどを提供。宿泊については、市内のアパートなどを自分で手配すること</li> </ul>				
選考・支援	募集方法	公募				
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成	○	成果発表・オープンスタジオ
		制作費助成	○	人的サポート	○	記録集
その他の支援						
施設構成・内容	制作スタジオ	○	2013年に改装			
	展示スペース	○	展示とビデオ鑑賞スペース(デザイン:Maurer United Architects)			
	宿泊施設					
	その他	2013年に施設の改装が完了。 <ul style="list-style-type: none"> <li>カフェ・レストラン(デザイン:Maurer United Architects)</li> <li>庭園:林、野菜畑、花壇(デザイン:Michael van GESSEL)</li> <li>アネックス棟(デザイン:architecten en en)</li> </ul>				
周辺環境	音楽、美術、演劇のアカデミーや大学などの教育機関が集積する地域に位置する。マーストリヒトは、ブリュッセル、パリ、ロンドン、ベルリンへのアクセスがよい					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.janvaneyck.nl/">http://www.janvaneyck.nl/</a>		事業開始年	1948年	
	組織の目的・ミッション	2013年には施設の改装とともに事業方針の見直しを図り、新しい計画を策定。今後は若手アーティストとデザイナーの育成拠点として、また多様な人の交流拠点として事業を実施する。新規のプロジェクトとして、「Van Eyck Mirror – Products and Concepts」事務局を開設。当館滞在アーティストの才能を活用し、文化芸術を通して社会や経済の課題に取り組む。企業や行政、各種文化機関との協働を通してアーティストが社会と関わる活動を実践する。				
	事業実績/成果	オランダ政府の文化部門(Council for Culture)より3ヶ年(2013-16年)で合計10万ユーロ(1,300万円)の補助金を獲得。外部パートナーの獲得、マーストリヒト市内の大学や教育機関との連携、「ラボ」などの取り組みをはじめ、アーティストと社会問題を直結する新しいプログラムの提案などが評価された。				
	所在地	Academieplein 1, 6211 KM Maastricht, Netherlands				
電話	+31-43-350-37-37	FAX	+31-43-350-37-99	Email	<a href="mailto:info@janvaneyck.nl">info@janvaneyck.nl</a>	

レジデンス事業の概要	対象分野	美術		
	招へい人数	50人	受入期間	1年または2年
	レジデンス事業の内容	<p>ライクスアカデミーは世界各地より才能あるプロフェッショナルなアーティストに研究及び制作の場を提供するレジデンスで、滞在アーティストには研究や制作のためのスタジオ、制作費、奨学金、アドバイザーらによるサポートが、最長で2年間与えられる。受入期間は1年間でスタートするが、ほとんどのアーティストは2年まで延長する。ライクスアカデミーは単なる施設の提供だけではなく、制作に集中できる環境や時間、実験的な制作の場に加え、専門家との意見交換や議論の機会を提供している。</p> <p>施設内には制作に必要な設備や工房(ワークショップ)が揃い、技術講習や指導も受けられる。レクチャー、セミナー、旅行(エクスカーション)、他分野とのコラボレーションなども実施され、滞在アーティストの顔ぶれに応じてテーマや内容が決められる。</p> <p>ライクスアカデミーでは、経験豊富なアーティスト、美術史家、キュレーター、教育専門家などでアドバイザーチームを組織しており、アーティストは、通年で彼らの訪問(スタジオビジット)を受けられる。時には外部からゲストアドバイザーが招かれることもある。アーティストは彼らのスケジュール表を見て、コーディネーターにスタジオビジットを申し込む仕組みになっている。</p> <p>スタジオビジットは1回、1時間半程度で、アーティストが一方的にアドバイスを受けるというより、作品の構想や、様々な分野についてアドバイザーと話し合い、意見交換を行うといったスタイルのことが多い。</p> <p>ワークショップ(工房)では、テクニカル・アドバイザーのサポートを受けられる。必要な技術の習得だけでなく、作品の構想に基づいて、まったく新しい技術が開発されることもある。つまり、作品の構想を膨らませる段階ではアドバイザーの、作品の制作段階ではテクニカル・アドバイザーのサポートを受けられる仕組みである。また、美術と科学を結ぶ先進的なプロジェクトやコラボレーションのプラットフォームもあるため、科学や学術的な分野の専門家と対話しながらプロジェクトを実施することも可能である。</p>		
受入条件	<p>2014年度からライクスアカデミーとデ・アトリエ(De Ateliers)とで新しいパートナーシップ事業を開始予定。申請者の選考は両者が共同で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象者:プロフェッショナルな活動の最初のステージにいる25歳-35歳のアーティスト(但し、25歳未満、35歳より年長のアーティストも申請可)</li> <li>申請資格:美術教育を修了し、独立したアーティストとして3年から5年の実績を有すること</li> <li>オランダ人アーティストまたはオランダを拠点に活動しているアーティストは、ライクスアカデミー、デ・アトリエ、さらに奨学金を支給するモンドリアン・フォonzとの連携により選考される</li> <li>滞在アーティストとしての受け入れが決定すると両者の施設やサービス(スタジオ、工房、図書室、アーティスト・トーク、セミナー、オープンスタジオ、事務や住居のサービスなど)の利用が可能となる</li> <li>ライクスアカデミーのアドバイザーのチームとデ・アトリエのチューター(教授)・アーティストの人員統合が予定されている</li> <li>2拠点を統合して提供されるスタジオ数は60部屋。1年の滞在后、さらに1年滞在を延長することが可</li> <li>芸術、理論、技術を支える専門的な施設とサービスを提供</li> <li>住居に関わる財源確保や住民登録などの実務的な面でのアドバイスあり</li> <li>滞在費:1万2,500ユーロ(約162万5,000円)。内1,500ユーロ(約19万5,000円)が素材費</li> <li>申請手数料:50ユーロ(約6,500円)。ただし、一部の国のアーティストに関しては免除あり</li> <li>滞在費:1万5,000ユーロ(約195万円)の奨学金を自国で確保することが期待されている</li> <li>年会費:滞在前の支払が義務づけられている。2014年の年会費2,750ユーロ(約35万7,500円)</li> <li>財源の一部はオランダ政府による補助金とモンドリアン・フォonzによる助成金。さらにRijksakademie Trust FundとAteliers Support Fundの各拠点の基金が、内外の民間及び政府系の財団、企業、個人より資金を調達</li> </ul>			

選考・支援	募集方法	公募					
	支援内容	渡航費助成	×	滞在費助成	○	成果発表・オープンスタジオ	○
		制作費助成	○	人的サポート	○	記録集	
		その他の支援					
施設構成・内容	制作スタジオ	○	55 部屋				
	展示スペース						
	宿泊施設						
	その他	「コレクション」には、書籍や雑誌のほか、アーティストのドキュメンテーション、18 世紀から今日までアムステルダムを拠点とする主要な文化機関 Stadsteekenacademie (1718 年－1820 年頃)、Koninklijke Academie van Beeldende Kunsten(1820 年－1870 年)、Rijksakademie (1870 年－現在)が収集してきたあらゆる作品や資料が収蔵され、一般公開されている。					
	周辺環境	1992年にStadhouderskadeより現在の住所に移転。2010年に現行の建物も本格的な改修の必要性が認識され、現在計画が進んでいる。					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.rijksakademie.nl/">http://www.rijksakademie.nl/</a>			事業開始年	1999 年	
	組織の目的・ミッション	<p><b>【沿革】</b> ライクスアカデミーは、1817年に開設された Koninklijke Akademie van Beeldende Kunsten の後継機関として、1870年に Willem III によって開設された古典的なアカデミーに由来する。当時は、哲学者、学者、アーティストがアイデアを交換する場として機能。現在は、滞在アーティスト 50 人を理論と技術の両面から最長2年間支援する体制を提供し、アーティストが個人として、また社会の一員として、プロフェッショナルな側面を深く掘り下げつつ、広くそして加速度的にその才能を伸ばしていくことを目標としている。</p> <p><b>【現在の組織】</b> 現在の事業形態は 1980 年代に確立。従来の知識と技術を重んじる学校のようなアプローチを棄て、教室をスタジオに改装、教授に代わり現場経験豊かなアーティストとアドバイザーを迎え、学生の代わりに専門教育を修了して数年経過している若手アーティストを対象とする事業へと変貌を遂げた。これが奏功し、1999年に独立組織(autonomous status)へ移行した後は、国際的にも評価の高い事業になった。申請者数は増加の一途を辿り、内容の優れた申請書が多いのが特徴である。1993年に Res Artis の創立に関わり、現在では会員として活動している。</p> <p><b>【ローマ賞: 美術と建築分野を対象とするオランダで最も古い国運営の賞】</b> 美術のローマ賞は2年に1回、建築のローマ賞は4年に1回授与。もともとは古典美術や建築を研究することを目的にローマに滞在する機会が受賞者に提供されてきた、現在では新作制作を支援し、個展開催の機会、出版物、メダルと賞金(現金)が提供される。1870年以來、同賞は、国立の美術大学(State Academy of Fine Arts)、Secretary of State for Culture Zijlstra、Prix de Rome 担当により運営されてきたが、2013年よりモンドリアン・フォンズに運営を移行。オランダ政府と Rijksakademie Trust Fund 財団が財源を提供している。</p> <p><b>【知の共有】</b> 国際的に活躍する著名なアーティスト、キュレーター、理論家、学者、科学者がアドバイザーで、過去の滞在アーティスト 900 名以上、滞在中アーティスト 50 名、技術専門スタッフ 10 名という資産を活用することができる。さらに他分野との対話を可能にするため、KNAW (Koninklijke Academie van Wetenschappen/ The Royal Netherlands Academy of Arts and Sciences) などの各機関との連携をし、制作過程におけるイノベーションを推進している。</p>					
	事業実績／成果	<p>これまでライクスアカデミーに滞在したアーティストの総数は 900 名を超えている。</p> <p>80 年代にレジデンスが始まって以来の日本人アーティストは次の 12 名(年度順)。小松敏宏(1995/96)、武智子(1997/98)、Mayumi NAKAZAKI(2000/01)、渡部睦子(2001/02)、Shunji HORI(2004/05)、出田郷(2004/05)、小泉明朗(2005/06)、川内朋子(2005/06)、隅本大心(2007/08)、萩原留美子(2008/09)、肥沼義幸(2009/10)、Lei SAITO(2010/11)。</p>					
	所在地	Sarphatistraat 470, NL-1018 GW Amsterdam, Netherlands					
電話	+31-20-52-70-300	FAX	+31-20-52-70-301	Email	—		

レジデンス事業の概要	対象分野	陶芸   主にアーティスト、デザイナー、建築家を対象					
	招へい人数	約 48 人	受入期間	約3ヶ月			
	レジデンス事業の内容	<p>サンデーモーニング・アット・イーケーダブリューシー(以下、サンデーモーニング)は陶芸を専門とするアーティスト・イン・レジデンスで、南オランダのデン・ボス市にある。陶芸家の集う工房としてスタートしたが、現在は、アーティスト、デザイナー、建築家を積極的に受け入れ、陶芸を用いた作品制作を支援している。</p> <p>【インディビジュアル・レジデンシー】</p> <p>インディビジュアル・レジデンシーは約3ヶ月の制作機会を提供するプログラムで、年間約 40 人のアーティストを受け入れている。最大 12 人のアーティストが同時に滞在することができるが、窯の使用が重なってしまわないように滞在の開始日を振り分けている。</p> <p>これまでの滞在アーティストの約 90%は陶芸が専門外のアーティストで、初めて滞在する大半のアーティストは陶芸の知識や経験が全くない。そのため、サンデーモーニングでは、滞在アーティストから提出された制作計画書に基づいて滞在アーティストとのミーティングの機会を持ち、たくさんの種類の粘土の中から制作に適したものを選び、必要に応じて制作の技術指導も行う。</p> <p>【プロジェクト・レジデンシー】</p> <p>プロジェクト・レジデンシーは展覧会やコミッションワークのための制作、製品のプロトタイプ製作など、特定のプロジェクトのために施設を利用したいアーティストを支援するプログラムである。週単位の滞在で申し込むことができ、年間4-8人のアーティストを受け入れている。</p>					
	受入条件	美術専門教育課程を修了後2年以上のアーティストでなくてはならないという条件がある。また、サンデーモーニングでは、スタジオ代、ゲストルーム代、技術指導とその他のサービスを含む滞在費と税金(21%)を前払いで支払う必要がある。材料費、焼成代、3Dプリント代などの実費は、利用時に支払えばよい。					
選考・支援	募集方法	公募、推薦					
	支援内容	渡航費助成	○	滞在費助成	○	成果発表・オープスタジオ	○
		制作費助成		人的サポート	○	記録集	
		その他の支援					
施設構成・内容	制作スタジオ	○					
	展示スペース	△					
	宿泊施設	○	12 部屋				
	その他	-					
	周辺環境	-					
運営機関概要	URL	<a href="http://sundaymoring.ekwc.nl">http://sundaymoring.ekwc.nl</a>			事業開始年	1969 年	
	組織の目的・ミッション	サンデーモーニングは国内外のアーティスト、デザイナー、建築家が陶芸の技術的な可能性と芸術的可能性を探究する場である。そして、アーティスト・イン・レジデンスと芸術の卓越性の場を運営することで、創作的な陶芸、デザイン、建築の発展を普及することを目的とする。					
	事業実績／成果	1969年の創立から現在までの滞在アーティスト数の累計は約800名で、日本人のアーティストは1991年から2011年の間に35名滞在した。著名な日本の滞在アーティストは以下のとおり。 中村錦平(1991) 多摩美術大学教授 イケムラレイコ(1995/98) ベルリン芸術大学教授 金子潤(1995/96/2001) 京都精華大学客員教授 秋山陽(2004) 京都市立芸術大学教授					
	所在地	Zuid Willemsvaart 215, Den Bosch 5211SG, Netherlands					
	電話	+31-7361-24500	FAX	+31-7361 -24568	Email	<a href="mailto:info@ekwc.nl">info@ekwc.nl</a>	

レジデンス事業の概要	対象分野	演劇、ダンス等   劇作家、演出家、振付家を対象					
	招へい人数	4人	受入期間	4年			
	レジデンス事業の内容	<p>カーイシアターのレジデンス事業では、アーティストにオフィススペース、スタジオやリハーサルスペースを提供し、アーティストとの長期的な関係を持ちながら新作公演の共同製作を推進している。近年、アーティストや芸術団体が国際化する一方で、地域や観客との結びつきが希薄になっていることを背景に、アーティストと地域や観客との関係を再び深めていく目的がある。アーティストの活動を4年間という長期に渡り支援し、それらのアーティストの作品を共同製作することを目標としている。現在、4名のアーティストがレジデント・アーティストとしてカーイシアターと関わりを持ち、共同製作の過程でリサーチやリハーサルを行い、また、アーティスト・トークやワークショップを実施している。</p> <p>レジデント・アーティストはカーイシアター内にスタジオやリハーサルスペースや事務所を置くことができ、また、カーイシアターに経理業務を委託することもできる。既にリハーサルスペースを所有するアーティストや、カーイシアターとは別の劇場やスタジオにリハーサルスペースを持つアーティストは、必要に応じてのみカーイシアターでリハーサルを行う。最終的に作品を仕上げる際には劇場スペースでリハーサルを行い、照明や音響などの舞台技術スタッフの協力を得ることができる。また、作品のアドバイスをするカーイシアター専属のドラマトルクもいる。</p>					
	受入条件	演劇、ダンスや音楽などの領域を横断する表現やそのほかの実験的な表現に挑戦しているアーティストで、大型のステージでの作品発表に興味のあるアーティスト					
選考・支援	募集方法	指名					
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成		成果発表・オープンスタジオ	○
		制作費助成	△	人的サポート	△	記録集	
その他の支援	オフィス、スタジオ(稽古場)やリハーサルスペースの提供、また、共同製作のための様々な支援がある						
施設構成・内容	制作スタジオ	○	劇場施設とは別に、音楽スタジオ、ダンススタジオ、演劇スタジオの3つのスタジオ、2つのリハーサルスペースのあるカーイスタジオを有する				
	展示スペース	○	最大観客席数、369席の劇場				
	宿泊施設						
	その他	-					
	周辺環境	ブリュッセルの中心地					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.kaaitheater.be/">http://www.kaaitheater.be/</a>			事業開始年	-	
	組織の目的・ミッション	アーティストにスタジオやリハーサルスペースを提供して新作公演のプロデュースすること、また、より実験的で社会性のある舞台芸術作品を広く観客に紹介することをミッションとする。					
	事業実績/成果	<p>【2013-2016年度レジデント・アーティスト】</p> <p>Kris VERDONCK / A Two Dogs Company(ベルギー)、Mette INGVARSEN(デンマーク)、Eleanor BAUER(米)、Ivo DIMCHEV(ブルガリア)</p>					
	所在地	Akenkaai 2 quai des Péniches, 1000 Brussels, Belgium					
	電話	+32-2-201-5959	FAX		Email	<a href="mailto:name.surname@kaaitheater.be">name.surname@kaaitheater.be</a>	
						<a href="http://www.kaaitheater.be">www.kaaitheater.be</a>	

レジデンス事業の概要	対象分野	美術					
	招へい人数	11人 (2013年度実績)	受入期間	1年(1月-12月)			
	レジデンス事業の内容	国内外の才能ある若手アーティストとともに国際的な現代美術の実験の場をつくることを目的とし、個人の創作活動や研究活動に専念できる環境と現代美術の可能性を議論する場を提供している。滞在アーティストは創作の技術的なサポートのほかに、アーティストや専門家からのアドバイスを受けることができる。					
選考・支援	受入条件	<p>ウィールズでは公募を通じてアーティストを選考している。応募の締切日は毎年5月末で、申請者は応募する年の翌年のレジデンスプログラムに応募することになる。</p> <p>オランダとノルウェーに在住するアーティストは、ウィールズが提携するオランダのモンドリアン・フオンズとノルウェー現代美術オフィス(Office for Contemporary Art Norway)の応募規定に準じて、各機関に応募する必要がある。</p> <p>選考はウィールズのディレクターとアーティスト2名の選考員が行う。この2名のアーティストは週に一度、ウィールズを訪れ、滞在アーティストとミーティングをしたり、スタジオビジットを行うレジデンスプログラムのチューター(指導員)でもある。</p>					
	募集方法	公募					
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成		成果発表・オープンスタジオ	○
施設構成・内容		制作費助成		人的サポート	○	記録集	
		その他の支援	週一度のチュートリアル、美術関係者によるスタジオビジットのコーディネート、ベルギー国内や欧州の美術館やギャラリーのディレクターやキュレーターとの面会のコーディネート				
	制作スタジオ	○	45 m <sup>2</sup>				
	展示スペース	○	展覧会事業のためのスペース				
	宿泊施設						
運営機関概要	その他	カフェ、ブックストア					
	周辺環境	オランダ語を第一言語とする住民とフランス語を第一言語とする住民が混在するブリュッセル市南部のフォルスト地区に位置する。多種多様な文化的背景を持つ住民が多い					
	URL	<a href="http://www.wiels.org">http://www.wiels.org</a>		事業開始年	2008年		
	組織の目的・ミッション	ウィールズは現代美術の発信と文化教育の普及を主な目的とする美術館で、一般的な美術館のように美術品の収集を行わない。ダイナミックかつオープンな活動を基本理念とし、展覧会、レジデンスプログラム、教育プログラムや地域交流プログラムなどを通じて、革新的で実験的かつ社会的な文化施設として地域の文化交流の促進に貢献することをミッションとする。					
	事業実績/成果	レジデンスプログラムは2008年にスタートし、2012年までの5年間に61名のアーティストが滞在した。					
所在地	Av. Van Volxemlaan 354, 1190 Brussels, Belgium						
電話	+32-2-340-0053	FAX		Email	<a href="mailto:residency@wiels.org">residency@wiels.org</a>		

レジデンス事業の概要	対象分野	ダンス、パフォーマンス・アート等					
	招へい人数	約 50 人	受入期間	2週間ー最大6ヶ月			
	レジデンス事業の内容	<p>ワークスペースブリュッセルのレジデンスプログラムは、初期の創作過程を支援することに重点を置いている。アーティストが作品のアイデアを着想し、それを具体的に発展させる段階で、ワークスペースブリュッセルは舞台照明や音響といった技術的なサポートではなく、「空白の空間」を提供している。</p> <p>ワークスペースブリュッセルで初めてプロジェクトに取り組むアーティストは、通常、2週間の滞在機会としてスタジオと宿泊施設を提供される。必要に応じて旅費も支給されるが、奨学金、滞在費や制作費の補助はない。そして、2週間の滞在後に、滞在の成果を話し合うミーティングが行われ、プロジェクトの継続支援の可能性が検討される。</p> <p>プロジェクトの継続支援を受けた場合、アーティストは次のレジデンスの機会を提供され、作品制作のための研究費や経費として 4,000ー7,000 ユーロ(約 52ー91 万円)の制作補助費を支給される。また、受入期間も一定ではない。年間約 50 人前後の招へいアーティストのうち約3分の2のアーティストがこの制作補助費を受ける。制作補助費の用途は自由で、アーティストの判断に任せられている。また、創作過程で専門家によるアドバイスが必要な場合には、ドラマトゥルクを紹介することもある。特に、若手アーティストには的確なアドバイスが必要なケースが多く、アーティストと対話の場を持ち、誰が適任であるかという点から検討し、その経費もワークスペースブリュッセルが負担している。</p>					
受入条件	<p>ワークスペースブリュッセルでは実験的で斬新な作品に取り組むアーティストに注目している。レジデンスプログラムに参加するアーティストには領域横断的な活動をするアーティストも多く、ダンスと美術との関係を探るアーティストや、ダンスと音楽との関係を探求するアーティストも少なくない。</p> <p>主にレジデンスプログラムに参加する約8割がダンスやパフォーマンス・アートの領域で活動するアーティストで、演劇を活動領域にするアーティストの場合には言語による表現を中心とする従来の演劇ではなく、身体を中心とする表現活動や美術を中心とする表現活動を行うアーティストを対象としている。</p>						
選考・支援	募集方法	公募、指名					
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成		成果発表・オープンスタジオ	○
		制作費助成	△	人的サポート	○	記録集	○
その他の支援							
施設構成・内容	制作スタジオ	(提携パートナーのスタジオ利用可)					
	展示スペース	(提携パートナーのスタジオ利用可)					
	宿泊施設	(提携パートナーのスタジオ利用可)					
	その他	ワークスペースブリュッセルはアーティスト・イン・レジデンスのための自己所有の施設を持たないため、ブリュッセル市内にある劇場やダンスカンパニーなどの4つのパートナー、カーイシアター(主にカーイスタジオ)、ローザス、レ・ブリジティ、ウルティマ・ヴェスからスタジオや宿泊施設、運営面でのサポートを受けている					
周辺環境	ブリュッセル市内中心部						
運営機関概要	URL	<a href="http://www.workspacebrussels.be/">http://www.workspacebrussels.be/</a>			事業開始年	2008 年	
	組織の目的・ミッション	ワークスペースブリュッセルはアーティスト・イン・レジデンス、海外の文化機関とのアーティスト交換事業、フェスティバルの運営を事業の核に、若手アーティストがプロとしてキャリアをスタートさせるために必要な支援を提供することをミッションとする。特に、海外の文化機関と連携してアーティストを招へいすることで、ベルギーのダンスとパフォーマンス・アートの領域に新鮮な空気を送り込み、それを活性化されることを目指している。					
	事業実績／成果	これまでに滞在したアーティストは 100 名以上で、リピーターが多い。					
	所在地	OLV Van Vaakstraat 83, Rue Notre-Dame du Sommeil, 1000 Brussels, Belgium					
	電話	+32-2-502-1125	FAX		Email	<a href="mailto:wsb@workspacebrussels.be">wsb@workspacebrussels.be</a>	

# Civitella Ranieri Center

イタリア

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、音楽、文学、映画(映画は1998年のみ)				
	招へい人数	12人-14人×年4回	受入期間	6週間×年4回		
	レジデンス事業の内容	Civitella Ranieri 財団の創立者 Ursula CORNING が所有する15世紀の古城に6週間滞在するレジデンス事業。1回に12-14人程度、年4回受け入れている。対象は、実績のあるアーティストから若手まで幅広い。滞在中は、ディレクター招へいの特別ゲストと対話する機会あり。ユネスコ・アッシュバーク奨学金受給者、Persea Books 出版の Lexi Rudnitsky First Book Prize in Poetry 受賞者、Kirby-Mewshaw Affiliated Fellowship の受給者などを受け入れている。支援内容(滞在費のみ、旅費のみなど)は、支援団体による。				
	受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>奨学金受給者選考方法:選考委員会が推薦者による候補リストのなかから選考・決定</li> <li>選考委員会:著名なアーティスト、学者、批評家から構成(2年の任期交代制)</li> <li>選考基準:若手と実績のあるアーティストともに多様な顔ぶれとなるように選考</li> </ul>				
選考・支援	募集方法	提携機関からの受け入れ				
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成		成果発表・オープンスタジオ
		制作費助成		人的サポート	○	記録集
その他の支援						
施設構成・内容	制作スタジオ	○				
	展示スペース					
	宿泊施設	○				
	その他	-				
	周辺環境	-				
運営機関概要	URL	<a href="http://www.civitella.org/">http://www.civitella.org/</a>			事業開始年	1968年
	組織の目的・ミッション	Civitella Ranieri 財団の創設者 Ursula COMING はスイスに生まれ、英国で教育を受けたのち、ニューヨークに長年住む。退職後、親戚の所有する Civitella を永久借用するに至り、Gordon KNOX と Cecilia GALIENA の補助のもと、現在のプログラムを開始。				
	事業実績/成果	1995年から2013年までのフェローの人数は約500名。				
	所在地	Localita Civitella Ranieri, Umbertide, 06019 PG, Italy				
	電話	+39-75-9975321	FAX	+39-75-824211	Email	-

# UNIDEE in Residence International Programme, Cittadellarte

イタリア

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、デザイン、建築等   文化関係者、研究者等を含む			
	招へい人数	最大 14 人	受入期間	4ヶ月(6月-10月)	
	レジデンス事業の内容	Cittadellarteを拠点に芸術と社会に関係を探索し、社会的な変革をもたらすために創造的なアプローチをすることを目的とするレジデンスプログラム。そのため、アーティスト、キュレーター、企業家、プロジェクト・マネージャーの特性とスキルを統合し、民間企業や行政に対して、社会の課題を解決する革新的な提案を専門的にできるスキルを身に付ける機会を提供。「責任のある社会変革をもたらす」プロジェクトの「アクティベーター」に必要な専門性を育成するため、滞在者にはビジネスとアートの専門家によるレクチャーやワークショップを提供。			
受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格:アーティスト、デザイナー、文化関係者、建築家、研究者など大学学部卒あるいは同等</li> <li>年齢:25歳から40歳までが目安</li> <li>言語:英語(セミナー、ワークショップで問題のない水準の語学力を有すること)</li> <li>全額支援:ユネスコ・アッジェバグ奨学金などのパートナー機関経由の申請の場合</li> <li>部分支援:6,000ユーロ(約78万円)の滞在費(3食の食費含む)を支払うこと。そのほか、渡航費などの経費については自己負担(ほかの財源確保推奨)。ただし、一部支援あり</li> </ul> <p>【滞在条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「責任ある社会的変革」にかかわるプロジェクトを実施すること</li> <li>多様な文化的背景を持つ若手アーティストや専門家との集団生活をする</li> <li>調査、制作、プロモーションを可視化するオンラインのプラットフォームを活用すること</li> <li>活動成果を「UNIDEE in Progress (UNIDEE 進行中)」にてプレゼンテーションすること</li> <li>所定のレクチャーやプロジェクト(週3回)に参加すること。80%以上出席で修了書交付あり</li> <li>保険、ビザは個人で負担すること</li> </ul>				
選考・支援	募集方法	公募(ただし、全額助成の場合は提携機関経由で応募、部分助成の場合は直接応募)			
	支援内容	渡航費助成	滞在費助成	成果発表・オープンスタジオ	○
	制作費助成	人的サポート	○	記録集	
その他の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>セミナー、ワークショップ、研修旅行の参加経費</li> <li>テクニカルスタッフによる支援</li> </ul>				
施設構成・内容	制作スタジオ	○	700 m <sup>2</sup> のロフト		
	展示スペース				
	宿泊施設	○	シングル個室(トイレ・バスルーム、洗濯室、テレビ付き居間は共用)		
	その他	共用機材としてコンピューター(数台)、カラー・レーザープリンター、スキャナー、ビデオカメラ、プロジェクター、テーブリーダー、共用スペースとして台所、会議室、図書室、オーディトリウム			
	周辺環境	イタリア北部ピエモンテ州のビエツラは、アルプス山脈に麓にあり、美しい景観とテキスタイル産業で知られる。チュリンとミラノから約 80km			
運営機関概要	URL	<a href="http://www.cittadellarte.it/">http://www.cittadellarte.it/</a>		事業開始年	1998年
	組織の目的・ミッション	Cittadellarte-Fondazione Pistoletto は、アートポーヴェラのアーティストとしても有名なミケランジェロ・ピストレットが芸術と社会を結ぶ新しいアーティストの役割を定義したマニフェストを根拠に、1998年、ピエモンテ州の支援を得て設立。文化財省の保全対象である19世紀建設の元毛織物工場を拠点に責任ある社会変革を実現することを目的にプロジェクトを実施している。「Cittadellarte」の「citadel」は、「art」が守られている領域であり、世界の複雑な関係性についていく「city」をあらわしている。文化、生産、経済、政治の発展のもととなる創造の活力を生み出す実験室となる場を提供。芸術、教育、環境、経済、政治、精神、生産、仕事、コミュニケーション、建築、ファッション、食の各分類を「ウフィッツィ」と呼称する核に据えて、ローカルな取り組みからグローバルな社会に波及するような活動を実施していくことが目標となっている。			
	事業実績/成果	-			
	所在地	Cittadellarte-Fondazione Pistoletto, Via Serralunga, 27, 13900 Biella, Italy			
	電話	+39-15-0991-462	FAX		Email

# Hangar

スペイン

レジデンス事業の概要	対象分野	美術			
	招へい人数	(短期)1回に最大4人	受入期間	長期(2年間)、短期(1週間-3ヶ月)	
	レジデンス事業の内容	<p>1997年より運営されているスタジオ施設に、元工場管理人室を転用した住居スペース(=レジデンス)が2011年に加わる。機材レンタルサービス、常駐のメディア系テクニカルスタッフによる支援が整っている。様々なキャリアの段階にあるアーティストを支援するため、機材や施設のほか、制作補助などの支援を提供。実験的な試みを支持し、ノウハウや知識の共有のほか、ネットワークや別領域との交流を図り、滞在成果の追跡支援も実施している。現在は最長2年のスタジオ貸し出しと1週間から3ヶ月の短期滞在者用居住空間を提供。個人の活動に限らず、アーティスト同士の交流を推進している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スタジオ18部屋(個人利用と共用))を各最長2年間貸出、年1回の公募にて募集</li> <li>スタジオの利用状況によっては短期入居も可</li> <li>申請書はオンラインで提出可。委員会による選考を経て、決定</li> </ul>			
受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象者:特定のプロジェクトを目的にスタジオが必要なアーティスト、駆け出しのアーティストでスタジオが必要な場合(最長2年)、バルセロナに短期滞在するアーティスト</li> <li>国籍不問。ただし、海外アーティスト向け奨学金はないので、渡航費、宿泊費、スタジオ利用料など自己負担すること</li> <li>スタジオ使用料:30㎡で月162.50ユーロ(約2万円)。ただし、AAVCもしくはUAAV会員には20%の割引額が適用される。使用料と2ヶ月分の前金を払うこと。</li> <li>条件:スタジオは仕事にのみ利用可能。宿泊先は別途手配すること</li> </ul>				
選考・支援	募集方法	公募			
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成	
		制作費助成		人的サポート	○
その他の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>テクニカルスタッフによる支援、機材レンタル、コンサルテーションなどのサービス提供あり</li> <li>オンラインパブリッシングツールなどウェブ関連の各種ツールも利用可</li> <li>独自の調査研究プロジェクト、アーティスト向けプレゼンテーション、ワークショップ、講座の提供あり</li> </ul>				
施設構成・内容	制作スタジオ	○	個人利用は、30㎡、2人共用スタジオは60㎡		
	展示スペース	○			
	宿泊施設	○	元工場管理人室を転用した居住スペース4部屋		
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>通称「Plató」:広さ100㎡、天井高4.5m窓なしでグリーン・スクリーンが設置されたスペース</li> <li>多目的スペース:200㎡のHDビデオプロジェクター、スピーカーなどの音響施設付きスペース</li> <li>スタジオ施設のある棟とは別に2つの建物が併設されている。通称「Ricsson」は、150㎡の音響ステージと衣装部屋、制作・制御室があるスペース。通称「Microfugues」は、ビデオ画像処理プログラム、ストリーミングなどができるラボ付き多目的スペース</li> </ul>			
	周辺環境	バルセロナの工業地域 Poblenou 地区の Can Ricart 工業団地に施設がある。19世紀半ばに建設され、1991年に閉鎖された元テキスタイル工場。敷地面積は合計2,600㎡			
運営機関概要	URL	<a href="http://hangar.org/">http://hangar.org/</a>		事業開始年	1997年
	組織の目的・ミッション	1993年ごろより市内で美術館などの建設計画が進む中、アーティストの制作スペースが足りないと訴える AAVC (Associació d'Artistes Visuals de Catalunya/カタロニア州ヴィジュアル・アーツ・アソシエーション)が1997年に現在の拠点を取得して活動するようになった。2002年に財団組織に移行。現在、カタロニア地方政府とバルセロナ市の支援により施設を運営。			
	事業実績/成果	トーキョーワンダーサイトの平成24年度二国間交流事業<バルセロナ>派遣クリエイターとしてアーティストの毛利悠子が2011年11月から2012年2月まで滞在。			
	所在地	Passatge del Marquès de Santa Isabel, 40, Can Ricart, E-08018 Barcelona, Spain			
	電話	+34-93-308-4041	FAX	+34-93-307-1211	Email

## Konstepidemin

スウェーデン

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、音楽、舞台芸術、文学、映画、デザイン、工芸等					
	招へい人数	海外アーティスト5人	受入期間	1ヶ月－6ヶ月			
	レジデンス事業の内容	<p>元伝染病の病棟だった建物を拠点に 100 名以上のアーティストにスタジオ施設を提供する非営利団体による事業。同施設には、彫刻家、俳優、文筆家、テキスタイルアーティスト、デザイナー、ダンサー、音楽家、宝飾家、陶芸家、画家、版画家、詩人、映画製作者などが入居</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>敷地内に海外アーティスト用にスタジオ5部屋を管理運営</li> <li>IASPIS とヨーロッパ・ペピニエールとの提携事業も実施。Res ArtistとTrans Europe Hallesのメンバーでもある</li> </ul>					
	受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>申請受付: 随時</li> <li>スタジオ利用料: 月 5,800スウェーデン・クローナ (約8万7,000円) から 6,500スウェーデン・クローナ (約9万7,500円)</li> </ul>					
選考・支援	募集方法	公募、提携機関からの受け入れ					
	支援内容	渡航費助成	－	滞在費助成	－	成果発表・オープンスタジオ	－
		制作費助成	－	人的サポート	－	記録集	－
その他の支援	IASPIS 招へい者の場合は、スタジオ使用料、日当、旅費などの支援あり						
施設構成・内容	制作スタジオ	<input type="radio"/> スタジオ兼住居 <ul style="list-style-type: none"> <li>スタジオ1 (パヴィリオン2): 合計83㎡ (内作業スペース39㎡)、専用玄関、台所などあり</li> <li>スタジオ2 (ハウス2): 合計74㎡ (内作業スペース39㎡)、専用玄関、台所などあり</li> <li>スタジオ3 (パヴィリオン4): 合計90㎡ (内作業スペース45㎡)、専用玄関、寝室などあり</li> <li>「Grindstugan」の1階: 合計55㎡ (内作業スペース20㎡) は IASPIS のレジデンス用スペースのため、IASPIS のパートナー組織 (Konstmuseet、Konsthallen、HFF、Valand、ヨーテンボリ市、Konstepidemin) が運営</li> </ul>					
	展示スペース	<input type="radio"/>					
	宿泊施設	<input type="radio"/> (スタジオに併設)					
	その他	敷地内にレストランあり					
	周辺環境	ヨーテンボリ市の中心に位置し、建物 10 棟と公園が広がる。スタジオ面積は合計 4,000 ㎡以上					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.konstepidemin.com">www.konstepidemin.com</a>	事業開始年	1987 年			
	組織の目的・ミッション	<p>1970 年代から 1980 年代にかけてヨーテンボリ市の中心街の不動産の多くは改築工事など時期を迎え、不動産の供給不足になり家賃が高騰。その結果、安価なアーティスト向けスタジオ物件を確保するのが困難となった。そのような状況のなかで、様々なアーティストが集い、交流する文化センターの必要性和アーティストがまとまって活動することにより、政治経済活動に対する圧力団体として機能する可能性を模索していた。</p> <p>そのような気運のなか、1983 年に元病棟の施設のスタジオ利用に目をつけたアーティストたちが行政に働きかけ、1987 年に最初のスタジオ施設を開設。</p> <p>以上のような背景より、当施設はアーティストから構成される非営利団体により運営されている。ヨーテンプルグ市を中心に国、民間企業や助成団体から資金提供を受けている。</p> <p>伝染病のように社会にアートを伝播させることを目的にスタジオを運営するのみならず、アーティストによる展覧会や公園などでの各種活動やイベント、オープンハウス、セミナー、クリスマス・マーケット、討論会などを実施。</p> <p>青少年向きプログラムも手掛ける。年間 1,200 人以上の利用者を誇る「Childrens's Academy」は 5 歳から 9 歳の児童が対象。「The Young」は、16 歳から 17 歳が対象で作品制作の現場研修を施す夏季プログラム。</p>					
	事業実績／成果	－					
	所在地	Konstepideminns väg, S-413 14 Göteborg, Sweden					
	電話	+46-31-82-85-8	FAX	+46-31-82-85-68	Email	<a href="mailto:info@konstepidemin.com">info@konstepidemin.com</a>	

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、デザイン、建築、工芸等   キュレーター、批評家等を含む					
	招へい人数	-		受入期間	-		
	レジデンス事業の内容	<p>【スウェーデンでのスタジオ事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ストックホルムにレジデンス9部屋、地方の3都市(ヨーテボリ、マルモ、ウメオ)にパートナーレジデンス各1部屋、合計12部屋を管理運営。ストックホルムのレジデンスは在スウェーデンアーティスト滞在用。地方3都市のレジデンスは、海外アーティスト滞在用で地元の美術関係機関と連携して運営</li> <li>デザインのレジデンス事業では、在スウェーデンデザイナーの海外派遣や国際的に活躍するデザイナー、建築家、工芸家などのスウェーデンへの招へいなどの事業を試行中</li> <li>スウェーデンのアートシーンを紹介するため、別途、海外のキュレーターや批評家を長期あるいは短期のレジデンス滞中に招へい事業もある</li> </ul> <p>【スウェーデン在住アーティストの海外派遣】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外のレジデンス事業と提携し、スタジオに宿泊施設と日当を支援する海外レジデンス滞在事業を実施。内外とのネットワークづくりにも力を入れている。提携先は次のとおり: 北京(2ヶ月、Institute for Provocation/IFP)、メキシコ(3ヶ月、SOMA)、アムステルダム(4ヶ月、WT Residency)、ロンドン(3ヶ月、SPACE/Art Services Grants Limited)、ベルリン(1年、Künstlerhaus Bethanien)、カイロ(3ヶ月、Townhouse Gallery)、ロンドン(1年、ACME)、ニューヨーク(1年、ISCP)、東京(3ヶ月、AIT/Arts Initiative Tokyo)</li> </ul>					
	受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格: 海外アーティストは、キュレーター、批評家、アーティストの推薦が前提</li> <li>受入期間: 個別に異なる</li> <li>支援: スタジオ、日当、旅費</li> </ul>					
選考・支援	募集方法	推薦					
	支援内容	渡航費助成	○	滞在費助成	○	成果発表・オープンスタジオ	
		制作費助成		人的サポート		記録集	
その他の支援							
施設構成・内容	制作スタジオ	○					
	展示スペース						
	宿泊施設	○					
	その他	-					
	周辺環境	-					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.konstnarsnamnden.se/default.aspx?id=11328">http://www.konstnarsnamnden.se/default.aspx?id=11328</a>		事業開始年	1996年		
	組織の目的・ミッション	<p>国の外郭団体であるスウェーデン芸術助成委員会(Swedish Arts Grants Committee)の視覚芸術部門(Visual Arts Fund)による美術、デザイン、工芸、建築分野向け国際交流を支援することを目的に1996年に設立された。スウェーデンのアーティストが国際的な専門家ネットワークに接して、専門性を向上することを目的としている。</p> <p>スウェーデンのスタジオでの受け入れと運営のほか、在スウェーデンの美術家、デザイナー、建築家を対象に、海外での展示・制作活動への助成や在スウェーデンアーティストと海外アーティストとのコラボレーションを前提とした海外アーティストの招へい費の助成を行っている。</p>					
	事業実績/成果	-					
	所在地	Maria skolgata 83, 2nd floor, Stockholm, Sweden					
	電話	+46-8-50-65-50-00	FAX			Email	<a href="mailto:info@iaspis.se">info@iaspis.se</a>

# Helsinki International Artist Programme (HIAP)

フィンランド

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、メディアアート、ダンス、演劇、文学   キュレーターを含む					
	招へい人数	約 45 人ー65 人	受入期間	1ヶ月ー3ヶ月			
	レジデンス事業の内容	<p>1ヶ月ー3ヶ月の滞在のレジデンス事業。地元の文化機関による招へいなど、個別の目的にあわせた滞在の受け入れも実施。地元の関係者や市民との交流を奨励し、オープスタジオ、展覧会、上映会、プレゼンテーション、レクチャー、コンサートなどのパブリック・プログラムを開催。ケーブル・ファクトリーとスオメンリンナ島(世界遺産のスオミの城塞のある島)の2つの施設にスタジオを保有。ケーブル・ファクトリーは、50,000 m<sup>2</sup>の広さを誇るノキア社の電話機器・ケーブル生産工場跡地を利用したヘルシンキ有数の大規模文化施設。アーティスト、建築家、デザイナー、音楽家、美術館、美術教育機関、ダンスカンパニー、出版社など非営利団体と民間が入居し、専門家 700 人以上が活動する拠点のなかにレジデンス用の3部屋を保有。スオメンリンナ・スタジオは市街地よりフェリーで 15 分の世界遺産の島にある 18 世紀の歴史的建造物を利用。</p> <p>【レジデンス事業の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 芸術の制作、理解、研究、評価に対するアプローチを導入し、それを支援すること</li> <li>● 芸術的探究と領域横断的な創造性の奨励</li> <li>● 海外アーティストによる制作、研究、ネットワークづくりを支援し、ヘルシンキの市街地にて特別なプロジェクトを実現すること</li> <li>● 海外アーティストの作品をヘルシンキの観客に提示すること</li> <li>● 国際交流及び協働と対話のための環境づくりをすること</li> </ul>					
	受入条件	<p>スタンダード・レジデンスプログラム(1ヶ月ー3ヶ月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 対象者:年齢、国籍不問。美術、メディアアート、ダンス、演劇、文学の分野の専門家(過去滞在者は対象外)</li> <li>● 資格:プロとして活動した実績が2年ー3年あること、または、活動対象分野で大学の学部と同等の研究実績があること。英語ができること</li> <li>● 支援:スタジオと宿泊施設を無償提供。渡航費、日当、制作費は自己負担</li> </ul>					
選考・支援	募集方法	公募					
施設構成・内容	支援内容	渡航費助成	ー	滞在費助成	ー	成果発表・オープスタジオ	ー
		制作費助成	ー	人的サポート	ー	記録集	ー
		その他の支援	ー				
	制作スタジオ	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ケーブル・ファクトリー: HIAP専用スタジオ兼住居スペース×3部屋(各60m<sup>2</sup>、バスルーム、台所、寝室とインターネット接続あり)</li> <li>● スオエメンリンナ:スタジオ兼住居×5部屋(各80m<sup>2</sup>ー120m<sup>2</sup>、ロフト付き)</li> </ul>				
展示スペース	○	● ケーブル・ファクトリー:ケーブル・ギャラリー/スオエメンリンナ:ギャラリー・オーガスタ					
宿泊施設	○	● スオエメンリンナ:ゲストルーム×4部屋(各30m <sup>2</sup> 、作業用スペースなし、2人以上入居可、アーティスト、キュレーター、文筆家、研究者、批評家などが対象)					
その他	ー						
周辺環境	ー						
運営機関概要	URL	<a href="http://www.hiap.fi/">http://www.hiap.fi/</a>		事業開始年	1999 年		
	組織の目的・ミッション	<p>HIAP は 1998 年に設立され、3つのコア・バリューをもとに活動:①オープン(新しい考え方や新しい人との出会いを積極的に受け入れ、透明性の高い運営を行うこと)②ホスピタリティ(海外アーティストと積極的に交流すること)③勇気(地域性、芸術性、社会性、知性の境界を横断し、文化的寛容性と社会の多様性を拡張すること)。スタンダード・レジデンスプログラムのほかに、短期滞在の受け入れや各国文化機関(トーキョーワンダーサイトなど)と提携したフィンランド人アーティストの海外派遣とヘルシンキ市アーツカウンシルとの共催事業を手掛ける。</p>					
	事業実績/成果	ー					
	所在地	<p>ケーブル・ファクトリー:C4 Tallberginkatu 1 C 97, 00180 Helsinki, Finland                  スオエメンリンナ:Suomenlinna B 44 E13, Susisaari, 00190 Helsinki, Finland</p>					
	電話	ケーブル・ファクトリー:+358-9-6856-730	FAX		Email	<a href="mailto:info@hiap.fi">info@hiap.fi</a>	
	スオエメンリンナ:+358-45-3194752						

レジデンス事業の概要	対象分野	陶芸   アーティスト、デザイナー、工芸家を対象				
	招へい人数	年間 40 人	受入期間	1ヶ月－6ヶ月		
	レジデンス事業の内容	陶芸を通してアーティスト、デザイナー、工芸家などが交流し、芸術表現を発展させることを目的に運営。海外アーティストやデザイナーは、レジデンスのほか、ワークショップ、セミナー、シンポジウムへの参加を申請可。学生アシスタントも募集している。				
	受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>年齢、国籍不問</li> <li>申請条件: 所定の申請書のほか、推薦状1通</li> <li>選考: グルエアゴー陶芸アドバイザリー・ボードによる選考(2月、5月、8月、11月実施)</li> <li>費用: スタジオ使用料、宿泊費、食費、窯利用料、保険などを自己負担すること</li> <li>ワークショップ参加者も施設利用可。ただし、宿泊については、グルエアゴー近隣のアパートなどを利用すること。昼食は持参可。ただし、朝食、夕食は外でとること</li> <li>滞在条件: 10枚のスライド/画像と報告書をアーカイブ用に提出すること</li> <li>寄贈作品(ショップまたはグルエアゴーコレクション)はアドバイザリー・ボードの審査を受けた上で作品テキストともに納品すること</li> <li>学生アシスタント希望者は、14日から3ヶ月無料で滞在し、スタジオと施設内の設備を利用できる。週20時間労働を提供し、滞在成果をスライドレクチャーで発表することが条件。ただし、材料費、食費などの経費は自己負担</li> </ul>				
選考・支援	募集方法	公募				
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成		成果発表・オープスタジオ
		制作費助成		人的サポート		記録集
	その他の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>有料にて人的サポートあり(例、梱包)</li> <li>学生割引価格でワークショップに参加可</li> </ul>				
施設構成・内容	制作スタジオ	○	ガス、電気、薪など各種窯や釉薬、写真スタジオ付き。材料や窯の利用、目的別テクニカルアシスタントは有料にて提供。作業スペースに使用料は月 3,500 デンマーク・クローネ(約6万円)			
	展示スペース	○	オーデトリウム			
	宿泊施設	○	1918年建設の建物に12部屋。標準は2人部屋1,200デンマーク・クローネ(約2万円)、追加費用で1人利用も可。台所、バスルーム、庭、居間、図書室は共用。1人部屋は2,200デンマーク・クローネ(約3万7,000円)、個室バスルーム付き1人部屋は2,600デンマーク・クローネ(約4万円)。1人部屋の提供は施設の入居状況による。			
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネット接続あり、自転車の貸し出しあり</li> <li>ショップ(過去に滞在アーティストが寄贈した作品を売買)、スタディ・コレクション(アーティストの収蔵作品)</li> <li>2012年に民間のリアルダニア財団とスラーエルセ市の支援により、スタジオスペースを2倍に拡充。研究環境の改善及び3Dプリンターや大型作品の制作を可能にする設備を追加した</li> </ul>				
	周辺環境	グルエアゴーは、コペンハーゲンから約1時間半離れた港町スケルスケーアにある元農家の敷地にあり、風光明媚な土地に立地する。敷地内には陶製彫刻作品を設置した公園もある				
運営機関概要	URL	<a href="http://www.ceramic.dk/">http://www.ceramic.dk/</a>			事業開始年	1997年
	組織の目的・ミッション	CLAY TODAY というデンマーク人のアーティスト・グループにより設立。グルエアゴーは、「金色の農家」を意味し、チューリップ畑と果実園を営む農家が1915年に建設した建物を利用。「オープン」、「ネットワーク」、「技術の多様性」をキーワードに事業を実施。現在、デンマークの文化省、スラーエルセ市、民間の財団の支援により運営管理。				
	事業実績/成果	Paul SCOTT(英)、Justin NOVAK(米)、Kim DICKEY(米)、Akio TAKAMORI(豪)、安田猛(日)、Jane REUMERT(デンマーク)、Robert SANDERSON(英)、中里隆(日)らが滞在。陶芸に特化しながら、デザイナーも受け入れ、新しい作品づくりを支援。北欧有数のアーカイブとスタジオ制作作品のコレクションを誇る。				
	所在地	Heilmannsvej 31 A, DK-4230 Skælskør, Denmark				
	電話	+45-5819-0016	FAX		Email	<a href="mailto:ceramic@ceramic.dk">ceramic@ceramic.dk</a>

## Kecskeméti Contemporary Art Studios/International Ceramics Studio

ハンガリー

レジデンス事業の概要	対象分野	陶芸				
	招へい人数	24人	受入期間	—		
	レジデンス事業の内容	<p>30年の歴史を誇る陶芸施設。孤立した環境で仕事をしているアーティストに他のアーティストとの交流の機会を提供し、日常を離れた環境でインスピレーションを受けて仕事することを目的としている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「Meeting Masters」のプログラムなどを提供し、ゲストアーティストによるデモンストレーション、ワークショップ、スライドトークを実施。マスター陶芸家の技を直に見て、体験する場を提供する</li> <li>24時間利用可能なスタジオと現代陶芸作品のコレクションを備えている</li> <li>施設は有料。宿泊費には、スタジオ使用料とテクニカルスタッフの指導料、シーツ・タオル代などが含まれる</li> </ul>				
受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>選考: アドバイザーによる選考あり</li> <li>申請受付: 主催レジデンスには締切あり。ただし、自主活動のレジデンスの申請は随時可</li> <li>滞在条件: 主催レジデンスは指定期間分、自主活動の場合は日数計算分の費用を支払うこと。また作品を寄贈すること</li> </ul>					
選考・支援	募集方法	—				
	支援内容	渡航費助成	滞在費助成	成果発表・オープンスタジオ		
		制作費助成	人的サポート	○	記録集	
施設構成・内容	制作スタジオ	○	24部屋(1人用、2人用、大型スタジオルーム)			
	展示スペース	○	展示ホールとギャラリースペース			
	宿泊施設	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>民家を利用した宿泊施設、ラウンジ(テレビあり)、台所(家電や皿類などあり)、バスルーム、トイレ、食堂、洗濯室は共用</li> <li>シングル/ツイン×26部屋、クローゼット、シーツ、タオル付き(バスルーム付き個室あり)</li> <li>シングルは日1万フォリント(約4,000円)</li> </ul>			
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気窯10台、ガス窯大小3台、薪窯4台、楽焼用窯1台など、技術者の支援あり</li> <li>輻輳や乾燥室を備えた石膏工房、シルクスクリーン機材、写真スタジオ</li> <li>美術館、図書室、レクチャーホール</li> <li>インターネット接続あり</li> <li>現代陶芸作品のコレクション</li> </ul>				
	周辺環境	ハンガリーの首都ブタペストから南に80km、ハンガリー平野中央のケチケメート市が拠点				
運営機関概要	URL	<a href="http://www.icshu.org/">http://www.icshu.org/</a>			事業開始年	1978年
	組織の目的・ミッション	<p>文化的に孤立していることを認識したハンガリー人アーティストにより設立。陶芸の形態、審美的様相、技術的なスキル向上を推進し、創造的なスキルの向上を図ることを目的としている。陶芸に関する研究、デザイン、実験を支援し、必要な設備を提供している。1978年の創立から2011年までバーチ・キシュクン県により維持管理されてきた。</p> <p>2001年に運営を非営利財団に移行したが、2012年にはさらに組織を改革し、ケチケメート市が管轄する現代美術スタジオに運営を移管。同スタジオ傘下には、Forras Publishing House や国際エナメルアート・スタジオがある。</p> <p>レジデンス事業のほか、ワークショップ、シンポジウム、講座、トーク、セミナーなども開催。ハンガリー美術工芸大学で「マスタースクール」を10年間主催。新規に西ハンガリー大学(ソブロン)で学部と修士レベルの新講座を開始予定。これまで蓄積してきたノウハウとネットワークを作ってきた教授陣、内外のアーティストを迎えて、作品制作の場を提供すると同時に学生に教育の機会を提供する。</p>				
	事業実績/成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>5大陸から400名以上のアーティストが滞在(内、日本人は19名)</li> <li>滞在アーティストによる作品を3,000点以上収蔵</li> </ul>				
	所在地	H-6000 Kecskemét, Kápolna u.11, Hungary				
	電話	+36-76-486867	FAX	+36-76-86867	Email	<a href="mailto:icshu@me.com">icshu@me.com</a>

レジデンス事業の概要	対象分野	美術等   キュレーター、批評家等を含む					
	招へい人数	年間 16 人ー20 人	受入期間	短期、中期、長期			
	レジデンス事業の内容	作品制作 (art-making) が健全かつ活発な社会の根幹を担っているという認識のもと、現代美術の活動を通して一般社会と対話することを目指している。個人のアーティストとアート団体を対象に短期・中期・長期のレジデンスプログラムを提供。短期では国内・海外のアーティストが滞在。中期ではカリフォルニアを拠点に活動するアーティストがキャリア育成を目的に滞在。長期では「アンカー」(拠点) 組織の入居を通して組織のアイデンティティづくりをしている。					
受入条件	<p>【短期 (Visiting Artist Residency Program)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国内・海外のアーティストを対象にスタジオ兼住居の部屋3部屋を1ヶ月ー3ヶ月提供</li> <li>分野不問(キュレーター、文筆家、音楽家などの滞在可)、年間16人ー20人が滞在</li> <li>スタジオは1年から1年半前に予約する必要があるが、空室が出た場合は別途対応可</li> <li>滞在費を支援する団体による推薦と公募による申請が可。いずれの場合も、レジデンス事業の担当ディレクターと18th Street Arts Center の事業委員会による選考を経て最終選考</li> </ul> <p>【中期 (Mid-term Artist Residency)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>当組織のミッション「現代美術の活動を通して、パブリック・ダイアログを挑発すること」に呼応する地元アーティストを対象にスタジオの日中利用または施設貸出(1年以上、最長3年)を実施。家賃の一部を18th Street Arts Centerが負担。小規模のアーティスト・ラン団体にも貸出可</li> <li>スタジオは2ー3年ごとに交代。申請書の受付は随時。ただし、スタジオが空いてからしか、選考委員会は開催されない。書類審査のほか、選考委員会とスタッフとの面接もある</li> </ul> <p>【長期 (Long-term Artist Residency)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アーティスト個人またはアート関係団体が対象。設立時より継続的に施設を利用しているアーティストと団体が多く、当組織のアイデンティティ形成にも貢献している</li> </ul> <p>【キュレーター (Visiting Curator in Residence)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カリフォルニアを拠点に活動するキュレーターをレジデンスに迎え、調査研究を支援する事業。対象キュレーターには時間、スペース、1万ドル(約100万円)の活動費を提供</li> </ul>						
選考・支援	募集方法	公募					
	支援内容	渡航費助成	—	滞在費助成	—	成果発表・オープスタジオ	—
		制作費助成	—	人的サポート	—	記録集	—
		その他の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェブサイトにてアーティストリストを掲載、イベント告知やカタログ情報も掲載</li> <li>海外アーティストにはビザ取得のため公式招へい状の発行可</li> </ul>				
施設構成・内容	制作スタジオ	○	約 90 m <sup>2</sup> (1,000sq.ft.) のスタジオ兼住居施設(家具、ケーブルテレビ、インターネット接続、自転車、台所、バスルーム付き)。プレゼンテーションやスタジオビジットを行うことが可能 ただし、中期滞在者には、約 40 m <sup>2</sup> ー90 m <sup>2</sup> (400sq.ft.ー1,000sq.ft.) のスタジオを充当				
	展示スペース						
	宿泊施設	○	(スタジオに併設)				
	その他	事務所の設備のほか、コンピューター、オーディビジュアル機材、会議室の利用可					
	周辺環境	サンタモニカに近く、アート・コミュニティが活発な地域に立地					
運営機関概要	URL	<a href="http://18thstreet.org/">http://18thstreet.org/</a>			事業開始年	1992 年	
	組織の目的・ミッション	1988 年に組織を設立、レジデンス事業は 1992 年から。ミッションは、①短期、中期、長期の3つのレジデンス事業を通して文化交流型コラボレーションと対話を促すこと、②パブリックイベントと展覧会などの各種事業を実施し、観客に作品の制作過程を公開すること。 レジデンス事業、展覧会、パブリック・プログラム、トーク、出版などの各種事業を通じて、先鋭的なアートを支援・発信。地域、国内、海外のアーティストとの交流も推進。					
	事業実績／成果	レジデンス事業開始以来、国内・海外より 300 名以上のレジデンス滞在实际あり。その他の展覧会やイベントなどの各種プログラムには 17 年間で 700 名以上の美術家や舞台芸術家が参加。					
	所在地	1639 18th Street, Santa Monica, CA 90404, USA					
	電話	+1-310-453-3711	FAX	+1-310-453-4347	Email	<a href="mailto:office@18thstreet.org">office@18thstreet.org</a>	

## Anderson Ranch Arts Center

米国

レジデンス事業の概要	対象分野	美術(絵画・ドローイング、版画、彫刻、デジタル・写真、家具デザイン・木工・彫刻、陶芸等)   キュレーター、批評家等を含む				
	招へい人数	28人	受入期間	10週間		
	レジデンス事業の内容	<p>1980年に版画家の工房を拠点に開始されたレジデンス。個人の創作意欲と発見、学習、成長という人間のニーズに応えるために活動を継続。アーティスト、批評家、キュレーターによる滞在を通して、アイデアを共有し、作品制作を促し、他のプログラム参加者との交流を推進する。日常生活から離れ、実験的な活動を促す環境で、新作を構想したいアーティストなどに適している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>標準レジデンスプログラム: 公募</li> <li>指名制レジデンス(Visiting Artist Program, Visiting Critic Program): 指名アーティストにスタジオを提供し、作品制作及び新しい分野に挑戦する専門的な支援を提供。月1回程度の頻度で批評家を招待し、滞在アーティストとの対話(1-3日)とパブリックレクチャーを開催</li> <li>分野横断型レジデンス(Studio Immersive): 1月に開催する3週間プログラム。分野横断的な制作の機会を提供。センターの専門スタッフによる支援と先進的な施設を利用し、批評家との対話も提供される。参加アーティストは、実践の幅を広げ、新しいメディアへ調整を促される</li> </ul>				
	受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象者: 新進アーティスト及び実績のあるアーティスト</li> <li>*新進アーティストとは、18歳以上でキャリアの初期段階にあり、10週間のレジデンス滞りがキャリア育成に有用なアーティスト。学部、大学院から卒業して10年以内を目安とし、大型展覧会での展示や主だったコレクションへの収蔵経験がないこと</li> <li>*実績のあるアーティストとは、18歳以上でプロフェッショナルな制作活動を10年以上継続してきたアーティスト。大型展覧会や主だったコレクションへの作品収蔵の実績があり、大学などでの教授経験があること</li> <li>選考: 実績のある現役アーティストから構成される選考委員会による</li> <li>受入期間: 秋ターム(10月-12月)、春ターム(2月-4月)に10週間</li> <li>招へい人数: タームごとに約14人</li> <li>滞在条件: アートセンターのコミュニティとの交流、コンセプトづくり、作品制作に集中すること</li> <li>支援: スタッフによる人的支援体制、滞在費(宿泊、スタジオ、食事などの利用料を含む)1,500ドル(約15万円)。ただし、全額支給対象者は4人まで</li> <li>新進アーティストと実績のあるアーティストの数の比率に配慮あり。また、分野ごとに施設に受け入れられる人数が異なる: 陶芸(4人)、デジタル/写真(2人)、家具デザイン/木工/彫刻(2人)、絵画/ドローイング(2人)、版画(2人)、彫刻(2人)</li> </ul>				
選考・支援	募集方法	公募、指名				
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成	○	成果発表・オープスタジオ
		制作費助成		人的サポート	○	記録集
その他の支援	技術支援					
施設構成・内容	制作スタジオ	○				
	展示スペース					
	宿泊施設					
	その他	-				
周辺環境	コロラド州 Snowmass Village はデンバーより約 260km(160 マイル)離れたリゾート地					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.andersonranch.org/">http://www.andersonranch.org/</a>			事業開始年	1980年
	組織の目的・ミッション	アーティスト、制作、創造的な対話と創造的コミュニティを尊重し、変革をもたらす経験を提供することをミッションとしている。また美術界を牽引し、国際的な対話を通して美術制作へのインスピレーションを醸成し、挑戦、支援、探究、革新、発見を促すことを目標としている。Alliance of Artists' Communities のメンバー。				
	事業実績/成果	指名制レジデンスプログラムはもともと版画工房とのコラボレーションを中心に実施されてきた。Red GROOM、Laurie ANDERSON、Roberto JUAREZ、John BUCK、Ed RUSCHA らの滞在实际あり。				
	所在地	5263 Owl Creek Rd, Snowmass Village, CO 81615, USA				
	電話	+1-970-923-3181	FAX	+1-970-923-3871	Email	<a href="mailto:info@andersonranch.org">info@andersonranch.org</a>

レジデンス事業の概要	対象分野	美術等   キュレーターを含む					
	招へい人数	年間 10 人まで(インバウンド・レジデンス)	受入期間	約1ヶ月			
	レジデンス事業の内容	<p>日常の環境から離れたアーティストに新しい作品を制作するのではなく、新しい文化を体験する機会を提供。</p> <p>海外アーティストを受け入れる「インバウンド・レジデンス」とニューヨークのアーティストを海外に派遣する「アウトバウンド・レジデンス」の2つの事業を実施。</p> <p>滞在中は、制作とキャリアアップに追われるのではなく、内面を見つめ、思索することにより、作品や制作について客観的にみたり、解釈したりすることに集中する活動を奨励する。</p> <p>【インバウンド・レジデンス(Inbound Residency)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目的: ニューヨークで新しい体験や文化に触れること</li> <li>招へい人数: 1シーズンに10人まで</li> <li>支援: 渡航費、アパート、携帯電話、インターネット、訪問先・参加イベント・面会する専門家・受講する講座など一式をまとめたアイテナリーを無償で提供。食費などの経費は自己負担</li> </ul> <p>【アウトバウンド・レジデンス(Outbound Residency)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目的: 現地の人と意見交換したり、イベントに参加したり、派遣先の文化を体験すること</li> <li>派遣人数: 年間4人まで、各1ヶ月滞在</li> <li>人的支援: 現地のコンタクトパーソンが旅程を作成。コンタクトパーソンは過去の滞在アーティストなどapexartのネットワークを活用</li> <li>その他の支援: 渡航費、アパート、アイテナリー。食費などの経費は自己負担</li> </ul>					
	受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>当該事業の目的や特徴を知っている各国の専門家や関係者からの推薦を受けていること</li> <li>海外で制作活動に従事しないことがメリットとなること</li> </ul>					
選考・支援	募集方法	推薦					
	支援内容	渡航費助成	○	滞在費助成		成果発表・オープスタジオ	○
		制作費助成		人的サポート	○	記録集	
その他の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>アパート、携帯電話、インターネット接続あり</li> <li>滞在中の計画を示すアイテナリー</li> </ul>						
施設構成・内容	制作スタジオ						
	展示スペース						
	宿泊施設	○	ワンルームの家具付きアパート(インターネット接続あり)				
	その他	-					
	周辺環境	-					
運営機関概要	URL	<a href="http://apexart.org/">http://apexart.org/</a>		事業開始年	1994 年		
	組織の目的・ミッション	キュレーターやアーティストに機会を提供し、アートに対する既存の考え方、実践方法やキュレーションに挑戦する姿勢で臨むこと。そのために、展覧会、レジデンス事業、出版物の制作、パブリック・プログラムやイベントを実施。					
	事業実績/成果	<p>アーティスト、キュレーター、文筆家、批評家、詩人、建築家、ジャーナリスト、俳優、哲学者、政治家等、50 ヶ国以上の国から 100 名以上が滞在。日本人はキュレーター2名の滞在実績がある。</p> <p>2012 年 (IN7名/OUT4名)、2011 年 (IN7名/OUT1名)、2010 年 (IN10名/OUT2名)、2009 年 (IN9名/OUT2名)、2008 年 (IN5名/OUT1名)、2007 年 (IN8名/OUT2名)、2006 年 (6名)、2005 年 (8名)、2004 年 (9名)、2003 年 (7名)、2007 年 (6名)、2002 年 (6名)、2001 年 (6名)</p>					
	所在地	291 Church Street, New York, NY 10013, USA					
電話	+1-212-431-5270	FAX		Email	<a href="mailto:info@apexart.org">info@apexart.org</a>		

# Archie Bray Foundation for the Ceramic Arts

米国

レジデンス事業の概要	対象分野	陶芸					
	招へい人数	—	受入期間	短期、長期			
	レジデンス事業の内容	1951年にレンガ造り職人 Archie BRAY により創設された陶芸センター。同氏設立の財団では、1,000点以上の優れた陶芸作品(バーナード・リーチ、濱田庄司らの作品含む)と陶芸資材やサイトスペシフィックな陶芸彫刻を収蔵している。当センターでは、国の歴史的拠点(National Register of Historic Places)に指定された拠点到国内・海外の新進及び実績のある陶芸アーティストが活動するレジデンス事業を実施。現在 Archie Bray Foundation と Jentel Foundation of Banner, Wyoming の2つの財団が協力し、陶芸の批評水準の底上げを図ることを目標としている。定型プログラムはなく、アーティストの自主性を尊重。					
受入条件	<b>【公募制】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>受入期間:短期(数ヶ月)または長期(最長2年まで)</li> <li>選考:ディレクターと陶芸アーティスト2名によって構成される選考委員会(交代制)による。選考基準は作品性、芸術性、多様性とキャリアの段階。多様なアーティストが滞在することを重視</li> <li>支援:24時間利用可能なスタジオの無償提供。1年間滞在者対象の奨学金と短期(夏期)滞在者対象の奨学金あり</li> <li>その他の経費:素材費、窯利用費は実費(小型電気釜4ドル/日、アナ釜500ドル6日など)。陶土はBray's Clay Businessにて割引価格が適用される。宿泊は別途手配、自己負担</li> <li>作品売買、ヘレナ市内でのパート/アルバイト、一般向教室で有償講師の職あり</li> </ul> <b>【指名制(Visiting Artist program)】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ディレクターによる指名。David and Ann Shaner Resident Artist Studio Complex施設のVoulkos Studio(スタジオ)で1ヶ月滞在制作。滞在アーティストと交流やパブリック・プログラムに参加</li> </ul>						
選考・支援	募集方法	公募、指名					
	支援内容	渡航費助成	—	滞在費助成	—	成果発表・オープンスタジオ	—
		制作費助成	—	人的サポート	—	記録集	—
		その他の支援	—				
施設構成・内容	制作スタジオ	○ Shaner Studio 施設(10部屋、共用の釉薬・石膏室と屋内釜施設、その他、5種以上の窯を23機以上、敷地内の備え、付随する作業用設備も充実。木工、鑄造設備もあり)、Resident Artist Director スタジオ、Voulkos Visiting Artist スタジオ施設、夏期短期滞在者用 Summer Studio 施設(10部屋)					
	展示スペース	○ 3スペース:North Gallery:Sales Gallery、Pottery Gallery(収蔵作品を展示)、Warehouse Gallery(夏期のみオープン約325㎡[3,500sq.ft]の大型展示スペース)					
	宿泊施設	○ 敷地内に宿泊施設がないので、ヘレナ市内のアパートの借用を勧めている					
	その他	スタジオには共用の台所、会議室、コンピューター室、インターネット接続、図書室あり					
	周辺環境	モンタナ州ヘレナ市から約5km(3マイル)にある元 Western Clay Manufacturing Company の土地。ロッキー山脈のふもとに広がる敷地は約100,000㎡(26acre)あり					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.archiebray.org/index.html">http://www.archiebray.org/index.html</a>		事業開始年	1951年		
	組織の目的・ミッション	陶芸に真摯に取り組むアーティストにふさわしい施設と環境を提供すること。滞在アーティスト、スタッフ、理事会、地元のコミュニティとの友情と交流を通して、芸術の喜びを分かち合うことを目標としている。Clay Businessは、陶芸素材の売上を当センターの活動費に充当するほか、技術と素材の両面から滞在アーティストを支援する。					
	事業実績/成果	1952年に濱田庄司、バーナード・リーチ、柳宗悦を迎えてワークショップを実施し、陶芸家 Autio と Voulkos に大きな影響を与えた。創設以来、世界各地より600名以上の陶芸家が滞在。Tre ARENZ、Val CUSHING、John and Andrea GILL、Wayne HIGBY、Clary ILLIAN、Jun KANKEO、Eva KWONG、Jim and Nan McKINNELL、Ron MEYERS、Robert SPERRY、Chris STALEY、Akio TAKAORI、Arnie ZIMMERMANら著名な陶芸家を含む。					
	所在地	2915 Country Club Avenue, Helena, MT 59602, USA					
	電話	+1-406-443-3502	FAX	+1-406-443-0934	Email	<a href="mailto:archiebray@archiebray.org">archiebray@archiebray.org</a>	

# The Art Students League of NY (Vytlacil Campus Artist-in-Residence Program)

米国

レジデンス事業の概要	対象分野	美術					
	招へい人数	—	受入期間	4週間—8週間			
	レジデンス事業の内容	<p>1995年に寄贈されたアーティスト Vaclav Vytlacil の元邸宅とスタジオをレジデンス施設に改装、2007年に開設。ニューヨーク州ロックランド・カウンティのスパークルの土地を「Vytlacil Campus」として開発し、スタジオ中心の制作環境を提供。アーティスト同士の交流や意見交換の場を提供。国内・海外のプロフェッショナルな新進アーティストと教職にあるアーティストを対象。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 現役のプロフェッショナルなアーティストによるメンタリング(指導)と批評のセッションあり</li> <li>• 夕方の集会やプレゼンテーションなどを通してのアーティスト同士の交流の機会もある</li> <li>• オープンスタジオへの参加も可</li> </ul>					
受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 対象者:18歳以上の新進アーティスト、教職にあるアーティスト</li> <li>• 受入期間・時期:4週間—8週間、10月以外可、月の1日—28日可</li> <li>• 申請受付:随時。ただし、希望開始日より2ヶ月—6ヶ月前に申請することが望ましい</li> <li>• 参加費(基本的な施設利用含む、旅費、材料経費は別):4週間で合計2,800ドル(約28万円)</li> <li>• 奨学金:「The Kuniyoshi Scholarship」、「Ruth Katzman Scholarship in loving memory of her parents, Lilian and Max Katzman」、「Milton and Sally Avery Arts Foundation Grant」の3種申請可</li> </ul>						
選考・支援	募集方法	公募					
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成		成果発表・オープンスタジオ	
		制作費助成		人的サポート	○	記録集	
	その他の支援	ニューヨーク市内へのシャトルバスサービス					
施設構成・内容	制作スタジオ	○	個室または共用、ブロンズ溶解炉、陶芸用窯、溶接機などの設備を備えたスタジオもある				
	展示スペース	○	エリザベス・V・サリヴァンギャラリー(2012年オープン)、年間6本の展覧会を開催				
	宿泊施設	○	個室(シングル)				
	その他	図書室、インターネット接続あり					
	周辺環境	ニューヨークのマンハッタン・ミッドタウンより車で約30分					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.theartstudentsleague.org/">http://www.theartstudentsleague.org/</a>		事業開始年	2007年		
	組織の目的・ミッション	<p>Art Students League は1875年にアーティストによるアーティストのために協会として設立され、著名なアーティストがこれまで関わることにより、米国の近現代美術の歴史に多大な影響を与えてきた。例えば、故・ルイズ・ブルジョワは、Art Students League で Vaclav VYTLACIL に師事している。マンハッタンとスパークルの2拠点で80人以上の現役アーティストによる130以上のコースが提供され、受講生は月2,500人以上にのぼる。</p> <p>ミッションは、絵画、ドローイング、版画、彫刻(ブロンズ含む)、アッセンブラージュ関連の質の高い講座を適正な価格で提供すること。また次の理念に基づき活動している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• アトリエ方式の教授法を取り入れ、実践的な学習を実現すること</li> <li>• アーティストを支援すること</li> <li>• 教授陣のアーティストを支援すること(才能と固有の視点を持つ教授陣を迎えることにより、カリキュラムによる制約のない、自由かつ質の高い教育を提供すること)</li> <li>• 個別の学生を尊重し、教授を選択する権利を付与すること</li> <li>• 受講しやすい授業料を維持すること</li> <li>• アーティスト同士の交流を重視。教授も学生も貢献できる環境の提供</li> <li>• The Alliance of Artists Communities と Res Artis のメンバー</li> </ul>					
	事業実績/成果	2007年以来、20歳から80歳という広い年齢層のアーティストを受け入れ、国内アーティストのほか17ヶ国(オーストラリア、カナダ、英国、ドイツ、フランス、日本、インド、アイルランド、ノルウェー、スコットランド、南アフリカ、タイなど)より39名の海外アーティストが滞在					
	所在地	241 Kings Highway, P.O. Box 357, Sparkill, NY 10976, USA					
	電話	+1-845-359-1263	FAX	+1-845-398-0634	Email	<a href="mailto:vytlacil@artstudentsleague.org">vytlacil@artstudentsleague.org</a>	

# Djerassi Resident Artists Program

米国

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、音楽、ダンス、メディアアート、ニューメディア、文学				
	招へい人数	約 84 人	受入期間	コア期間は、3月中ー11月中旬まで(1回の滞在は 30 日)		
	レジデンス事業の内容	<p>毎年7セッション(1セッション=30日)に合計約 84 人(1セッション=約 11 名)のアーティストが滞在する国内有数の大規模レジデンス。知的好奇心を刺激し、アーティスト・コミュニティと密度の高い交流をする場を提供。アーティストは滞在費の費用負担なく、自然環境に恵まれた立地にて創造活動に集中できる。研修などのプログラムは提供されないため、滞在中の過ごし方はアーティストの自主性に委ねられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アジア、アフリカ、南米、ネイティブ・アメリカン出身の作曲家対象の奨学金(Gerald Oshita Memorial Fellowship)とオレゴン出身美術家対象の奨学金(Ford Family Foundation)の対象者を受け入れるプログラムあり</li> <li>7月(セッション4)はアートと科学の関係について研究するLEONARDO/ISASTとの共催事業「Scientific Delirium Madness」対象アーティストに限定</li> </ul>				
	受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象者:レジデンス経験がキャリア育成上、有用な新進・中堅アーティストと国内・海外で一定の評価のある実績のあるアーティスト。学生は対象外</li> <li>受入期間:コア期間(3月中旬ー11月中旬)の7セッションのうち1セッション(30日)</li> <li>選考:アーティストと分野別専門家から構成されるパネル(交代制)による選考を年1回開催</li> <li>支援:滞在費(スタジオ、宿泊施設)。ただし、申請手数料、渡航費、材料費は自己負担</li> <li>年齢、性別、性的嗜好、障害、宗教、婚姻の有無、出身国不問</li> <li>コラボレーション、カップルともに個別に選考。振付家はダンサー1人を同行させることは可</li> <li>家族、ペットの滞在同伴不可。家族、友人の宿泊不可</li> </ul>				
選考・支援	募集方法	公募				
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成	○	成果発表・オープンスタジオ
		制作費助成		人的サポート		記録集
	その他の支援	月曜日から金曜日の夕食は共用の台所にて提供される。朝食、昼食、週末の夕食は個別に用意すること。ただし、食材は提供される				
施設構成・内容	制作スタジオ	○				
	展示スペース					
	宿泊施設	○				
	その他	<p>専門分野別に滞在施設がある。各施設の共用スペースには、インターネット設備あり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Artists' House: 文筆家用の作業用スペース兼住居(台所、居間、食堂、図書室など共用)</li> <li>Artists' Barn: 美術家用スタジオ3部屋、大型ダンススタジオ1部屋、写真用暗室、作曲用スタジオ(小型グランドピアノと電子ピアノ付)。寝室兼用のロフト付(台所、居間など共用)。PC、スキャナー、大型プリンターなど</li> <li>Middlebrook Studios: 文筆家とメディア・アーティスト向けのスタジオ兼住居4部屋</li> <li>スライド・プロジェクター、スクリーン、デジタル・ビデオカメラ、プロジェクターなどの提供あり</li> </ul>				
周辺環境	サンフランシスコから車で1時間ー1時間半					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.djerassi.org/">http://www.djerassi.org/</a>		事業開始年	1997 年	
	組織の目的・ミッション	制作、思索、専門家同士の交流に没頭できる緑豊かな環境を提供することをミッションとしており、国際的にも認知度が高く、才能のあるアーティストを各地より積極的に受け入れている。1990年代初頭に Alliance of Artists' Communities (www.artistcommunities.org) の創設メンバーとして関わる。現在、100 以上の個人と団体会員から構成する規模に成長した同ネットワークの活動にも継続的にスタッフが関わっている。				
	事業実績/成果	開始以来 32 年の間に 2,000 名以上のアーティストが滞在。風光明媚な寛局の刺激されたアーティストが屋外彫刻を制作したこともある。牧場のある敷地に過去の滞在アーティストによる作品が 50 点ほど残されている(永久設置を前提にしない)。				
	所在地	2325 Bear Gulch Road, Woodside, CA 94062, USA				
	電話	+1-650-747-1250	FAX	+1-650-747-0105	Email	<a href="mailto:drap@djerassi.org">drap@djerassi.org</a>

# The Fabric Workshop and Museum

米国

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、デザイン、建築					
	招へい人数	—		受入期間	—		
	レジデンス事業の内容	<p>現代美術家に新しい素材と技術の実験、試行の機会を提供。プリントの専門スタッフと技術者との協働があつてこそ生まれる新しい技術、素材、資源の開発により、表現領域の拡大を図り、広く現代美術の発展に貢献することを目的としている。米国で唯一、新しい素材やメディアを使った制作活動の支援を主目的とする国際的な事業として知られている。</p> <p>制作された作品はコレクションに収蔵。完成に至る調査データ、サンプル、プロトタイプ、記録写真やビデオなどもコレクションされている。</p> <p>調査、企画、制作は一般に公開されているスタジオ施設で行われるため、来館者は、作品制作の最初の段階から完成までを見ることが出来る。小中学校の児童までを対象に美術へのアクセス向上を目標としている。</p>					
受入条件	<p>対象者：国内・海外の新進アーティストと実績のあるアーティスト。絵画、彫刻、建築、デザイン、コンセプチュアル・アート、インスタレーション、パフォーマンス、ビデオなどの専門領域不問</p> <p>支援：謝金、素材を提供するほか、実験に必要な設備やスタッフの提供</p>						
選考・支援	募集方法	指名					
	支援内容	渡航費助成	—	滞在費助成	—	成果発表・オープンスタジオ	—
		制作費助成	—	人的サポート	—	記録集	—
		その他の支援	—				
施設構成・内容	制作スタジオ	○					
	展示スペース	○					
	宿泊施設						
	その他	—					
	周辺環境	—					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.fabricworkshopandmuseum.org/">http://www.fabricworkshopandmuseum.org/</a>		事業開始年	1977年		
	組織の目的・ミッション	<p>Fabric Workshop and Museum は先進的な現代美術家とともに作品を制作し、制作過程を一般公開することを目的に 1977 年に設立。スタジオ、設備、専門家による支援のもと、当初は布を素材とする実験を行っていたが、現在では、布に限らず新しい素材やメディアまで拡大して実施。当初よりフィラデルフィアの若者にプリント技術を身に着ける機会を提供するという教育的目的も兼ね備えて運営。教育事業では、講座、ツアー、学校の児童向けプレゼンテーション、学生の技術者入門枠などを提供。</p>					
	事業実績／成果	<p>1996 年に施設名に「Museum」を加え、ここで制作された現代美術作品を収蔵、公開し、教育的目的の拡大を明示。コレクションには 500 名以上の滞在アーティストによる 5,600 点以上の作品が収蔵されている。</p> <p><b>【過去の主な滞在アーティスト】</b></p> <p>Marina ABRAMOVIĆ、Doug AITIN、Laurie ANDERSON、Daniel ARSHAM、Miroslaw BALKKA、Barbara BLOOM、Christine BORLAND、Louise BOURGEOIS、Mark BRADFORD、Moe BROOKER、Trisha BROWN、Lee BUL、Chris BURDEN、Maria Fernanda CARDOSO、Nick CAVE、Robert CHAMBERS、Mel CHIN、Willie COLE、Roy DeFOREST、Jim DRAIN、Drew、Tom FRIEDMAN、Cameron GAINER、Felix GONZALEZ-TORRES、Lonni GRAHAM、Renée GREEN、Marie-Ange GUILLEMINOT、CAI Guo-Qiang、Ann HAMILTON、Trenton Doyle HANCOCK、Mona Hatoum、Hachivi Edgar Heap of Birds、Mary HEILMANN、Jim HODGES、Howard HODGKIN、David IRELAND、Joan JONAS、Hella JONGERIOUS、Tommy JOSEPH、Jun KANEKO、Anish KAPOOR、Mike KELLLEY、Roy LICHTENSTEIN、Glenn LIGON、Donald LIPSKI、Tristin LOWE、James LUNA、Lysiane LUONG</p>					
	所在地	1214 Arch Street, Philadelphia, PA 19107-2816, USA					
電話	+1-215-561-8888	FAX	+1-215-561-8887	Email	<a href="mailto:info@fabricworkshopandmuseum.org">info@fabricworkshopandmuseum.org</a>		

# Indianapolis Museum of Art

米国

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、舞台芸術、デザイン、建築					
	招へい人数	1人(組)	受入期間	6週間			
	レジデンス事業の内容	Andrea ZITTEL(1965年、米国)が、インディアナポリス美術館(IMA)の委嘱により2010年に制作した《Indy Island》(ファイバーガラス、発砲物、ミックスト・メディア)という直径約6m(20ft.)の居住可能空間型作品に、同美術館より委嘱されたアーティストが毎夏滞在するプログラム。ZITTELとコラボレーションを図ることにより、同空間の新しい利用方法を開拓している。					
受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象者:美術、デザイン、建築、舞台芸術を専門とする学生(大学院、学部)及びプロフェッショナルなアーティスト。グループでの滞在可</li> <li>受入期間:夏期限定6週間</li> <li>募集方法:年に1回の提案書募集</li> <li>条件:約40ha(100エーカー)の自然公園(Virginia B. Fairbanks Art and Nature Park)に設置された作品《Indy Island》に滞在し、島の内外をカスタマイズすること。過去の滞在アーティストによって制作された作品や持ち込まれたものが島には残されているので、これらを利用するか、あるいは破棄するかは滞在者の提案内容によって決定する。滞在中の経験や成果は公式ブログにて公開すること。また、公園の来場者とのコミュニケーションを図ることを前提とすること</li> <li>支援:制作費3,000ドル(約30万円、ただし、購入した材料はすべてIMA所有のものとなる)、滞在費1,500ドル(約15万円)、1名分の渡航費(グループの場合も同額)</li> <li>ブログ用にiPadの支給あり</li> <li>学生が採用された場合は、大学の単位取得になるよう事前に大学と交渉すること</li> </ul> <p>提案書は、IMAのキュラトリアル部門のスタッフ、シニア・キュレーター(Lisa D. FREIMAN)、キュレーター(Sarah Urist GREEN)、キュラトリアル・アシスタント(Amanda YORK)による事前審査を経て、部門横断的なチームが選考。最後候補者については Skype または電話によるインタビューを行う。IMAでの選考通過後、Andrea ZITTELが最終決定する。</p>						
選考・支援	募集方法	公募					
	支援内容	渡航費助成	—	滞在費助成	—	成果発表・オープンスタジオ	—
		制作費助成	—	人的サポート	—	記録集	—
	その他の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園は日昇から日没まで開園、美術館にて24時間の遠隔警備体制あり</li> <li>Ruth Lilly Visitors Pavilionへの鍵が渡されるので施設内のトイレが利用可。また悪天候の際には同施設にて待機可</li> <li>シャワーは美術館内のものを利用すること</li> </ul>					
施設構成・内容	制作スタジオ	—					
	展示スペース	—					
	宿泊施設	—					
	その他	—					
	周辺環境	インディアナポリスのダウンタウンより約10分。約600,000㎡(152acre)の敷地を誇るインディアナポリス美術館には、ロバート・インディアナによる彫刻「LOVE」が設置されている					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.imamuseum.org/">http://www.imamuseum.org/</a>			事業開始年	2010年	
	組織の目的・ミッション	—					
	事業実績／成果	Virginia B. Fairbanks Art and Nature Parkの自然公園は、2009年11月に開園。開園を記念して、最初に Herron School of Art and Designの学生(Jessica DUNN、Michael RUNGE)が滞在。2011年には Katherine BALLが滞在し、「No Swimming」というプロジェクト、2012年には A. BITTERMAN「INDIGENOUS: Out of the Wild」というプロジェクトを実施。					
	所在地	(Indianapolis Museum of Art) 4000 Michigan Road, Indianapolis, Indiana 46208-3326, USA					
	電話	+1-317-923-1331	FAX	+1-317-931-1978	Email	<a href="mailto:ima@imamuseum.org">ima@imamuseum.org</a>	

レジデンス事業の概要	対象分野	美術   キュレーターを含む					
	招へい人数	年間 100 人以上	受入期間	3ヶ月－6ヶ月(最長1年)			
	レジデンス事業の内容	<p>海外の新進アーティストと中堅アーティストを対象とするレジデンス事業。年間 100 人以上が滞在する大型レジデンス。</p> <p>2008 年にマンハッタンの施設から現在のブルックリン(東ウィリアムスバーグ)に移転し、1901 年に建てられた元印刷会社の建物を利用。約 1,600 m<sup>2</sup> (18,000 sq. ft.) の空間には、スタジオ 35 部屋、展覧会用スペース、プロジェクトスペースなど。</p>					
	受入条件	<p>4つのコア事業に参加すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ビジティング・クリティック: 客員批評家によるスタジオビジット</li> <li>• フィールドトリップ: 研修旅行</li> <li>• サロン: 月2回行われる作品や活動に関する公開プレゼンテーション。ISCPトークという主催事業の一環として実施される</li> <li>• オープンスタジオ: 5月と11月の年2回行われる一般公開プログラム。35名のアーティストとキュレーターによる作品/成果発表のほか、パフォーマンスや展覧会などのプログラムが同時開催される。各回とも4日間で2,000人以上の専門家やアートファンが来場する</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 滞在費(スタジオ費、関連事業費、人的支援費など): 月1,730.14－1,912.28ドル(約17－19万円)</li> <li>• 宿泊費は自己負担。ただし、他団体による助成金を充当可</li> </ul>					
選考・支援	募集方法	公募、提携機関からの受け入れ					
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成		成果発表・オープンスタジオ	○
		制作費助成		人的サポート	○	記録集	
		その他の支援	同レジデンス内に滞在中のアーティストやキュレーターとの交流				
施設構成・内容	制作スタジオ	○	35 部屋。家具付き個室スタジオ (27－37 m <sup>2</sup> ) が 24 時間利用可能、インターネット接続あり				
	展示スペース	○	ギャラリー2部屋				
	宿泊施設						
	その他	共用の台所兼ラウンジスペース					
	周辺環境	－					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.iscp-nyc.org/">http://www.iscp-nyc.org/</a>		事業開始年	1994 年		
	組織の目的・ミッション	<p>組織の目的は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 新進アーティストと中堅アーティストにスタジオを提供すること</li> <li>• ニューヨークの観客に海外のアーティストの実践と海外動向を紹介すること</li> <li>• 一般公開事業を通して、地元のコミュニティとの交流を図ること</li> </ul> <p>以上の目的のため、レジデンス事業以外に次の事業も手掛ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 展覧会プログラム(2009年開始): 展覧会、上映会やパフォーマンスを企画し、ニューヨークではなじみのない国際的なアートの多様な動向を紹介。年平均9名のキュレーターが関わる。滞在キュレーターによる企画可</li> <li>• 「Participatory Project」(2011年開始): レジデンスのある東ウィリアムスバーグ地域に刺激されたアーティストによる公共空間でのプロジェクトの実施。滞在中もしくは過去の滞在アーティストによる提案型の当プロジェクトは、アーティストと地元コミュニティとの橋渡しとなる。仮設またはタイムベースのプロジェクトを中心に実現。提携先パートナーと連携を図り、制作費を支援する場合もある。毎年1万人以上の人々が参加する</li> </ul>					
	事業実績/成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 18年間で米国を含む<b>58ヶ国</b>から1,700名以上のアーティストとキュレーターが滞在</li> <li>• 1997年以降、日本人アーティストは延べ47名が滞在。中山ダイスケ、会田誠、開発好明、名和晃平、澤田知子など(いずれも文化庁やポーラ美術財団の助成金受給者)</li> </ul>					
	所在地	1040 Metropolitan Avenue, Brooklyn, New York 11211, USA					
	電話	+1-718-387-2900	FAX	+1-866-856-5653	Email	<a href="mailto:info@iscp-ny.org">info@iscp-ny.org</a>	

# Kansas City Artists Coalition International Artists' Residency Program

米国

レジデンス事業の概要	対象分野	美術					
	招へい人数	—		受入期間	4週間—3ヶ月		
	レジデンス事業の内容	<p>世界各地よりアーティストを受け入れ、友情と育み、異文化理解を改善することをミッションとして掲げ、アーティストに人的支援のある環境で大型スタジオを提供する一方で、地元カンザス・シティの住民には作品の鑑賞を通して学びの機会を提供。</p> <p>アーティストには他地域への移動を奨励し、異文化交流の重要性について認識してもらう。また、制作活動をする専門家同士の交流も推進することを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Kansas City Artists Coalitionではアーティスト1名分の奨学金を提供</li> <li>• Lighton International Artists Exchange Program (L.I.A.E.P.)は、国内・海外の美術家とアート専門家を対象に渡航費(旅費)の支援を実施している</li> </ul>					
受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 対象者:メディア不問。質の高い作品を制作する実力があり、海外でアーティストと交流することがキャリア育成上、有用なアーティスト。海外アーティストは米国で仕事をした経験のないアーティストを優先。国内を拠点としているアーティストも申請可</li> </ul>						
選考・支援	募集方法	公募					
	支援内容	渡航費助成	—	滞在費助成	—	成果発表・オープンスタジオ	—
		制作費助成	—	人的サポート	—	記録集	—
		その他の支援	—				
施設構成・内容	制作スタジオ	○ 共用スタジオ:約 83 m <sup>2</sup> (約 900sq.ft.)					
	展示スペース						
	宿泊施設	<p>○ 4部屋。各アーティストに個室を充当(スタジオ、バスルーム2部屋、台所、居間は共用)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• シングルルーム(約9m<sup>2</sup>/100 sq.ft.):1ヶ月(30日)契約で月900ドル(9万円)、延長は1日40ドル(4,000円)</li> <li>• ダブル・ルーム(約24m<sup>2</sup>/約265sq.ft.):1ヶ月(30日)契約で月900ドル(9万円)、延長は1日50ドル(5,000円)</li> </ul>					
	その他	—					
	周辺環境	—					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.kansascityartistscoalition.org/newSite/">http://www.kansascityartistscoalition.org/newSite/</a>		事業開始年	1976年		
	組織の目的・ミッション	<p>Kansas City Artists Coalitionは、ミズーリ州カンザス・シティ在住のアーティストに刺激を与えることを目的に活動を開始。カンザス・シティ内外の美術の動向に目を向け、アーティストのプロフェッショナルな成長を支援することをミッションとしているアーティスト・ランの団体である。</p> <p>1975年に地元のアーティストである Philomene BENNETTと Lou MARAKのスタジオにアーティストが集まり、「中央集権化がもたらすアーティストへのメリット(How the Artist Can Benefit from Centralization)」が議論された。その結果、アーティストの孤立、エリート主義、無関心、無知という課題に取り組むため、アーティストが組織化の必要性が認識され、翌年8月に Kansas City Artist Coalitionが発足した。</p>					
	事業実績/成果	海外アーティストの滞在は Alicia CANDIANI(ブエノスアイレス)、Ilona ROMULE(ラトヴィア)、Adania SHIBLI(パレスチナ)など。					
	所在地	201 Wyandotte Street, Kansas City, MO 64105, USA					
	電話	+1-816-421-5222	FAX	+1-816-421-0656	Email	<a href="mailto:information@kansascityartistscoalition.org">information@kansascityartistscoalition.org</a>	

## Location One

米国

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、舞台芸術、文学					
	招へい人数	—	受入期間	5ヶ月(短期)、10ヶ月(長期)			
	レジデンス事業の内容	<p>ソーホー地区にあるスペース併設のレジデンス。実験的かつ先進的なアートを支援するため意見交換の場を提供し、海外のアーティストと米国人アーティストとの交流を推進している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シニア・アーティスト・イン・レジデンス: 第一線で活躍するアーティストを招へい。滞在中は、スタッフとともに既存のプロジェクトとは異なる作品の実現を促す</li> <li>インターナショナル・フェロー: インターナショナル・コミッティが支援する招へい。アーティスト(中堅または実績のあるアーティスト)によるスタジオ滞在。日常的な環境を離れて実験的な作品を制作する機会を提供</li> <li>国際レジデンスプログラム: 3年以上の活動実績のあるアーティストによるスタジオ滞在。短期は5ヶ月、長期は10ヶ月。海外で事前選考に通過した候補者をニューヨークのパネルが最終選考</li> </ul>					
受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>受入期間: 10ヶ月(9月1日—翌年6月30日)または5ヶ月(9月1日—翌年2月1日)</li> <li>対象者: プロのアーティストとして3年以上の活動実績(展覧会歴含む)があること。学生不可</li> <li>選考: キュラトリアル・パネルによる。選考基準は、芸術的水準、アーティストとしてのポテンシャル、滞在目的に合致する作品内容などで、滞在目的や動機、アーティストステートメント及び推薦状2通を選考対象とする</li> <li>条件: 新作の制作し、発表すること。また、専門家コミュニティと作品や制作過程を共有することに積極的なこと</li> <li>国籍不問(米国人も可。ただし、費用は自己負担のこと。過去にアンディ・ウォーホール財団とロックフェラー財団の支援を受けた実績あり)</li> <li>選考後、費用負担や助成金申請については相談可</li> </ul>						
選考・支援	募集方法	公募、提携機関からの受け入れ					
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成		成果発表・オープスタジオ	
		制作費助成		人的サポート	○	記録集	
その他の支援	個別のニーズに合わせて、キュラトリアル面、テクニカル面、素材調達面での専門的な支援あり						
施設構成・内容	制作スタジオ	○					
	展示スペース	○	ソーホー地区にメイン・ギャラリー1ヶ所とプロジェクトスペース2ヶ所				
	宿泊施設						
	その他	—					
	周辺環境	—					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.location1.org/">http://www.location1.org/</a>		事業開始年	2001年		
	組織の目的・ミッション	<p>組織を「コンテンツと融合のための触媒(Catalyst for contents and convergence)」と定義。1997年にクリア・モンゴメリーにより設立され、1998年にマニフェストを発表。2000年に現在の場所に移転し、美術、音楽、ダンスの事業を実施。2001年に国際レジデンス事業を開始し、2002-03年にディスカッション事業を開始。最新のテクノロジーを導入したスペースを維持している。</p> <p>レジデンス事業以外に展覧会(年間5本程度)、パフォーマンス/パブリック・プログラム、ディスカッション/ディスコース(レクチャー、トーク)を実施。アブラモヴィッチ・スタジオのスペースでは、Jovana Stokićのキュレーションによるワークショップシリーズを開催。</p> <p>マニフェスト概要(1998年): ①コンテンツ ②表現と技術の融合 ③触媒 ④オルタナティブな創造性の拡散 ⑤現代美術のための新しい環境の提供 ⑥インターネットとニューメディアによる現代美術活動の推進 ⑦メディアによるコンテンツの再構成 ⑧滞在アーティスト支援 ⑨ウェブなどデジタル空間での情報発信 ⑩クオリティの維持</p>					
	事業実績/成果	これまでアジア、欧州、南米など33ヶ国からアーティストが滞在、国際的なネットワークを構築してきた。					
	所在地	26 Greene Street, New York, NY 10013, USA					
	電話	+1-212-334-3347	FAX		Email	ウェブサイトから問い合わせ可	

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、舞台芸術、文学		
	招へい人数	—	受入期間	2週間—9ヶ月
	レジデンス事業の内容	<p>1997年にLower Manhattan Cultural Councilのアーティスト・イン・レジデンス部門とマンハッタン南部(Lower Manhattan)の不動産所有者とのパートナーシップを発足。アーティスト向け制作スタジオやリハーサル室、展示スペースの提供を開始。空店舗、廃業した工場、事務所など既存の不動産をアートのインキュベーション空間に転用し、利用を希望するアーティストを公募にて募集。同事業を通して、アーティスト・コミュニティ支援とダウンタウンの文化芸術的環境の両方の向上を図る。</p> <p><b>【ワークスペース】</b> 世界貿易センターを拠点に周辺地域の様々な空不動産を活用し、ウォールストリートにも至近距離の立地で「work(仕事)」を考える場を提供する事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 16年の実績あり。若手美術家と文筆家対象に9ヶ月滞在プログラム</li> <li>● 実験と対話の場としてスタジオを提供し、キャリアの初期段階にいる美術家や文筆家に制作、キャリア育成、コミュニティづくりの機会を提供</li> <li>● スタジオスペース:個室もしくはセミ・プライベートのスペースと共用スペース。各スタジオの面積は約14㎡—約28㎡(150 sq.ft—300 sq.ft.)、家具付き、電気、インターネット接続あり</li> <li>● 奨学金:一括1,000ドル(10万円)(生活費や家賃補助はない)</li> <li>● キャリア育成:毎週火曜日のサロン事業に参加し、ゲストを迎えて行われるスタジオビジットや実務的なワークショップ、アーティスト・トークや朗読会、食事会などに参加すること</li> <li>● パブリック・プログラム:ウェブサイトやオープンスタジオにて作品を発表すること</li> <li>● ビジテイング・アーティスト・プログラム(美術家対象):提携先パートナー機関の施設を利用できる「ビジテイング・アーティスト」に申請可。申請するとラボやメディア講座、印刷、スキャンニング、3Dレイザーカッターなど専門的機材や道具をニューヨーク大学附属施設などパートナー先にて利用可能となる</li> </ul> <p><b>【スイングスペース】</b> 美術家、舞台芸術家、アートグループを対象としたプロジェクトベースの短期レジデンス事業。新作制作に必要な環境を提供することを目的に2005年に開始。これまで1,000名以上のアーティストに対してマンハッタン南部とガヴァナーズ・アイランドにある約20拠点を提供。2013年には、ガヴァナーズ・アイランドにて美術家用のスタジオ、マンハッタン南部にてリハーサル・スタジオを提供。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● スペース:表現分野、プロジェクトのニーズ、スペースの空き具合などの諸条件を精査の上決定。美術家に5ヶ月のスタジオを、舞台芸術家に最長250時間分のリハーサルスペースを提供</li> <li>● パブリック・プログラム:広報支援あり。美術家はオープンスタジオにて作品発表、舞台芸術家は、ワーク・イン・プログレス、ゲネプロなどの発表の機会を提供</li> <li>● 支援:Materials for the ArtsやFractured Atlasなどの各種サービスを紹介。資金の支援はない</li> </ul> <p><b>【プロセス・スペース】</b> 中堅から実績のあるアーティストやアーティストグループ対象の2週間から8週間の短期集中型レジデンス。新進/若手アーティストを対象とする「スイングスペース」を補完する事業。ガヴァナーズ・アイランドにある130㎡(1,400 sq.ft.)の2つのスペースを提供。ニューヨークで公演予定の作品をニューヨークで制作する環境を提供。 ガヴァナーズ・アイランドでは美術家スタジオ20部屋、リハーサル・スタジオ2部屋、展覧会スペースを備えた施設 Building 110: LMCC's Arts Center を管理している。 2010年に開館以来、美術家40名、舞台芸術団体13団体、展覧会3本、オープンスタジオ4回、パフォーマンス22回を開催し、延べ1万人以上の来場者あり。当施設の利用は招へい者に限定される。</p> <p><b>【SPARC(Seniors Partnering with Artists Citywide)】</b> ニューヨーク市内5地域に点在する高齢者用施設(senior center)にレジデンスするコミュニティ連携事業。滞在アーティストには給付金1,500ドル(15万円)、材料費500ドル(5万円)、老人ホーム内に仕事部屋を提供。アーティストに高齢者向け作品制作を依頼。展示、朗読会、パフォー</p>		

		<p>マンス、オープンハウスなどにより一般にも活動を公開。通年で 50 人程度のアーティストを派遣予定。本事業は、ニューヨーク市内の5つの区のアーツカウンシルとの共催。</p> <p>【インターナショナル・フェローシップ】</p> <p>2006 年に開始した海外アーティストとマネージメント担当者対象のレジデンス事業。Asian Cultural Council、CEC Artslink(東欧、ロシア、中央アジア、コーカス地方対象に5週間提供)、Mayor's Office of the City of Paris (Mairie de Paris) (6ヶ月)と提携。</p>					
	受入条件	プログラムにより異なる					
選考・支援	募集方法	プログラムにより異なる					
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成		成果発表・オープンスタジオ	○
		制作費助成	○	人的サポート	○	記録集	
	その他の支援						
施設構成・内容	制作スタジオ	○					
	展示スペース	○					
	宿泊施設						
	その他	-					
	周辺環境	-					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.lmcc.net/">http://www.lmcc.net/</a>			事業開始年	1997 年	
	組織の目的・ミッション	<p>マンハッタンのダウンタウンの生活のなかでアートとアーティストが重要な役割を果たすこと。「ワークスペース」と「スウィングスペース」は、世界貿易センターで行われていた「ワールドビューズ」の精神を受け継ぎ、継続。マンハッタンアート助成を通じて、合計 55 万ドル(5,500 万円)をアーティストやアート関係団体に支給し、パブリック・プログラムでは、まちのカルチャーシーンを活性化。「Training, Networking, and Talks」事業では、アーティストやアート関係団体を対象にキャリア育成に必要な講座を提供している。</p>					
	事業実績／成果	<p>1972 年に世界貿易センターが完成した折にアート好きなファンドレイザーのフローリー・ベンネットがアーツカウンシルを発足。デイヴィッド・ロックフェラー、チェイスマンハッタン銀行、ニューヨーク州芸術文化部門(New York State Council on the Arts)の支援を受けて、Lower Manhattan Cultural Council が設立された。金融街でもあるマンハッタン南部の地域に文化芸術活動を展開し、各所で演奏会を開催したり、美術作品を屋外に設置したり、ビジネス街でも文化芸術に触れられるようなまちづくりを手掛けた。その後、活動は拡大し、マンハッタン全域に地域も広がる。</p> <p>1990 年代おわりに世界貿易センターに事務所を構え、高層ビルのなかにあるスタジオで制作する「ワールドビューズ」レジデンスプログラムを開始したが、2001 年の 9.11 米国同時多発テロでスタジオと滞在アーティストを失う。</p> <p>その後数年間、事務所を転々としたのちに現在の場所に移転。その間、DUMBO Brooklyn やパリ市と提携し、新しいレジデンス事業を手掛ける。テロの経験から回復の途上にある同地域の文化芸術事業を推進している。</p>					
	所在地	125 Maiden Lane, 2nd Floor, New York, NY 10038, USA					
電話	+1-212-219-9401	FAX	+1-212-219-2058	Email	<a href="mailto:info@LMCC.net">info@LMCC.net</a>		

# New York Art Residency & Studios Foundation (NARS Foundation)

米国

レジデンス事業の概要	対象分野	美術   キュレーターを含む					
	招へい人数	-		受入期間	1ヶ月-12ヶ月		
	レジデンス事業の内容	<p>ブルックリンのサンセット公園近くのスタジオ施設(62部屋、80人以上のアーティストが入居)のなかにあるスタジオを利用。</p> <p>国際レジデンスプログラムは、新進アーティスト、中堅アーティストのほか、国内もしくは国際的に高く評価されているアーティストで制作環境の変化を求めている人を対象。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スタジオ入居アーティストとの交流及びパネル・ディスカッション、レクチャー、ワークショップ、アーティスト・トーク、アーティスト・サロンなど専門的な意見交換の場への参加可</li> <li>ニューヨーク在住のキュレーター、批評家、美術史家、ギャラリストなどによるスタジオビジットあり(月2-3回)</li> <li>NARSギャラリーでのオープンスタジオ及びグループ展にて新作またはワーク・イン・プログレスを一般公開</li> <li>地元の非営利団体と連携したパブリック・プログラムやアウトリーチ・プログラムへの参加</li> </ul> <p>そのほかに、若手キュレーター/中堅キュレーター対象の国際キュレーターレジデンスプログラムと海外の提携先パートナーと連携した短期のアーティスト交換事業を実施。</p>					
	受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>受入期間:在米アーティスト(外国籍含む)は6ヶ月、海外アーティストは3ヶ月、6ヶ月、12ヶ月</li> <li>滞在費:3ヶ月5,000ドル(50万円)、6ヶ月1万ドル(100万円)、12ヶ月1万8,000ドル(180万円)</li> <li>海外アーティスト対象の奨学金はないので、助成団体に申請し、必要な資金を調達すること</li> <li>宿泊先や専門的な機材・道具は自分で確保すること</li> </ul>					
選考・支援	募集方法	公募、提携機関からの受け入れ					
	支援内容	渡航費助成	-	滞在費助成	-	成果発表・オープンスタジオ	-
		制作費助成	-	人的サポート	-	記録集	-
		その他の支援	-				
施設構成・内容	制作スタジオ	○ 4部屋(37 m <sup>2</sup> -65 m <sup>2</sup> /400 sq. ft.-700 sq. ft.)、24時間×7日利用可、インターネット接続あり					
	展示スペース	○ 2010年に開設					
	宿泊施設						
	その他	パーラー・ルーム:毎月開催されるパブリック・プログラム用スペース					
	周辺環境	-					
運営機関概要	URL	<a href="http://narsfoundation.org/">http://narsfoundation.org/</a>			事業開始年	2006年	
	組織の目的・ミッション	<p>The New York Art Residency and Studios (NARS) Foundation は、海外アーティストやキュレーターを支援することと同時にブルックリン及びニューヨーク地域(Greater New York)のコミュニティとの交流を図ることを目的とした団体である。</p> <p>創造的なインスピレーションとアイデアの交換が可能な多様なプラットフォームを提供することをミッションに掲げ、事業を実施。</p> <p>新進アーティストと中堅アーティストを対象に短期と長期のレジデンス滞在の機会を提供するほか、グローバルな視点の獲得と文化横断的な対話を促すため展覧会や国際交流、パブリック・プログラムを企画。また、ブルックリン地区の市民の現代美術へのアクセス向上のため、コミュニティ・アウトリーチ・プログラムとの連携を図る。</p>					
	事業実績/成果	<p><b>【滞在実績】</b></p> <p>2013年(英国/米国1名、オーストラリア1名、日本3名、ブラジル1名、米国3組4名)、2012年(オーストラリア1名、台湾1名、ハンガリー1名、日本1名、カナダ1名、米国8組9名)、2011年(米国/レバノン1名、ブラジル1名、米国5名)、2009-10年(米国1名)</p> <p>Residency Unlimited との提携実績:オーストラリア2名</p>					
	所在地	88 35th Street, 3rd Floor, Brooklyn, NY 11232, USA					
	電話	+1-718-768-2765	FAX		Email	<a href="mailto:studios@narsfoundation.org">studios@narsfoundation.org</a>	

# The Playwrights' Center

米国

レジデンス事業の概要	対象分野	演劇			
	招へい人数	—	受入期間	—	
	レジデンス事業の内容	<p>脚本家のキャリア育成のために各種事業を実施。</p> <p>【提携先パートナー機関との連携 (Local and National Partnerships)】</p> <p>脚本家を起用し、パートナー劇場での公演へとつなげる事業。パートナー劇場は、Tectonic Theater Project、Mixed Blood Theatre、Actors Theatre of Louisville、The Public Theater (ニューヨーク)、Goodman Theatre (シカゴ)、Oregon Shakespeare Festival、the Guthrie Theater、Ten Thousand Things Theater Company など。地元の Walker Art Center や Minnesota History Center などの文化施設とも連携あり。</p> <p>【奨学金支給型の劇場滞在プログラム (対象者別に実施)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Jerome Fellowship: 全国より新進脚本家4人</li> <li>Many Voices Mentorships: 有色人種の新人脚本家2人</li> <li>Many Voices Fellows: 有色人種のキャリア初期段階の脚本家2人</li> <li>Knight Advancement Grants: ミネソタを拠点にしている実績のある脚本家</li> <li>McKnight National Residency and Commission: 全国的に有名な脚本家による新作</li> <li>McKnight Theater Artist Fellows: ミネソタ拠点の劇場で活動する脚本家以外の演劇関係者で実績を認められた3人</li> </ul>			
受入条件	—				
選考・支援	募集方法	指名、奨学金支給団体からの受け入れ			
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成	成果発表・オープンスタジオ
		制作費助成	○	人的サポート	記録集
その他の支援	—				
施設構成・内容	制作スタジオ	—			
	展示スペース	—			
	宿泊施設	—			
	その他	—			
	周辺環境	—			
運営機関概要	URL	<a href="http://www.pwcenter.org/">http://www.pwcenter.org/</a>	事業開始年	1971年	
	組織の目的・ミッション	<p>1971年、5名の劇作家により芸術性と専門性を支援する団体として設立。脚本家支援を核とする米国有数の演劇団体。</p> <p>脚本家支援のほか、「Ruth Easton Lab」では、Playwrights' Centerのコア・ライター25-30人を全国からミネアポリスの拠点に招き、ワークショップを実施。ワークショップ後、公開朗読会を開催。同朗読会には著名なディレクター、俳優、ドラマトルク、デザイナーなども参加。</p> <p>コア・ライターは、The Playwrights' Centerの持つ大学、文化施設、劇場のネットワークを通じて活動内容を発信する。</p>			
	事業実績／成果	<p>新作創作への支援も厚く、現在全国的にも著名な August WILSON、Lee BLESSING、Suzan-Lori PARKS、Jordan HARRISON、Carlyle BROWN、Craig LUCAS、Jeffrey HATCHER、Melanie MARNICH、Kira OBOLENSKYらのキャリア育成に大きく寄与した実績を持つ。ここで制作された作品は、Yale Rep、Woolly Mammoth、Guthrie、Goodmanなど全国レベルの劇場で上演されている。</p>			
	所在地	2301 East Franklin Avenue, Minneapolis, MN 55406-1099, USA			
	電話	+1-612-332-7481	FAX	+1-612-332-6037	Email

# Residency Unlimited

米国

レジデンス事業の概要	対象分野	美術   キュレーターを含む					
	招へい人数	—	受入期間	—			
	レジデンス事業の内容	<p>現代美術の発展と発信のため、制作と発表の機会を提供。ただし、スタジオ施設を持たず、標準的なレジデンス事業とは一線を画す事業を実施。</p> <p>ニューヨーク滞在を希望するアーティストの個別の要望に合わせてカスタマイズしたレジデンスの機会と支援を提供。プロジェクト実現という短期的な目標からキャリア育成という長期的な目標達成まで対応可。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事前準備段階での支援:レジデンス開始前にアーティストやキュレーターの要望を調査。宿泊施設や経費面での相談可</li> <li>ネットワークづくりの場の提供:滞在中に専門家や関係者とのネットワークづくりを推進するため、キュレーターや批評家によるスタジオビジットを週1回実施</li> <li>制作支援:技術的指導が必要なアーティストにはワークショップを提供(ウェブサイト制作など)</li> <li>発表・発信の支援:展覧会、ディスカッション、上映会などの一般公開プログラムを開催し、アーティストの活動や作品を発表。年間約30本のイベントを実施</li> <li>成果発表展</li> </ul> <p>次の事業を同時に実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キュレーター対象のレジデンス:調査のためレジデンスに滞在し、一般公開プログラムで成果を発表することができる</li> <li>海外派遣:在ニューヨークのアーティスト対象</li> <li>ニューヨーク市内との芸術団体との連携:提携先パートナーの展示スペース利用など</li> <li>トーク:特定のトピックに関する意見交換の場を提供</li> <li>教育機関との連携:滞在アーティストのノウハウを学校教育に活用する事業</li> </ul>					
	受入条件	—					
選考・支援	募集方法	公募、推薦、提携機関からの受け入れ					
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成		成果発表・オープンスタジオ	○
		制作費助成		人的サポート	○	記録集	
その他の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>スタジオビジットやイベントのコーディネーション</li> <li>関係者とのネットワークづくりの機会の提供</li> <li>専門家によるレジデンス評価の導入</li> <li>世界のレジデンスの募集情報など専門家向け情報をオンラインにて提供</li> </ul>						
施設構成・内容	制作スタジオ		所有スタジオはないが、提携先パートナーのスタジオ利用可の場合あり				
	展示スペース	○	共用スペースの教会のアトリウム部分を展覧会やトークなどのイベント会場に利用可				
	宿泊施設						
	その他	—					
	周辺環境	—					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.residencyunlimited.org/">http://www.residencyunlimited.org/</a>		事業開始年	2009年		
	組織の目的・ミッション	アーティストを中心に据えた組織として、アーティストの創造、発表、発信と流通を提携先パートナーや連携機関との協力を通じて実現。従来の事業モデルを脱し、スタジオを持たない新しいモデルを实践。国内・海外の新進・中堅のアーティストとキュレーターを対象に分野横断的な実践を推進し、アート・コミュニティとの長期的な関係性の構築を目指している。					
	事業実績／成果	—					
	所在地	360 Court St. unit #4 - Brooklyn, NY 11231, USA					
	電話	+1-917-478-2694	FAX		Email	<a href="mailto:info@residencyunlimited.org">info@residencyunlimited.org</a>	

## Triangle Arts Association

米国

レジデンス事業の概要	対象分野	美術					
	招へい人数	5人×2期	受入期間	6ヶ月(1月1日ー6月30日/7月1日ー12月31日)			
	レジデンス事業の内容	<b>【公募制レジデンス】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>新進アーティスト、中堅アーティストにニューヨーク市内に保有する6つのスタジオを無償提供</li> </ul> <b>【提携先との交換レジデンス】</b> <b>【パートナーシップ機関との交換レジデンス】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンスティチュ・フランセ(フランス)、ルアーブル市(フランス)、ベルリン市、FUTURA(チェコ、ハンガリー、ポーランド)、VARP NY (Visegrad Artist Residency Program New York)と提携し、アーティストの受入・派遣を実施</li> </ul>					
受入条件	<b>【公募制レジデンス】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象者:新進アーティスト、中堅アーティスト</li> <li>選考:アーティスト(在ニューヨーク)、ボードメンバー、スタッフによるポートフォリオの選考あり</li> <li>支援:スタジオの無償提供。宿泊費、渡航費・旅費、材料費、食費などは自己負担</li> <li>滞在条件:最低週15時間のスタジオ利用とオープンスタジオでの成果発表</li> </ul>						
選考・支援	募集方法	公募、提携機関からの受け入れ					
	支援内容	渡航費助成	—	滞在費助成	—	成果発表・オープンスタジオ	—
		制作費助成	—	人的サポート	—	記録集	—
施設構成・内容	制作スタジオ	○					
	展示スペース	○ 111 Front Street Galleries (111 Front Street, Suite 222, Brooklyn, NY 11201)内にある約 42 m <sup>2</sup> (450sq.ft.)のプロジェクトスペースが利用可					
	宿泊施設						
	その他	—					
	周辺環境	—					
運営機関概要	URL	<a href="http://triangleworkshop.org/">http://triangleworkshop.org/</a>			事業開始年	2002年	
	組織の目的・ミッション	<p>トライアングル・アーツ・アソシエーションは、英国人彫刻家アンソニー・カロとロンドンの Gasworks の創設者でもあるコレクターのロバート・ローダーの2人によって1982年に設立された。孤立しがちなアーティスト同士が交流できる場を提供することを目的にワークショップ事業を実施。現在は、新進アーティスト、中堅アーティスト、米国人アーティストを支援するため、ワークショップ、レジデンス及び展覧会の機会を提供し、対話と実験を促すことをミッションに活動している。ワークショップは隔年、レジデンスは通年で実施し、海外のアーティストとニューヨークのアーティストとをペアで組み交流を推進。展覧会、パネル・ディスカッション、イベントは随時実施。過去の滞在アーティストとも継続的な関係性を維持し、同アソシエーションのネットワークを活用した様々な活動の機会を提供している。</p>					
	事業実績／成果	<p>設立当初より実施されているワークショップは、アーティストによるアーティストのために運営され、多様な人材を集めながら、成果を求めずに、創造する機会を提供。1987年以降はバルセロナでのワークショップも加わり、国際的な注目を集める事業へと発展、ネットワークは40ヶ国におよぶ。</p> <p><b>【滞在実績】</b>  2012年(ポルトガル、チェコ、スロバキア、ハンガリー、ポーランド、各1名、ドイツ2名、米国3名、フランス4名)、2011年(ハンガリー、韓国、ポーランド、スロバキア、チェコ、デンマーク、各1名、ドイツ2名、フランス、米国、各3名)、2010年(フランス、スロバキア、イスラエル、チェコ、ポーランド、各1名、ドイツ、米国、各2名)、2009年(フランス、ドイツ、米国、各1名)、2008年(ドイツ1名、米国1名)、2007年(フランス、ドイツ、各1名、米国2名)、2006年(フランス、ポルトガル、各1名)、2005年(フランス1名、米国2名)、2004年(フランス、カナダ、ギリシャ、ブラジル各1名、米国3名)、2003年(英国、米国、各1名)、2002年(日本、フランス、各1名)</p>					
所在地	20 Jay Street, Suite 318, Brooklyn, NY 11201, USA						
電話	+1-718-858-1260	FAX	+1-718-858-1260	Email	<a href="mailto:mail@triangleworkshop.org">mail@triangleworkshop.org</a>		

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、文学				
	招へい人数	年間 600 人	受入期間	4週間－12 週間		
	レジデンス事業の内容	<p>表現、文化、経験、年齢など多様なアーティストと文筆家を対象にオープンスタジオやスライド・プレゼンテーションなどの交流の機会を提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外のアーティストや文筆家は滞在者全体の20%程度</li> <li>月合計50人程度滞在</li> <li>ビジティング・アーティスト:年間72人を5日間受入れ、プレゼンテーションとスタジオビジットなどを実施</li> <li>海外アーティストは各種奨学金を得て滞在: Educational Foundation of America (EFA) Fellowships (中東のアーティスト、文筆家対象、8週間滞在)、Robert Sterling Clark Foundation Fellowships (南米、中米、メキシコの美術家5人8週間滞在)、The Freeman Foundation Asian Artists' Fellowship Program (中国、香港、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、フィリピン、台湾、タイ、ベトナムの美術家8週間滞在)、カリブ地域の美術家対象、Reed Foundation Caribbean Fellowships (トリニダード、クラカオ、アルバ、ジャマイカ出身3人の滞在実績)、CEC Artslink (東欧、中央アジアのアーティスト・イン・レジデンスとの交換)、Shelley &amp; Donald Rubin Foundation Awards (ヒマラヤの伝統芸術とキューバの美術家8週間滞在)、US-Japan Foundation Awards (日本の美術家8週間滞在)、Mex-Am Cultural Foundation Fellowships (メキシコの美術家1名)、Pollock-Krasner International Fellowship (実力のあるアーティスト8週間滞在)、James Wallace Arts Trust (ニュージーランドの美術家2ヶ月滞在)、Displaced Artists Fund (自然災害によるスタジオを失った美術家)、Literature in Translation Awards (中国人詩人・通訳、ポーランド、台湾、キューバ、メキシコ、レバノン、ベトナム、ガテマラの文筆家)</li> </ul>				
	受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>申請条件: ポートフォリオ(美術家)または執筆原稿(文筆家)の提出</li> <li>提出期限: 奨学金希望の場合(米国人対象)は、期日までに申請すること(2月15日、6月15日、10月1日の3回)。選考委員会(交代制)による選考あり</li> </ul>				
選考・支援	募集方法	公募、提携機関からの受け入れ				
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成		成果発表・オープンスタジオ
		制作費助成		人的サポート	○	記録集
その他の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>スタッフ25名(常勤、非常勤含む)による支援</li> <li>奨学金助成あり(ただし、申込制、要審査)</li> </ul>					
施設構成・内容	制作スタジオ	○	表現分野別に個室あり			
	展示スペース	○				
	宿泊施設	○				
	その他	—				
	周辺環境	人口 3,450 人のジョンソン村に立地。ギホン側沿いに並ぶ歴史的建造物 30 軒を利用(スタジオ、宿泊、レクチャーホール、食堂、瞑想室、ヨガスタジオ、庭園など)。ジョンソン・アンド・ジョンソン州立大学の近隣				
運営機関概要	URL	<a href="http://www.vermontstudiocenter.org/">http://www.vermontstudiocenter.org/</a>			事業開始年	—
	組織の目的・ミッション	<p>ミッションは、美術家及び文筆家に国際色豊かなコミュニティのなかでスタジオ付滞在の機会を提供し、創造的な作品をコミュニケーションのひとつとして尊重すること</p> <p>ヴィジョンは①国際的かつ創造性豊かな美術家と文筆家のコミュニティにて、制作活動に集中する環境づくりを支援すること ②自由かつ静かな時間の提供 ③個室のスタジオ ④個室の寝室 ⑤3食提供 ⑥プロフェッショナルによる相互交流 ⑦美術家、文筆家から構成される専従スタッフの配置 ⑧著名な美術家や文筆家との交流(ビジティング・アーティスト事業参加者)⑨瞑想、ヨガ</p>				
	事業実績／成果	2009 年には 40 ヶ国(内、13 ヶ国がアジア地域)から 100 名以上のアーティストが滞在				
	所在地	80 Pearl Street, Johnson, Vermont 05656, USA				
	電話	+1-802-635-2727	FAX	+1-802-635-2730	Email	<a href="mailto:info@vermontstudiocenter.org">info@vermontstudiocenter.org</a>

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、音楽、文学					
	招へい人数	年間 400 人以上	受入期間	—			
	レジデンス事業の内容	<p>ブルーリッジ農園の広大な土地に立地。実力と才能のあるアーティストのほか、新進アーティストも受け入れて、スタジオ、住居、3回の食事を提供。年間 350 人以上の表現者(画家、彫刻家、写真家、映像作家、オペラ・シンフォニー・歌曲の作曲家、フィクション・ノンフィクションライター、詩人、劇作家等)の新しい作品制作を支援。1回につき 23 人の受け入れが可。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国内交換プログラム(regional fellowship):国内の特定地域のアーティストを受け入れるプログラム。約8団体の奨学金により運営されている</li> <li>フランスとの交換レジデンスプログラム(VCCA-France、VCCA-US Fellowship):Le Moulin à Nef とのパートナーシップで実施</li> <li>海外交換プログラム(VCCA-International):アイルランド(Tyrone Guthrie Center)、マルタ(St. James Cavalier Centre for Creativity)、ドイツ(Oberpfälzer Künstlerhaus、Schloss Plüschow)、オーストリア(Salzburg Künstlerhaus)との交換プログラムとユネスコ・アッシュェバーク奨学金との提携による南米・カリブ海・アフリカ出身の若手作曲家を受け入れるプログラムを実施</li> <li>奨学金プログラム(Sponsored Fellowships):約14団体の支援対象者を受け入れるプログラム</li> <li>NEAとの連携プログラム(NEA Supported Residencies):NEA支援対象者を受け入れるプログラム</li> </ul>					
受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>申請受付:随時、ただし、年に3回締切あり。申請手数料は1件につき30ドル(3,000円)</li> <li>選考:各分野の専門家を入れたパネル(交代制で1回につき50人以上任命)による選考</li> <li>滞在費:実費は1日180ドル(1万8,000円)。ただし、交換プログラムや奨学金により異なる</li> </ul>						
選考・支援	募集方法	プログラムにより異なる(提携機関からの受け入れあり)					
	支援内容	渡航費助成	—	滞在費助成	—	成果発表・オープンスタジオ	—
	制作費助成	—	人的サポート	—	記録集	—	
その他の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元大学のイベントや講義、地元のテニスコート、プール、図書館の利用可</li> <li>2週間に1度、ショッピングセンター行きバスの利用可</li> </ul>						
施設構成・内容	制作スタジオ	○ 文筆家用 13 部屋(机、椅子、照明付き)、作曲家スタジオ3部屋(グランドピアノ付き、1部屋は電子ピアノ+MIDI 接続付き)、美術家用9部屋(各約 46 m <sup>2</sup> —65 m <sup>2</sup> /500—700sq.ft.)、版画用プレス付きスタジオ、暗室などあり)					
	展示スペース						
	宿泊施設	○ 「Elizabeth Coles Langhorne Residence」(創立者の名前に由来)は寝室、食堂、台所、図書室、洗濯室、居間を備えた施設。タオルとシーツの交換とコインランドリーあり					
	その他	インターネット接続、空調、食事の提供あり。自炊用に共用の台所、図書館、屋外プールなど					
	周辺環境	—					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.vcca.com/main/index.php">http://www.vcca.com/main/index.php</a>		事業開始年	1971 年		
	組織の目的・ミッション	文筆家である Elizabeth Coles LANGHORNE と Nancy HALE の発案により 1971 年に設立。最初の理事会メンバーには小説家の Peter TAYLOR と「MacDowell Colony」のディレクター George KENDALL らが名を連ねる。最初の5年は、シャーロットヴィルを拠点に事業を実施。1976—77 年夏に地元のスイート・ブライア女子大学で短期講座を開講。その後同大学が、建物と土地の一部を当レジデンス事業用に貸し出すことが決定。25 年リースを更新し、追加の 15 年のリースを継続中。同大学と密に連携し、共同事業も多く実施している。					
	事業実績/成果	41 年間で 4,000 名以上の滞在実績あり。 Guggenheim Foundation、National Endowment for the Arts、American Academy in Rome、Pollock-Krasner Foundation などの奨学生のほか、National Book Awards、Pulitzer Prizes、MacArthur genius awards の受賞者などによる滞在あり。					
	所在地	154 San Angelo Drive, Amherst, Virginia 24521, USA					
	電話	+1-434-946-0219	FAX	+1-434-946-7239	Email	<a href="mailto:vcca@vcca.com">vcca@vcca.com</a>	

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、音楽、舞台芸術、文学、映画、メディアアート、先住民の芸術   キュレーター、批評家等を含む					
	招へい人数	年間約 4,000 人	受入期間	プログラムにより異なる			
	レジデンス事業の内容	年間に渡って膨大な数のプログラムが提供されている。それらは多岐に渡る芸術分野(例えば室内楽、オペラ、インスタレーションアート、詩、劇作、写真、映画、ダンスなど)で、多様な内容と方法で実施されており、年間約 4,000 人のアーティストが滞在している。基本的に芸術ジャンルごとのディレクターの裁量でプログラムは展開されている。例えば、学校のように直接講師から学ぶこと、参加者自身の新しい作品を創作すること、参加者が企画を持ち込むこと、特に決まったアイデアを持たずに参加し、ここで企画を構想し、実現することもできる。					
	受入条件	プログラムに応じて異なるが、すでにプロとしてキャリアを築き始めているアーティストが最適な参加対象者となるように、プログラムを提供している。					
選考・支援	募集方法	プログラムにより異なる					
	支援内容	渡航費助成	—	滞在費助成	—	成果発表・オープンスタジオ	—
		制作費助成	—	人的サポート	—	記録集	—
		その他の支援	—				
施設構成・内容	制作スタジオ	○ 創作に打ち込むために8名のカナダ人建築家によってデザインされた8戸のアーティスト・コロニー、音楽・音響棟の音楽スタジオに加えて設備の整った 28 のハット(huts、「小屋」の意味)、自然採光が可能な約 40 の美術のスタジオなど					
	展示スペース	○ 国内外の優れた企画展の開催する現代美術ギャラリーとしても知られているウォーター・フィリップス・ギャラリー、劇場複合施設のメイン会場で 959 席のエリック・ハービー劇場、音楽・音響棟に設けられた 200 席の美しいリサイタルホールなど					
	宿泊施設	○ 施設内の滞在施設としては計 450 部屋のゲストルームを備えている。すべての客室にテレビ、ヘアドライヤー、アイロン、アイロン台、コーヒーマーカーが常設され、プログラムや会議の参加者に提供されている					
	その他	図書館／アーカイブ、フィットネス／レクリエーション、ダイニングルーム、レストラン&ワインバーなど					
	周辺環境	カナダ・アルバータ州最大の都市、カルガリーの西方に位置し、ユネスコの世界遺産に登録されたバンフ国立公園内に位置する。約 176,000 m <sup>2</sup> (東京ドームの約 3.7 個分)の敷地面積を有し、多種多様なスタジオ設備、飲食施設、会議施設、宿泊施設など特徴的な施設は、全てユネスコの世界遺産に登録されている国立公園の中に整備されている					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.banffcentre.ca/">http://www.banffcentre.ca/</a>		事業開始年	1933 年		
	組織の目的・ミッション	ミッション:創造性を刺激すること(inspiring creativity) ビジョン:芸術・文化を通じてカナダの創造性や知識の推進に貢献すること バンフセンターは、芸術と創造性を育む世界で最大規模の施設である。毎年 8,000 人以上のアーティスト、企業リーダー、研究者がカナダ全土や世界中からバンフセンターでのプログラムに参加している。バンフセンターは、分野横断的で多様なプログラムを通して、参加者の創造性や課題の解決、不可能を可能とするためのサポートを提供している。					
	事業実績／成果	参加者は国際的で、カナダ全土から、また、世界各国からアーティストが参加している。参加者の 30%がアルバータ州出身、30%がカナダ出身、残りの約 40%は海外からの参加者となっている。 日本人では、作曲家の故・武満徹が 1985 年に「現代音楽の日々」と題したプログラムのテーマ作曲家として招へいされた(当時の武満氏は 55 歳)。2006 年以来、日本からは 22 名のアーティストがバンフセンターのプログラムに参加した。					
	所在地	107 Tunnel Mountain Drive, Banff, Alberta T1L 1H5, Canada					
電話	+1-403-762-6100	FAX	+1-403-762-6444	Email	—		

レジデンス事業の概要	対象分野	メディアアート、マルチメディア、インスタレーション、サイト・スペシフィック・アート				
	招へい人数	—	受入期間	6週間		
	レジデンス事業の内容	<p>単なるスタジオの貸し出しではなく、プロジェクトの実現に向けて制作と発表を支援することを主眼とするレジデンス事業。そのため、展示スペース内あるいは屋外空間で実験できるような環境を提供している。</p> <p>滞在アーティストは、特に時間そのものがメディアとなるようなワーク・イン・プログレスに関心を寄せ、インスタレーションの要素とサイトスペシフィック性が提案のなかに入っていることが要求される。滞在アーティストのなかから選ばれた少数のアーティストは、実験的な一時展示作品の制作を委嘱される。また制作過程に一般の人が関わることが奨励される。</p> <p>特別プロジェクトも実施しており、例えば地元の大学構内でサイトスペシフィックな作品を制作する機会などが提供される。同プロジェクトでは、作品が場所、意義、鑑賞者を総合的につなげて制作されることが望ましい。</p> <p>デジタル空間におけるサイトスペシフィックな要件を検証するため、ウェブ・クリエーション・ラボにてアーティストに実験用のツールを提供。ウェブ作品制作レジデンスプログラムでは、6週間の滞在中にネットワーク上の作品またはデジタルな仮想空間を考察するウェブプロジェクトを実施する技術的支援などを提供する。</p>				
	受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 受入期間:6週間</li> <li>● 支援: 宿泊費、アーティスト・フィー、技術支援、渡航費(北米のアーティストは全額、その他は半額を支給)。日当、食費、交通費は自己負担</li> <li>● 木工室、コンピューター室、道具、ドキュメンテーション室は無料にて利用可</li> <li>● ユネスコ・アッシュバーク奨学金受給者受入機関</li> <li>● スタジオとは別にアパートの無償提供あり</li> </ul>				
選考・支援	募集方法	公募				
	支援内容	渡航費助成	△	滞在費助成	○	成果発表・オープンスタジオ
		制作費助成		人的サポート	○	記録集
その他の支援	—					
施設構成・内容	制作スタジオ	○				
	展示スペース	○				
	宿泊施設	○				
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● デジタルカメラ(レンズ各種)、ビデオプロジェクター、アンプなど写真、映像に関わる機材</li> <li>● ドキュメンテーション・センターでは、当団体の活動にかかわるプレスリリース、招待状などの印刷物からカタログなどまで幅広い資料を収集、閲覧自由。基本資料のほかに、内外から集められたアーティスト350名のポートフォリオを管理</li> </ul>				
周辺環境	—					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.chambreblanche.qc.ca/en/">http://www.chambreblanche.qc.ca/en/</a>			事業開始年	1982年
	組織の目的・ミッション	LA CHAMBRE BLANCHEは1978年に美術の実験と発信・普及を推進するアーティスト・ラン・センターとして設立。レジデンス事業は1982年に開始。ケベック州初のレジデンスプログラムの事業者でもある。インスタレーションやサイトスペシフィックな作品制作を推進し、発信・普及、制作、記録の活動を展開している。				
	事業実績／成果	トーキョーワンダーサイトとの交換プログラムで2013年6月に日本人アーティストが新作制作のために滞在する予定。				
	所在地	185, rue Christophe-Colomb Est, Québec G1K 3S6, Canada				
	電話	+1-418-529-2715	FAX	+1-418-529-0048	Email	<a href="mailto:info@chambreblanche.qc.ca">info@chambreblanche.qc.ca</a>

## CHRISTIE - CAFKA ARTIST IN RESIDENCY PROGRAM

カナダ

レジデンス事業の概要	対象分野	ニューメディア					
	招へい人数	2人	受入期間	2ヶ月－1年			
	レジデンス事業の内容	<p>Christie Digital 社と CAFKA (Contemporary Art Forum Kitchener and Area) による提携レジデンスプログラム。クリエイティブな芸術と技術との融合によって生まれる革新性を推進する事業を実施することにより、地元キッチナーがハイテクと創造的なコミュニティとして評価されることを目指している。</p> <p>Christie Digital 社の業務用デジタル・プロジェクターを使って、ビデオやアニメーションなどのニューメディアの作品を制作する機会を提供し、様々な技術と知識に触れることにより個人では探究できない、表現形態、展示方法、コンセプトや制作方法を探求できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルメディア技術のクリエイティブな活用方法の調査・研究を推進すること</li> <li>美術分野で視覚的かつインタラクティブな技術を利用すること</li> <li>インテリジェント・プロジェクション(3Dアニメーション用)を活用したデジタルメディアの開発可</li> </ul>					
受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象者:若手アーティストと実績のあるアーティストどちらでも可。海外アーティストも受入可</li> <li>募集時期:秋に公募</li> <li>受入期間:2ヶ月－1年</li> <li>支援:渡航費、日当、住居の無償提供。また、Christie社の最新のアート・イメージ・システムが利用できるスタジオを1日24時間、週7日利用可、また、Christie社スタッフによる技術支援とメンタリング利用可</li> <li>滞在条件:アウトリーチ活動に参加したり、CAFKA主催のビエンナーレで作品を展示すること。海外アーティストはWaterloo地域に3ヶ月間滞在すること</li> </ul>						
選考・支援	募集方法	公募					
	支援内容	渡航費助成	○	滞在費助成	○	成果発表・オープンスタジオ	○
		制作費助成	○	人的サポート	○	記録集	
	その他の支援						
施設構成・内容	制作スタジオ	○					
	展示スペース						
	宿泊施設						
	その他	－					
	周辺環境	－					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.cafka.org/">http://www.cafka.org/</a>			事業開始年	2011年	
	組織の目的・ミッション	<p>CAFKA (Contemporary Art Forum Kitchener and Area) は、Waterloo 地方の公共の場所で国際的なアートプロジェクト型の展覧会をビエンナーレ形式で行うアーティスト・ランの団体。2011年に設立。展覧会、レクチャー、ツアー、特別関連プログラムを企画し、刺激的な経験と環境を提供する。</p> <p>2011年に Christie Digital 社(www.christiedigital.com)の機材を使ったレジデンスプログラムを発表。同社は、ビジネス系、エンターテインメント系、産業系の業務用製品を扱っているグローバル企業。映像プロジェクションの専門技術を1929年より開発、1979年からは業務用プロジェクションシステムを導入。映画館やビジネスプレゼンテーション、研修所、3D、ヴァーチャル・リアリティ、教育、政府系など同社の技術が適用されている業界は広い。マーケット・リーダーとして、世界に広くサービスを提供している。</p>					
	事業実績／成果	公募の結果、7名のアーティストとグループが参加:Laura De DECKER (加)、Pascal DUFAUX (加)、Igloo[Ruth GIBSON and Bruno MARTELLI (英)]、Nova JIANG (米)、Michelle LATIMER and Peter METTLER (加)、Dylan REIBLING (加)、Jesse SCOTT (加)					
	所在地	141 Whitney Place, Studio 7, Kitchener ON N2G 2X8, Canada					
	電話	+1-519-744-5123	FAX		Email	－	

# Dragon Dance Artist Residency

カナダ

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、彫刻、版画、音楽、舞台芸術、文学、映像編集					
	招へい人数	-		受入期間	1ヶ月-3ヶ月		
	レジデンス事業の内容	<p>演劇スタジオ Dragon Dance Theatre Studios と版画工房 Trois-Rivières, Québec を拠点にレジデンス事業を展開。2010 年に現在地へ移転。演劇のリハーサルから版画工房の活動まで可能な多目的に利用できるスペースで1ヶ月-3ヶ月のレジデンス滞在を受け入れている。特に日常の環境から離れて制作に没頭したい人を対象としている。</p> <p>スタジオは大きな家のなかであり、同時に1人から2人のアーティストの滞在が可能。配偶者の滞在も可。170 m<sup>2</sup>の床面積には、地下と庭が含まれている。1階部分がスタジオとなっており、洗濯機とバスルーム付き。2階部分には台所、食堂、図書室、居間、寝室とバスルームがある。地下にも寝室とスタジオスペースがある。</p>					
受入条件	<p>経験のある版画家には大型プレス(76cm×155 cm)を提供。工具が揃った施設 Atelier Presse Papier が 10km 離れた町にあるので、必要に応じて利用可。ただし、有料なので各自相談のこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• スタジオ兼住居費:光熱費・インターネット費込で月600カナダドル(6万円)</li> <li>• 電話はない</li> <li>• 渡航費、住居費、材料費、食費、健康保険はすべて自己負担</li> <li>• 推薦状を準備すること</li> <li>• タバコ、ペット、子ども禁止</li> </ul>						
選考・支援	募集方法	公募					
	支援内容	渡航費助成	-	滞在費助成	-	成果発表・オープンスタジオ	-
		制作費助成	-	人的サポート	-	記録集	-
		その他の支援	-				
施設構成・内容	制作スタジオ	○	7m×6.7m の部屋と 4.2m×4.2m の部屋などを含む4部屋				
	展示スペース						
	宿泊施設	○					
	その他	-					
	周辺環境	施設は、Trois-Rivières 市中心部より10km、人口13万人のまちに位置する。Trois-Rivières は、モントリオールとケベックの間のサン・ローレンス川沿いに位置し、両都市からバスで2時間					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.dragondancetheatre.com/">http://www.dragondancetheatre.com/</a>		事業開始年	2010年		
	組織の目的・ミッション	Dragon Dance Theatre は1974年にアーティストの Sam KERSON によりニューヨークのバーモント州でヒッピー文化などにも影響を受けて活動を始めたアーティスト・ランの演劇集団。ニカラグア、メキシコ、アルゼンチンなどの交流を中心に活動。近年は欧州との交流も盛んになっている。2010年に現在地に移転。					
	事業実績/成果	-					
	所在地	-					
	電話	+1- 514-973-7107	FAX		Email	<a href="mailto:dragondancetheatre@gmail.com">dragondancetheatre@gmail.com</a>	
						<a href="http://www.dragondancetheatre.com">il.com</a>	

## Est-Nord-Est, residence d'artistes

カナダ

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、文学   キュレーターを含む				
	招へい人数	約 12 人	受入期間	年に3回(春・夏・秋) アーティストは8週間 キュレーター、文筆家は4週間		
	レジデンス事業の内容	現代美術の研究と普及に努めることを目的に作品制作を支援するレジデンスプログラムを実施。制作された作品を発信する普及活動も実施している。				
	受入条件	<b>【アーティスト】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>8週間の滞在期間中、住居の無償提供と総額1,122カナダドル(約11万2,000円)の日当の支給あり</li> <li>スタジオのほか、木工の工房、工具、金属その他の技術支援などの利用可</li> <li>自転車あり</li> </ul> <b>【キュレーター、文筆家】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>4週間の滞在期間中、住居の無償提供と総額561カナダドル(約5万6,000円)の日当の支給あり</li> <li>Est-Nord-Est発行物へのレジデンスに関する記事執筆(250ワード)の場合は、255カナダドル(約2万5,500円)の原稿料の支払いあり</li> </ul>				
選考・支援	募集方法	公募				
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成	○	成果発表・オープンスタジオ
		制作費助成		人的サポート	○	記録集
その他の支援	技術支援あり					
施設構成・内容	制作スタジオ	○				
	展示スペース					
	宿泊施設	○	スタジオに隣接する一軒家にて共同生活。寝室5部屋、台所、居間、バスルーム2部屋、洗濯室付き			
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビデオプロジェクター2台、スライドプロジェクター、DVDプレイヤー/ビデオレコーダー(VHS-NTSC)、スクリーン、照明テーブル、MACコンピューター、スキャナー、レーザープリンター、インターネット接続あり。ただし、占有したい場合は、個人で機材を持ち込むこと</li> <li>ドリル、のこぎり、電気チェーンソーなど、木工、金属、石、陶芸に必要な基本的な道具あり</li> </ul>				
	周辺環境	人口 3,500 人の Saint-Jean-Port-Joli 市、サン・ローレンス側南岸に立地。ケベックより 115km、モントリオールより 350km				
運営機関概要	URL	<a href="http://estnordest.org/wp2009/">http://estnordest.org/wp2009/</a>			事業開始年	1990 年
	組織の目的・ミッション	1940年代の Saint-Jean-Port-Joli は、彫刻学校(École de sculpture)や木工の彫刻家を中心に工芸家が多く集まるまちとして知られていた。1987年に Roberto Pellegrinuzzi、Michel Saulnier、Pierre Bourgault の3名のアーティストが彫刻学校の敷地内に「Studios d'été(夏のスタジオ)」を作ったことをきっかけに現代美術の研究と制作のレジデンスを開始した。1988年から1990年にかけて「Histoire de bois」と「Photo sculpture」を開始、レジデンスのほか、展覧会も開催した。1990年に「Studios d'été」を改め、アーティスト・ランのアートセンター「Est-Nord-Est」を設立。内外のアーティストを対象に現代美術の研究を目的にレジデンスプログラムを提供。				
	事業実績/成果	1992年から2011年まで、通常のレジデンスプログラムに加えて、7本のイベントを開催。Marie FRASER、Jacques DOYON、Domingo CISNEROS、Lise LABRIE、Gaston SAINT-PIERRE、Mona HAKM、Lesley JOHNSTONE、Rebecca BELMORE、Jocelyne ALLOUCHERIE、BGL、Jean-Pierre GAUTHIER、Alain PAIEMENT、Robert RACINEら著名なアーティストやキュレーターを招へいし、成果を出版物にまとめた。2011年には、カナダ人の文筆家と現代美術専門のキュレーターを対象とするレジデンスを3回実施した。				
	所在地	335 Avenue de Gaspé Ouest, Saint-Jean-Port-Joli, Québec G0R 3G0, Canada				
電話	+1-418-598-6363	FAX		Email	<a href="mailto:estnordest@videotron.ca">estnordest@videotron.ca</a>	

レジデンス事業の概要	対象分野	美術   キュレーターを含む		
	招へい人数	—	受入期間	—
	レジデンス事業の内容	<p>Darling Foundry は美術専門のオルタナティブスペースで、調査・研究、制作、展覧会などを行っており、3,200 m<sup>2</sup>の面積ある施設にはスタジオや工房、展示スペース、レストラン、事務所が備わる大型施設。2006年に隣接する3階建の元倉庫を改修、スタジオ兼住居12部屋と作業スペースを増築。8部屋をモントリオール在住アーティスト、4部屋を国際レジデンスプログラムで滞在する海外アーティストに充当している。</p> <p>これらの設備を提供することにより、アーティストのプロフェッショナルな活動を支援し、現代の表現の実践を公開すべく、専門家による訪問のみならず、多様な教育活動も展開。</p> <p>海外アーティストを受け入れている国際レジデンスプログラムでもスタジオビジット、オープンドア、教育プログラム、展覧会を定期的実施。制作に没頭する環境とモントリオールのアーティスト・コミュニティとの交流の深め、専門家ネットワークを広げる機会を提供している。</p>		
受入条件	<p>【モントリオール在住アーティスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>選考: 作品の質、アーティストのキャリアへのインパクトの有無、Darling Foundryでの展覧会の適性を基準に専門家で構成される選考委員会が選考。表現分野や文化的背景も検討対象</li> <li>スタジオ利用料: 月300カナダドル(3万円)、工房利用料含む</li> <li>滞在条件: 3年リース(サブレット、共同利用の禁止)期間中常時利用すること。また、作品を1点寄贈、パブリック・プログラムへ参加すること</li> </ul> <p>【国際レジデンスプログラム(カナダ・アーツカウンシル)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外アーティストを6ヶ月(1月-6月)受け入れるプログラム</li> <li>選考: 美術専門家で構成される選考委員会による選考を行う。選考基準は、作品内容、レジデンス経験がキャリアに与える潜在的なインパクト、モントリオール及びカナダのアート・コミュニティへの貢献度</li> <li>支援: 約230万円(2万3,000カナダドル)(渡航費、日当、制作費を含む)、スタジオ(100m<sup>2</sup>)とアパート(シングル)の無償提供</li> </ul> <p>【ケベック州・パリ交換プログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相互に公募・派遣</li> <li>支援: スタジオ(60m<sup>2</sup>)の無償提供、渡航費、日当(週250カナダドル×12週間)、制作費(500カナダドル)、イベント広報</li> </ul> <p>【バーゼル(Christoph Merian 財団)・ケベック州(ケベック・アーツカウンシル)交換プログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1987年に開始。スイス人2人を各6ヶ月受け入れるプログラム</li> <li>支援: スタジオ兼住居(65m<sup>2</sup>)の無償提供、渡航費、日当、制作費</li> </ul> <p>【オーストラリア・ケベック州交換プログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オーストラリア人2人を3ヶ月(7月-12月)受け入れるプログラム</li> <li>アボリジニ系アーティストはParramatta Artist Studioを介して募集、その他のアーティストはArtspaceを介して募集</li> <li>支援: スタジオ(100m<sup>2</sup>)とアパート(シングル)の無償提供</li> </ul> <p>【インド(Creative India 財団、Inlaks Shivdasani 財団、What About Art?財団)とケベック州国際交流課(Quebec Ministry of International Relations)の交換プログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2012年に開始。ケベック在住アーティストをムンバイ市に4ヶ月派遣。インド人アーティストを3ヶ月受け入れるプログラム</li> <li>支援(インド): スタジオ兼住居の無償提供、日当、渡航費、制作費、Mumbai Art Roomでの成果発表、インドアートフェアの時期に1週間ニューデリーでの研修</li> <li>支援(ケベック): スタジオ兼住居の無償提供、渡航費、日当、制作費</li> </ul> <p>【マルセイユ(Astérides 協会)・ケベック州交換プログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2012年に開始。マルセイユとケベック州で各アーティスト1人、キュレーター1人を相互に受け入れるプログラム</li> <li>支援: (カナダ人、フランス人ともに): スタジオとアパートの無償提供、渡航費、制作費、パブリック・プログラムへの参加</li> </ul>			

選考・支援	募集方法	公募、提携機関からの受け入れ					
	支援内容	渡航費助成	—	滞在費助成	—	成果発表・オープンスタジオ	—
		制作費助成	—	人的サポート	—	記録集	—
		その他の支援	—				
施設構成・内容	制作スタジオ	○	12 部屋(内、海外アーティスト用は4部屋)。広さは 50 m <sup>2</sup> - 80 m <sup>2</sup>				
	展示スペース	○					
	宿泊施設	○					
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>制作用技術者付き工房、台所・食堂・トイレは共用</li> <li>メイン・ホール: 広さ500m<sup>2</sup>。天井高は一番高いところで13m</li> <li>スモール・ギャラリー: 広さ180m<sup>2</sup>。釣り型プロジェクターとネオンライト照明付き</li> </ul>					
	周辺環境	<p>モンリオール旧市街のはずれ、元工場地帯の工場跡地。当初よりオルタナティブなアートセンター建設が構想され、2段階に分けて開発された。第1段階は2002年に建築家 In Situ によって完了。レセプション、事務所、2つの展示スペースをデザイン。第2段階では建築事務所 L'Euf を迎えてスタジオ施設を中心に建築回収。総床面積は 3,500 m<sup>2</sup></p>					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.fonderiedarling.org/">http://www.fonderiedarling.org/</a>			事業開始年	—	
	組織の目的・ミッション	<p>Darling Foundry の創設と運営に携わる非営利団体 Quartiere Ephemere のミッションは、現代美術の創造、制作、流通。都市環境のなかにおけるアートとアーティストの役割を検討し、廃屋や廃墟となった工場跡地などを利用した展示も実施。実験的なアプローチをとりつつ、外部機関とも連携しながらプログラムを実施。特に新しい団体による若手アーティストの支援への協力を行っている。</p>					
	事業実績／成果	—					
	所在地	745, Ottawa Street, Montreal, Quebec H3C 1R8, Canada					
	電話	+1-514-392-1554	FAX		Email	<a href="mailto:INFO@FONDERIEDARLING.ORG">INFO@FONDERIEDARLING.ORG</a>	

“International Writers' and Artists' Residency”, Val David, Québec, Canada

カナダ

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、彫刻、陶芸、音楽、舞台芸術、文学、翻訳、テキスタイル、ミクストメディア					
	招へい人数	約 20 人	受入期間	春(4-5月)と秋(10-11月)、各1ヶ月			
レジデンス事業の内容	レジデンス事業の内容	<p>ルーマニア生まれの詩人 Flavia COSMA がディレクターを務めるアーティストの創造活動を支援するレジデンス事業。海外からのアーティストは年2回行われる国際フェスティバル開催時に合わせて受け入れられている。</p> <p>決まったプログラムはなく、日常から離れて、成果物に追われずに制作に没頭することができる。アーティストや文筆家はここで交流し、多文化なコミュニティに囲まれて活動できる。文筆家、翻訳家は、滞在中に手掛けた作品については、「International Writers' and Artists' Residency – Val David, Quebec, Canada」をクレジットし、1部を献本すること。編集委員会を通じて当該センター発行の原稿抄録に掲載することが想定される。</p>					
	受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>スタジオ兼住居費: 共用のバスルーム付きで1週間200カナダドル(2万円)、個室のアパートで6週間1,300カナダドル(13万円)を支払う。ただし、シーツ、タオル付き</li> <li>食費、交通費、医療保険を自己負担</li> <li>言語: 英語</li> <li>学生とシニアの利用者には利用料の割引あり</li> <li>申請受付: 随時受付</li> <li>家族、ペットの滞在は不可</li> <li>訪問者は同村内のホテルを利用すること。22時以降の訪問者の滞在は不可</li> </ul> <p>【Jean Taranu* Bursary 奨学金(年2回支給)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>支援: 1ヶ月分の滞在費の半額助成</li> <li>対象者: 国際フェスティバル開催時の4月-5月または10月-11月の滞行者</li> <li>受入期間: 1ヶ月</li> <li>選考: プロフェッショナルなアーティストのパネルによって構成される選考委員会による選考。選考基準は専門分野での実績と潜在的な実力。人種、宗教、性別、年齢、身体能力は不問</li> </ul> <p>*Jean TARANU: 医学博士(1921年-2009年)はルーマニアの文化伝統の推進者であり、ルーマニアの文化に関わる文章を執筆。カナダ・ルーマニア協会の創立メンバー</p>					
選考・支援	募集方法	公募					
	支援内容	渡航費助成	—	滞在費助成	—	成果発表・オープンスタジオ	—
		制作費助成	—	人的サポート	—	記録集	—
		その他の支援	Jean Taranu Bursary 奨学金の提供				
施設構成・内容	制作スタジオ	<input type="radio"/>	スタジオ兼住居×5部屋				
	展示スペース	<input type="checkbox"/>					
	宿泊施設	<input type="radio"/>	個室、アパートもある				
	その他	インターネット接続あり、図書室、台所、居間やテラス、庭、大型の台所などの共用スペースがあり、洗濯機の利用は無料					
	周辺環境	スキーリゾートが徒歩 10 分のところにあり、Tremblant 山は車で 20 分。Val David の村はモントリオールより北に 75km の場所に位置する					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.flaviacosma.com/">http://www.flaviacosma.com/</a>		事業開始年	2009 年		
	組織の目的・ミッション	2010年に始まった国際フェスティバルは5月と10月の年2回開催され、世界各国のアーティストや文筆家が集まり、作品などを発表する機会となる。					
	事業実績/成果	—					
	所在地	1045 Rue du Renard et du Corbeau, Val David, Quebec, Canada					
	電話	+1-416-292-5279	FAX		Email	<a href="mailto:flaviacosma@rogers.com">flaviacosma@rogers.com</a>	
	+1-819-320-0378						

## Musique Multi-Montreal

カナダ

レジデンス事業の概要	対象分野	音楽					
	招へい人数	年間1人	受入期間	3ヶ月			
	事業の内容	<p>モンリオールの音楽シーンにおける民族音楽の推進と流通網の確立をミッションとする団体が主宰する音楽創作レジデンス(Musique Multi-Montréal Residency of creation)。滞在中は、モンリオールの作曲家や演奏家などとの交流及び技術的な支援や芸術的な資源へのアクセスを提供。ユネスコ・アッシュェバーグ奨学金受給者の受入機関。ケベック・アーツカウンシルの支援あり。</p>					
受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象者:伝統音楽または民族音楽にルーツのある作曲活動をしているプロフェッショナルな音楽家</li> <li>年齢:29歳から35歳まで</li> <li>受入期間(2013年例):2月15日ー5月15日</li> <li>国や地域は不問(カナダ除く)</li> <li>支援:渡航費、アパート(シングル)の無償提供、月2,000カナダドル(約20万円)の奨学金(リハーサル代、広報活動費含む)、ケベックのキーパーソンとの面会のコーディネート。ただし、医療費は自己負担</li> <li>言語:フランス語</li> <li>滞在条件:成果発表をMMMフェスティバルで行うこと。滞在報告をユネスコ・アッシュェバーグ奨学金事務局に送付すること</li> </ul>						
選考・支援	募集方法	提携機関(ユネスコ・アッシュェバーグ奨学金)からの受け入れ					
	支援内容	渡航費助成	○	滞在費助成	○	成果発表・オープンスタジオ	—
		制作費助成	—	人的サポート	—	記録集	—
		その他の支援	—				
施設構成・内容	制作スタジオ	—					
	展示スペース	—					
	宿泊施設	—					
	その他	—					
	周辺環境	—					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.musiquemmm.com/">http://www.musiquemmm.com/</a>			事業開始年	1990年	
	組織の目的・ミッション	<p>MMM は音楽家を支援しながら、ケベックを中心に 130 公演を実施、3万人の聴衆に向けて発信。創立以来、200 団体以上のプロモーターと 2,500 公演以上を手掛ける。</p> <p>MMM のミッションはモンリオールの音楽シーンにおける民族音楽の推進と流通網の確立。特にプロモーター、音楽家、作曲家、演奏家のスプリングボードの役割を担う。具体的にはメンタリング(指導)、トレーニング、音楽家の認知度向上、ポートフォリオの準備、マーケティング、財源確保、流通などの面での支援サービスを行っている。才能を発掘して発信する「Découvertes MMM」を通じて内外のプロモーションも行う。文化・コミュニケーション省及びモンリオール市より支援を受けている。</p> <p>創設者の音楽家 Liette GAUTHIER は、音楽の多様性は音楽創造を刷新し、インスピレーションをもたらすと信じて活動を開始。年に1回のフェスティバルを通してワールドミュージックを広く推進している。</p>					
	事業実績/成果	<p>これまでの奨学金受給者:2012年 Élias Damawou KOKOU (トーゴ)、2011年 Paul BEAUBRUN (ハイチ)、2010年 Phytshens KAMBILO (コンゴ)、2009年 MIKKEA (マダガスカル)、2007年 Hassan BOUSSOU (モロッコ)、2006年 Lucho QUEQUEZANA (ペルー)、2005年 Mamadou FOFANA (マリ)、2004年 Luis FERNANDES (ポルトガル)、2003年 Lucine HOVHANNISIAN (アルメニア)</p>					
	所在地	1591 Fleury Street, Suite 100, Montreal, Quebec H2C 1S7, Canada					
電話	+1-514-856-3787	FAX	+1-514-856-33340	Email	<a href="mailto:info@musiqueMMM.com">info@musiqueMMM.com</a>		

レジデンス事業の概要	対象分野	映像・映画、デジタルメディア					
	招へい人数	-		受入期間	3ヶ月-1年		
	レジデンス事業の内容	<p>PRIM の活動は、最新のデジタルメディア技術に対応した創作環境を提供する総合的なクリエイティブサポートに重点を置き、その一環として国内のアーティストやクリエイターを対象とするレジデンス事業と、海外のアーティストやクリエイターを対象とするレジデンス事業を運営している。</p> <p>【アーティスト・レジデンシー (Artists' Residencies)】</p> <p>主にモントリオール周辺地域を活動拠点とするアーティストやクリエイターを対象に、1年を上限に PRIM のスタジオ設備や創作上の技術面でのサポートを提供している。</p> <p>【CCA/CALQ/PRIM 交換プログラム】</p> <p>ケベック・アーツカウンシルの主導する交換プログラムで、グラスゴー現代美術センター (CCA) とケベック・アーツカウンシル (CALQ) と PRIM が 2005 年にスタートした。毎年、CCA からサウンド・アーティストが CALQ を介して1名、PRIM に派遣され、5月から9月の約3ヶ月間滞在する。</p> <p>【ヨーロッパ・ペピニエール (European Pépinières) との提携プログラム】</p> <p>欧州及びカナダ (ケベック州) の間の移動性 (mobility) を向上することを目的とした 18 歳以上 35 歳以下の若手アーティストが対象のプログラムで、3年毎に公募される。</p>					
	受入条件	PRIM のレジデンス事業ではプログラムに応じたアーティストやクリエイターの選考方法と応募条件がある。PRIM が主体となって公募を実施する事業はないが、最終的な選考は PRIM が行う。					
選考・支援	募集方法	プログラムにより異なる					
	支援内容	渡航費助成	-	滞在費助成	-	成果発表・オープンスタジオ	○
		制作費助成	-	人的サポート	○	記録集	-
		その他の支援	-				
施設構成・内容	制作スタジオ	○	映像編集スタジオが4部屋と音声編集スタジオが1部屋。映像編集スタジオにはハイビジョン映像の編集機材が完備され、他にハイビジョン映像を撮影するためのカメラや照明、プロジェクターなどがある。また、音声編集用スタジオには、AVID 社の Pro Tools 24 などの編集機材が完備され、ナレーションや吹き替えを収録する録音スタジオも併設されている				
	展示スペース	○	スクリーニングやミーティングのためのスペースがある				
	宿泊施設		海外のアーティストやクリエイターが宿泊することができる施設は所有していない				
	その他	-					
	周辺環境	モントリオールのダウンタウンから北へ3km の住宅の多い地域に位置する					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.primcentre.org/">http://www.primcentre.org/</a>		事業開始年	1981 年		
	組織の目的・ミッション	1981 年、実験的なビデオアートが盛んに創作されるようになった時流を受けて、ビデオアートを創作するためのプロダクション・センターとして PRIM は設立された。設立から 10 年かけて、ビデオから映画、音楽、ニューメディアに対応する創作環境を整備し、1995 年には新しい技術と芸術表現を結ぶメディア・ラボとして位置付けられる。					
	事業実績／成果	2011-12 年度のアーティスト・レジデンシーでは、「Established Artist」の枠で Christian CALON、Sylvain L'Espérance、Luc BOURDON、Robin AUBERT の4人を、「Les Transfuges (亡命者)」の枠で Diane LANDRY、Netochka NEZVANNOVA、Marie BRASSARD の3人を招へいした。CCA/CALQ/PRIM では、毎年1名のアーティストを招へいしており、2011-12 年度は Charlotte PODGER (英国) を招へいした。ヨーロッパ・ペピニエール・プログラムでは、3年毎に2人のアーティストを招へいしており、過去に Martina MOOR (イタリア/英国) と Broc STEPHONE、Pernot LAURENT を招へいした実績がある。					
	所在地	2180, rue Fullum, Montreal, QC H2K 3N9, Canada					
電話	+1-514-524-2421	FAX	+1-514-524-7820	Email	<a href="mailto:info@primcentre.org">info@primcentre.org</a>		

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、舞台芸術等					
	招へい人数	-		受入期間	-		
	レジデンス事業の内容	中国国内のアーティストによる展示が主な活動。正式な AIR プログラムの運営は行っていない。ただし、展覧会、プロジェクトによって海外からのアーティストを招へいし、滞在しながら制作活動を行う場合がある。					
	受入条件	主催者と個別の取り決めによる。					
選考・支援	募集方法	-					
	支援内容	渡航費助成	-	滞在費助成	-	成果発表・オープスタジオ	-
		制作費助成	-	人的サポート	-	記録集	-
その他の支援	プロジェクトやアーティストの要望にあわせて対応						
施設構成・内容	制作スタジオ						
	展示スペース	○					
	宿泊施設						
	その他	プロジェクトやアーティストの要望にあわせて対応					
周辺環境	個人住宅、商店が立ち並ぶ路面店を改装したアートスペース						
運営機関概要	URL	<a href="http://www.arrowfactory.org.cn/">http://www.arrowfactory.org.cn/</a>		事業開始年	2008 年		
	組織の目的・ミッション	2008 年にオープンしたオルタナティブスペース。アーティストのラニア・ホー、ワン・ウェイ、及びキュレーターのヤオ・ポーリンの3名によって設立。商業的なアートスペースが郊外に次々とオープンする当時の北京の現代美術をとりまく状況に対し、都市の日常的な空間において、自由で実験的な制作、発表ができる、ヒューマンスケールのオルタナティブな場所を自らつくり出すためのプロジェクトを開始。元八百屋であったスペースを改装したギャラリースペースを中心に、周囲の通りや環境の中で、インスタレーション、サイトスペシフィックな新しい表現にフォーカスし、アーティストの新しい表現を通し、身体を含む人間の日常生活と芸術との関係性を問う活動を行っている。					
	事業実績／成果	海外アーティストを含むグループ展形式のプロジェクトを過去2回開催。 【《在拐角》Just Around the Corner (2009.08.15-2009.11.11)】 张怡 Patty CHANG、何颖宜 Rania HO、洪浩 HONG Hao、李明 LI Ming、梁远苇 LIANG Yuanwei、林载春 LIM Tzay-Chuen、林天苗 LIN Tianmiao、刘窗 LIU Chuang、林荫庭 LIM Ken Lum、丹·皮乔沃维奇 Dan Perjovschi、田中功起 Koki TANAKA、王卫 WANG Wei、西京人 Xijing Men、颜磊 YAN Lei 【《高光一箭厂收藏展》Arrow Factory: Collection Highlights (2010.12.21-2011.02.17)】 张怡 Patty CHANG、何颖宜 Rania HO、李景湖 LI Jinghu、刘窗 LIU Chuang、尤安·马唐纳 Euan MACDONALD、丹·皮乔沃维奇 Dan PERJOVSCHI、王功新 WANG Gongxin、王卫 WANG Wei、颜磊 YAN Lei、张培力 ZHANG Peili。 【日本からの招へいアーティスト】 田中功起					
所在地	38 Jianchang Hutong (off Guozijian Jie), Beijing 100007, China						
電話	-	FAX	-	Email	<a href="mailto:arrowfactory@gmail.com">arrowfactory@gmail.com</a>		

## Living Dance Studio (CCD Workstation)

中国

レジデンス事業の概要	対象分野	舞台芸術、映像					
	招へい人数	-		受入期間	-		
	レジデンス事業の内容	正式なAIRプログラムの運営は行っていない。映像及び舞台芸術の分野におけるアーティスト、カンパニー等の作品制作、発表をサポート。小劇場での公演を中心に、国内外のアーティストが滞在しながら制作を行うための設備を設けている。					
	受入条件	主催者と個別の取り決めによる。					
選考・支援	募集方法	-					
	支援内容	渡航費助成	-	滞在費助成	-	成果発表・オープンスタジオ	-
		制作費助成	-	人的サポート	-	記録集	-
		その他の支援	-				
施設構成・内容	制作スタジオ						
	展示スペース						
	宿泊施設	○					
	その他	小劇場をメインに、フリースペース、カフェを併設					
	周辺環境	草場地芸術区内					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.ccdworkstation.com/">www.ccdworkstation.com/</a>			事業開始年	2005年	
	組織の目的・ミッション	CCD Work Station 及び Living Dance Studio(生活舞蹈室)は、WU Wenguang、WEN Hui の2名のアーティストによって設立された。WU Wenguang は、中国ドキュメンタリー映像を代表する映画監督。施設設計は、アーティスト、建築家のアイ・ウェイウェイによる。国内外の芸術交流を通じて、中国における映像芸術、舞台芸術発展のためのプラットフォームとなることを目的としている。					
	事業実績／成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>2005年、「May Festival」を開催。若手の振付家、ドキュメンタリー映像作家の作品紹介及びレクチャー、ワークショップ、パフォーマンス、コンテンポラリーダンス公演、映像上映会などを行っている</li> <li>2005年、「European Exchange Program」として、欧州からアーティストを招へいした交流事業を開催</li> <li>2007年より「Crossing Festival」を開催。初のコンテンポラリーダンス、フィジカルシアターによるフェスティバルを開催</li> </ul>					
	所在地	No. 105 Chaoyangdi (Fenglei Shiting) Chaoyang District, Beijing 10015, China					
	電話	+86-10-6433-7243	FAX	+86-10-6433-6143	Email	<a href="mailto:wu-wenguang@263.net">wu-wenguang@263.net</a>	

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、舞台芸術   キュレーター、批評家等を含む					
	招へい人数	2人程度	受入期間	1-3ヶ月			
	レジデンス事業の内容	現代美術シーンの発展で注目される、北京での滞在制作、リサーチの場を提供する。アーティスト、キュレーター、デザイナーのほか、アカデミックな分野での研究者と幅広い文化活動を行う人々に対し、中国での暮らし、仕事の機会を開き、中国、そして中国人アーティストとの対話と深い理解を促す。					
	受入条件	<b>【提携プログラム】</b> 駐北京ノルウェー大使館と Office for Contemporary Art Norway (OCA) との提携プログラム <b>【一般公募プログラム】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>申請ガイドラインに従って必要書類を提出後、BIAP審査委員会によって選考</li> <li>旅費、生活費、レジデンス・スタジオ使用料(水光熱費、清掃費、インターネット回線使用料を含む)は滞在中自身が負担(月額8,500元、約14万円)</li> <li>その他、アシスタント、通訳などについて必要に応じて相談、斡旋を行うが、費用については滞在中自身が負担する</li> </ul>					
選考・支援	募集方法	公募、提携機関から受け入れ					
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成		成果発表・オープンスタジオ	○
		制作費助成		人的サポート	○	記録集	
その他の支援	助成を必要とする申請者には、BIAP と関係するいくつかの助成機関の紹介をすることができる						
施設構成・内容	制作スタジオ	○	スタジオ兼住居×1部屋				
	展示スペース	○					
	宿泊施設	○	(スタジオに併設)				
	その他	-					
	周辺環境	草場地芸術区内					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.platformchina.org">http://www.platformchina.org</a>			事業開始年	2005年	
	組織の目的・ミッション	<新しい試み>、<ワーク・イン・プログレス>、<様々な表現領域間の横断>、<開かれた表現と場>をテーマに、中国現代美術の発展と、国内外のアーティスト間の交流と対話を生み出す「プラットフォーム」となることを目指している。中国の若手アーティストを中心に、年間約7、8回の企画展開催のほか、台北、香港、光州、バーゼルなど海外の主要なアートフェアへの参加を行っている。					
	事業実績／成果	2005年より、年間約2名の招へいを毎年実施。滞在中のオープンスタジオ等の成果発表は必須条件とせず、アーティスト自身が考える自主的な成果目標の達成を優先し、それぞれが達成したい目標に対し何を提供し、何を成果とするかを協議しながらプログラムを組んでいる。若手アーティストが主流であるため、評価が定まり、成功したといえるアーティストが今後の成果となる。 <b>【OCA 提携プログラムにおける過去の滞在アーティスト】</b> Ragnhild AAMÅS, Marius MOLDVÆR, Steinar Haga KRISTENSEN, Victor MUTELEKESHA, Per Bjarne BOYM, Torgeir HUSEVAAG, Ane GRAFF, Tarje Eikanger GULLAKSEN, Inger Lise HANSEN, Stian ÅDLANDSVIK, Torbjørn RØDLAND, Bodil FURU, Siri HERMANSEN, Ole Henrik HAGEN, Anne-Karin FURUNES, Vibeke JENSEN, Mette TRONVOLL, Vegar MOEN					
	所在地	No. 319-1, East End Art Zone A, Caochangdi Village, Chaoyang District, Beijing, China					
電話	+86-10-6432-0091	FAX	+86-10-6432-0169	Email	<a href="mailto:info@platformchina.org">info@platformchina.org</a> <a href="mailto:biap@platformchina.org">biap@platformchina.org</a>		

レジデンス事業の概要	対象分野	美術   キュレーター、研究者等を含む				
	招へい人数	約 70 人	受入期間	1-3ヶ月		
	レジデンス事業の内容	アーティストのほか、ライターや研究者など、海外からの様々な芸術活動に携わる人材の中国滞在を推進することで、国内のアートコミュニティとの交流を促し、将来にわたって国際的なフィールドで活躍する人材を中国で育成することを目的とする。滞在中は作品制作だけではなく、リサーチやサバティカルなど、個々の目的に委ねられ、主催者はオリエンテーションとして北京のアートシーン、アートコミュニティ、通訳、アシスタント、あるいは製造工場などの様々なリソースを紹介し、ウェルカムディナーなどの交流の場を提供する。				
受入条件	申請ガイドラインに従って必要書類を提出。 <ul style="list-style-type: none"> <li>旅費、生活費、レジデンス・スタジオ使用料を滞在者自身が負担する</li> <li>その他、アシスタント、通訳などについて必要に応じて相談、斡旋を行うが、費用については滞在者本人が負担する(希望者は助成申請機関の紹介を得ることができる)</li> </ul>					
選考・支援	募集方法	公募、提携機関から受け入れ				
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成	成果発表・オープンスタジオ	○
		制作費助成		人的サポート	○	記録集
その他の支援	助成組織等の紹介					
施設構成・内容	制作スタジオ	○	スタジオ兼住居×6部屋			
	展示スペース					
	宿泊施設	○	住居のみ×3部屋			
	その他	-				
周辺環境	スタジオは草場地芸術区の北側にある北皋(Bei Gao)に、住居のみの施設は北京市中心部にある。					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.redgategallery.com">http://www.redgategallery.com</a>		事業開始年	2002年	
	組織の目的・ミッション	オーストラリア人、ブライアン・ウォレス(Brian WALLACE)によって、1991年に歴史的建造物を拠点に創設されたアートギャラリーで、名前の由来である「赤門」は、北京駅南に位置する東便門、旧城下樓門公園内に現存する望楼。中国本土で始めて外国人によって設立された商業ギャラリーとして国際的に知られる。レジデンスプログラムは、オーストラリアの文化機関アジアリンク(Asia Link)によるアーティスト派遣を受け入れる協力を行ったことを機に、滞在アーティストのための環境整備を整えたことから本格的にスタート。現在、国内で最も規模の大きいプログラムのひとつ。				
	事業実績/成果	2012年の滞在アーティスト実績:20ヶ国、77名。美術家が約8割を占める。 Elizabeth DOLL、Norie NEUMARK、Maria MIRANDA、David HILL、Sally CLARKE、Angelika LODERER、Hyun-Hee LEE、Jan ROGALO、Antria PELEKANOU、Tess LOGAN、Elizabeth GOSSLING、Choterina FREER、Sonia HEDSTRAND、Lars DENCİK、Suzanne NESSIM、Gina FAIRLEY、Tony TWIGG、Fabio MARULLO、Căcilia BROWN、Rone WAUGH、Dianne SMITH、Benjamin BUCHANAN、Andrew MEALOR、Shakyrá CAMPBELL、Eva-Leena SKARIN、Sonia YORK-PRYCE、Martin CORDIANO、Hana YANECZ、Catherine STRINGER、Brenda LOUIE、Josie MARTIN、Angela WILLCOCKS、Anna MINZER、Emily ALLEN、Denyse WILHEM、Andrew TEDESCO、Tacia SHARLAND、Marcia GOODWIN、Taylor GREEN、Corrine PHELAN、Janine WONG、James STROUD、Anemona CRISAN、Ian DELEON、Sean DECKERT、Kenneth FEINSTEIN、Itamar GILBOA、Peter FROSLIE、Susan Tonkin RIEGEL、Anemona CRISAN、Joan KELLY、Daizy CUSHNER、Eric QUAH、Sarah NIND、Shellaine GODBOLD、Marc SIEGNER、Neda TAVALLAEE、Catherine CLORAN、Astra HOWARD、Andrew DAVIS、Vivian OYARBIDE、Pierre-Étienne MASSÉ、Bella MARRIN、Linda DORNAN、Clemens STECHER、Jess CALLY、Ben KENNING、Cici WU、Corina GERTZ、Serhiy SAVCHENKO、David CONNOLLY、Andrea NACCIARRITI、Anne HASTIE、Robert GUTTERIDGE、Katie HE				
所在地	Dongbianmen Watchtower, Dongcheng District, Beijing, China					
電話	+86-10-6525-1005	FAX	+86-10-6525-1005	Email	<a href="mailto:director@redgateresidency.com">director@redgateresidency.com</a>	

## Swatch Art Peace Hotel

中国

レジデンス事業の概要	対象分野	現代芸術全般					
	招へい人数	18人	受入期間	1-6ヶ月			
	レジデンス事業の内容	スイスの時計会社スウォッチグループが上海で経営するホテルを拠点としたレジデンスプログラム。世界中の優れたアーティストを招へいし、現代芸術に特化したユニークな環境における体験と交流の場を提供し、現代芸術の発展に寄与することを目的としている。歴史的な建物を改装したホテルに滞在しながら、自由な制作やリサーチを行い、また、滞在中はパブリックプログラムとしてワークショップ、オープNSTAジオ等を随時開催し、また、「trace(痕跡)」とよばれるアーカイブへの記録を残すこととしている。					
受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>年齢制限:21歳以上</li> <li>受入対象国:指定なし</li> <li>グループの場合は4人を上限とする</li> <li>申請受付はウェブサイトからのみ。申請費として30スイスフラン(約3,000円)を支払う。申請費は返金不可とし、MSF(Médecins sans Frontières / Doctors Without Borders)への寄付金とする</li> <li>英語または中国語での日常会話ができること</li> <li>パブリックプログラムとして、ワークショップ、オープNSTAジオを随時開催すること</li> <li>「trace(痕跡)」とよばれるアーカイブへの記録を残すこと。それらの記録は「Virtual Museum」としてWebサイト上で公開される予定(現在準備中)</li> <li>作品制作費、材料費、搬入出費などは自費による</li> </ul>						
選考・支援	募集方法	公募					
	支援内容	渡航費助成	○	滞在費助成	○	成果発表・オープNSTAジオ	○
		制作費助成		人的サポート	○	記録集	
		その他の支援	ビザ取得費、ホテル内での朝食				
施設構成・内容	制作スタジオ	○					
	展示スペース	○ 展示ギャラリー(480㎡)及び多機能ギャラリー(映画上映、コンサートなどのイベント開催)					
	宿泊施設	○					
	その他	-					
	周辺環境	スタジオ、ギャラリーは、すべてホテル内の施設として整備					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.swatch-art-peace-hotel.com/">http://www.swatch-art-peace-hotel.com/</a>		事業開始年	2011年		
	組織の目的・ミッション	かつて上海のランドマークとして知られていたホテル「Palace Hotel(後に The Peace Hotel に改称)」の復元、改装を行い、「Swatch Art Peace Hotel」として2010年にオープン。同グループは創業以来、現代芸術とつながりが深く、「Swatch Art Special」シリーズに代表されるプロダクトを生み出しており、横尾忠則、サム・フランシス、ナム・ジュン・パイク、キース・ヘリング、レンゾ・ピアノなど著名なアーティスト、クリエイターがデザイナーとして名を連ねる。時計とアートとの関係は、「世界で最も小さなカンヴァス」というスウォッチのコンセプトそのものであり、芸術とその普及は、スウォッチ・ブランドの固有性を保つ重要なものである。かつてより人々が往来し、独自の文化を生み出してきた上海に現存する歴史的な建造物を保存、修復、改装し、場所性を取り込みながら、レジデンス事業を通して、現代のアーティストが交流し、新たな創作活動や表現が生まれる場を目指している。					
	事業実績/成果	2011年より、毎年18名のアーティストを招へい。 「Tatler Travel Award 2013」における「Daring Design Award」を受賞。					
	所在地	23 East Nanjing Road (Bund 19), Shanghai 200002, China					
	電話	+86-21-23298500	FAX	+86-21-23298511	Email	<a href="http://www.swatch-art-peace-hotel.com">www.swatch-art-peace-hotel.com</a>	

レジデンス事業の概要	対象分野	写真、映像   キュレーター、研究者等を含む					
	招へい人数	—	受入期間	3週間—5ヶ月			
	レジデンス事業の内容	写真芸術、映像制作の分野で活動する海外からの写真家、アーティスト、キュレーター、アカデミックな分野の研究者に対し、中国での滞在と制作、リサーチ活動の機会を提供し、また、中国のアートコミュニティの発展に寄与することを目的とする。滞在アーティストは新たな作品制作、展覧会や、他のアーティストやコミュニティとの共同制作、あるいはワークショップや講座を行うなど、それぞれ独自のプログラムを設計することができる。三影堂(Three Shadows Photography Art Centre)はアーティストの個々の要望に応じ、素材探しや制作に必要な地域の情報の提供などのサポートを行い、また、中国国内にむけたプロモーションを行う。					
	受入条件	主催者と個別の取り決めによる。					
選考・支援	募集方法	指名					
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成	○	成果発表・オープンスタジオ	○
		制作費助成	○	人的サポート	○	記録集	
その他の支援	滞在者の要望にあわせて個別に対応						
施設構成・内容	制作スタジオ	○	暗室あり				
	展示スペース	○	ギャラリー×3部屋(1,300 m <sup>2</sup> )				
	宿泊施設	○					
	その他	図書館、ブックショップ、カフェ、ラウンジ、講義室					
	周辺環境	草場地芸術区内					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.threeshadows.cn">http://www.threeshadows.cn</a>			事業開始年	2007年	
	組織の目的・ミッション	中国において現代写真芸術を深く発掘、開拓、発展させること。各歴史年代における創造的な作品の発掘・整理。国際間の対話を促進して、中国現代写真芸術の国際的地位と重要性を向上。現代写真芸術と大衆社会との意思疎通の「場＝プラットフォーム」を構築し、豊かな経験を持つ独自の運営組織を通じて 現代写真芸術の健全な発展の促進に貢献する事を掲げている。アートセンターの中核をなす図書館では、三影堂の創設者で、写真芸術家のロンロンが世界中で収集した様々な国と言語の写真集、評論集を中心とした出版物、その他の資料が公開され、中国唯一、最大の現代写真に関するコレクションを有する。					
	事業実績／成果	レジデンス事業では、日本人写真家の北野謙が滞在し、大判の手焼きプリントの制作に成功した。他に類のない大型の写真設備を有することにより、写真家の新たな表現の可能性を切り開くこととなった。AIRプログラム単独ではなく、三影堂の総合的な実績として、初めて中国国内に現代写真芸術に特化したアートセンターを設立・運営することにより、世界的なアートネットワークのプラットフォームとしての存在を示すこととなった。特に、2010年より開催している「草場地春の写真祭」、また、内外の写真評論家、キュレーターを招いたポートフォリオレビューにより、中国写真芸術及び写真家の存在を示し、中でも北京在住の菊地智子は、2013年の第38回木村伊兵衛賞を受賞するに至った。 【2010—11年滞在アーティスト等】 Nadine STIJNS(蘭)、北野謙(日本)					
	所在地	155A Caochangdi, Chao Yang District, Beijing 10015, China					
電話	+86-10-6432-2663	FAX	+86-10-6431-9693	Email	<a href="mailto:info@threeshadows.cn">info@threeshadows.cn</a>		

# Videotage

中国

レジデンス事業の概要	対象分野	メディアアート   キュレーターを含む					
	招へい人数	—	受入期間	—			
	レジデンス事業の内容	アーティストを対象とした「fuse:: artist in residence」、キュレーターを対象とした「fuse:: curator in residence」がある。					
	受入条件	—					
選考・支援	募集方法	—					
	支援内容	渡航費助成	—	滞在費助成	—	成果発表・オープスタジオ	—
		制作費助成	—	人的サポート	—	記録集	—
		その他の支援	—				
施設構成・内容	制作スタジオ						
	展示スペース	○					
	宿泊施設						
	その他	—					
	周辺環境	牛棚藝術村(Cattle Dept Artist Village)内に位置する。牛の屠殺場であった場所を開放し、現在、アーティストがスタジオ、ギャラリー、シアターなどで使用している					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.videotage.org.hk/">http://www.videotage.org.hk/</a>			事業開始年	2010年	
	組織の目的・ミッション	アジアにおけるビデオ、メディアアートにおけるプレゼンテーション、プロモーション、制作と保存を焦点にあて、テクノロジーを用いたアーティストの芸術活動への貢献と、ネットワークの構築を目的とし、1986年に香港に設立されたアートNPO。組織名はVideoとMontageをあわせて名付けられた。香港芸術発展局(Hong Kong Arts Development Council)からの助成を受け、展覧会、ワークショップ、パフォーマンス及びAIRプログラム、交流プログラム、メディアアートフェスティバル等を開催。メディアアートの普及、アーティストの横断的な活動を支援。様々な知識を集積することにより、アート、文化、技術をつなぐ国際的なハブを目指す。					
	事業実績／成果	国際ニューメディア・アーツ・フェスティバル、ヴェネチア・ビエンナーレ建築部門、光州ビエンナーレ、ISEA フェスティバルなどへの参加。2008年より、香港のメディアアートのアーカイブ活動VMAC(Videotage Media Art Collection)を開始。2010年より、メディアアーティスト、技術者、研究者等をつなぐネットワーク「Dorkbot-HK」を運営。 【過去の主な滞在アーティスト】 アーティスト:João VASCO PAIVA (ポルトガル)、Morgan WONG (香港)、Marco De MUTIIS (香港)、Henry CHU (香港)、他 キュレーター:Gabriela JURKOVIČ (チェコ)					
	所在地	Unit 13, Cattle Depot Artist Village, 63 Ma Tau Kok Road, To Kwa Wan, Hong Kong, China					
電話	+85-2-2573-1869	FAX	+85-2-2503-5978	Email	<a href="mailto:info@videotage.org.com">info@videotage.org.com</a>		

レジデンス事業の概要	対象分野	美術					
	招へい人数	-		受入期間	-		
	レジデンス事業の内容	<p>正式なレジデンス事業運営は行っていない。</p> <p>パビリオン(The Pavilion)は、ビタミン・クリエイティブ・スペース(Vitamin Creative Space)と契約を結ぶアーティストの、リサーチベースのプロジェクトのプロセス、成果の紹介、発表を中心としたスペース。滞在中のアーティストに対し、リサーチに必要な様々なロケーションや情報を提供し、メディアアート等の技術的なサポートのほか、様々な環境を整備をする。作品の経過によってプレゼンテーション、展覧会を開催。</p>					
	受入条件	-					
選考・支援	募集方法	-					
	支援内容	渡航費助成	-	滞在費助成	-	成果発表・オープンスタジオ	-
		制作費助成	-	人的サポート	-	記録集	-
	その他の支援	-					
施設構成・内容	制作スタジオ						
	展示スペース	○					
	宿泊施設						
	その他	-					
	周辺環境	北京の新しいビジネス街建国門外に位置する高層ビルの23Fにギャラリー兼事務所がある					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.vitamincreativespace.com">http://www.vitamincreativespace.com</a>			事業開始年	2007年	
	組織の目的・ミッション	<p>ビタミン・クリエイティブ・スペースは広州と北京に拠点を置く商業ギャラリーで、2007年から活動を始める。主な活動は2つのギャラリースペースでの展示のほか、毎年フィレンツェ、香港、マイアミ、バーゼルなどのアートフェアに出展。アジア、欧州からの12名の契約アーティストを有する。パビリオンは北京における拠点として2009年に設立され、プロジェクトベースの作品発表を主体とする。個人の日常的な体験やコミュニティとの共同の場を通じ、現在と過去の生活や哲学との双方にインスパイアされながら、それらを異なる文脈、要素、テーマに落とし込み、新たな価値を創造する表現活動を探求。中国の現代芸術の発展へ貢献し、既存の制度に対する新しい世界観を作りだすことを目的とする。</p>					
	事業実績／成果	2012年の秋より日本人アーティストの田中功起による中国の陶芸家のリサーチプロジェクトが進行中。					
	所在地	2503-B- Building 2, Northern District, Pingod Community, No.32 Baiziwang Road, Chaoyang District, Beijing 100022, China					
	電話	+86-10-5826-3440	FAX	+86-10-5826-3140	Email	<a href="mailto:beijing@vitamincreativespace.com">beijing@vitamincreativespace.com</a>	

# Gyeonggi Creation Center (GCC)

韓国

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、舞台芸術、文学、メディアアート、デザイン、建築   キュレーター、研修者等を含む			
	招へい人数	20-30人	受入期間	3-6ヶ月	
	レジデンス事業の内容	<p>現代芸術の分野のアーティスト、キュレーターや学術研究者の活動を支援する国際レジデンス事業。実験的、革新的な現代芸術のプラットフォームとなることを目指す。</p> <p>【スタジオプログラム】(公募)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>クリエイティブ・レジデンス: アーティストを対象</li> <li>リサーチ・レジデンス: フリーランスまたはオルタナティブスペースのキュレーター、舞台芸術または音楽プロデューサー、研究者、批評家などを対象</li> </ul> <p>【メンターリングプログラム】(指名)</p> <p>レジデンスアーティストへの教育プログラム。世界的に著名なアーティスト、キュレーター、学術研究者、哲学者を招き、滞在アーティストへの批評、ジャンルを越えた議論の場を提供する。</p>			
	受入条件	<p>スタジオプログラム(公募)を下記のとおり行い、選考委員会での書類選考後、面接(国内のみ)を行う。招へい人数は事業年によって異なる。</p> <p>スタジオ提供、旅費及び制作費を支給。制作費支給額や展覧会を含む成果発表の方法については、アーティスト(研究者含む)とスタッフとの協議によって決定される。</p> <p>【長期プログラム】</p> <p>国内アーティスト向けのプログラム。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>受入期間 : 6ヶ月、1年、2年</li> <li>招へい人数 : アーティスト12人、キュレーター等2人</li> </ul> <p>【短期プログラム】</p> <p>海外アーティスト向けのプログラムで受入対象国の指定はない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>受入期間 : 3ヶ月</li> <li>招へい人数 : アーティスト12人、キュレーター等2人</li> </ul>			
選考・支援	募集方法	公募、指名			
	支援内容	渡航費助成	○	滞在費助成	○
		制作費助成	○	人的サポート	○
その他の支援	記録集				
施設構成・内容	制作スタジオ	○			
	展示スペース	○	約 130 m <sup>2</sup>		
	宿泊施設	○	ロッジ式(5人用×8部屋、4人用×10 部屋)		
	その他	講堂(約 400 m <sup>2</sup> 、200 人収容)、講義室(約 100 m <sup>2</sup> 、70 人収容)、貸倉庫、クラフトショップ、他			
	周辺環境	Gyeonggi 市が運営を行っていた技術学校の施設を再活用			
運営機関概要	URL	<a href="http://www.gyeonggicreationcenter.org/">http://www.gyeonggicreationcenter.org/</a>		事業開始年	2009年
	組織の目的・ミッション	レジデンス事業を中心とし、国内外のアーティストをサポートする文化施設として展覧会、各種イベント、舞台芸術プログラム、国際交流プログラム、様々な世代を対象とした教育プログラム等を通じて、Gyeonggi 地域の文化向上に資する活動を行う。			
	事業実績/成果	<p>国際 AIR ネットワーク組織 Res Artis との共同により、海外の主要なレジデンス事業、Africa Center(アフリカ)、Le Pavillon(仏)、NGBK(独)との交換プログラムを実施し、アフリカ、欧州、アジア、南米、オセアニア地域との連携を図る。組織形態や分野を超えたコラボレーション、交流を重要視している。</p> <p>【2012年滞在アーティスト等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>クリエーション・レジデンス(計30名)</li> <li>韓国からmioon、KIM yun seob他16名、海外からS. M. Raza、Seyit Battal KURT他10名</li> <li>リサーチ・レジデンス(2名): Sayako MIZUTA、Luca ZORDAN</li> </ul>			
	所在地	400-3, Seongam-dong, Danwon-gu, Ansan-si, Gyeonggi-do 425-310, Korea			
電話	+82-32-890-4820	FAX	+82-32-890-4880	Email	<a href="mailto:gcc.infomail@gmail.com">gcc.infomail@gmail.com</a>

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、舞台芸術、文学、メディアアート   研究者等を含む					
	招へい人数	—	受入期間	3ヶ月—1年			
	レジデンス事業の内容	様々なジャンルのアーティストに対し、創作活動に専念するための滞在制作の場を提供し、プロジェクト実施にいたるまでのサポートを行う。異なる文化的背景を持つアーティスト及び研究者の双方の活動を支援し、相互の創造的活動の共同の可能性を引き出すことを目的とし、交流ワークショップ(アーティストによるプレゼンテーション)、批評家とのマッチング、仁川ツアー、オープンスタジオ、展覧会、パフォーマンス、出版などを行う。					
	受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>年齢制限:25歳以上</li> <li>同時期に滞在するアーティストとの共同生活を行うことができること</li> <li>ワークショップ、アーティスト・トークなどを英語で行うこと</li> </ul>					
選考・支援	募集方法	公募					
	支援内容	渡航費助成	○	滞在費助成		成果発表・オープンスタジオ	○
		制作費助成	○	人的サポート	○	記録集	○
		その他の支援	韓国のアートコミュニティとの交流				
施設構成・内容	制作スタジオ	○	スタジオ×20 部屋、デザイン専用スタジオ×3部屋、プロジェクトルーム				
	展示スペース	○					
	宿泊施設	○	9部屋				
	その他	シアター、コミュニティスペース、ショップ&カフェ、会議室、ラウンジ					
	周辺環境	仁川広域市による旧市街地の再生事業の一貫として、中(チュン)区海岸(ヘアン)洞の開港期の建築物を改修し、レジデンス事業を中心に、展示、公演、教育を行う複合文化施設として整備された					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.inartplatform.kr/">http://www.inartplatform.kr/</a>			事業開始年	2010年(パイロット2009年)	
	組織の目的・ミッション	財団法人仁川文化財団による運営。この地域にアトリエや稽古場を構えるアーティストたちがレジデンス施設の必要性について要望をとりまとめ市に提出したことから発足。新しい芸術制作の発信地、国際ネットワーク形成のプラット・フォーム、市民教育、人材及び地域文化育成の中核となることをミッションとしている。					
	事業実績／成果	2012年までの応募数 2,000人以上。滞在アーティストは20ヶ国、100名を超える。若手から著名アーティストまで、8割以上が美術を占める。プログラム終了後もアーティストのフォローアップを継続するためのアーカイブを作成。ポートフォリオの蓄積、一般公開を行っている。 【2013年滞在予定者】					
		<ul style="list-style-type: none"> <li>美術(26名): KIM Kira(韓)、Liat LIVNI(イスラエル)、Sylvia WINKLER &amp; Stephan KÖPERL(独)、Angie ATMADJAJA(英)、Olivia VALENTINE(トルコ)、Instant Coffee(加)、Jorge Cabieses-VALDES(チリ、ギリシャ)、Julien COIGNET(仏)、他</li> <li>舞台芸術(5名): SHIN Seungryul(韓)、SHIN Jaehoon(韓)、JEON Kwangpyo(韓)、JEONG Jinse(韓)、Paris Legakis(ポルトガル)</li> <li>文筆・批評(5名): KIM Haejin(韓)、LEE Daebum(韓)、LIM Jeongja(韓)、Elisa TOSONI(英)、DU xiyun(中)</li> </ul>					
	所在地	10-1 Haean-dong 1-ga, Jung-gu, Incheon 400-021, Korea					
	電話	+82-32-60-1000	FAX	+82-32-60-1010	Email	<a href="mailto:iapinfo@ifac.or.kr">iapinfo@ifac.or.kr</a>	

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、写真、映像   キュレーター、批評家等を含む					
	招へい人数	—	受入期間	3-6ヶ月			
	レジデンス事業の内容	アーティストの支援・育成のため、韓国及び海外アーティストに対し、ソウルでの滞在制作の機会を提供するとともに、市民の生活とつながるためのプログラムを実施する。					
	受入条件	<p>【海外芸術家交換プログラム(推薦)】 海外の主要都市(横浜、ニューヨーク、バルセロナ、メルボルン)のレジデンス機関との交換プログラム。海外レジデンス機関との協議によりアーティストを決定する。</p> <p>【国際共同プロジェクト(推薦)】 ソウルの都市問題を対象にした国内外のアーティスト、キュレーター、共同リサーチの展示を行う。国内外の機関との協議によりアーティストを決定する。</p> <p>【レジデンスプログラム(公募)】 毎年1回、スタジオに入居するアーティスト等を選考する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象者:アーティスト、キュレーター、評論家</li> <li>受入期間:国内アーティスト1年、海外アーティスト3ヶ月、国内評論家・キュレーター3ヶ月</li> <li>その他:オープンスタジオ等のパブリックプログラムへの協力、月スペース使用料(坪単価430円)を支払う。海外アーティストは免除</li> </ul>					
選考・支援	募集方法	公募、推薦					
	支援内容	渡航費助成	○	滞在費助成	○	成果発表・オープンスタジオ	○
		制作費助成	○	人的サポート	○	記録集	
		その他の支援					
施設構成・内容	制作スタジオ	○	約 50m <sup>2</sup> ×8部屋、約 23m <sup>2</sup> ×3部屋、約 17m <sup>2</sup> ×8部屋				
	展示スペース	○	約 100m <sup>2</sup> ×1 部屋、約 66m <sup>2</sup> ×1部屋、約 33m <sup>2</sup> ×1部屋 ※多目的スペースとして使用				
	宿泊施設	○	5部屋				
	その他	共同スタジオ(約 278m <sup>2</sup> )、共同キッチン等					
	周辺環境	衿川(クンチョン)区はソウルを代表する工業地区。衿川芸術工場は、閉鎖されていたかつての印刷工場を改修し再利用					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.seoulartspace.or.kr/G02_geumcheon/main.asp">http://www.seoulartspace.or.kr/G02_geumcheon/main.asp</a>		事業開始年	2009年		
	組織の目的・ミッション	ソウル市が掲げた文化と経済を連携させる「カルチャーノミクス」政策の一環として整備されたソウル市創作空間のひとつ。アーティストに創作空間と国際交流を提供することを基本に、アートと産業の協働を目指し、「アーティストの支援・育成」、「市民文化の享受」、「都市再生」という3つの運営方針を掲げている。					
	事業実績/成果	<p>応募数は事業開始3年目がピークとなり、現在も数を維持している。競争率は約 20 倍。主に活発な活動を行う 30 代のアーティストを対象としている。過去の滞在実績数は、2009年 14名(国内 14、海外0)、2010年 22名(国内 13、海外9)、2011年 28名(国内 13、海外 15)、2012年 29名(国内 10、海外 19)</p> <p>【2012年滞在アーティスト等(19名)】 Adam THOMPSON(イタリア)、David KAGAN(米)、Douglas PAULSON(独)、Gabriel RICO(メキシコ)、James Rob SOUTHARD(米)、Jan ALBERS(独)、Jan CHRISTENSEN(ノルウェー)、Jody WOOD(米)、Laura MERGONI(仏)、Les JOYNES(米)、Linh NGUYEN(ベトナム)、Manuel GRAF(独)、Marie ANDREE(加)、Miguel Angel DELGADO(スペイン)、Quentin CORNET(仏)、Sonya &amp; Sarah(加)、Takashi HORISAKI(日)、Timothy CITIZEN(英)、Varvara &amp; Mar(独)</p>					
	所在地	333-7, Doksan-dong, Geumcheon-gu, Seoul, Korea					
	電話	+82-2-807-4800	FAX		Email	<a href="mailto:geumcheon@sfac.or.kr">geumcheon@sfac.or.kr</a>	

レジデンス事業の概	対象分野	美術、舞台芸術、メディアアート、サウンドアート、ジャンルを超えた領域横断的な多元芸術等					
	招へい人数	-		受入期間	-		
	レジデンス事業の内容	レジデンスプログラムの実施はなし。 ただし、内外のアーティストがプロジェクトを実施するためのスタジオとシアターや、短期間宿泊できる施設を有し、有償での貸与を行っている。					
	受入条件	スタジオ、宿泊施設等は半年毎に申し込みを受け付ける。					
選考・支援	募集方法	-					
	支援内容	渡航費助成	-	滞在費助成	-	成果発表・オープンスタジオ	-
		制作費助成	-	人的サポート	-	記録集	-
その他の支援	-						
施設構成・内容	制作スタジオ	○	共同スペース(300.96 m <sup>2</sup> )				
	展示スペース	○	ギャラリー (75.24 m <sup>2</sup> )				
	宿泊施設	○	9部屋				
	その他	シアター(263.24 m <sup>2</sup> )、録音室、映像編集室、セミナー室、カフェ					
	周辺環境	未来(ムンレ)芸術工場のある永登浦(ヨンドンポ)区未来洞は、鉄工所、資材販売店等が密集する工業地帯で、演劇、ダンス、美術、メディアアートなどのアーティストをはじめとするアート関係者が活動する「ムンレ芸術村」が形成されている					
運営機関概要	URL	<a href="http://eng.seoulartspace.or.kr/space_mullae/introduce.asp">http://eng.seoulartspace.or.kr/space_mullae/introduce.asp</a>		事業開始年	2010年		
	組織の目的・ミッション	ソウル市が掲げた文化と経済を連携させる「カルチャーノミクス」政策の一環として整備されたソウル市創作空間のひとつ。「ムンレ芸術村」をはじめとする国内外のアーティストの支援、文化芸術を通じて都市再生に寄与する。アートスペースの今日的な新たな役割として、美術、舞台芸術の若手アーティストを育成。特に、ジャンルを横断したアーティスト間の共同プロジェクトの支援やインフラ整備を行い、国内外のアーティストの交流拠点づくり、地域の文化的活力の創出を目指し、「アーティスト支援プロジェクト」、「国際交流プログラム」、「MEET(ムンレ芸術村活動支援)」等のプログラムを実施。「ムンレ芸術村」を拠点とする芸術関係者による「ムンレ芸術工場運営委員会」を設け、運営に参加している。					
	事業実績／成果	「MEET(ムンレ芸術村活動支援)」は、自然派生的に形成されたアーティストコミュニティである「ムンレ芸術村」を拠点とするアーティスト、研究者の能力を高め、交流を促進するプログラムで、アーティストと近隣の鉄鋼所で働く人々とのワークショップが行われるなど、地域特性をリソースとした活動を重点的に行っている。また、「国際交流プログラム」では海外の文化機関との相互交流を行い、REM(オーストラリア)、サブステーション(シンガポール)との連携事業や、国内外のサウンドアーティストにとり「国際サウンドアート創作ワークショップ」を毎年開催している。					
	所在地	30 Mullae-dong 1ga, Yeongdeunpo-gu, Seoul, Korea					
電話	+82-2-2676-4300	FAX		Email	<a href="mailto:hjsaru@sfac.or.kr">hjsaru@sfac.or.kr</a>		

# The National Art Studio Changdong & Goyang

韓国

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、メディアアート等					
	招へい人数	各プログラム2-10人程度	受入期間	3ヶ月-1年			
	レジデンス事業の内容	韓国国立現代美術館(National Museum of Modern and Contemporary Art, Korea)が運営する、国内外のアーティストを対象としたレジデンス事業。アジア現代芸術の持続的発展を目指し、Changdong 及び Goyang にあるスタジオを拠点としたアジアのアーティストのサポートを行う。					
	受入条件	<p>【国際交流プログラム(International exchange programs)】</p> <p>レズ・アルティス(Res Artis)及びアリアンス・アーティスト・コミュニティ(Alliance of Artists Communities)との連携による、韓国及び海外のアーティストとの相互交換プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>条件:25歳以上、Changdong、Goyangのいずれかのスタジオでのレジデンス経験を持つ者</li> <li>受入期間:3ヶ月または6ヶ月</li> </ul> <p>【アジア・パシフィック・フェロウシッププログラム(Asia Pacific Artists Fellowship Program)】</p> <p>アジア・パシフィック地域のアーティストを対象とし、地域との芸術交流を目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>条件:25-20歳まで、アジア・パシフィック地域を拠点とする者</li> <li>受入期間:6ヶ月</li> </ul> <p>【ユネスコ・アッシュェバーグ奨学金(UNESCO-Aschberg Bursaries for Artists Programme)】</p> <p>若手アーティスト(美術)に対し滞在のための奨学金を支給。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>条件:海外アーティスト(若手) / 受入期間:3ヶ月</li> </ul>					
選考・支援	募集方法	公募					
	支援内容	渡航費助成	○	滞在費助成	○	成果発表・オープスタジオ	○
		制作費助成	○	人的サポート		記録集	
		その他の支援					
施設構成・内容	制作スタジオ	○	Changdong(46-60㎡×3部屋) / Goyang(66㎡×10室、61㎡×11部屋)				
	展示スペース	○	Changdong、Goyangともに(132㎡×各1部屋)				
	宿泊施設	○	Changdong(20㎡) / Goyang(66㎡)				
	その他	ライブラリー、屋外制作スペース、共同キッチン等					
	周辺環境	-					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.artstudio.or.kr/">http://www.artstudio.or.kr/</a>			事業開始年	2005年	
	組織の目的・ミッション	韓国国立現代美術館における、教育・レジデンス事業部門所管による運営。アーティストのプロフェッショナルな活動を支援し、韓国現代芸術の国際的なプレゼンスの向上に寄与する。レジデンスアーティストによるオープスタジオ、展覧会、ワークショップの開催するほか、国際連携事業を通じた国際的なネットワークの構築、文化交流、地域プログラムを行う。					
	事業実績/成果	<p>2008年からアジア太平洋地域とのフェロウシップを、2006年からユネスコ国際文化芸術振興基金(UNESCO International Culture and Arts Promotion Fund)による「ユネスコ・アッシュェバーグ奨学金」との連携プログラムをアジアで初めて実施。国際交流プログラムでは、アジアリンク・アーツ、デュッセルドルフスタジオ(Düsseldorf Studio)、カルチャー・フランクフルト(Kultur.Frankfurt)、トーキョーワンダーサイト等と提携事業実施。</p> <p>【2012年国際交流プログラムの実績事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アジアリンク・アーツ / アートスペース(豪): Lechaiminsun、Tang CYRUS</li> <li>Düsseldorf Studio(独): Sungyeon PARK、Wolfgang HAMBRECH</li> <li>Kultur.Frankfurt(独): Kwang MO、Rebecca Ann TESS</li> <li>Künstlerhaus, Schloß BALMORAL(独): Yongseok Oh、N/A</li> <li>CEAAC(仏): Dorothy M. YOON、Nathalie SAVEY</li> <li>トーキョーワンダーサイト(日): Sungji YUN、Nobuko TSUCHIYA</li> </ul>					
	所在地	(c) Changdong: 601-107 Chang-dong, Dobong-gu, Seoul 132-919, Korea (g) Goyang: 656 Gwansan-dong, Deokyang-gu, Goyang-si, Gyeonggi-do 412-804, Korea					
	電話	(c)+82-2-995-0995	FAX	(c)+82-2-995-2638	Email	<a href="mailto:changdongstudio@gmail.com">changdongstudio@gmail.com</a> <a href="mailto:goyangartstudio@hanmail.net">goyangartstudio@hanmail.net</a>	
	(g)+82-31-962-0070		(g)+82-31-962-4470				

# Open Space Bae

韓国

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、舞台芸術   キュレーター、研究者、批評家等を含む					
	招へい人数	-		受入期間	2-5ヶ月		
	レジデンス事業の内容	現代芸術におけるアーティストの活動と経験を支援。Open Space Bae の周囲の環境から様々なインスピレーションを受けながら、新たな取り組みを行うアーティストに滞在創作の場を提供するレジデンスプログラム「Open to You」を実施。スタジオ、宿泊施設、創作費を支給する。アーティスト個人の創作活動を通じて新たな国際的なネットワークを構築し、新たな価値の創造を目指す。					
	受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 受入対象国: アジアの国や地域</li> <li>● 受入期間: 国内アーティスト(5ヶ月)、海外(2ヶ月または5ヶ月)</li> <li>● 1週間に4日以上スタジオを使用すること</li> <li>● 同伴者は1名に限る(要事前申請)</li> <li>● ペット不可</li> <li>● 展覧会、オープンスタジオ、ワークショップ、アーティスト・トークを実施すること</li> <li>● 展覧会場はOpenSpace Bae内または地域内にあるギャラリーを利用できる</li> <li>● OpenSpace Baeが開催するパブリックプログラムに参加すること</li> </ul>					
選考・支援	募集方法	公募					
	支援内容	渡航費助成	○	滞在費助成	○	成果発表・オープンスタジオ	○
		制作費助成	○	人的サポート		記録集	
		その他の支援					
施設構成・内容	制作スタジオ	○					
	展示スペース	○					
	宿泊施設	○					
	その他	屋外制作スペース					
	周辺環境	-					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.spacebae.com/">http://www.spacebae.com/</a>			事業開始年	2006年	
	組織の目的・ミッション	韓国アーツカウンシル(Art Council Korea)及び、釜山文化基金(Busan Culture Foundation)からのサポートによる非営利のオルタナティブスペース。今日の新しい芸術活動に呼応するため、非営利の実験的な創造活動を支援。レジデンス事業を中心に「アーティスト育成プログラム」「パブリック・アート・プロジェクト」のほか、若手アーティストの展覧会、教育プログラムを行い、地域の芸術環境の創造に寄与する。					
	事業実績/成果	<b>【アーティスト育成事業(Artist Incubating program)】</b> 若手アーティストを対象に、アーティストの持続的活動を支援するための講座、ワークショップなどを開催。 <b>【パブリック・アート・プロジェクト】</b> アーティストによる地域の子どもたちへのワークショップなどを開催。					
	所在地	Samsung-ri Ilgwang-myeon, Gijang-gun, Busan 619-912, Korea					
	電話	+82-51-724-5201	FAX		Email	<a href="mailto:spacebae@gmail.com">spacebae@gmail.com</a>	

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、写真、音楽、演劇、文学、映像等			
	招へい人数	12人	受入期間	1-3ヶ月	
	レジデンス事業の内容	新たな表現の模索、実験的な制作を行うアーティストを対象としたプログラム。アーティストにとって最も重要な時間と場を提供することにより、成果目標ではなく、制作やリサーチの過程を重要視し、今後の表現の発展に寄与することを目的とする。シンガポールの中心部に位置し、重要な美術館、アートスペースにも隣接するため快適な都市生活と、体験が用意されている。			
受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>年齢制限:21歳以上</li> <li>受入対象国:指定なし</li> <li>若手から中堅までのキャリア</li> <li>過去に滞在経験のある者も対象とするが、初めてのアーティストを優先する</li> <li>スタジオ及び宿泊費、月額3,000シンガポールドル(約24万円)を支払うものとし、渡航費、滞在費、制作費は自己負担とする</li> <li>美術大学生で卒業までの3年以内の者は、INSTINC助成制度、500シンガポールドル(約4万円)の申請を行うことができる</li> </ul>				
選考・支援	募集方法	公募			
	支援内容	渡航費助成	滞在費助成	成果発表・オープンスタジオ	○
		制作費助成	人的サポート	○	記録集
その他の支援	展覧会等開催時の広報、オープニングパーティーの開催				
施設構成・内容	制作スタジオ	○	INSTINC STUDIOS 内スタジオ兼住居		
	展示スペース	○			
	宿泊施設	○	INSTINC SOHO 内		
その他					
周辺環境	シンガポール中心部の INSTINC SOHO、INSTINC STUDIOS を拠点とする。				
運営機関概要	URL	<a href="http://www.instinc.com/">http://www.instinc.com/</a>		事業開始年	2009年
	組織の目的・ミッション	アーティスト、シー・ユンエオ(Shih YUN YEO)により 2004年に設立されたアーティスト・ラン組織。シンガポールの新しい才能を発掘しギャラリーでの発表を行うほか、コマーシャルギャラリーとしての機能も持つ。国際的なアーティストとの共同、文化交流により現代芸術の可能性を広げるため、2009年よりレジデンス事業を開始。展覧会やワークショップ、アーティスト間やコミュニティとの対話を通して、アーティストと市民とのプラットフォームとなることを目指す。また 2011年より、絵画のコンペティション「Squares Invasion」を行い、現代絵画の発展に取り組む。			
	事業実績/成果	レズ・アルティス会員、トランス・アーティストへの登録。2011年、遊工房アートスペース(東京)との交流事業を実施。INSTINC 設立者シー・ユンエオがリサーチのための滞在を行った。 【過去の主な滞在アーティスト】 Katja PAL(スロベニア)、Paz LOPEZ(スペイン)、Hirofumi MATSUZAKI(日)、Tjasa IRIS(スロベニア)、Rune SØCHTING(デンマーク)、Zeenath HASAN(インド/スウェーデン)、Ivonne ADEL(スコットランド)、Paul CAMPBELL(米)、Katja PAL(スロベニア)、Kuros Reza NEKOUIAN(イラン/独)、Laudi ABILAMA(レバノン)、Greg PRITCHARD(豪)、Micheal AMTER(米)、Jack GAMBLE(豪)、Natalia LUDMILA(メキシコ)、Amy LIN(米)、Heidi CELEGHIN(ブラジル/米)、Alba ESCAYO(スペイン)、Kari CHOLNOKY(米)、Brooke WOLSLEY(豪)、Maiko SUGANO(日本)、HSIUNG Lu-Fang(台湾/シンガポール)			
所在地	INSTINC SOHO: Eu Tong Sen Street #04-163 soho2@central, Singapore 059819 INSTINC STUDIO: No. 21 Bukit Batok Crescent #08-83 Wcega Tower, Singapore 658065				
電話	+65-6227-9487	FAX		Email	<a href="mailto:res@instinc.com">res@instinc.com</a>

レジデンス事業の概要	対象分野	写真、映像					
	招へい人数	2-3人	受入期間	2ヶ月			
	レジデンス事業の内容	Objectifs における教育プログラムのひとつに位置づけられている。新たな作品制作と発展に取り組むアーティストを支援するとともに、地域のアートコミュニティと相互関係を結ぶ新たな環境づくりを行い、多様な文化、多様な視点をもたらすプラットフォームとなることを目指す。ポートフォリオ、制作提案書、推薦書をもとに、選考される。応募書類にはアーティストがレジデンス期間中に実施可能な講座やワークショップの案を記載する必要があり、シンガポールのコミュニティと関わり深いものであるかどうか選考上重要となる。					
受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>年齢制限: 21歳以上</li> <li>受入対象国: 指定なし</li> <li>2ヶ月間の約8割をシンガポールで過ごし、英語で会話ができること</li> <li>作品の完成は条件に含まないが、何らかの形で最終発表を行うこと</li> <li>地域のアーティストや、Objectifsの利用者たちに対するアウトリーチ活動のため、ワークショップ、トークを行うこと(最長6時間)</li> <li>滞在制作した作品のコピーを提出すること</li> </ul>						
選考・支援	募集方法	公募					
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成		成果発表・オープンスタジオ	○
		制作費助成	○	人的サポート	○	記録集	
	その他の支援	奨学金 1,000 シンガポールドル(約8万円)					
施設構成・内容	制作スタジオ						
	展示スペース	○	6m×9m(有償での貸しギャラリー、営利・非営利で価格設定)				
	宿泊施設						
	その他	セミナー室、会議室、暗室、デジタルラボ、屋上(映像上映などで利用)、ショップ					
	周辺環境	モスクや絨毯屋などが立ち並ぶアラブストリートにある					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.objectifs.com.sg">http://www.objectifs.com.sg</a>		事業開始年	2006年		
	組織の目的・ミッション	2003年設立。シンガポールの写真家、映画監督、ビジュアルアーティストを支援し鑑賞者の裾野を広げることを目指している。またシンガポールの作家の海外進出をサポートし、海外のアーティストとシンガポールのアートコミュニティやアートファンとの交流を促進する。教育プログラムとして、技術指導コースやワークショップのほか、定期的な写真展の開催や映画上映、トークイベントなどを開催し、また、外部のギャラリーや美術館、学校でのキュレーションも行う。					
	事業実績/成果	2012年までに10ヶ国23名のアーティストが滞在。40歳以下、英語圏からの応募が多い。 <b>【過去の主な滞在アーティスト】</b> 2012年: Carlo GABUCO (フィリピン)、Doni MAULISTYA (インドネシア)、Karolina BREGULA (ポーランド) 2011年: Fran Borgia (シンガポール)、Kika NICOLELA (ブラジル)、Aubrey EDWARDS (米) 2010年: Brian PALMER (米)、ANG Song Nian (シンガポール) 2009年: Jacqueline FELSTEAD (豪)、TAY Wei Leng (シンガポール)、SOHAN Ariel Hayes (シンガポール) 2008年: Yonan HAN (韓)、Luis CANTILLO (コロンビア)、Grace LEE (米) 2007年: David SCHMOELLER (米) Victric THNG (シンガポール) 2006年: Stefanny IMELDA (インドネシア)、UNG Ruey Loon (シンガポール)、Aaron WILSON (豪)、Ellery NGIAM (シンガポール)、Mingmongkul SONAKUL (タイ)、Darlene LIN (米)、Ernest GOH (シンガポール)					
	所在地	56A Arab Street, Singapore 199753					
電話	+65-6293-9782	FAX	+65-6293-9723	Email	<a href="mailto:info@objectifs.com.sg">info@objectifs.com.sg</a>		

レジデンス事業の概要	対象分野	現代版画、ペーパーワークス					
	招へい人数	6-8人	受入期間	2-4週間			
	レジデンス事業の内容	国際的に活動する優れたアーティストを招へいする滞在制作プログラム。STPI の工房を無償で貸し出し、展覧会の開催とカタログの発行、完成作品のプロモーションまで STPI が行う。					
	受入条件	STPI キュレーターにより選考、オファーが行われる。作品制作を最も重要視するため、教育プログラムの実施は義務付けない。アーティスト・トークなどは、滞在アーティストの負担にならない程度に実施する。					
選考・支援	募集方法	指名					
	支援内容	渡航費助成	○	滞在費助成	○	成果発表・オープスタジオ	○
		制作費助成	○	人的サポート	○	記録集	
		その他の支援					
施設構成・内容	制作スタジオ	○					
	展示スペース	○					
	宿泊施設	○					
	その他	-					
	周辺環境	ホテル、飲食店、外国人向け高級マンションが立ち並ぶモハメド・スルタン・ロードに立地					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.stpi.com.sg/index.php">http://www.stpi.com.sg/index.php</a>			事業開始年	2002年	
	組織の目的・ミッション	米国版画工房の発展を支えたプリンター、ケネス・タイラー (Kenneth TYLER) がシンガポール政府との協力により 2002 年に設立した版画工房兼ギャラリー。版画制作、ペーパーワークにおける優れた技術、専門性を持つ、世界中の気鋭のアーティストたちが共同し、制作することができる環境を整備。職人の技術的サポートによりアーティストの表現の幅を広げ、また同時に、アーティストの革新的なアイデアにより職人の技術の可能性を広げるという相互の対話を生み出す。版画工房として常に新しい表現と技術に挑戦し続けることと、ギャラリーとして質の高い作品のマーケティングの双方を活動の両輪とする。レジデンス事業、現代アーティストによる新作発表のほか、エデュケーションプログラムなど、新たな観客層を広げるための様々な事業を開催している。					
	事業実績／成果	STPI のアーティスト・イン・レジデンスでは 2012 年までに 61 名のアーティストが滞在している。12 名がシンガポール人、49 名が海外のアーティストで、そのうち 40 名はアジア太平洋地域の出身者である。政府の支援を受けているため、年に最低一人はシンガポールのアーティストを招待するようにしている。 これまで、リクリット・ティラヴァーニヤ (Rirkrit TIRAVANIJA)、リチャード・ディーコン (Richard DEACON)、林天苗 (LIN Tianmiao)、スー・ドーホ (Do Ho SUH)、日本からは東芋 (2010 年)、志賀理江子 (2007 年)、照屋勇賢 (2006 年) が参加。					
	所在地	41 Robertson Quay, Singapore 238236					
電話	+65-6336-3663	FAX	+65-6336-3553	Email	<a href="mailto:stpi@stpi.com.sg">stpi@stpi.com.sg</a>		

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、音楽、舞台芸術等					
	招へい人数	2人	受入期間	2年間			
	レジデンス事業の内容	シンガポールの新進芸術家による2年間のリサーチプログラム。サブステーションの中核事業に位置づけられ、現代芸術及び分野を横断する取り組みを行うアーティストを支援し、批判的、継続的なリサーチにより、シンガポールにおける現代芸術の発展と振興を目的としている。参加アーティストは、シンガポール及び周辺地域のアートシーン、社会状況を反映したプロポーザルが求められ、リサーチのプロセスにおけるワークショップ、成果発表等のため施設を使用することができ、主催者は広報、機材提供、事務的サポートを行う。					
受入条件	<b>【アソシエイト・アーティスト事業 (Associate Artists Scheme)】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 受入対象国:シンガポール国民、出生者、永住者</li> <li>● アート以外の地域コミュニティとのコラボレーションを行うこと</li> <li>● 作品完成は条件に含まない。ただし、制作プロセス、研究成果をパブリックに公開するため、パフォーマンスや講演会、ワークショップ、展示、公演などによる成果発表を段階的に行うこと</li> <li>● 2年間のレジデンス期間中のうち最低年3ヶ月、計6ヶ月はサブステーションで制作することが求められるが、同時期に他のアーティスト・イン・レジデンスに参加することも可能</li> <li>● リサーチにより収集した資料、記録を提出すること</li> </ul>						
選考・支援	募集方法	指名					
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成		成果発表・オープンスタジオ	○
		制作費助成		人的サポート	○	記録集	
	その他の支援	リサーチ費用として年間1万シンガポールドル(約 80 万円)を支給					
施設構成・内容	制作スタジオ						
	展示スペース	○	113 m <sup>2</sup>				
	宿泊施設						
	その他	劇場(最大 108 席)、ダンススタジオ(135 m <sup>2</sup> )、講義室(30 m <sup>2</sup> )×2部屋					
	周辺環境						
運営機関概要	URL	<a href="http://www.substation.org/">http://www.substation.org/</a>			事業開始年	2002 年	
	組織の目的・ミッション	1990 年に劇作家のクオ・パオクン(KUO Pao Kun)によって設立された、シンガポール初の現代芸術を中心とした非営利のインディペンデントアートセンター。1926 年に建てられた発電所をリノベーションし、伝統舞踊からロックバンド、美術家や若い詩人までの実験的なコンサート、舞台芸術、セミナー等、様々なプログラムを提供。その他、出版、国際映像祭の開催などを行っている。シンガポールにおける文化、芸術の振興のため、実験的、横断的な表現を行うアーティストを支援し、多様な芸術表現を追求し続けることを目指している。					
	事業実績／成果	2002-11 年までアソシエイト・アーティスト事業では、約 50 名のシンガポールのアーティストが参加。AARP は、さらに分野を横断するリサーチと実験的な活動を重視した事業として発展させ、2012 年に4名、現在はサポート充実のために2名を招へいしている。 <b>【過去の滞在アーティスト】</b> 2011-12 年度:ミン・プーン(Ming POON)、グレース・タン(Grace TAN)、バニ・ハイカル(Bani HAYKAL)、ヴァーティカル・サブマリン(Vertical Submarine、メンバーは Joshua YANG、Justin LOKE、Fiona KOH の3名) 2012-13 年度:ザキ・ラザク(Zaki RAZAK)、フェリシア・ロウ(Felicia LOW) 2013-14 年度:ルー・ジハン(Loo ZIHAN)、タニア・デ・ロザリオ(Tania DE ROZARIO)					
	所在地	45 Armenian Street, Singapore 179936					
電話	+65-6337-7535	FAX	+65-6337-2729	Email	<a href="mailto:admin@substation.org">admin@substation.org</a>		

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、音楽、舞台芸術、映画、デザイン等					
	招へい人数	プログラムにより異なる		受入期間	プログラムにより異なる		
	レジデンス事業の内容	<p>【クリエイティブス・イン・レジデンス (Creatives in Residence)】</p> <p>新進気鋭のアーティストとクリエイターに芸術的な戦略と技術を発展させる機会を提供し、成果物よりも研究と制作の過程を重視。舞台芸術家、美術家、デザイナー、建築家、ミュージシャン、映画監督等を対象。該当アーティストがない場合は事業を実施しない年もある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 受入対象国:シンガポール</li> <li>● 招へい人数:毎年5人程度</li> <li>● 制作費2万シンガポールドル(約160万円)を支給</li> <li>● 72-13のスペースを無料で利用</li> <li>● 滞在中に制作過程のプレゼンテーションと最終発表を行う。発表の際にはシアターワークスが舞台技術や広報、制作面でサポートする</li> </ul> <p>【アソシエイト・ディレクター・プログラム (Associate Director Program)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 受入対象国:シンガポール</li> </ul> <p>【海外アーティストを対象としたレジデンス事業】</p> <p>「プロセス・レジデンシー (Process Residency):制作過程を支援」、「プロダクト・デベロップメント・レジデンシー (Product Development Residency):作品完成を支援」、「エクスチェンジ・レジデンシー (Exchange Residency):国際交流レジデンスプログラム」などのプログラムがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 受入対象国:指定なし</li> <li>● 招へい人数:毎年2人程度</li> </ul> <p>【公募プログラム】</p> <p>シンガポールの若手アーティストを支援。非営利のイベント企画を募集。72-13 を無償で貸し出し、ワーク・イン・プログレスや公演、展覧会の会場として提供。会場費以外はアーティストが負担。</p>					
	受入条件	プログラムにより異なる					
選考・支援	募集方法	公募、指名					
	支援内容	渡航費助成	○	滞在費助成	○	成果発表・オープンスタジオ	○
		制作費助成	○	人的サポート	○	記録集	○
その他の支援	プログラムにより異なる						
施設構成・内容	制作スタジオ						
	展示スペース	○	272 m <sup>2</sup>				
	宿泊施設						
	その他	ホワイエ(160 m <sup>2</sup> 、高さ4.8m)、ホール(294 m <sup>2</sup> 、高さ7.5m、収容人数250人)					
周辺環境	ホテル、飲食店、外国人向け高級マンションが立ち並ぶモハメド・スルタン・ロードに立地						
運営機関概要	URL	<a href="http://www.theatreworks.org.sg">http://www.theatreworks.org.sg</a>			事業開始年	2006年	
	組織の目的・ミッション	1985年に設立されたカンパニー。芸術監督のオン・ケンセン氏は現代アジアのアイデンティティを描いた作品で、日本や欧米でも高く評価されている。カンパニーとしての作品を作る一方で、国内の芸術家を対象としたアーティスト・イン・レジデンスや劇作家を育成するライター・ラボ (Writers' Lab) などにも取り組み、創造活動を通じてハイブリットな現代アジアのアイデンティティと美学を探求。多様性を重視した共同制作やアーティストの支援を実施し、アートや社会に生じる格差を埋めることを目指している。					
	事業実績／成果	ドクメンタ(2002)やマニフェスタ(2008)、上海ビエンナーレ(2008)に出展した美術家、チャールズ・リム(Charles LIM)が、2008年にクリエイティブス・イン・レジデンスに参加。郊外の使われていないスカッシュ・コートスタジオに改装するプロジェクトを実施し、広くアートコミュニティの支援へとつながった。その他、ヴァーティカル・サブマリン (Vertical Submarine)、マテオ・ロペス (Mateo LÓPEZ)、マリア・ホセ・アルホナ (María José ARJONA)、ホセ・ロカ (José ROCA)、他が参加。					
	所在地	72-13 Mohamed Sultan Road, Singapore 239007					
電話	+65-6737-7213	FAX	+65-6737-7013	Email	<a href="mailto:tworks@singnet.com.sg">tworks@singnet.com.sg</a>		

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、メディアアート等					
	招へい人数	—	受入期間	3-12ヶ月			
	レジデンス事業の内容	スタジオ、滞在所を提供し、アーティストの新たな表現のための実験的な取り組みを支援。また、国内外のアーティスト、ライター、キュレーターとの対話を通して、シドニー及びニューサウスウェールズ州(以下 NSW)のアートコミュニティのハブとしての運営を目的とする。展覧会開催を目的とした招へいのほか、一般公募、文化機関との提携による公募プログラムがある。					
受入条件	<p>公開中の公募プログラムは主に下記の3つによる。その他、交換レジデンスプログラムの開催実績があり、アジアリンク・アーツ、トーキョーワンダーサイトなど、事業年によって異なる。</p> <p><b>【NSW 国際ビジュアル・アーティスト・レジデンス】</b> NSW 州政府とカナダ・カウンシルとの提携による、The Darling Foundry(モントリオール、カナダ)への派遣プログラム。受入対象者はオーストラリア NSW を拠点とするアーティスト。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パブリックプログラムへの参加をすること</li> <li>滞在期間終了後10週間以内にレポートを提出すること</li> <li>帰国後6ヶ月以内に、Art Spaceでのパブリックプログラムを行うこと</li> </ul> <p><b>【NSW 国内アーティスト・レジデンス】</b> Regional Arts NSW と Copyright Agency Cultural Fund との提携による、国内アーティスト向けプログラム。Art Space における3ヶ月の滞在制作の場を提供。受入対象者はオーストラリア国民または、NSW を拠点とするアーティスト。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>滞在期間終了後10週間以内にレポートを提出すること</li> </ul> <p><b>【公募事業】</b> 2-6ヶ月を目処に、Art Space に滞在を希望するアーティストが応募可能。期間は申し出による。受入対象者の規定はない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スタジオ兼住居は週300豪ドル(約30,000円)、スタジオは週90豪ドル(約9,000円)を支払う</li> <li>滞在費、渡航費、材料費等はすべて自己負担</li> <li>パブリックプログラム、普及プログラムへ参加すること</li> <li>Art Spaceスタッフとの協議により、展覧会、オープンスタジオを行うことが可能</li> </ul>						
選考・支援	募集方法	公募、提携機関からの受け入れ					
	支援内容	渡航費助成	○	滞在費助成	○	成果発表・オープンスタジオ	○
		制作費助成	○	人的サポート	○	記録集	○
その他の支援							
施設構成・内容	制作スタジオ	○	6部屋				
	展示スペース	○	プロジェクトルーム。展覧会の他、オープンスタジオ等にも使用				
	宿泊施設	○	スタジオ付きのレジデンス・スタジオ×4部屋				
	その他	セミナールーム					
周辺環境	シドニー港に面した元射撃訓練所の歴史的建造物を利用						
運営機関概要	URL	<a href="http://www.artspace.org.au">http://www.artspace.org.au</a>			事業開始年	1992年	
	組織の目的・ミッション	1983年設立。現代美術にフォーカスしたアートセンターとして、新たな表現活動を行うアーティストの制作の実践を通し、現代美術とは何かを定義づけることを目的とし、国際的、持続的な芸術活動支援を目指している。					
	事業実績/成果	<p>1998-2006年、シドニー・ビエンナーレとの連携により、評論家、キュレーターなどを招へいするプログラムを行い、アーティストの作品や環境の双方をリサーチしながら、シドニー・ビエンナーレ開催に有機的につながるプラットフォームを形成。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2012年の滞在アーティストはニュージーランド、台湾、韓国、英国から18名</li> <li>Sean GLADWELL(2009年)がヴェネチア・ビエンナーレに参加</li> <li>トーキョーワンダーサイトとの連携により、滞在制作による展覧会「都市のディオラマ: Between Site &amp; Space」開催(2009年3月) / 参加アーティスト: エキソニモ(日)、アレックス・ガウロンスキ(豪)、パラモデル(日)、ゲイル・プリースト(豪)、ティム・シルバー(豪)、鈴木ヒラク(日)</li> </ul>					
	所在地	43 - 51 Cowper Wharf Road, Woolloomooloo NSW 2011, Sydney, Australia					
電話	+61-2-9356-0555	FAX	+61-2-9368-1705	Email	<a href="mailto:artspace@artspace.org.au">artspace@artspace.org.au</a>		

# Bundanon Trust

オーストラリア

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、音楽、舞台芸術、文学   キュレーター、研究者、教育者等を含む				
	招へい人数	年間 300 人 (51 週間)	受入期間	6週間		
	レジデンス事業の内容	バンダノンの豊かな自然環境の中での滞在制作の場を提供。アーティストの制作プロセス及び発表を支援するとともに、芸術教育、研究の発展に寄与することを目的とする。個人のアーティスト及び団体を対象とし、新たな作品制作及び共同制作への試みに対して支援を行う。				
	受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 受入対象国: 指定なし。原住民、トレス海峡諸島在住者を推奨</li> <li>● 渡航費、滞在費等は自己負担(自国からの助成を含む)</li> <li>● スタジオ兼住居の使用料として、日額40-115豪ドル(約4,000-1万1,500円)を支払うこと(個人、グループ等によって金額を設定)</li> <li>● 作品の成果は求めない。ただし、来場者や学校機関などに対するオープンスタジオなどのパブリックプログラムの実施に協力すること</li> <li>● バンダノン、またはリバースデールの修士課程の学生を対象にしたワークショップ、シンポジウム、会議等の実施が望ましい</li> <li>● パートナー、子ども、ゲストの滞在を可能とし、費用は自己負担。ただし、他の単身滞在外のアーティストに対し配慮をすること</li> </ul>				
選考・支援	募集方法	公募				
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成	成果発表・オープンスタジオ	○
		制作費助成		人的サポート	記録集	
		その他の支援	-			
施設構成・内容	制作スタジオ	○	スタジオ兼住居及び、ダンススタジオ(約 73 m <sup>2</sup> )			
	展示スペース	○	バンダノン・コレクションによる企画展示及び滞在アーティストの展示			
	宿泊施設	○	スタジオ兼住居(一戸建コテージ)×6棟 合宿所ツインルーム×16 部屋			
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● スタジオ兼住居は音楽家向け(ベビーグランドピアノ有)、文筆家向けなどがある</li> <li>● アーサー・ボイド・スタジオ(常設展示)</li> <li>● アーサー&amp;イヴォンヌ・ボイド教育センター(カンファレンスホール、合宿所)</li> </ul>				
	周辺環境	シドニーから約2時間 30 分、11,000,000 m <sup>2</sup> の敷地を有する				
運営機関概要	URL	<a href="http://www.bundanon.com.au/">http://www.bundanon.com.au/</a>		事業開始年	1998 年	
	組織の目的・ミッション	1993 年、オーストラリアの著名な画家アーサー・ヴォイド氏と妻のイヴォンヌの所有地及びコレクションを国に寄贈。オーストラリア政府はそれらの資産をもとに「バンダノン・トラスト(Bundanon Trust)」を設立し、アートセンターとしての活動がスタートした。「自然は誰も所有することはできない」というヴォイド氏の言葉を象徴とし、豊かな自然環境を固有の財産とし、アーティストに滞在制作の場を提供するレジデンスプログラム、4,000 点余のコレクションによる企画展示のほか、音楽やダンス等の公演、教育プログラムなど、多くの人々への鑑賞、参加の機会を設けることにより、オーストラリアの芸術の発展に寄与する。				
	事業実績/成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 年間300人を超える国内外のアーティストが滞在</li> <li>● 芸術活動支援のみならず、環境保全のシンボルともされている</li> <li>● 活動全般にわたり、地域コミュニティのボランティア活動が盛んであり、バンダノン・ツアーガイド、イベントサポート、環境保全の役割を担っている</li> <li>● 日本からは土屋公雄(1998年)が滞在</li> <li>● その他、アーティストのアーカイブをウェブサイトで検索可能</li> </ul>				
	所在地	170 Riversdale Road, West Cambewarra, NSW 2540, Australia				
電話	+61-2-4422-2100	FAX	+61-2-4422-7190	Email	<a href="mailto:admin@bundanon.com.au">admin@bundanon.com.au</a>	

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、メディアアート等   キュレーターを含む					
	招へい人数	—	受入期間	2週間-3ヶ月			
	レジデンス事業の内容	海外アーティスト及びキュレーターを対象にしたレジデンスプログラム。滞在制作、リサーチの場を提供し、ガートルード・コンテンポラリー（以下、GC）及びメルボルンのアートコミュニティとの国際的な文化交流の場となることを目的とする。GC 施設内にある「スタジオ 18」がレジデンスプログラム専用のスタジオ兼住居として提供される。					
受入条件	<b>【アーティスト(公募)】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>受入対象国:指定なし</li> <li>その他:スタジオ18の使用料として週165豪ドル(約1万6,500円)を支払うほか、渡航費、滞在費、制作費はすべて自費とする</li> </ul> <b>【キュレーター(推薦)】</b> <p>レジデンスプログラムの一部は、Fire Station Artists Studios(ダブリン)、National Arts Council Singapore、Incubator(シンガポール)、Seoul Art Space(仁川)などの文化団体、組織とのパートナーシップによる運営。</p>						
選考・支援	募集方法	公募、推薦					
	支援内容	渡航費助成	—	滞在費助成	—	成果発表・オープンスタジオ	—
		制作費助成	—	人的サポート	—	記録集	
その他の支援	—						
施設構成・内容	制作スタジオ	○	スタジオ兼住居(96 m <sup>2</sup> )				
	展示スペース	○					
	宿泊施設	○	(スタジオに併設)				
	その他	—					
周辺環境	メルボルンの中心に位置し、アーティスト、専門家、美術大学生が近隣に多く居住						
運営機関概要	URL	<a href="http://www.gertrude.org.au/">http://www.gertrude.org.au/</a>		事業開始年	2003年		
	組織の目的・ミッション	ヴィクトリア州からの資金提供、施設整備の支援を得て 1985 年に設立された非営利団体。テキスタイル工場跡の建物をリノベーションし、ギャラリー、スタジオ、スタジオ兼住居を設置。アーティストの育成を中心とし、展覧会、スタジオプログラム、キュレーション、教育プログラム、出版などを通して、メルボルンの現代美術の中心として独自の活動を推進している。					
	事業実績/成果	<p>スタジオプログラムからは、オーストラリアをリードするアーティストを多数輩出し、1999 年からヴェネチア・ビエンナーレにおけるオーストラリア代表のアーティストの多くが参加。レジデンスプログラムでは、2013 年までの滞在アーティストは 48 名(組)。</p> <p><b>【過去の主な滞在アーティスト】</b></p> <p>Entang WIHARSO (インドネシア)、PART-TIME SUITE (韓)、Delcy MORELOS (コロンビア)、Junebum PARK (韓)、Eunhye CHUNG (韓)、TOM POLO (豪)、Rhona BYRNE and Mark GARRY (アイルランド)、LIU Zhouquan (中)、VERTICAL SUBMARINE (シンガポール)、LIE Kwai Fei (マレーシア)、Harrell FLETCHER (英)、Song-Ming ANG (シンガポール)、和田 昌宏 (日)、COBRA (日)、Huang XU (中)、SADIA SADIA (英)、Jesse JONES、CHICKS ON SPEED、Manuel OCAMPO (Philippines)、Marco CHIANDETTI (英)、小林 史子 (日)、Ana PRVAKI (シンガポール)、CHUN Kai Qun &amp; JOON Chunlin (シンガポール)、Shooshie SULAIMAN (マレーシア)、Tao WELLS (豪)、Jooyoung LEE (韓)、高橋匡太 (日)、高谷史郎 (日)、Sheena MCCRAE (加/英)、Heri DONO (インドネシア)、Alison KEARNEY (南アフリカ)、Brian KENNEDY (アイルランド)、PVI COLLECTIVE (豪)、Sabeen RAJA (パキスタン)、Yeb WIERSMA (蘭)、Ti PARKS (英)、Amy CHEUNG (香港)、Emily FLOYD (豪)、Ewoud VAN RIJN and Karin DE JONG (蘭)、他</p>					
所在地	200 Gertrude Street, Fitzroy VIC 3065, Australia						
電話	+61-3-9419-3406	FAX	+61-3-9419-2519	Email	<a href="mailto:info@gertrude.org.au">info@gertrude.org.au</a>		

# International Art Space Kellerberrin Australia (IASKA)

オーストラリア

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、写真、映像、メディアアート等					
	招へい人数	10-15人	受入期間	3ヶ月			
	レジデンス事業の内容	<p>「spaced: art out of place」は、IASKA が 2009 年から取り組む2ヶ年継続のレジデンスプログラム。オーストラリアと海外のアーティストが西オーストラリアの町、地域に滞在。住民との協働を通して国際性と地域性との関係性について探求するプロジェクトを2年毎に開催。滞在期間中は、展覧会、出版、ディスカッションなどを行い、オーストラリアの文化、社会、自然環境の観察にもとづき、今日世界が抱える様々な社会課題に対して問題を提起する作品を制作。科学、テクノロジー、社会運動、デザイン、建築の各領域を横断する芸術表現の実践と日常的な社会状況をつなぐことを目的とする。</p>					
受入条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>受入対象国: 指定なし(西オーストラリアを中心とするオーストラリアのほか、海外から招へい)</li> <li>その他: 公募により選考されたアーティストと受入先となる地域ホストとのマッチングを行う</li> </ul> <p><b>【受入先(地域ホスト)の条件】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アーティストとの対話に興味を持つ地域</li> <li>IASKAとの本プログラム運営に興味を持つこと</li> <li>アーティストのスタジオ、滞在所を提供できること</li> <li>プロジェクト運営にあたる人材を確保できること</li> <li>アーティストが地域で日常生活を送るための受け入れができること</li> <li>アーティストの制作にあたって必要となる資材、素材、各種メーカー、機器レンタル、人的サポートが必要な場合の手助けが行えること</li> <li>地域での広報活動を行い、IASKAに対し定期的な報告を行うこと</li> </ul>						
選考・支援	募集方法	公募					
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成		成果発表・オープンスタジオ	○
		制作費助成		人的サポート	○	記録集	○
施設構成・内容	制作スタジオ	○					
	展示スペース						
	宿泊施設	○					
	その他	-					
	周辺環境	受入ホストによって異なる					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.iaska.com.au/">http://www.iaska.com.au/</a>		事業開始年	1998年		
	組織の目的・ミッション	<p>1998年、芸術活動を通じた文化の固有性、独自性の追求を目的とし、農業に従事する人々と芸術関係者によって設立された非営利組織。ケレールベリン(Kellerberrin)及びパースを主な拠点として活動。美術、ニューメディアに焦点をあて、地域社会と環境との関係を結ぶ国際的なプログラムを実施。レジデンスプログラムを通じ、様々なロケーションでのプロジェクト、個展、グループ展、巡回展、出版、教育プログラムに取り組んでいる。現代芸術がその専門性ゆえの孤立をせず、様々な文化や社会的の中で幅広く横断的な対話に積極的に参加すべきであり、新しい素材や技術、スタイルへの実験的な取り組みだけではなく、社会的なコンテキストの中でこそ様々な発展が生まれるものであるとし、日常的な社会生活と表現活動を結びつけ、また、地域と都市部との交流に視点を置き、現代芸術のアーティストと地域コミュニティとの新たな相互関係を生みだし、多様性のある文化の発展に寄与するものとする。</p>					
	事業実績/成果	<p><b>【SPACED (2012年の滞在アーティスト)】</b></p> <p>Art Orienté objet(仏)、Julia DAVIS(豪)、Sohan Ariel HAYES and Michael WOODLEY(豪)、Nigel HELYER (豪)、Sonia LEBER and David CHESWORTH (豪)、M12 Collective(米)、Makeshift (豪)、Kate MCMILLAN (豪)、Bennett MILLER (豪)、Ritchie Ned HANSEL(インドネシア)、Wouter OSTERHOLT and Elke UITENTUIS(蘭)、Michelle SLARKE(豪)、Philip SAMARTZIS(豪)、Jakub SZCZESNY and Kaja PAWELEK(ポーランド)、Roderick SPRIGG(豪)、Takahiko SUZUKI(日本/台湾)、Mimi TONG(豪)。</p>					
所在地	204 Lord Street, Perth WA 6000, Australia						
電話	+61-8-9228-2444	FAX	+61-8-9228-2444	Email	<a href="mailto:admin@iaska.com.au">admin@iaska.com.au</a>		

レジデンス事業の概要	対象分野	美術、舞台芸術、メディアアート等					
	招へい人数	16人(2011年度実績)	受入期間	不定期			
	レジデンス事業の内容	アーティスト及びクリエイティブな創作を行う団体の共同制作プロジェクトを支援。特に、テクノロジーや様々な芸術表現を横断しながら、新しい身体表現やインスタレーションをベースとした共同制作を行うアーティスト、小規模なカンパニーを対象とし、実践的なりサーチ及び新たな作品制作の発展に寄与する。最終的な公演、展示等のプロダクションを目的とせず、制作プロセスに対する支援を行う。					
	受入条件	<b>【インデジスペース・レジデンスプログラム(公募)】</b> ・受入対象者:オーストラリア原住民 <b>【スティープン・カミンズ遺贈レジデンスプログラム(公募)】</b> 90年代にHIVで亡くなった劇作家スティープン・カミンズからの遺贈により、キャバレー等で活動するアーティストを対象としたプログラム。 <b>【オープン・レジデンスプログラム(指名)】</b> 分野は問わず。シドニー大学、NSW大学、クリティカルパスとのパートナーシップにより実施。					
選考・支援	募集方法	公募、指名					
	支援内容	渡航費助成		滞在費助成		成果発表・オープンスタジオ	○
		制作費助成		人的サポート	○	記録集	
その他の支援	各年の財政状況により異なる						
施設構成・内容	制作スタジオ	○	キャリッジワークス内の大小のシアター、リハーサルスタジオを共有				
	展示スペース	○					
	宿泊施設						
	その他	-					
	周辺環境	NSW政府によって整備された芸術複合施設「キャリッジワークス(Carriage Works)」を拠点とし、パフォーミングアーツに関連する芸術団体、組織が同じく入居している					
運営機関概要	URL	<a href="http://www.performancespace.com.au/">http://www.performancespace.com.au/</a>			事業開始年	-	
	組織の目的・ミッション	1983年、従来の劇場形式にとらわれない実験的なパフォーマンス作品を上演する非営利団体。2007年、NSW政府により再開された、かつての鉄道車両工場の巨大な建物をリノベーションしたキャリッジワークスに移転。同施設内には、大小の劇場、プロジェクトスペース、レストランがあり、キャリッジワークスにおける自主事業のほか、同施設内に入居する組織、団体などとスペースを共有しながら活動が行われている。公演、プロジェクト、レジデンスプログラムを通じて、新たな表現の発展、特にジャンルを横断した共同制作へ寄与。また、劇場以外での様々な活動を展開し、実験的で多様な表現を支援することにより、国内外における新たな観客層を発掘し、アーティストの表現とアートコミュニティをつなぐ場を目指している。NSW内の舞台芸術のネットワーク組織、Performing Line、Mobile Statesの会員。					
	事業実績／成果おもな招へいアーティスト	2009年「TransLab」、2011年「IN RESIDENCE 2011」などのAIRプログラムを実施。 <b>【IN RESIDENCE 2011(滞在アーティスト)】</b> 11名(組):Georgie READ、Applespiel、David LAWREY and Jaki MIDDLETON、Andrea JAMES、Justin SHOULDER、Martin DEL AMO、Island Exile Collective、Peta CLANCY and Helen PYNOR、The Whale Chorus、Team Mess、Toby KNY					
	所在地	Carriageworks Level 3, 245 Wilson Street, Eveleigh, NSW 2015, Sydney, Australia					
	電話	+61-2-8571-9111	FAX	+61-2-8571-9118	Email	<a href="mailto:admin@performancespace.com.au">admin@performancespace.com.au</a>	



資料編

# 第4部

海外のアーティスト・イン・レジデンス一覧



報告書「第2部」に記述したように、本調査研究では11ヶ国37件の海外の主要なアーティスト・イン・レジデンスの現地訪問調査を実施した。その際、3つのステップによって調査先の選定を行ったが、その際に作成した一次リストのアーティスト・イン・レジデンスも、日本のアーティストが海外のアーティスト・イン・レジデンスの申請を検討する際に参考となることがと考えられるため、ここでは、それら263件を対象に、都市、実施機関、芸術分野、支援内容等の項目を整理・分類して、表形式のデータ集にまとめた。

一覧にまとめたアーティスト・イン・レジデンスの各国別件数は、以下の通りである。

国名	件数
英国	23件
ドイツ	30件
フランス	31件
オランダ	26件
ベルギー	3件
イタリア	2件
スペイン	1件
スウェーデン	2件
フィンランド	1件

国名	件数
デンマーク	1件
ハンガリー	1件
米国	61件
カナダ	23件
中国	25件
韓国	11件
シンガポール	8件
オーストラリア	14件
計	263件

英国 23件

都市名	実施機関名	芸術分野									支援内容					情報ソース	詳細情報	
		美術	音楽	演劇	舞踊	文学	映画映像	メディア	デザイン	工芸	研究	招へい期間	渡航費	滞在費	制作費			スタジオ等
Manchester	Abandon Normal Devcies		△	△	△	△	○	○				1-3ヶ月	○	△	△	-	R	
London	Acme Studios	○	○	○	○	○	○	○	○			1-3ヶ月			-	-	R	
Jersey [Islands]	Archisle	△										6ヶ月	○	○	○	○	C	
Manchester	Art Funkl	○						○				1-3ヶ月		△	-	-	R	
London	Arvon Foundation					○						1週間			-	-	R	
Machynlleth [Wales]	Centre for Alternative Technology						○	○				12ヶ月	△	△	△	-	C	
Cove [Scotland]	Cove Park	○	○	○	○	○		○	○	○		1週間-3ヶ月	-	-	-	-	美	資p151
London	Delfina Foundation	○						○		○		3ヶ月	○	○	○	○	美	本p71 資p152
London	Design Museum								○			-	-	-	-	-	C	
Belfast [N Ireland]	Digital Arts Studios	○					○	○				1-3ヶ月			△	○	R	
Cardiff [Wales]	Fireworks Clay Studios									○		-	○	○		-	X	資p153
London	Fountain	○						○				-	-	-	-	-	C	
London	Gasworks	○						○		○		3ヶ月	○	○	○	○	美、世	本p78 資p154
Lake District	Grizedale Arts	○										-	-	-			美、世	
Newcastle	ISIS Arts	○						○				3週間	-	-	-	○	R、C	資p155
Southend on Sea, Liverpool	Metal	○	○	○	○	○	○	○	○	○		-	-	-	-	-	X	資p156
London	Natural History Museum	○						○	○			3ヶ月	○	○	○	○	C	
Lybster	North Lands Creative Glass									○		6週間-8週間	○	○		○	C	資p157
Bristol	Spike Island	○					○	○	○			-	-	-	-	-	美	
Norwich	University of East Anglia					○						-	-	-	-	-	C	
London	Victoria and Albert Museum	○	○						○	○		6ヶ月	△	△	△	○	R、C	
Cardiff [Wales]	Wales Arts International	○	○	○	○	○	○	○	○			-	-	-	-	-	R	
Lake District	Wordsworth Trust					○						10ヶ月		○		-	C	資p158

情報ソース略称：R: ResArtis、C: Culture 360°、M: Onthe Move、美: 美術手帖、世: 世界のAIR、B: BankART、A: Alternative、X: その他の情報ソース  
 詳細情報略称：本: 本編、資: 資料編

ドイツ 30件

都市名	実施機関名	芸術分野									支援内容					情報ソース	詳細情報	
		美術	音楽	演劇	舞踊	文学	映画映像	メディア	デザイン	工芸	研究	招へい期間	渡航費	滞在費	制作費			スタジオ等
Weimar	ACC Galerie Weimar	○						○				4ヶ月	△	△	-	-	C	
Berlin	Agora Collective e.V.	○										-	-	-	-	-	R	
Stuttgart	Akademie Schloss Solitude	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3-12ヶ月	○	○		○	R、C、美	本p85 資p159	
Bielefeld	Artists Unlimited	○						○			3ヶ月		△	△	○	世		
Berlin	DOCK 11 GmbH and EDEN*****				○						-	-	-	-	-	R		
Berlin	GlogauAIR	○	○			○	○	○		○	3-6ヶ月			-	-	R、世		
Leipzig	HALLE 14 – Center for Contemporary Art	○						○			-	-	-	-	-	M		
Wiesbaden	Hessische Kulturstiftung	○						○			-	-	-	-	-	R		
Düsseldorf	Institute for Research in Applied Arts								○		1-3ヶ月			-	-	R		
Essen	International Artist-in-Residence Program of the RWE Foundation	○					○	○			3ヶ月	○	○	○	-	M	資p160	
Bamberg	Internationales Künstlerhaus Villa Concordia	○	○			○					6-12ヶ月			-	-	R		
Hamburg	K3 – Centre for Choreography				○						8ヶ月		○	○	○	C	資p161	
Western Muensterland	Kuenstlerdorf Schoeppingen	○	○			○		○			4ヶ月	△	△	-	△	C		
Berlin	Künstlerhaus Bethanien	○						○			12ヶ月				○	美、B	本p92 資p162	
Dortmund	Künstlerhaus Dortmund	○					○	○			6-8週間	○	○	○	○	R、C、世	資p164	
Bad Ems	Künstlerhaus Schloss Balmoral	○					○	○			3ヶ月、6ヶ月		○		○	R、C	資p165	
Worpswede	Künstlerhäuser Worpswede	○	○			○	○	○			1-3ヶ月			-	-	R		
Berlin	Kunst-Werke	○						○			-	-	-	-	-	美		
Leipzig	LIA – Leipzig International Art Programme	○									3ヶ月、6ヶ月				○	R	資p166	
Kühlungsborn	Mecklenburg Inspires	○	○	○	○	○	○	○		○	2ヶ月	-	○	-	○	C		
Berlin	Node Center for Curatorial Studies	○								○	3ヶ月				○	R	本p106 資p167	
Dusseldorf and Essen	NRW KULTUR SEKRETARIAT	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	C		
Essen	PACT Zollverein			○	○			○			2週間-4ヶ月	○	○	△	○	M	本p100 資p168	
Bröllin	Schloss Bröllin International Art Research Location			○	○						1-3ヶ月				○	R	資p169	
Plüschow	Schloss Plüschow, Mecklenburgisches Künstlerhaus	○									1-3ヶ月			-	-	R		
Berlin Friedrichshai	Takt Kunstprojektraum A.I.R. Berlin	○	○	○	○	○	○	○		○	1-3ヶ月			-	-	R		
Düsseldorf	tanzhaus nrw			○							-	-	-	-	○	C		
Berlin	ufaFabrik Berlin International Cultural Centre			○	○						-	-	-	-	-	R		
Weimar	Weimarer Sommerkurse	○	○	○	○	○	○	○		○	-	-	-	-	-	C		
Berlin	ZK/U – Zentrum für Kunst und Urbanistik	○	○			○	○	○		○	1-12ヶ月			-	-	R		

情報ソース略称: R: Res Artis, C: Culture 360°、M: On the Move、美: 美術手帖、世: 世界のAIR、B: BankART、A: Alternative、X: その他の情報ソース  
 詳細情報略称: 本: 本編、資: 資料編

フランス 31件

都市名	実施機関名	芸術分野									支援内容					情報ソース	詳細情報	
		美術	音楽	演劇	舞踊	文学	映画映像	メディア	デザイン	工芸	研究	招へい期間	渡航費	滞在費	制作費			スタジオ等
Vallauris	A.I.R. Vallauris	○					○	○	○			1-2ヶ月				-	R	
Ségry	ABBAYE DE LA PREE - Association Pour Que l'Esprit Vive -	○	○			○	○					11ヶ月				-	R	
Midi-Pyrénées	AIR le PARC project and research centre	○	○	○	○	○	○	○				2週間-3ヶ月				○	R	
Montbel	artistay, artists in residence	○	○	○	○	○	○	○				2週間				-	R	
—	Association des Centres culturels de rencontre	○	○	△		○	○	○		○		1-6ヶ月	○	△	△	-	C	
Les Arques	Les Ateliers des Arques	○				○		○	○			2ヶ月			△	-	世	
Aureille	Les Ateliers Fourwinds	○										1-6ヶ月				-	R	
Montcabrier	Atelier de la Rose	○				○						1-6週間				-	R	
Paris	Beaux-arts de Paris - Ecole nationale supérieure	○						○				9ヶ月	-	-	-	-	世	
Lyon	La Biennale de Lyon	○			○							2週間、1ヶ月	○	○	○	○	X	本p135 資p170
Betchat	Bordeneuve	○	○	○	○	○	○	○		○		2週間-3ヶ月				○	R	
Marnay-sur-Seine	CAMAC (Centre d'art - Marnay Art Centre)	○	○	○	○	○	○					-	△	△	△	○	R、世	資p171
Cassis	The Camargo Foundation	○	○			○	○	○		○		-				○	R	
Montpellier	Centre Choreographique National Montpellier Languedoc-Roussillon				○							1週間-4週間				○	X	資p172
Paris	Centre international d'accueil et d'Échanges des Récollets	○		○	○	○						3ヶ月		○		○	C、美	本p122 資p173
Angers	Centre National de Dance Contemporaine - Angers				○							-		○	○	○	X	資p174
Paris	Cité Internationale des Arts	○	○			○	○	○				2-12ヶ月				○	美	本p113 資p175
Caylus	DRAWinternational	○										1-3ヶ月				○	R	
Paris	La Fabrique européenne des traducteurs			△		○				○		-	-	-	-	-	M	
Dunkirk	FRAC Nord-Pas de Calais	○								○		12ヶ月	-	-	-	-	C	資p177
Paris	La Galerie Contemporary Art Centre	○								○		-	-	-	-	-	C	
Sancy	Horizons - Arts in Nature	○										-	-	-	-	-	C	
Pontlevoy	Maison Clergeau studio/apartment	○	○	○	○	○	○	○				1週間-6ヶ月				-	R	
Poncé sur le Loir	Les Moulins de Paillard Centre d'Art Contemporain	○						○				-	-	-	-	-	R	
Labastide Esparracien	La Muse Writers' & Artists' Retreat	○	○	○		○	○	○				1週間				-	R	
Chalon-sur-Saône	Nicephone Niepce Museum	○										3ヶ月		○	○	-	C	資p178
Noyers sur Serein	La Porte Peinte Centre pour les Arts	○	○	○	○	○	○	○		○		2週間-6ヶ月				-	R	
Lyon	Les Subsistances			○	○							2週間-1ヶ月			○	○	X	本p128 資p179
Paris	Terra Foundation for American Art	○								○		8週間	○	△	△	○	M	
Vallauris	Vallauris Institute of Arts (V.I.A.)	○								○		4-6週間				-	R	
Saint-Jans-Cappel	Villa Marguerite Yourcenar					○						-	△	△	△	-	C	

情報ソース略称: R: ResArtis、C: Culture 360°、M: Onthe Move、美: 美術手帖、世: 世界のAIR、B: BankART、A: Alternative、X: その他の情報ソース  
 詳細情報略称: 本: 本編、資: 資料編

オランダ 26件

都市名	実施機関名	芸術分野									支援内容					情報ソース	詳細情報		
		美術	音楽	演劇	舞踊	文学	映画映像	メディア	デザイン	工芸	研究	招へい期間	渡航費	滞在費	制作費			スタジオ等	
Amsterdam	Agentur	○						○			○	—	—	—	—	—	世		
Amsterdam	De Appel Arts Centre	○									○	10ヶ月					X	本p152 資p180	
Enschede	ARE (Artist Residencies Enschede)	○						○				3ヶ月	△	△	—	—	R、世		
Delft	Art Initiative id 11	○						○				1ヶ月			△	—	世		
Amsterdam	De Atelier	○										2年		○		○	世	資p181	
Starnmeer	Buitenwerkplaats	○	○	○	○	○	○	○				6ヶ月				—	R		
Den Haag	De DCR Den Haag	○						○				2週間— 3ヶ月					—	世	
Rotterdam	Het Wild Weten	○						○				3週間					—	世	
Hoorn	Hotel Mariakapel	○						○				—	○		○	○	R、C	資p182	
Amsterdam	ICK – International Choreographic Arts Center Amsterdam				○							—	—	—	—	—	M、A	資p183	
Maastricht	Jan van Eyck Academie	○							○	○		—		○	○	○	R、美	資p184	
Beetsterzwaag	Kunsthuis SYB	○						○				—				—	世		
Tilburg	Nederlands Instituut voor Animatiefilm						○					—	—	—	—	—	R		
Amsterdam	Nederlands Instituut voor Mediakunst Montevideo							○				—	—	—	—	—	世		
Renkum	OBRAS Holland	○				○			○			1—3ヶ月				—	R		
Amsterdam Zuidoost	Open Ateliers Zuidoost Artist in Residence (OAZO-AIR)	○	○	○	○	○	○	○	○	○		6—12週間				○	R		
Eindhoven	De Overslag	○						○				—	—	—	—	—	世		
Rotterdam	RAiR	○						○				—	—	—	—	—	R		
Amsterdam	Rijksakademie van Beeldende Kunsten	○						○				1年、2年		○	○	○	R、C、 美、世	本p145 資p185	
Amsterdam	Smart Project Space	○					○	○				—	—	—	—	—	A		
Nijeveen	Stichting KiK	○						○				8週間				○	世		
Arnhem	Stichting Atelierbeheer Slak											—	—	—	—	—	R		
Rotterdam	Stichting Kaus Australis	○										3—4ヶ月				—	世		
Hertogenbosch	sundaymorning@ekwc									○		3ヶ月	○	○	○	○	R	本p157 資p187	
Amsterdam	Thami Mnyele Foundation	○										3ヶ月	○	○	○	—	R		
Amsterdam/Zaandam	VRIJ GLAS Foundation – glass residencies								○	○		1日— 3ヶ月	—	—	—	—	R		

情報ソース略称：R:ResArtis、C: Culture 360°、M:Onthe Move、美:美術手帖、世:世界のAIR、B:BankART、A: Alternative、X: その他の情報ソース  
 詳細情報略称：本:本編、資:資料編

ベルギー 3件

都市名	実施機関名	芸術分野									支援内容					情報ソース	詳細情報	
		美術	音楽	演劇	舞踊	文学	映画映像	メディア	デザイン	工芸	研究	招へい期間	渡航費	滞在費	制作費			スタジオ等
Brussels	Kaaitheater			○	○							4年			△	○	X	本p165 資p188
Brussels	WIELS	○						○				1年				○	X	本p179 資p189
Brussels	workspacebrussels				○							2週間－ 6ヶ月			△	○	X	本p171 資p190

イタリア 2件

都市名	実施機関名	芸術分野									支援内容					情報ソース	詳細情報	
		美術	音楽	演劇	舞踊	文学	映画映像	メディア	デザイン	工芸	研究	招へい期間	渡航費	滞在費	制作費			スタジオ等
Umbertide	Civitella Ranieri Center	○	○			○	○					6週間				○	X	資p191
Biella	UNIDEE in Residence International Programme, Cittadellarte	○						○	○		○	4ヶ月				○	X	資p192

スペイン 1件

都市名	実施機関名	芸術分野									支援内容					情報ソース	詳細情報	
		美術	音楽	演劇	舞踊	文学	映画映像	メディア	デザイン	工芸	研究	招へい期間	渡航費	滞在費	制作費			スタジオ等
Barcelona	Hangar	○						○				1週間－ 3ヶ月				○	X	資p193

スウェーデン 2件

都市名	実施機関名	芸術分野									支援内容					情報ソース	詳細情報	
		美術	音楽	演劇	舞踊	文学	映画映像	メディア	デザイン	工芸	研究	招へい期間	渡航費	滞在費	制作費			スタジオ等
Göteborg	Konstepidemin	○	○	○	○	○	○	○	○	○		1－6ヶ月	－	－	－	○	X	資p194
Stockholm	IASPIS	○						○	○	○	○	－	○	○		○	X	資p195

フィンランド 1件

都市名	実施機関名	芸術分野									支援内容					情報ソース	詳細情報	
		美術	音楽	演劇	舞踊	文学	映画映像	メディア	デザイン	工芸	研究	招へい期間	渡航費	滞在費	制作費			スタジオ等
Helsinki	Helsinki International Artist Programme (HIAP)	○		○	○	○		○			○	1－3ヶ月	－	－	－	○	X	資p196

デンマーク 1件

都市名	実施機関名	芸術分野									支援内容					情報ソース	詳細情報	
		美術	音楽	演劇	舞踊	文学	映画映像	メディア	デザイン	工芸	研究	招へい期間	渡航費	滞在費	制作費			スタジオ等
Skælskør	Guldagergaard International Ceramic Research Center									○		1－6ヶ月				○	X	資p197

ハンガリー 1件

都市名	実施機関名	芸術分野									支援内容					情報ソース	詳細情報	
		美術	音楽	演劇	舞踊	文学	映画映像	メディア	デザイン	工芸	研究	招へい期間	渡航費	滞在費	制作費			スタジオ等
Kápolna	Kecskeméti Contemporary Art Studios/International Ceramics Studio									○		－				○	X	資p198

情報ソース略称: R: ResArtis、C: Culture 360°、M: Onthe Move、美: 美術手帖、世: 世界のAIR、B: BankART、A: Alternative、X: その他の情報ソース

詳細情報略称: 本: 本編、資: 資料編

米国 61件

都市名	実施機関名	芸術分野									支援内容					情報ソース	詳細情報
		美術	音楽	演劇	舞踊	文学	映画映像	メディア	デザイン	工芸	研究	招へい期間	渡航費	滞在費	制作費		
Santa Monica	18th Street Arts Center	○						○		○	1-3ヶ月	-	-	-	-	R、世	資p199
Paducah	A.I.R. Studio Paducah	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1-3ヶ月			-	-	R	
Providence	Alliance of Artist Communities	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	R	
Snowmass Village	Anderson Ranch Arts Center	○						○		○	10週間		○		○	X	資p200
New York	apexart	○						○		○	1ヶ月	○				美、世	本p195 資p201
Helena	Archie Bray Foundation for the Ceramic Arts									○	1ヶ月-2年	-	-	-	○	X	資p202
New York	The Arctic Circle	○	○	○	○	○	○	○			3週間	-	-	-	-	R	
Marquette	Art Farm	○				○		○			1-3ヶ月			-	○	R	
New York	The Art Students League of NY (Vytlačil Campus)	○						○			4-8週間			-	○	R	資p203
Arizona	ASU Art Museum International Artist Residency Program	○	○		○	○	○	○	○	○	1-3ヶ月	○	○	○	-	R	
Florida	Atlantic Center for the Arts	○		○	○	○					3週間				-	M	
Hot Springs	AZULE	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1-3週間			-	-	R	
Omaha	Bemis Center for Contemporary Arts	○						○	○		3ヶ月			-	-	R	
Portland	Caldera	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1ヶ月			-	-	R	
Marfa	The Chinati Foundation	○						○		○	2-3ヶ月	△		△	-	世	
Los Angeles	City of Los Angeles, Dept. of Cultural Affairs	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	R	
Ohio	The Cleveland Foundation: Creative Fusion International Artist in Residence Program	○	○	○	○	○	○	○	○		3-6ヶ月	○	○	-	-	R	
Arvada	Colorado Art Ranch	○	○	○	○	○	○	○			1週間	-	-	△	-	R	
Acton	Contemporary Arts International	○									-			-	-	R	
Woodside	Djerassi Resident Artists Program	○	○		○	○		○			1ヶ月		○		○	R	資p204
Paonia	Elsewhere Studios	○	○			○		○	○		1-3ヶ月			-	-	R	
Boston	Emmanuel College Artist Residency	○						○	○		1-3ヶ月	○		○	-	R	
Philadelphia	The Fabric Workshop and Museum	○							○		-	-	-	-	-	X	資p205
Iowa City	The Grant Wood Arts Colony	○									12ヶ月			-	-	R	
Connecticut	The Griffis Art Center / Maison des Artistes	○						○			5ヶ月	-	-	-	-	R	
Iowa	Grin City Collective	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2週間			-	-	R	
Leavenworth	Grünewald Guild	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1-12ヶ月		-	-	-	R	
New York	Harvestworks		○					○			1年		-	○	-	世	
Leonardsville	The Horned Dorset Colony	○	○			○		○			-	-	-	-	-	R	
Bloomington	Indiana University Program for International Visiting Artist-in-Residence	○						○	○		1-3ヶ月		○	○	-	R	資p206
Indianapolis	Indianapolis Museum of Art	○		○	○			○	○		6週間	-	-	-	-	M	
New York	The International Studio & Curatorial Program	○						○		○	3-6ヶ月				○	M、世	本p185 資p207

都市名	実施機関名	芸術分野									支援内容					情報ソース	詳細情報	
		美術	音楽	演劇	舞踊	文学	映画映像	メディア	デザイン	工芸	研究	招へい期間	渡航費	滞在費	制作費			スタジオ等
Bellaire	ISLAND	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			△	-	-	R	
Barkley	Kala Art Institute	△						○							-	-	R、世	
Kansas City	Kansas City International Artists Residency Program	○													-	-	R	資p208
New York	Location One	○		○	○	○									-	-	X	資p209
New York	Lower Manhattan Cultural Council Workspace	○		○	○	○		○									世	資p210
Charlotte	McColl Center for Visual Art	○		△	△		○	○	○					○	○	○	R、M	
Peterborough	The MacDowell Colony	○	○	○	○	○	○	○	○						△	-	R	
New York	New York Art Residency & Studios Foundation	○								○					-	-	X	資p212
Milton	North/South Artists	○													-	-	R	
Ghent	Omi International Art Center	○	○		○	○		○	○							-	世	
New Hampton	Pequignot Palace	○	○	○	○	○	○	○	○	○					-	-	R	
Minneapolis	The Playwrights' Center			○											○	-	X	資p213
Brooklyn	Point B Worklodge NY	○				○		○							-	-	世	
Peoria	Prairie Center of the Arts	○				○		○	○						-	-	R	
Los Angeles	RAID Projects	○					○	○									R	
Brooklyn	Residency Unlimited	○						○		○							R	資p214
Saratoga	Sally and Don Lucas Artists Programs at Montalvo Art Center	○								○					-	-	R	
New Berlin	The Sam and Adele Golden Foundation for the Arts, Inc.	○	○	○	○	○	○	○	○	○					-	-	R	
Utica	Sculpture Space, Inc.	○													○	○	R	
Kittery Point	Seapoint International Artist Residency	○	○	○	○	○	○	○	○	○					-	-	R	
New York	Skowhegan School of Painting & Sculpture	○						○						○			R、美	
Eastport	Tides Institute and Museum of Art - StudioWorks Artist in Residency Program	○						○							-	-	R	
Boston	Trans Cultural Exchange	○						○							-	-	R	
New York	Triangle Arts Association	○						○							-	-	世	資p215
Vermont	Vermont Studio Center	○				○											R、世	資p216
Virginia	Virginia Center for the Creative Arts	○	○			○									-	-	X	資p217
Wassaic	The Wassaic Artist Residency	○	○	○	○	○	○	○	○						-	-	R	
Wilton	Weir Farm Art Center	○													-	-	R	
New York	Whitney Independent Study Program	○								○					-	-	美、世	

情報ソース略称: R: ResArtis、C: Culture 360°、M: Onthe Move、美: 美術手帖、世: 世界のAIR、B: BankART、A: Alternative、X: その他の情報ソース  
 詳細情報略称: 本: 本編、資: 資料編

カナダ 23件

都市名	実施機関名	芸術分野										支援内容					情報ソース	詳細情報
		美術	音楽	演劇	舞踊	文学	映画映像	メディア	デザイン	工芸	研究	招へい期間	渡航費	滞在費	制作費	スタジオ等		
Toronto	Artscape Lodge at Artscape Gibraltar Point	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1週間			-	-	R	
Alberta	The Banff Centre	○	○	○	○	○	○	○		○	○	-	-	-	-	○	R	本p210 資p218
Christophe-Colomb Est	La Chambre Blanche	○						○				6週間	△	○		○	X	資p219
Kitchener	CHRISTIE - CAFKA ARTIST IN RESIDENCY PROGRAM							○				2-12ヶ月	○	○		○	X	資p220
Ontario	Contemporary Art Forum Kitchener and Area (CAFKA)	○						○			○	3-12ヶ月	○	○	-	-	R	
Québec	Coopérative Méduse	○		△	△		○	○				1週間	-	-	-	-	R	
Trois-Rivières	Dragon Dance Artist Residency	○	○	○	○	○		○				1-3ヶ月	-	-	-	-	R	資p221
Saint-Jean-Port-Joli	Est-Nort-Est, résidence d'artistes	○				○		○			○	1-3ヶ月		○		○	R	資p222
Montreal	Fonderie Darling	○									○	-	-	-	-	○	X	資p223
Grates Cove	Grates Cove Studios	○			○						○	1-12ヶ月			-	-	R	
Blairmore	Gushul Studio	○						○				1-3ヶ月			-	-	R	
Val-David, Quebec	International Writers' and Artists' Residency-Val-David	○	○	○	○	○		○	○			1ヶ月	-	-	-	-	R	資p225
Winnipeg	Mentoring Artists for Women's Art	○										2週間		-	-	-	R	
Montreal	Musique Multi-Montreal		○									3ヶ月	○	○	-	-	X	資p226
Calgary	The New Gallery	○	○					○				1週間			-	○	R	
Vancouver	The Only Animal / Joe Creek Artist Retreat			○								1-4週間		△	-	-	R	
Ottawa	Platform Gallery and Studios	○										1ヶ月			-	-	R	
Montreal	PRIM						○	○				3-12ヶ月	-	-	-	○	X	本p205 資p227
Alberta	Red Deer College	○										1-3ヶ月	-	-	-	-	R	
Ontario	Small Pond Arts	○	○	○	○	○	○	○				1週間			-	-	R	
Picton	Spark Box Studio	○				○					○	1週間			-	△	R	
Toronto	Toronto School of Art	○						○				1-12ヶ月			-	-	R	
North Bay	White Water Gallery	○	○	○	○	○	○	○		○		1週間	-		-	-	R	

情報ソース略称: R: ResArtis、C: Culture 360°、M: Onthe Move、美: 美術手帖、世: 世界のAIR、B: BankART、A: Alternative、X: その他の情報ソース

詳細情報略称: 本: 本編、資: 資料編

中国 25件

都市名	実施機関名	芸術分野									支援内容					情報ソース	詳細情報	
		美術	音楽	演劇	舞踊	文学	映画映像	メディア	デザイン	工芸	研究	招へい期間	渡航費	滞在費	制作費			スタジオ等
Beijing	Arrow Factory	○		○	○							—	—	—	—	—	X	本p239 資p228
Hong Kong	Artist Commune	○										—	—	—	—	—	A	
Beijing	Beijing Studio Center	○		△	△	○			○		○	2ヶ月			—	—	世	
Shanghai	BizArt Art Space	○										—	—	—	—	—	A	
Beijing	China Art Seasons	○										—	—	—	—	—	A	
Fujian Province	Chinese European Art Center	○	○			○			○			—			—	△	R	
Kunming	Contemporary Yunnan (943 Studio)	○	○	○	○	○	○	○	○		○	1ヶ月					R	
Beijing	Dongdong & Lulu Artist Residency	○	○	○	○	○	○	○	○		○	1-3ヶ月			—	—	R	
Shanghai	Factory	○							○			—	—	—	—	—	世	
Shanghai	Fellini Gallery	○							○			—	—	—	—	—	世	
Guangzhou	Guangzhou 53 Art Museum	○	○				○	○	○			2週間	—	—	—	—	R	
Beijing	Imagine Gallery	○							○		○	1-3ヶ月			—	—	R	
Shanghai	Island 6	○							○			—	—	—	—	—	C、世	
Beijing	Living Dance Studio (CCD Workstation)			○	○		○					—	—	—	—	—	X	資p229
Shenzhen	OCT Contemporary Art Terminal	○							○			3ヶ月	○	○	○	○	R、世	
Shanghai	Office 339	○							○			—	—	—	—	—	世	
Beijing	La Plantation	○	○	○	○	○	○	○	○		○	—	—	—	—	—	R	
Beijing	Platform China	○		○	○						○	1-3ヶ月				○	世	本p236 資p230
Beijing	Red Gate Gallery / Red Gate Residency	○							○		○	1-3ヶ月				○	R、世、A	本p229 資p231
Lijiang	Rhizome - Lijiang art center	○	○	○	○	○	○	○	○		○	1-3ヶ月			—	—	R	
Shanghai	Swatch Art Peace Hotel	○	○	○	○	○	○	○	○		○	1-6ヶ月	○	○		○	C、M	資p232
Beijing	Three Shadows Photography Art Center	○					○					3週間-5ヶ月		○	○	○	世	本p232 資p233
Hong Kong	Videotage						○	○			○	—	—	—	—	—	世	資p234
Beijing	Vitamin Creative Space / The Pavilion	○										—	—	—	—	—	X	本p242 資p235
Guangzhou	Vitamin Creative Space	○										—	—	—	—	—	A	

情報ソース略称: R: Res Artis、C: Culture 360°、M: On the Move、美: 美術手帖、世: 世界のAIR、B: BankART、A: Alternative、X: その他の情報ソース  
 詳細情報略称: 本: 本編、資: 資料編

韓国 11件

都市名	実施機関名	芸術分野									支援内容					情報ソース	詳細情報	
		美術	音楽	演劇	舞踊	文学	映画映像	メディア	デザイン	工芸	研究	招へい期間	渡航費	滞在費	制作費			スタジオ等
Gwangju	Asian Arts Theater			○								—	—	—	○		C	
Ansan-si, Gyeonggi-do	GCC(Gyeonggi Creation Center)	○		○	○	○		○	○		○	3-6ヶ月	○		○	○	R、C、M	資p236
Incheon	Incheon Art Platform	○		○	○	○		○			○	12ヶ月	○		○	○	R	本p267 資p237
Seoul	Korea Seoul Art Space_Geumcheon	○					○				○	3-6ヶ月	○	○	○	○	R、B	本p254 資p238
Seoul	Korea Seoul Art Space_Munre	○		○	○		○	○				—	—	—	—	○	X	本p260 資p239
Seoul	Mullae Artist Village	○			○			○				—	—	—	—	—	B	
Goyang-si, Gyeonggi-do	The National Art Studio Changdong & Goyang	○						○				12ヶ月	○	○	○	○	R、C、A	資p240
Busan	OpenSpace Bae	○		○	○			○			○	2-5ヶ月	○	○	○	○	B	資p241
Seoul	SeMA Nanji Residency	○						○				3ヶ月	○	—	—	○	R	
Seoul	Seoul International Dance Festival				○							6ヶ月	—	—	—	—	C	
Incheon	Space Beam	○								○	○	2ヶ月	○	○	○	○	C	

情報ソース略称：R: ResArtis、C: Culture 360°、M: Onthe Move、美: 美術手帖、世: 世界のAIR、B: BankART、A: Alternative、X: その他の情報ソース  
 詳細情報略称：本: 本編、資: 資料編

シンガポール 8件

都市名	実施機関名	芸術分野									支援内容					情報ソース	詳細情報	
		美術	音楽	演劇	舞踊	文学	映画映像	メディア	デザイン	工芸	研究	招へい期間	渡航費	滞在費	制作費			スタジオ等
Singapore	The Art Gallery @ NIE (National Institute of Education)	○										—	—	—			A	
Singapore	Instinc Air	○	○	○		○	○	○				1-3ヶ月				○	R	資p242
Singapore	National University of Singapore					○						12ヶ月	○	○	○		C	
Singapore	Objectifs	○					○	○				2ヶ月			○		C	本p299 資p243
Singapore	Sculpture Square Gallery	○										—	—	—			A	
Singapore	Singapore Tyler Print Institute (STPI)	○										2-4週間	○	○	○	○	X	本p294 資p244
Singapore	Substation	○	○	○	○							2年				○	X	本p277 資p245
Singapore	Theater Works	○	○	○	○		○		○			—	○	○	○	○	X	本p286 資p246

情報ソース略称：R: ResArtis、C: Culture 360°、M: Onthe Move、美: 美術手帖、世: 世界のAIR、B: BankART、A: Alternative、X: その他の情報ソース  
 詳細情報略称：本: 本編、資: 資料編

オーストラリア 14件

都市名	実施機関名	芸術分野									支援内容					情報ソース	詳細情報	
		美術	音楽	演劇	舞踊	文学	映画映像	メディア	デザイン	工芸	研究	招へい期間	渡航費	滞在費	制作費			スタジオ等
Fremantle	Artsource	○										1-3ヶ月			-	-	R	
Sydney	Artspace	○						○				3-12ヶ月	○	○	○	○	R、世、B	本p312 資p247
Sydney	BigCi	○	○	○	○	○	○	○		○		2週間			-	-	R	
North Nowra	Bundanon Trust	○	○	○	○	○		○		○		6週間				○	R	資p248
Tasmania	Elizabeth Day	○	○	○	○	○	○	○		○		-	-	-	-	-	R	
Fremantle	Fremantle Arts Centre	○	○	○	○	○	○	○		○		-	-	-	-	-	R	
Melbourne Victoria	Gertrude Contemporary Art Spaces	○						○		○		2週間-3ヶ月	-	-	-	○	R、世	本p307 資p249
Perth WA	IASKA	○					○	○				3ヶ月				○	R、C、世	資p250
Paddington	Imaging the Land International Research Initiative (ILIRI)	○						○	○	○		-	-	-	-	-	R	
Newcastle	The Lock-Up Cultural Centre	○	○	○	○	○	○	○		○		2週間			△	-	R	
Sydney	Performance Space	○		○	○			○				-				○	M、B、A	本p319 資p251
Melbourne	Seventh Gallery	○	○			○	○	○				1ヶ月			-	○	R	
Sydney Olympic Park	Sydney Olympic Park Authority	○				○	○	○	○	○		1-3ヶ月			-	-	R	
Fitzroy	Wardlow Art Residency	○						○	○			3-6週間	△	-	-	-	世	

情報ソース略称：R:ResArtis、C:Culture 360°、M:Onthe Move、美:美術手帖、世:世界のAIR、B:BankART、A:Alternative、X:その他の情報ソース

詳細情報略称：本:本編、資:資料編

平成24年度文化庁委託事業  
諸外国のアーティスト・イン・レジデンスについての調査研究事業  
報告書[資料編]

---

平成25年3月29日

委託元 文化庁長官官房国際課  
〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2  
TEL 03-5253-4111(代)  
FAX 03-6734-3811

発行 株式会社ニッセイ基礎研究所  
〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-7  
TEL 03-3512-1883  
FAX 03-5211-1084

---



利用の際は必ず下記サイトを確認下さい。  
[www.bunka.go.jp/jiyuriyo](http://www.bunka.go.jp/jiyuriyo)